

上智大学短期大学部

履修要覧・講義内容（シラバス）

2012年度

目 次

校歌・学生歌	4
学事日程	5
年間予定表	6
1. 上智大学短期大学部について	
1. 教育の理念	11
2. 校名と校章の由来	11
3. 沿革と年譜	11
4. Campus Ministry	12
5. イエズス会	12
6. サービスラーニング	13
7. 役職者・教員組織	15
8. 本学の施設	17
2. 学年のはじめに	
1. オリエンテーション, ガイダンス, 年間行事 等	25
2. アドバイザーについて	26
3. 大学から学生への連絡・通知 (学内掲示板)	27
4. 学生から教員への連絡について	27
5. 事務センター窓口について	28
3. 学籍について	
1. 学生証と学生番号	33
2. 学籍について	33
3. 学費の納入	34
4. 個人情報の取扱について	35
4. 履修について	
1. 履修の基本	39
2. 授業	39
3. 履修登録	41
4. 試験	43
5. 評価	45
6. 単位の認定	46
7. 英語学習支援プログラムとTOEIC-IP試験スケジュール	47
8. 卒業	48
5. カリキュラムについて	
1. 英語科 カリキュラムの特徴	51
2. 授業科目の構成	52
3. 卒業に必要な科目・最低単位数	52
4. 標準配当表	52
5. 履修上の注意	53
6. 基礎科目/専門科目のコース制度	54
7. サービスラーニングとカリキュラムとの関連	57
8. インデペンデント・スタディ	57
9. 開講科目表	59
6. 講義内容 (シラバス)	67
7. 学則	
1. 上智大学短期大学部学則	201
上智学院所在地	208

校歌

作詞 逸見貞男
作曲 山本直忠

みよとこしえに はるよみがえる
みどりのこだま たかなるほとり
やすらにいこう ソフィアのわしの
まなざし いるは Lux Ve-ri-ta-tis
お- そうごんのがくふ ソフィ-ア
うるわしの アルマ-マ-テル ソフィ-ア

- 1 見よ 永遠に 春甦る
みどり こだま たかな
緑の樹響 高鳴るほとり
やすらに憩う ソフィアの驚の
まなざし射るはLux Veritatis
そうごん がくふ
おお荘厳の学府 ソフィア
うるわしの アルマ・マーテル
ソフィア

- 2 聞け黎明の 天翔けりゆく
わし つばさ そらう
驚の翼の 空打つひびき
はがいに集う 生命の群の
目指す行手はLux Veritatis

- 3 行け 混濁の 闇討ち啓き
わし かがや かた
驚のみちびく 輝く方へ
燃ゆる心に 固く結びて
叫べとどろにLux Veritatis

上智大学短期大学部学生歌

英知の丘

作詞 高橋明日香
作曲 浅香 満

えいちのおかに においた
つみどりのいぶき そよぐか
ぜわかき きぼうの ペンをと
りまなぶ しんりの よろこび
を かりのいずみに いざうたえ ソフィアのそらに
いざうたえ

- 1 英知の丘に 匂いたつ
いぶき
緑の息吹 そよぐ風
若き希望のペンをとり
学ぶ真理のよろこびを
ひかりの泉にいざ歌え
ソフィアの空にいざ歌え

- 2 生命は 真に輝きて
えが
描く理想も清らかに
凛々しく歩め 夢いだし
くおん ひか ゆうあい
久遠に光る 友愛を
花より気高く咲き誇れ
ソフィアの丘に咲き誇れ

上智大学短期大学部 2012年度（平成24年度）学事日程

〈春学期〉

入学式	4月1日（日）
第1回英語力テスト（新入生）	4月2日（月）
定期健康診断（全学生）	4月3日（火）
ガイダンス・人数制限科目履修手続（2年次生）	4月4日（水）
ガイダンス（新入生）	4月5日（木）・4月9日（月）
オリエンテーション・キャンプ	4月6日（金）・4月7日（土）
人数制限科目履修手続（新入生）	4月9日（月）
履修相談	4月11日（水）～4月13日（金）
履修登録	4月11日（水）～4月13日（金）
授業	4月16日（月）～7月25日（水）
修正登録期間	4月23日（月）～4月25日（水）
履修中止期間	6月7日（木）～6月13日（水）
補講期間	7月26日（木）～7月30日（月）
補講及び定期試験期間	7月31日（火）～8月6日（月）

〈付記〉 *4月30日（月）振替休日 授業実施
*6月6日（水）スポーツデイ（午前授業有 午後休講）
*7月16日（月）海の日 授業実施

〈秋学期〉

人数制限科目履修手続	9月11日（火）
履修相談・履修登録	9月13日（木）・9月14日（金）
授業	9月18日（火）～1月17日（木）
修正登録期間	9月25日（火）～9月27日（木）
履修中止期間	11月8日（木）～11月14日（水）
第2回英語力テスト	12月5日（水）
Reflection Time	1月9日（水）
補講期間	1月18日（金）～1月22日（火）
補講及び定期試験期間	1月23日（水）～1月29日（火）
卒業式・学位授与式	3月23日（土）

〈付記〉 *10月8日（月）体育の日 授業実施
*10月26日（金）臨時休講日
*11月1日（木）休講日（創立記念日）
*11月2日（金）休講日（先哲祭）
*11月23日（金）勤労感謝の日 授業実施
*11月30日（金）All English Day（授業は終日休講）
*12月3日（月）ザビエル祭（全学休講）
*12月19日（水）クリスマス会（午前授業有 午後休講）

年間予定表

2012年	日付	学事予定	日付	各種行事	日付	キャリア講座																																																								
<table border="1"> <tr><td colspan="7">4月</td></tr> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>4月30日 振替休日 *授業あり</p>	4月							日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						2	【新入生】英語力テスト 4月 TOEIC-IP (春期短期留学帰国者他)											
4月																																																														
日	月	火	水	木	金	土																																																								
1	2	3	4	5	6	7																																																								
8	9	10	11	12	13	14																																																								
15	16	17	18	19	20	21																																																								
22	23	24	25	26	27	28																																																								
29	30																																																													
	4	【2年次生】新学学期ガイダンス (学科, 履修)																																																												
	4	【2年次生】春学期 人数制限科目履修手続	1	入学式	4	【2年次生】進路ガイダンス																																																								
	5	【新入生】新学学期ガイダンス (学科)	3	健康診断																																																										
	9	【新入生】新学学期ガイダンス (履修)	6・7	【新入生】オリエンテーションキャンプ	18	【1年次生】進路ガイダンス																																																								
	9	【新入生】必修クラスわけ発表																																																												
	9	【新入生】春学期 人数制限科目履修手続	9	【2年次生】成績評価確認願提出締切																																																										
	11	春学期 人数制限科目結果発表																																																												
	11~13	【全学生】春学期 アドバイザー相談																																																												
	11~13	春学期 履修登録期間																																																												
	16	春学期 授業開始																																																												
	23~25	春学期 登録確認表配付 / 修正登録																																																												
	27	春学期 修正登録確認表配付																																																												
	30	授業実施日 (昭和の日の振替休日)																																																												
<table border="1"> <tr><td colspan="7">5月</td></tr> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>5月3日 憲法記念日 5月4日 みどりの日</p>	5月							日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31															
5月																																																														
日	月	火	水	木	金	土																																																								
			1	2	3	4																																																								
6	7	8	9	10	11	12																																																								
13	14	15	16	17	18	19																																																								
20	21	22	23	24	25	26																																																								
27	28	29	30	31																																																										
					9	【2年次生】志望理由書・小論文の書き方①																																																								
					16	【2年次生】志望理由書・小論文の書き方②																																																								
					23	【2年次生】小論文講座②																																																								
					30	【2年次生】志望理由書の書き方																																																								
<table border="1"> <tr><td colspan="7">6月</td></tr> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> </table>	6月							日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	7~13	履修中止申請期間 春・秋学期連続休学願 春学期休学願提出締切	6	スポーツデー									
6月																																																														
日	月	火	水	木	金	土																																																								
					1	2																																																								
3	4	5	6	7	8	9																																																								
10	11	12	13	14	15	16																																																								
17	18	19	20	21	22	23																																																								
24	25	26	27	28	29	30																																																								
	15		13	【1年次生】ゼミ説明会	13	【2年次生】小論文講座③																																																								
			16	父母との懇談会	20	【1年次生】編入スタートアップ																																																								
					23	【2年次生】編入OG体験談																																																								
<table border="1"> <tr><td colspan="7">7月</td></tr> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr> <tr><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td></tr> <tr><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>7月16日 海の日 *授業あり 7月23日 *木曜日の時間割 7月24日 *金曜日の時間割</p>	7月							日	月	火	水	木	金	土	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31					16	授業実施日(海の日)	5	補講・定期試験日程揭示									
7月																																																														
日	月	火	水	木	金	土																																																								
1	2	3	4	5	6	7																																																								
8	9	10	11	12	13	14																																																								
15	16	17	18	19	20	21																																																								
22	23	24	25	26	27	28																																																								
29	30	31																																																												
	23	みなし木曜日(木曜日の時間割で授業実施)																																																												
	24	みなし金曜日(金曜日の時間割で授業実施)																																																												
	25	英語学習支援プログラム説明会			25	【1年次生】就職スタートアップ —就職の流れと取り組み内容—																																																								
	25	春学期授業終了																																																												
	26~30	補講期間																																																												
	31~	定期試験期間 (補講含む) (~8月6日)																																																												
<table border="1"> <tr><td colspan="7">8月</td></tr> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td></tr> <tr><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td></tr> <tr><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td></tr> </table>	8月							日	月	火	水	木	金	土				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		1	英語学習支援プログラム面談											
8月																																																														
日	月	火	水	木	金	土																																																								
			1	2	3	4																																																								
5	6	7	8	9	10	11																																																								
12	13	14	15	16	17	18																																																								
19	20	21	22	23	24	25																																																								
26	27	28	29	30	31																																																									
	7	8月 TOEIC-IP (夏期短期留学出発前他)			7~9	【2年次生】小論文夏期集中講座																																																								
	7~	夏期休暇 (~9月10日)																																																												
	30	春学期科目 成績表郵送																																																												
<table border="1"> <tr><td colspan="7">9月</td></tr> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>9月17日 敬老の日</p>	9月							日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30							6・7	春学期科目 追試験				
9月																																																														
日	月	火	水	木	金	土																																																								
						1																																																								
2	3	4	5	6	7	8																																																								
9	10	11	12	13	14	15																																																								
16	17	18	19	20	21	22																																																								
23	24	25	26	27	28	29																																																								
30																																																														
	11	英語学習支援プログラム面談																																																												
	11	9月 TOEIC-IP																																																												
	11	秋学期 人数制限科目履修手続																																																												
	13	秋学期 人数制限科目結果発表	11	成績評価確認願提出締切																																																										
	13・14	アドバイザー相談			19	【1年次生】基礎① 自己分析																																																								
	13・14	秋学期 履修登録期間			26	【1年次生】基礎② 履歴書・ES とは (自己PRの基本)																																																								
	18	秋学期 授業開始			26	【2年次生】小論文講座④																																																								
	25~27	秋学期 登録確認表配付 / 修正登録																																																												

年間予定表

2012年-2013年	日付	学事予定	日付	各種行事	日付	キャリア講座																																																	
<p>10月</p> <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td></tr> <tr><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td></tr> <tr><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td></tr> <tr><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>10月8日 体育の日 *授業あり 10月26日 臨時休講日</p>	日	月	火	水	木	金	土		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				1 8 26	<p>秋学期 修正登録確認表配付 授業実施日(体育の日)</p> <p>臨時休講日</p>	27・28	ソフィア・ジュニア祭	3 10 17 24 24	<p>【1年次生】基礎③ 筆記試験対策/SPI演習①</p> <p>【1年次生】ESの添削受験講座⇒自宅受験</p> <p>【1年次生】基礎④ 職種と具体的仕事内容</p> <p>【1年次生】編入学のための英語勉強法</p> <p>【1年次生】編入学志望学部・学科の選び方</p>							
日	月	火	水	木	金	土																																																	
	1	2	3	4	5	6																																																	
7	8	9	10	11	12	13																																																	
14	15	16	17	18	19	20																																																	
21	22	23	24	25	26	27																																																	
28	29	30	31																																																				
<p>11月</p> <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> <tr><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td></tr> <tr><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td></tr> <tr><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td></tr> <tr><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td></td></tr> </table> <p>11月1日 創立記念日 11月2日 先哲祭 11月23日 勤労感謝の日 *授業あり</p>	日	月	火	水	木	金	土					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		8~14 16 23	<p>秋学期 履修中止申請期間</p> <p>秋学期休学願提出締切</p> <p>授業実施日(勤労感謝の日)</p>	30	All English Day	7 10 10 14 21 28 11月 12月	<p>【1年次生】内定者就活体験①</p> <p>【1年次生】卒業生による就業体験</p> <p>【1年次生】編入OG体験談</p> <p>【1年次生】基礎⑤ 志望動機</p> <p>【1年次生】SPI演習②</p> <p>【1年次生】基礎⑥ 面接とは</p> <p>【1年次生】ゼミ毎 履歴書・ESの実践 上智短大の就職の特徴について (求人の見方、推薦等)</p>							
日	月	火	水	木	金	土																																																	
				1	2	3																																																	
4	5	6	7	8	9	10																																																	
11	12	13	14	15	16	17																																																	
18	19	20	21	22	23	24																																																	
25	26	27	28	29	30																																																		
<p>12月</p> <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>12月3日 ザビエル祭</p>	日	月	火	水	木	金	土							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						5 25~	<p>【全学生】英語力テスト</p> <p>冬期休暇(～2013年1月7日)</p>	12 19	<p>補講・定期試験日程揭示 クリスマス会</p>	12	【1年次生】企業研究セミナー(1社)①
日	月	火	水	木	金	土																																																	
						1																																																	
2	3	4	5	6	7	8																																																	
9	10	11	12	13	14	15																																																	
16	17	18	19	20	21	22																																																	
23	24	25	26	27	28	29																																																	
30	31																																																						
<p>2013年</p> <p>1月</p> <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> <tr><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td></tr> <tr><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td></tr> <tr><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>1月8日 *金曜日の時間割 1月14日 成人の日 1月15日 *金曜日の時間割 1月16日 *月曜日の時間割 1月17日 *月曜日の時間割</p>	日	月	火	水	木	金	土								6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			8 15 16 17 17 18~22 23~29	<p>みなし金曜日(金曜日の時間割で授業実施)</p> <p>みなし金曜日(金曜日の時間割で授業実施)</p> <p>みなし月曜日(月曜日の時間割で授業実施)</p> <p>みなし月曜日(月曜日の時間割で授業実施)</p> <p>秋学期授業終了</p> <p>補講期間</p> <p>定期試験期間(補講含む)</p>	9	Reflection Time	16 30 30 30 31	<p>【1年次生】内定者就活体験② (みなし月曜日・SLの時間帯)</p> <p>【1年次生】小論文講座①</p> <p>【1年次生】編入合格者体験談</p> <p>【1年次生】SPI・一般常識模試</p> <p>【1年次生】SPI演習③~④</p>							
日	月	火	水	木	金	土																																																	
6	7	8	9	10	11	12																																																	
13	14	15	16	17	18	19																																																	
20	21	22	23	24	25	26																																																	
27	28	29	30	31																																																			
<p>2月</p> <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>2月11日 建国記念の日</p>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			7・8 25	<p>秋学期科目 追試験</p> <p>【2年次生】秋学期科目 成績表郵送</p>	1 28	<p>一般入試A日程 *入構禁止</p> <p>一般入試B日程 *入構禁止</p>	4 5 6 7 8 12 13 14 15	<p>【1年次生】SPI演習⑤~⑥</p> <p>【1年次生】企業研究セミナー(3社)②</p> <p>【1年次生】企業研究セミナー(3社)③</p> <p>【1年次生】企業研究セミナー(3社)④</p> <p>【1年次生】企業研究セミナー(3社)⑤</p> <p>【1年次生】グループ面接練習①</p> <p>【1年次生】グループディスカッション練習①</p> <p>【1年次生】グループ面接練習②</p> <p>【1年次生】グループディスカッション練習②</p>							
日	月	火	水	木	金	土																																																	
					1	2																																																	
3	4	5	6	7	8	9																																																	
10	11	12	13	14	15	16																																																	
17	18	19	20	21	22	23																																																	
24	25	26	27	28																																																			
<p>3月</p> <table border="1"> <tr><td>日</td><td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td></tr> <tr><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td><td>23</td></tr> <tr><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr> <tr><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> <p>3月20日 春分の日 3月23日 卒業式・学位授与式</p>	日	月	火	水	木	金	土						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31							8 18 18	<p>卒業生発表、留年通知送付</p> <p>【新2年次】秋学期科目 成績表郵送</p> <p>【新2年次】13年度必修クラスわけ発表</p>	14 23	<p>一般入試C日程 *入構禁止</p> <p>卒業式・学位授与式</p>	18 19 3月 5月	<p>【1年次生】グループ面接練習③</p> <p>【1年次生】グループディスカッション練習③</p> <p>【1年次生】企業研究セミナー (状況に応じて開催)</p>
日	月	火	水	木	金	土																																																	
					1	2																																																	
3	4	5	6	7	8	9																																																	
10	11	12	13	14	15	16																																																	
17	18	19	20	21	22	23																																																	
24	25	26	27	28	29	30																																																	
31																																																							

1. 上智大学短期大学部について

1. 教育の理念

上智大学短期大学部の教育はキリスト教ヒューマニズムに基づいています。その基礎の上に立って、専門分野の学問・研究を行うと共に、カトリシズムの精神を生かした人間形成を目指し、豊かな教養と円満な人格を兼ねそなえた女性の育成を第一の目標とします。

また、上智大学の他学部と同様、東西の文化をつなぐ役割を第二の目標としています。そのため本学も国際色あふれた教授陣を用意しており、学生は、この雰囲気の中で、おのずから広い視野と国際感覚とを身につけることができるでしょう。

英語科は、国際語である英語の高度な運用能力を身につけ、それを基盤として幅広い教養と柔軟かつ複眼的な判断力と思考力を持ち、異文化を理解し、多様化した現代社会において責任ある地球市民として活躍できる社会人基礎力を具えた人材を育成すると共に、自律した学習者を育て、高度な専門分野の基盤を築くことを目的とします。

学生は、英語を学びながら、languageのspirit（言霊）を把握するよう努力することが求められています。その努力を通じて学生のひとりひとりが自己を発見し、人間性をいっそう豊かにすることができるでしょう。

2. 校名と校章の由来



校章の鷲は真理の光をまがして力強くはばたく鷲をかたどったもので、その姿は上智の本質と理想とを表しています。中央にしるされた文字は本学の標語「真理の光」Lux Veritatisの頭文字です。

上智は海外では早くから、ソフィアの名で親しまれてきましたが、このソフィアは、ギリシャ語のΣΟΦΙΑからとったものであり、その意味は「人を望ましい人間へと高める最上の叡智」です。この叡智こそ、本学が学生に与えようとする究極のものであり、本学の名称“上智”（SOPHIA）にほかなりません。

3. 沿革と年譜

1. 沿革

上智大学短期大学部（2012年4月より上智短期大学から名称変更）は、1973年（昭和48年）、学校法人上智学院秦野キャンパスに、上智大学の姉妹校として設立されました。

本学創立の源は、遠く東洋伝道の先駆者聖フランシスコ・ザビエルの宿願に基づいています。東洋にはじめてキリスト教を伝えた、ローマ・カトリック教会の修道会のひとつであるイエズス会の会員のひとりであるザビエルは、1549年（天文18年）に日本に上陸し、日本人の向学心を目のあたりにして都に大学を設立する計画をたてましたが、わずか2年余りの滞日（1549年～1551年）では、実現には至りませんでした。それから約360年を経た1906年（明治39年）、時のローマ教皇ピオ十世が、日本における大学設立の事業を、ザビエルの属したイエズス会に委託したことによって、その念願が実現の緒につきました。こうして、1911年（明治44年）財団法人上智学院が、イエズス会によって、イギリス人・フランス人・ドイツ人会員の派遣をもって創立されました。つづいて1913年（大正2年）、財団法人上智学院は、神と人間を尊ぶキリスト教ヒューマニズムを基底とし、永遠の真理を求めて人間形成に献身する、教員・職員・学生の共同体を教育理念とする、上智大学を設立しました。

1957年（昭和32年）には、社会の要請により、女子学生を迎え入れて、男女共学としました。それ以来、上智大学の女子教育への関心が高まると同時に、女子学生の卒業後の活躍ぶりが社会から高く評価されたことと相まって、1972年（昭和47年）、かねてから神奈川県秦野市に用意されていた校地にイエズス会の会憲の精神に基づいて創立されている聖マリア修道女会の協力を得て、短期大学を設立することとなりました。ジェラルド・バリー師を初代学長に上智短期大学は1973年（昭和48年）4月に開学。第2代学長にダニエル・コリンズ師、第3代学長にハイメ・カスタニエダ師、第4代学長に高祖敏明師が就任し、2009年4月より第5代学長としてフランク・スコット・ハウエル師が就任しています。

上智大学短期大学部は、校名「ソフィア」が表している「永遠の真理を知り、真の愛に生きる知恵」をもって、「他の人々のために生きたキリスト」を模範として、国籍や人種を超えて人類社会に貢献する人間形成を目指す、同じ建学精神を有しています。

2. 年 譜

1911年	(明治44年)	財団法人上智学院設立。
1913年	(大正2年)	専門学校令による上智大学設立。
1928年	(昭和3年)	大学令による上智大学(文学部, 商学部)開設。
1932年	(昭和7年)	専門部開設。
1948年	(昭和23年)	新制大学文学部, 経済学部を開設。
1951年	(昭和26年)	私立学校法による学校法人上智学院設立。 新制大学院修士課程開設。
1955年	(昭和30年)	大学院に博士課程開設。
1957年	(昭和32年)	法学部増設。
1958年	(昭和33年)	神学部, 外国語学部増設。
1962年	(昭和37年)	理工学部増設。
1963年	(昭和39年)	上智社会福祉専門学校を設立。
1973年	(昭和48年)	上智短期大学を設立。
1976年	(昭和51年)	大学院学則を改正し, 博士前期・後期課程に変更。
1987年	(昭和62年)	比較文化学部増設。
2005年	(平成17年)	総合人間科学部増設。
2006年	(平成18年)	比較文化学部を改組し, 国際教養学部を開設。
2008年	(平成20年)	理工学部を改組。
2011年	(平成23年)	学校法人聖母学園と法人合併。 総合人間科学部に看護学科を増設。
2012年	(平成24年)	上智大学短期大学部に名称変更。

4. Campus Ministry

キャンパスミニストリーは、上智大学短期大学部の建学の精神であるキリスト教的な人間形成の理解と実践を目指して、学生や教職員が行うキャンパスでのカトリック活動をサポートします。

カトリック活動

キャンパスミニストリーは年間を通じて次のような活動を行っています。詳しくはキャンパスミニストリーのホームページを参照してください。

- ◎ 大学の儀式(入学ミサ, 卒業ミサ, 先哲祭ミサ, クリスマス会など)
- ◎ 誕生ミサ(毎月一回)
- ◎ 祈りの集い
- ◎ バイブルスタディズ
- ◎ 講演会や黙想会の案内
- ◎ 宗教に対する質問や相談
- ◎ 宗教学, 人間学関係の図書の貸出し

キャンパスミニストリーのオフィスは、研究棟2階の4219室にあります。

また、誕生ミサの行われる「聖堂」は3号館3階に位置し、正面に雄大な富士山を眺望する美しい祈りの場です。

5. イエズス会

学校法人上智学院の経営母体であるイエズス会(Societas Jesu, 英語名 Society of Jesus 略称 S. J.)は、日本にキリスト教を伝えた聖フランシスコ・ザビエル(1506-1552)らとともに聖イグナチオ・デ・ロヨラ(1491-1556)によって1540年に設立されました。現在全世界に約18,000人の会員を擁し、使徒的修道会として世界各地で800余校の中高校・大学及び研究, 教会司牧, 黙想指導, 著述, 出版をはじめとする様々な活動に携わり、現代世界に福音をもたらそうとつとめています。

聖イグナチオは、自分の受けた霊的体験を「霊操」と書物にまとめ、それを土台としてイエズス会を創立しましたが、「霊操」の中で次のような“原理と基礎”を述べています。

《もっとも大切な原理と基礎》

私たちの人生の目的は神と共に永遠にいきること
 神は私たちを愛して、私たちに命を与えられた。
 私たちが神の愛に応えるならば、神の命が限りなく私たちに流れ込む。

この世界の全てのものは神からの贈り物。
 神がもっとよくわかるように、神をもっとよく愛しかえすように、
 神がこの贈り物を私たちに示された。

だから、神の贈り物全てを、もし、それが人びとを愛する助けとなるなら、
 私たちは大切に使う。
 でも、神のどんな贈り物であれ、それが私たちの人生の中心となるなら、
 それが神にとってかわり、私たちが目的にむかって成長するのを妨げる。

だから、毎日の生活において、神が創られた全ての贈り物を前にして、選ぶことができ、義務に拘束されていない限り、心の均衡を保たなければならない。
 健康か病気か、裕福か貧乏か、成功か失敗か、長生きか早死にか、どちらかにこだわるべきではない。
 なぜなら、全てのものが、神の内にある私たちの命にもっと深く応えるように私たちを呼び起こす力を秘めている。

私たちの唯一の望み、私たちの唯一の選びはこれであるべきだ。
 私は求め、私は選ぶ。私の内にある神の命を深めるようよりよく導くものを。
 (聖イグナチオ・デ・ロヨラの「霊操」から)

6. サービスラーニング

サービスラーニングとは「社会参加、実践を通じた学外での学びと、授業などの学内での学びの融合」を意味します。ボランティア活動などの社会奉仕活動（サービス）を通して社会参加を行い、そこで得られる学びと授業を通して得られる学びを効果的に結びつけて、「社会の知恵」と「教室の知識」を融合する試みです。本学のサービスラーニング活動は上智大学短期大学部の教育理念の三つの柱、即ちキリスト教ヒューマニズム、国際性、言語教育と密接に結びついています。キリスト教ヒューマニズムに則った他者への奉仕、国際性を培い言語教育の実践である地域の外国籍市民を対象とした日本語支援や教科学習支援、そして地域の教育機関で行う英語教育支援及び日本語教育支援ボランティアは、本学におけるサービスラーニング活動の中核を成します。地域社会における異文化間・異世代間のコミュニケーションは、学生にとって自分自身を見つめ直し、自己形成を行うための貴重な機会となります。「他者のために」“for others”そして「他者と共に」“with others”の精神を体現・実践するそれらの活動を通して学生は社会人基礎力と人間力を成長させてゆきます。そのことは共同体と社会の主體的な構成員として、自らの意思によって積極的に共同体と社会を形成し育むと同時に、確かな責任を担うことのできる女性への成長と繋がるのです。

以上のような学生の活動を支援するために、本学は2008年にサービスラーニングセンターを学内に設置しました。サービスラーニングセンターは、地域社会への窓口となり、地域の教育機関、公的機関、団体、及び家庭と連携し、本学学生が行う様々なボランティア活動を支援します。そのために、センターには専任教職員を中心に構成されるコーディネーター及びチューターと呼ばれるスタッフが配属されています。コーディネーターとチューターは、ボランティア学生と派遣先を繋ぐだけでなく、教材選び、レッスンプランの作成、教授法などのへの支援も行います。また人間関係上の精神的な支援も行います。本学のサービスラーニングに対する総合的な試みは、2008年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(GP)」に採択され、今後もさらなる活動の充実を目指しています。サービスラーニングセンターは2号館・ソフィアホール2階に位置しています。

【サービスラーニングセンター開館時間】

平日9:00～18:00（窓口取扱時間は9:00～11:30, 12:30～17:00）

※夏・冬の一斉休暇，特別な場合の開館時間・窓口取扱時間は，その都度掲示します。

1. 日本語・教科支援ボランティア活動

1988年に本学学生と教職員によって外国籍市民宅でスタートしたボランティア活動では，日本語や教科の学習支援と日常的な生活支援を行ってきました。ボランティア学生は，外国籍市民に日本語や教科を教えることにより異文化や語学教育への理解を深め，主体的な奉仕の精神を体験的に学ぶと同時に，秦野市近隣地域に社会人として参加する機会も得ています。この取り組みは2004年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(GP)」に採択され，学外からも注目され高い評価を得ています。

2008年度には，秦野市の教育機関との連携のもとに，市内の小中学校へ本学学生が赴いて日本語教育支援を行うボランティア活動も始まりました。地域の学校内の「国際教室」では，日本語学習支援の必要な外国籍児童の取り出し授業が行われていますが，そこへ本学の学生が行き，国際教室の先生の指導のもとで日本語支援を行なっています。また，通常の教室内の授業に入り，外国籍児童に寄り添う形で授業に参加したり，児童ホームや公民館など，教育機関以外にも連携の幅を広げて活動しています。

2. 英語教育ボランティア活動

学習指導要領の改訂によって，2002年度より小学校の教育課程に「総合的な学習の時間」が導入され，その一環として「国際理解教育」の名のもとに英語（英会話）を教えることもよいこととなりました。上智大学短期大学部の英語科として，特に地域の学校に対して，何か貢献できることはないだろうかと考えていたところに，実際に地元の小学校からの要請があり，2002年度末に発足したのがこの英語教育ボランティアです。現在は秦野市を中心に公立の幼稚園や小学校でボランティア授業を行っており，活発なサービスラーニング活動を展開しています。

7. 役職者・教員組織

理事長 高祖 敏明
 学長 Frank Scott Howell
 科長 高野 敏樹

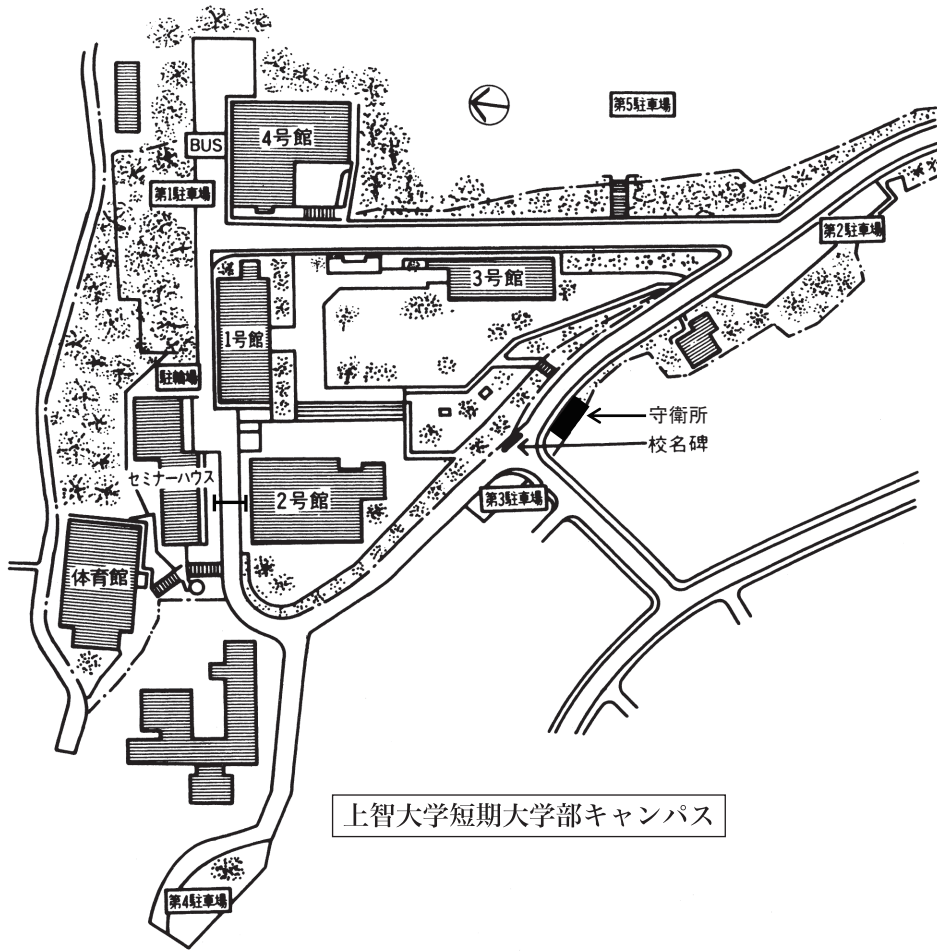
1. 英語科

職名	教員名	2012年度担当科目
学長 (上智大学教授)	Frank Scott Howell	標準英語スキルズ(ハブリックスビークング), 上級英語スキルズ(デバート), 上級英語スキルズ(学術論文作法)
教授 (英語科長)	高野 敏樹	日本国憲法, 法学, 比較政治制度論, 国際関係論, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
教授	Melvin Andrade	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 社会正義のグローバルリテラシー, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
教授	平野 幸治	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 上級英語スキルズ(編入対策), 映画と文学, 英文学概論, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
教授	丹木 博一	人間学Ⅰ, 人間学Ⅱ, 哲学, 基礎ゼミナール, プレ・ゼミナール
教授	近藤 佐智子	英語Ⅱ, 言語学概論, 通訳演習, 基礎ゼミナール, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
准教授	飯田 純也	英語Ⅰ, 留学準備, 演劇研究, 英文学概論, 基礎ゼミナール, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
准教授	森下 園	歴史学, 西洋研究, 比較社会史, 日本文化, 基礎ゼミナール, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
准教授	永野 良博	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語史, 小説研究, 翻訳演習, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
准教授	神谷 雅仁	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 社会言語学, 留学準備, 言語学概論, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
准教授	Timothy Gould	英語Ⅱ, 第二言語習得, プレ・ゼミナール (2012年度春学期 サバティカル)
准教授	宮崎 幸江	日本語学, 日本語教育演習, 基礎ゼミナール (2012年度秋学期 サバティカル)
准教授	Chris Oliver	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 異文化間コミュニケーション, 文化人類学, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
准教授	杉村 美佳	比較・国際教育学, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅡ
准教授	狩野 晶子	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 児童英語教育概説, 児童英語教育演習A, 児童英語教育演習B, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
助教	岩崎 明子	英語Ⅰ, 人間学Ⅰ, 人間学Ⅱ, 児童英語指導者養成講座, キャリアプランニング(コーディネーター), 基礎ゼミナール, 基礎ゼミナール(再), プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
助教	小林 宏子	人間学Ⅰ, 人間学Ⅱ, 宗教学, キリスト教文化入門(コーディネーター), 基礎ゼミナール, プレ・ゼミナール, ゼミナールⅠ, ゼミナールⅡ
助教	Thomas Varkey	英語Ⅰ, 英語Ⅱ, 英語Ⅲ, プレ・ゼミナール
非常勤講師	阿部 善彦	人間学Ⅰ, 人間学Ⅱ
非常勤講師	秋庭 大悟	基礎英語スキルズ(リーディング), 標準英語スキルズ(TOEIC対策)
非常勤講師	裊 哲求	英語Ⅳ, 標準英語スキルズ(TOEIC対策), 上級英語スキルズ(職場の英語)
非常勤講師	Richard Burton	英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 標準英語スキルズ(ディスカッション)
非常勤講師	Jennifer Dizon	英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 標準英語スキルズ(ライティング)
非常勤講師	Gregory Fredes	英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 標準英語スキルズ(アカデミックスクリング), 現代美術
非常勤講師	深澤 英美	英語Ⅲ, 英語Ⅳ
非常勤講師	神門 しのぶ	教育学, 初等教育, ゼミナールⅠ

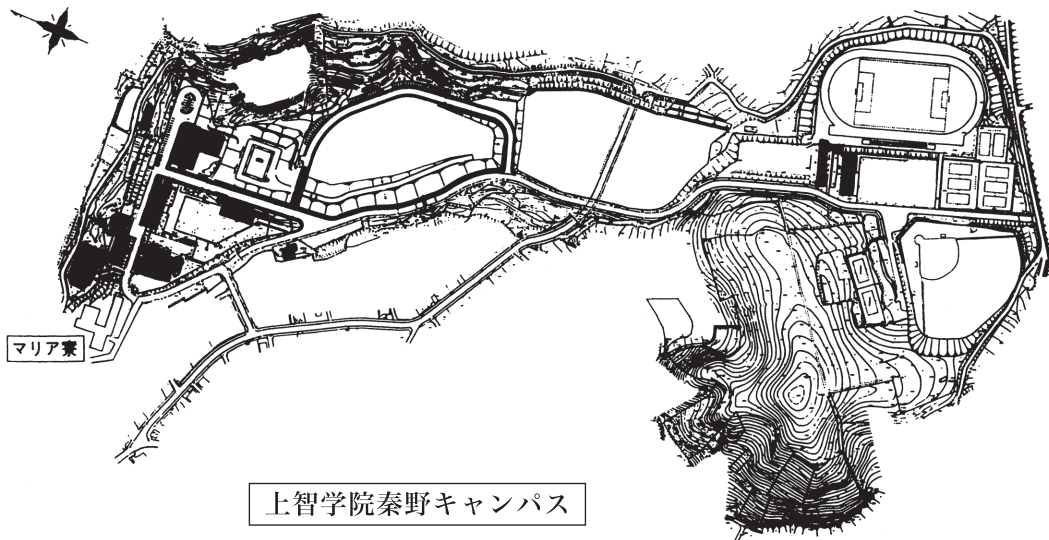
非常勤講師	服部 通子	標準英語スキルズ [®] (旅行の英語), 標準英語スキルズ [®] (リーディング), 標準英語スキルズ [®] (文法・語彙)
非常勤講師	林 百合	心理学, 児童心理学
非常勤講師	樋口 万喜子	日本語表現法, 日本語教育概論
非常勤講師	Jadwiga Hirai	英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 標準英語スキルズ [®] (職場の英語), 標準英語スキルズ [®] (メディアの英語)
非常勤講師	廣重 聖佐子	中国語Ⅰ, 中国語Ⅱ
非常勤講師	石原 久子	基礎英語スキルズ [®] (文法・語彙), 基礎英語スキルズ [®] (ライティング), 基礎英語スキルズ [®] (リーディング), 標準英語スキルズ [®] (リーディング)
非常勤講師	石川 旺	マスメディア論
非常勤講師	加藤 誠	数学, 情報リテラシー演習
非常勤講師	河北 祐子	日本語表現法
非常勤講師	木皿 久美子	体育理論・実技Ⅰ
非常勤講師	北村 さおり	音楽
非常勤講師	國分 有穂	英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 標準英語スキルズ [®] (リーディング)
非常勤講師	工藤 花野	ドイツ語Ⅰ, ドイツ語Ⅱ
非常勤講師	国枝 智樹	マスメディア論
非常勤講師	森澤 陽子	社会福祉入門
非常勤講師	鍋谷 郁太郎	ヨーロッパ社会史, ヨーロッパ現代史
非常勤講師	Wajira Nampet	人間学Ⅰ, 人間学Ⅱ
非常勤講師	Maria Nepomuceno	英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 基礎英語スキルズ [®] (生活の英語), 上級英語スキルズ [®] (ライティング)
非常勤講師	小澤 共子	体育理論・実技Ⅱ, 体育理論・実技Ⅲ
非常勤講師	白瀬 宗範	経済学
非常勤講師	鈴木 薫	社会学
非常勤講師	田畑 幸嗣	東洋研究A, 東洋研究B
非常勤講師	高橋 絹子	上級英語スキルズ [®] (多読速読), 音声学
非常勤講師	田村 和子	人間学Ⅰ, 人間学Ⅱ
非常勤講師	Satish Tandon	英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 標準英語スキルズ [®] (生活の英語)
非常勤講師	田内 千里	女性と哲学
非常勤講師	Kenneth Williams	英語Ⅲ, 英語Ⅳ, 標準英語スキルズ [®] (職場の英語), ビジュアル・レトリック
非常勤講師	Alicia Yáñez	スペイン語Ⅰ, スペイン語Ⅱ
非常勤講師	横田 千晶	フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ

8. 本学の施設

上智大学短期大学部について



上智大学短期大学部キャンパス



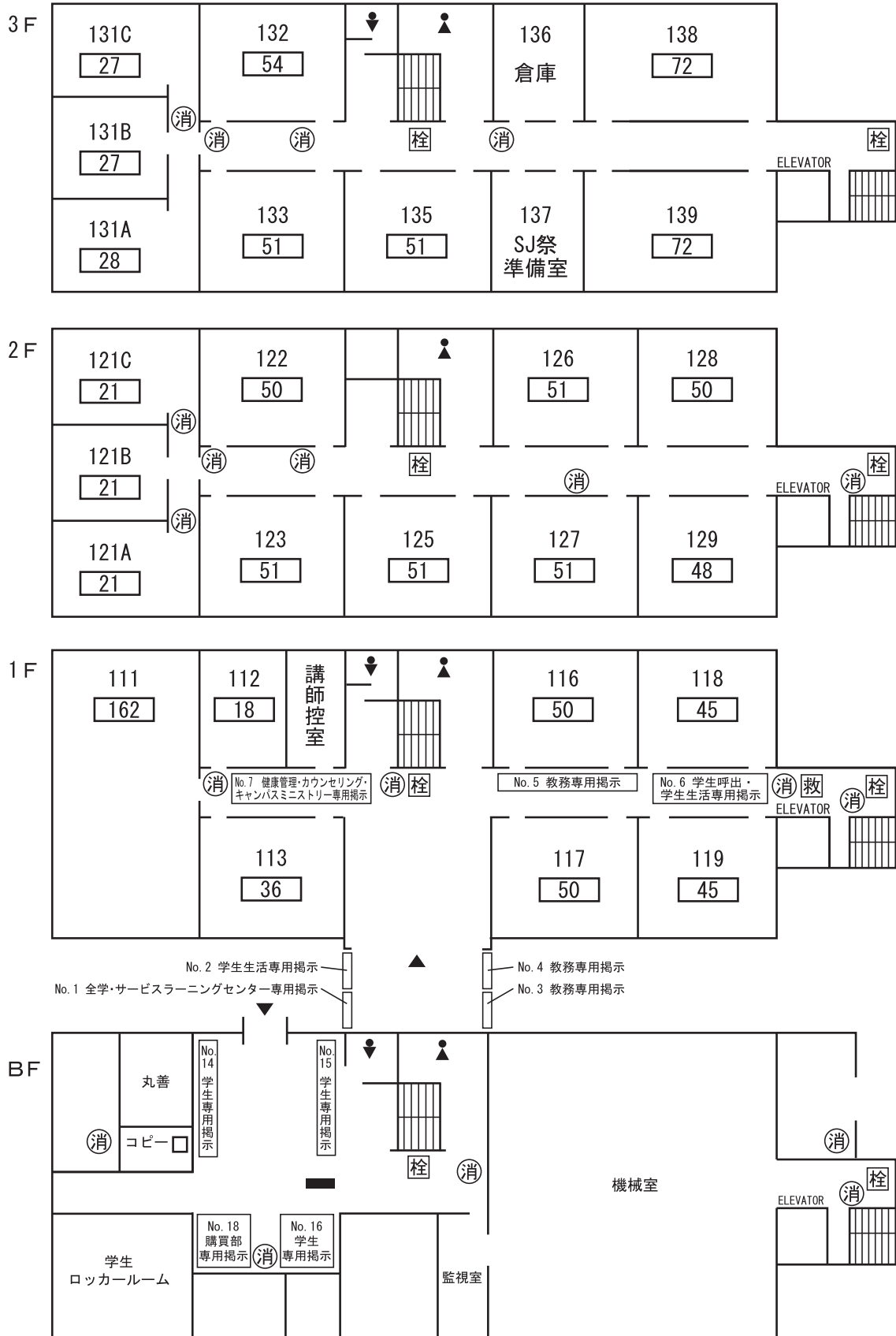
上智学院秦野キャンパス

施設一覧

建物	教室番号	面積(m ²)	3人机	1人机	椅子	教卓, 椅子	教壇	備品等	備考	
1号館 校舎棟	111	156	54		162	1	2	VTR暗幕, DVD	PCプロジェクター, スクリーン, ホワイトボード	
	112	37	6		18	1				
	113	63	12		36	1			PC37台, スクリーン	
	116	63		50	50	1	2	VTR暗幕	ホワイトボード	
	117	63		50	50	1		VTR, DVD	スクリーン	
	118	63	15		45	1	2	VTR, DVD	スクリーン, ホワイトボード	
	119	63	15		45	1		VTR, DVD	スクリーン, ホワイトボード	
	講師控室	25	テーブル・4席							
	121A	44		21	21	1			VTR, DVD	スクリーン
	121B	48		21	21	1			VTR, DVD	スクリーン
	121C	44		21	21	1			VTR, DVD	スクリーン
	122	63		50	50	1	2	VTR暗幕, DVD	スクリーン, ピアノ	
	123	63	17		51	1	2	VTR, DVD	スクリーン	
	125	63	17		51	1	2	VTR, DVD	スクリーン	
	126	63	17		51	1	2	VTR, DVD	スクリーン	
	127	63	17		51	1	2	VTR, DVD	スクリーン	
	128	63		50	50	1			VTR, DVD	スクリーン
	129	63		48	48	1			VTR, DVD	スクリーン
	131A	44		28	28	1			VTR, DVD	スクリーン
	131B	48		27	27	1			VTR, DVD	スクリーン
	131C	44		27	27	1			VTR, DVD	スクリーン
	132	63	18		54	1	2	VTR, DVD	スクリーン	
	133	63	17		51	1	2	VTR, DVD	スクリーン	
	135	63	17		51	1			VTR, DVD	スクリーン
	136	37								倉庫
	137	37								SJ祭準備室
	138	91	24		72	1	2	VTR, DVD	PCプロジェクター, スクリーン, ホワイトボード	
	139	91	24		72	1	2	VTR, DVD	PCプロジェクター, スクリーン, ホワイトボード	
	建物	教室番号	面積(m ²)	3人机	1人机	椅子	備品等		備考	
	2号館 食堂棟	1	ロビー	56		12	ロビーチェア (30席)		自販機コーナー	
		F	カフェテリア	620	(6人用) 73	438			食堂	
		2	2201	26		0	座卓 (×1), 座布団 (×10)		和室 (12.5畳), 水屋付	
			2202	11		0	スチール書庫		サークル室	
			2203	11		0	スチール書庫		サークル室	
			2204	11		0	スチール書庫		サークル室	
			2205	11		0	スチール書庫		サークル室	
			2206	11		0	スチール書庫		サークル室	
			2207	11		0	スチール書庫		サークル室	
		F	2208	79	(4人用) 10	40	ホワイトボード (×2), コートハンガー, PC4台 (プロジェクター・スクリーン)		サービスラーニングセンター (ラウンジ)	
	2210	65	(2人用) 4 (6人用) 1	14	ホワイトボード, 書架, PC4台		サービスラーニングセンター (リソースルームセンター事務室)			
3号館 管理棟	1	印刷事務室	41							
		印刷室	49							
		倉庫	57							
	F	進路資料室	37	テーブル (×2)・6席・PC6台						
		健康管理室	90	5ベッド						
		カウンセリングオフィス	17							
	2	短大事務センター	115							
		学長室	37							
	F	第1会議室	50	テーブル (×7)・14席						
		第1応接室	17	5席						
		第2応接室	17	5席						
	放送室	9	時報							
3	聖堂	60	60席 ルーフガーデン							
F	キャンパスミストリー	22								
4号館 研究棟	1	411	185	68	207	1	2	プロジェクション		
		412	185	64	213	1	2	システム	ピアノ	
	F	(大教室)	(420)	(104)	(312)	演台		VTR, DVD	講演会形式	
				(0)	312折288	脇台		AUDIO	セレモニー形式	
		413	613	集密書架 (単×1・複×11) 書架 (複式5連×14) 閲覧席82, A-V視聴席3					図書館	
		414	170	PC51台 (メインルーム36, オープンルーム15)					PC教室 (2重床)	
	2	第2会議室	73	テーブル (×12)・24席 ホワイトボード 電話台 その他 付属倉庫用物品棚						
	F	第3会議室	21	テーブル (×4)・10席 ホワイトボード 電話台 その他						
		教材準備室	45	作業用テーブル (×2)・椅子 (×4)・PC2台 プリンター1台 シュレッダー リソグラフ VTR DVD						
		英語科学習支援室	45	机・椅子・PC6台						
		講師室	45	テーブル (×2)・ソファセット一式・個人ロッカーその他						
		相談室	23	事務用デスク・椅子 テーブル・椅子 コートハンガーその他						
		史資料室 同窓会室	22	デスク・椅子						
		キャンパスミストリー	22	デスク・椅子						
	研究室×16	22×16	デスク・椅子 作業用テーブル・椅子 (×4) 書架 (5連)・ロッカー							
	コピー室	4	コピー機・シュレッダー							
	湯沸室	4	冷蔵庫							
体育館	(コート面)	441				(折) 600バスケ×1orバレー×1orバレー×2				

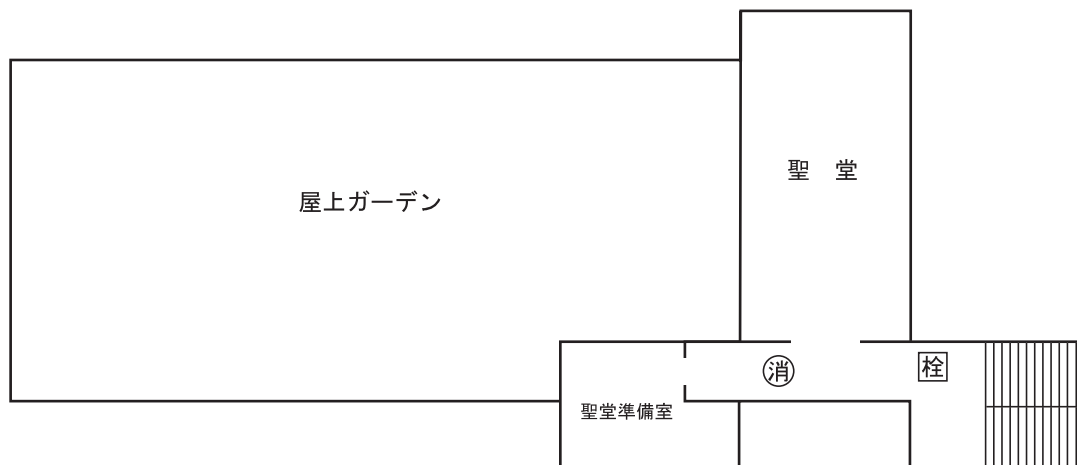
1号館（校舎棟）

※ 消 消火器 ※ 栓 消火栓 ※ 救 救急用担架

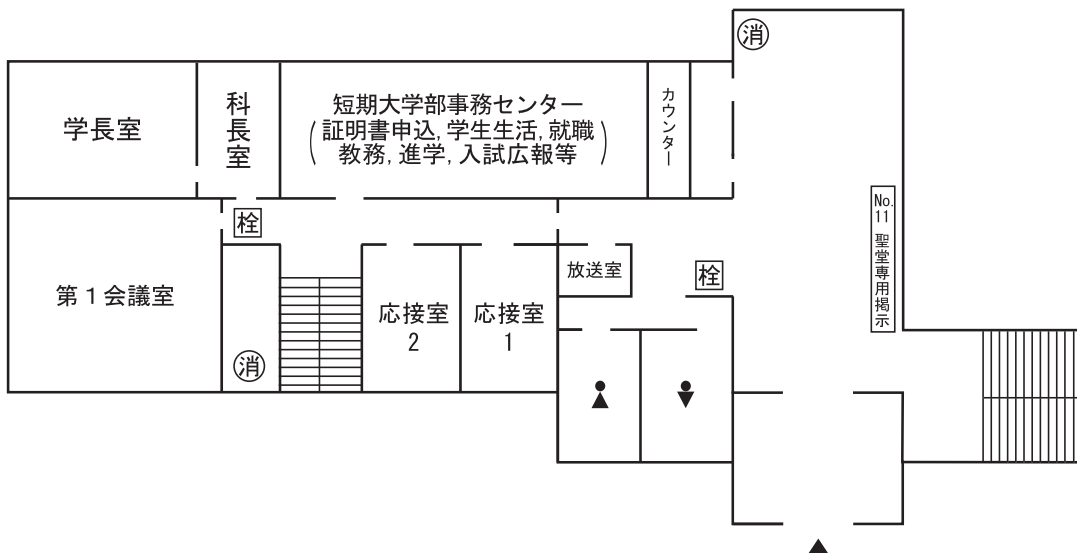


3号館（管理棟）

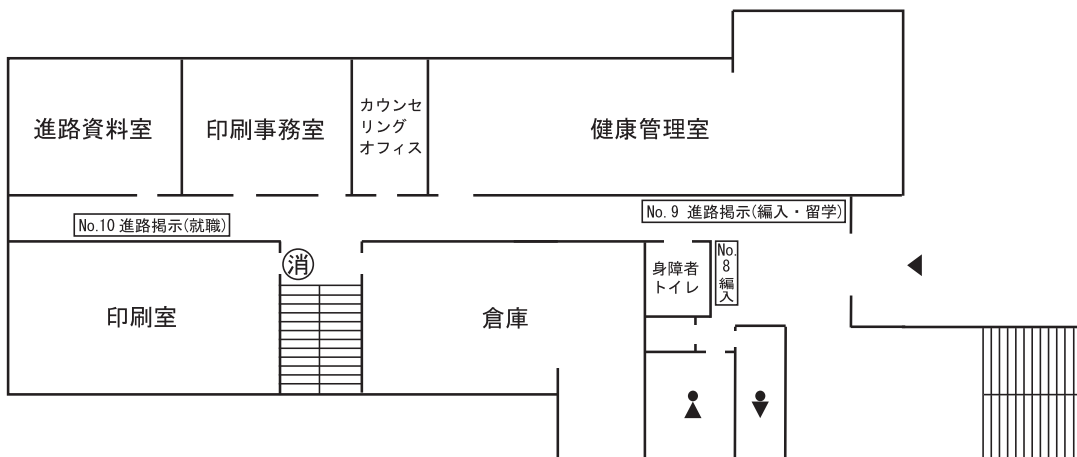
3F



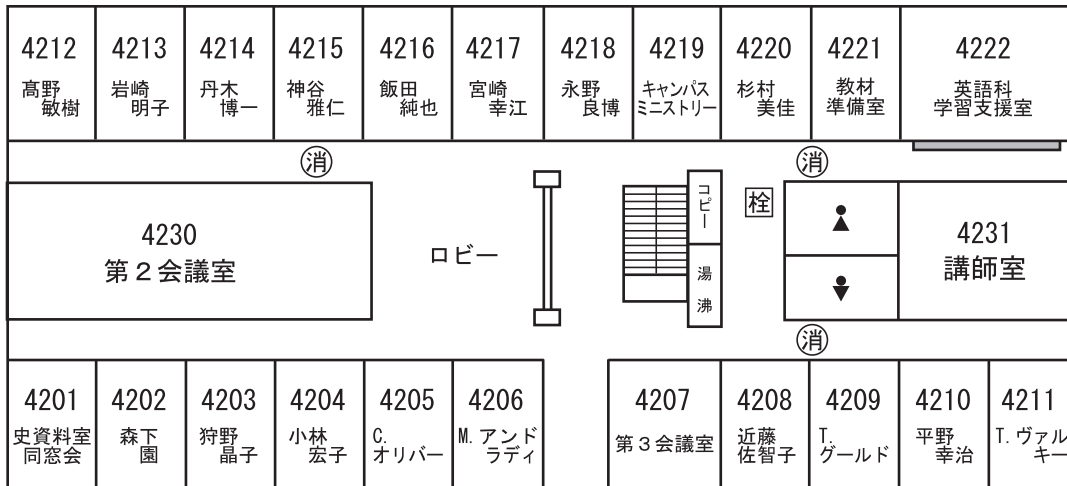
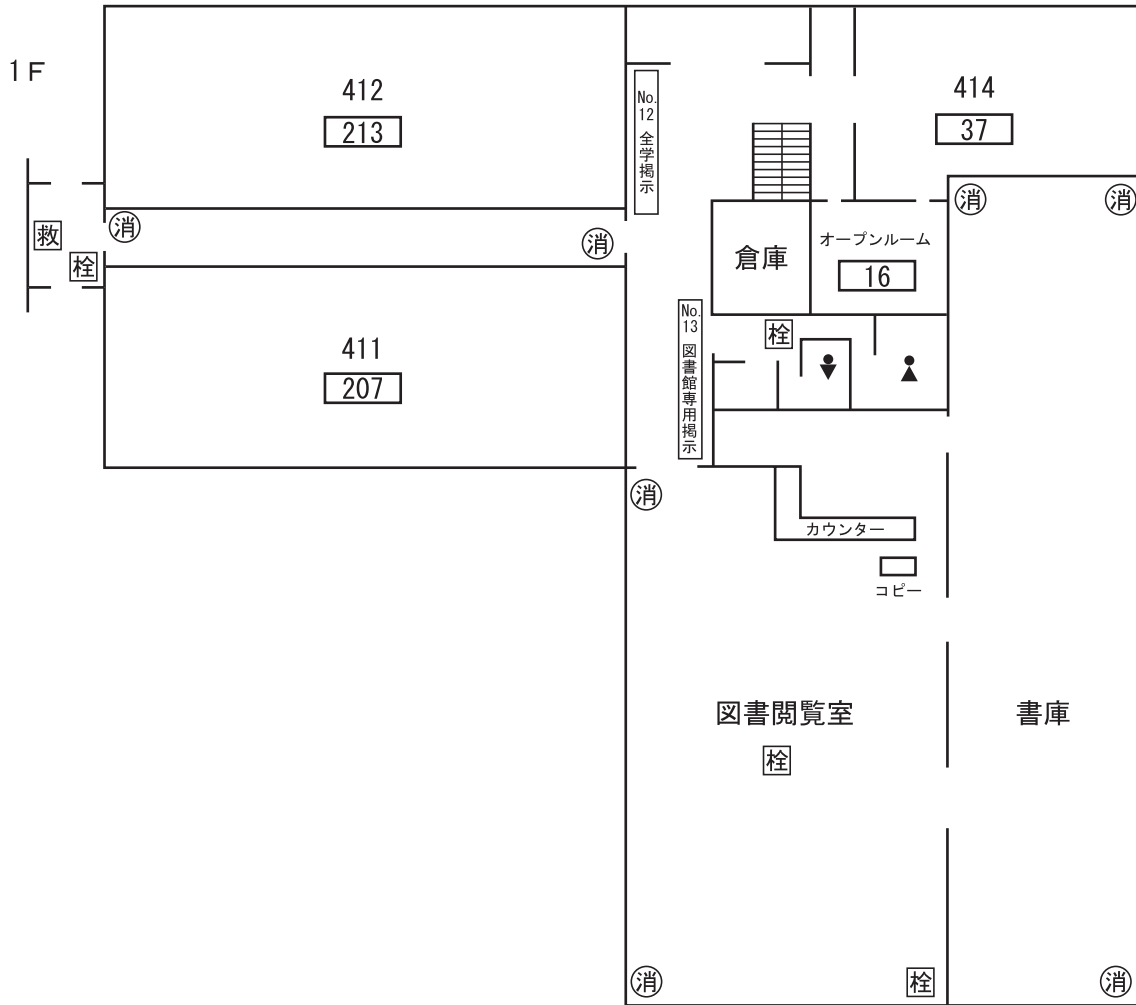
2F



1F



4号館（研究棟）



(体育館) 体育研究室—小澤・木皿

2. 学年のはじめに

1. オリエンテーション、ガイダンス、年間行事 等

年度の初めには、オリエンテーションやガイダンスプログラムを設けて、一人ひとりが大学での勉学や学生生活を円滑に送ることができるよう支援しています。また、年間を通じて、様々な大学行事や英語学習活動、キャリア講座等のプログラムが開催されています。

1. 新入生オリエンテーション・キャンプ

新入生が一日も早く大学生活になじめるように、静かな環境のもとで行われる一泊二日のキャンプです。新入生同士の親睦を図るとともに、先生方や先輩学生からのアドバイスは、豊かな大学生活の一步となるでしょう。2012年度は伊豆の天城山荘で行われます。

2. 新学期ガイダンス（学科、履修、サービ斯拉ーニング等）

英語科のカリキュラム、特色、履修の方法、サービ斯拉ーニング活動などそれぞれの学年で学生生活を送るにあたっての必須事項を新入生、在校生別に、詳細に説明指導します。

3. 英語力テスト

入学時（4月）、1年次秋学期末（12月）、2年次秋学期末（12月）の3回、全員が受験するTOEIC-IPテストです。4月に新入生、12月に1・2年生全員を対象に行います。テスト結果は、必修英語のクラス分けに使用され、また、選択必修英語クラスのレベルを選択する目安になります。定められた目標値に加え、各自がTOEIC目標値を設定して努力し、それが達成できるよう目指します。

全員対象のテストとは別に、海外短期語学講座に参加する学生や、希望者を対象に年に3回TOEIC-IPを行っています（4月、8月、9月：2,990円）。

4. English in Action（授業外英語活動）

積極的に英語に触れる活動の一環として、E-learningによる学習支援、English Café Luncheonの開催、English in Actionホームページ、各英語クラスで作成するEnglish Poster Projectsなどを設けています。11月末のAll English Dayでは、全員が英語を使う活動に参加します。

5. スポーツデイ

6月に行われるスポーツを通じて親睦を深めるための行事です。

6. ソフィアジュニア祭

学生実行委員会が主催する2日間の学園祭です。

7. ハロウィン

地域の子どもを大学に招き、ハロウィンイベントを行っています。

8. クリスマス会

キャンパスミニストリー主催で12月の水曜日に行います。本物のクリスマスの雰囲気が味わえます。

9. リフレクションタイム

アドバイザー教員とともに1年間の学習成果、学生生活を振り返り、2年次生から1年次生に様々なアドバイスを伝える活動を、各ゼミ単位で、1・2年次合同で行います。

10. キャリア講座

年間を通じて行われる就職・進学支援のプログラムで、主に水曜日午後のアセンブリーアワーや一部は土曜日等に、各種セミナーやガイダンスが開催されています。ホームページや掲示版で予定を確認し、積極的に参加してください。

11. 各種ガイダンス

その他年間を通じて、奨学金ガイダンス、PC講習会、図書館ガイダンス等、各種ガイダンスが行われています。ホームページや掲示版で予定を確認し、積極的に参加してください。

2. アドバイザーについて

1. アドバイザー

専任教員が学生の皆さん一人ひとりにアドバイザーとしてつきます。勉学や学生生活のこと（履修登録時の面談、学習の進め方に関する相談、休学・退学に関する相談、学生生活の相談、進路に関する相談）について助言や指導を行い、皆さんの大学生活を支援します。1年次生のアドバイザーは主に必修クラスを担当する教員になり、プレ・ゼミナールが決定してからはプレ・ゼミナール担当教員になります。2年次生のアドバイザーは各ゼミ担当教員になります。

2. オフィスアワー

アドバイザーの専任教員は質問・相談の時間としてオフィスアワーを設けています。下記のほか、研究室前にも教員のスケジュール詳細が掲示されていますのでご確認ください。

教員名	研究室番号 (4号館2F)	オフィスアワー
高野 敏樹	4212	月4限, 水3限, 木4限
M. Andrade	4206	(春学期) 火3限, 水5限 (17:00以降), 金2~3・5限 (秋学期) 火3限, 水5限 (17:00以降), 金2・5限
平野 幸治	4210	水1~2限, 木1・3~4限
丹木 博一	4214	火2~3限, 金2限
近藤 佐智子	4208	(春学期) 月3限, 火3限, 木3限 (秋学期) 月3限, 水3限, 木3限
飯田 純也	4216	(春学期) 月3~5限, 火5限, 水5限, 金5限 (秋学期) 月3~5限, 水5限, 金2限
森下 園	4202	(春学期) 月2限, 火3限, 水3限, 木5限 (秋学期) 月3限, 火4限, 水3限, 木5限
永野 良博	4218	火3限, 水2~3限
神谷 雅仁	4215	火3限, 水2限
T. Gould	4209	(2012年度春学期サバティカルのためオフィスアワーなし) (秋学期) 水2限
宮崎 幸江	4217	(春学期) 月2限, 木3限 (2012年度秋学期サバティカルのためオフィスアワーなし)
C. Oliver	4205	(春学期) 火13:00~14:15, 水14:00~15:00 (秋学期) 月16:30~17:00, 水14:00~15:00, 木16:30~17:00
杉村 美佳	4220	(春学期オフィスアワーなし) (秋学期) 火4限, 水3限, 金4限
狩野 晶子	4203	月3限, 水2限, 木3限
岩崎 明子	4213	(春学期) 月2限, 火4限, 木2限 (秋学期) 月3限, 火3限, 木2限
小林 宏子	4204	(春学期) 火1限, 木2~3限, 金3限 (秋学期) 水5限, 木2~3限, 金5限
T. Varkey	4211	月1~2限, 木1~2限

3. 大学から学生への連絡・通知（学内掲示板）

大学から学生への通知や連絡は、基本的に掲示をもって行われます。登校したら、必ず掲示板を見る習慣を身につけてください。また、補助的にですがホームページでも各種のお知らせをしていますので参考にしてください。掲示を見なかったために、後になって不利益を招くことのないように、十分注意してください。

No.	表示	位置	掲示の範囲
1	全学／ サービスラーニングセンター	1号館（校舎棟）入口前	①全学向けの重要な掲示 ②サービスラーニングセンター
2	学生生活	1号館（校舎棟）入口前	学生生活，課外活動
3	教務	1号館（校舎棟）入口前	履修，休講，教室変更
4	教務	1号館（校舎棟）入口前	履修
5	教務	1号館（校舎棟）116室前	試験，留学
6	学生呼び出し／学生生活	1号館（校舎棟）118室前	①学生呼び出し専用②奨学金
7	健康管理，カウンセリング／ キャンパス・ミニストリー	1号館（校舎棟）112室前	①健康管理，カウンセリング ②キャンパス・ミニストリー
8	編入	3号館（管理棟）1階	上智大学特別編入， 指定校推薦編入学
9	編入，留学	3号館（管理棟）1階	一般編入学，留学
10	就職	3号館（管理棟）1階	就職
11	キャンパス・ミニストリー	3号館（管理棟）2階	キャンパス・ミニストリー
12	全学	4号館（研究棟）1階	全学向けの重要な掲示
13	図書館	図書館入口前	図書館のお知らせ
14	学生専用	1号館（校舎棟）地下1階	学生用
15	学生専用	1号館（校舎棟）地下1階	学生用
16	学生専用	1号館（校舎棟）地下1階	学生用
17	学生専用	2号館（食堂棟）1階	学生用
18	購買部専用	1号館（校舎棟）地下1階	購買部（丸善）のお知らせ

4. 学生から教員への連絡について

上智大学短期大学部の専任教員は、個人研究室を持っています。オフィスアワーを参照し、その他各アドバイザーとは面談時に連絡方法を確認してください。

非常勤教員は、個人研究室がありませんので、連絡をとりたい場合は、原則授業の前後で直接連絡をとってください。なお、4号館2Fの講師室、1号館1Fの講師控室に学生は入室できませんので部屋の外から声をかけてください。非常勤教員によっては、連絡手段としてメールアドレスを公開している場合もありますので、必要に応じ、事務センターで確認してください。

5. 事務センター窓口について

1. 窓口時間

短期大学部事務センターは3号館(管理棟)2Fにあります。質問・相談等、各担当に申し出てください。

各種証明書申込み、学割証申込み
 学生生活関係(課外活動, 奨学金, 遺失物 等)
 進路関係(就職・編入学)
 学籍関係(住所変更・保証人変更, 休・退学等)
 教務関係(履修, 海外短期語学講座 等)
 学費, 入試広報等
 その他
 ※コミュニティカレッジ(公開講座)は, 2号館2Fサービ斯拉ーニング事務室へ

取扱時間は, 次の通りです。土・日・祝祭日は除きます。

	午 前	午 後
月・火・木・金	9:00～11:30	12:30～16:45
水	9:30～11:30	12:30～16:45

*夏・冬の一斉休暇, 諸行事等, 特別な場合の窓口取扱時間はその都度掲示します。

2. 各種証明書の申し込み手続方法

証明書を申し込むには, まず事務センター前のロビー(3号館2F)に備えてある所定の「証明書申込票」に必要事項を記入のうえ, 学生証と手数料を添えて窓口へ提出し, 領収印を受けます。その際, 申込証明書受領に必要とする控(領収票)が発行されます。受取時にはこの控を提示してください。なお, 申し込んだ証明書が3ヵ月にわたり受領されない場合には, 処分されます。

3. 証明書一覧と作成日数

本学で発行する証明書とその手数料(1通につき)および作成日数は, 次の通りです。

種 類	手数料	作成日数
在学証明書	100円	原則として在学生は申込日の翌開室日午後発行。 ※ただし, ・調査書(進学用) ・健康診断証明書(指定用紙) ・英文健康診断証明書 を除く(要数日)
成績証明書[在学学生]	200円	
成績証明書[卒業生等(在学学生以外)]	300円	
卒業見込証明書	100円	
卒業証明書	300円	
在籍証明書[退学者等(在学学生以外)]	300円	
調査書(進学用: 所定用紙を提出のこと)	500円	
推薦書(就職用)	100円	
健康診断証明書	300円	
健康診断証明書(指定用紙)	800円	
英文在学証明書	300円	
英文成績証明書	500円	
英文卒業見込証明書	300円	
英文卒業証明書	300円	
英文在籍証明書[退学者等(在学学生以外)]	300円	
英文健康診断証明書	500円	
学生証再発行	2,100円	1週間(仮学生証当日発行)
(注1) 学校学生生徒旅客運賃割引証(学割)	無料	当日
(注2) 団体学割証	無料	1週間(事前に相談してください)
(注3) 通学証明書	無料	当日

(注1) 学割

JR各線で片道100kmを越えて乗車するとき、普通運賃が2割引になります。原則1人につき1回の発行を4枚までとします。有効期限は3ヵ月間です。事務センター窓口（3号館2F）に備えてある「学割証交付願」に必要事項を記入し、学生証を添えて申請してください。（代理人申請不可）

- ・学割証は学割証記載の本人以外は使用できません。
- ・学割証の貸借は絶対してはいけません。万一、不正が発覚した場合、正規の運賃の3倍の追徴金が課せられるほか、本学学生に対して学割証の発行が停止されることになるので、使用に関しては十分注意してください。

(注2) 団体学割証

専任教職員の引率で、15人以上で旅行する場合に発行されます。6ヵ月前から3週間前までに申請してください。申込みは駅・旅行センター・旅行代理店にある所定の用紙に、大学から証明を得て行ってください。

(注3) 通学証明書

バスの通学定期券、または異なる鉄道（JR、私鉄、地下鉄）の4路線以上を利用する場合の通学定期券購入に必要になります。有効期限1ヵ月間です。事務センターに学生証を添えて申請してください。

4. 各種届・願一覧

各種の届・願は、各事務室窓口にてそなえてある所定用紙を使用してください。

種別	届出書類
身上変更	住所変更届
	氏名変更届
	保証人変更届
学籍	休学願
	復学願
	退学願
教務	履修中止届
	追試験願
	修得単位換算願
	英語科目免除・単位認定願
	専門科目コース修了証発行申請願
	成績評価確認願
学生生活	長期欠席届
	鍵（ロッカー）使用申込書
	団体創設届
	活動計画書
	活動報告書
	課外活動助成金申請書
	学外課外活動届
	規定時間外課外活動許可願
	開催・配布許可願
	教室・体育館使用願
	物品借用願
	秦野施設仮申込書
	印刷依頼書
スクールバス臨時運行願	
構内駐車場使用申請書	
進路	進路調査書
	進路決定届

3. 学籍について

1. 学生証と学生番号

学生証は、本学学生であることを証明するものです。**常に携帯**してください。

(1) 入学と同時に各人に与えられる学生番号は、本学における固有番号です。

例：1 2 - 3 0 1
入学年度 個人番号

(2) 学生証は、入学時所定の手続きを経て、交付されます。

- ① 有効期間は2年間です。
- ② 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- ③ 有効期間を過ぎた学生証は各人において処分してください。
- ④ 退学等、期中において学籍を離れる場合、本学に返却してください。

(3) 学生証が必要なときは主に以下の通りです。

- ① 履修登録をするとき
- ② 試験を受けるとき
- ③ 証明書や学割証を申し込みするとき
- ④ 図書館で図書の貸し出しを受けるとき
- ⑤ ノートPCの貸し出しを受けるとき
- ⑥ 通学定期券を購入するとき
- ⑦ 通学定期券や学割で乗車船し、係員の要求があったとき
- ⑧ その他、本学教職員から提示を求められたとき

(4) 学生証の記載事項に変更が生じた場合は、直ちに事務センターに届け出て、訂正してください。

(5) 学生証を紛失した場合は、直ちに事務センターに届け出てください。

2. 学籍について

修業年限 <学則第5条>

本学の教育課程終了に必要な期間のことで、2年間（4学期）です。休学期間は除きます。

在学期間 <学則第5条>

学生として在籍していただける期間のことで、4年間（8学期）です。休学期間は除きます。

卒業 <学則第40条、第41条>

卒業の要件は次のとおりです

- ① 修業年限（2年）を満たすこと。
- ② 卒業に必要な所定の単位（卒業要件単位）66単位以上を修得すること。

休学 <学則第17条、第18条>

病気、留学、その他の理由により休学しようとするものは、1) アドバイザーと相談し、2) 「休学願」（所定用紙）に理由を詳しく記入した上で提出し、許可を受けなければなりません。なお、病気による休学の場合は医師の診断書を添えてください。

- ① 休学の期間は1学期を区分とします。休学できる期間は通算して2年までです。
- ② 休学願の提出期限は次のとおりです。

	期間	提出期限
春・秋学期連続休学	4月1日～翌年3月31日	6月15日（金）
春学期休学	4月1日～9月17日	6月15日（金）
秋学期休学	9月18日～翌年3月31日	11月16日（金）

休学期間は修業年限、在学期間に含まれません。なお休学期間中は授業料等学費に対する減額制度があります。

復学 <学則第19条>

休学期間が満了した場合は、自動的に復学となります。復学を届出る必要はありません。ただし、病気により休学の許可を受けた者は、医師の診断書を添え「復学願」を提出してください。

退学 <学則第20条, 第21条>

病気その他やむを得ない理由により自主退学を希望する場合は1) アドバイザーと相談し, 2) 「退学願」(所定用紙)に理由を詳しく記入した上, 学生証を添付して提出し, 許可を受けなければなりません。「退学願」を提出するときはその時期までの授業料が納入済でなければなりません。

なお, 次に該当するものは退学を命じられます<学則第21条>
連続する2ヵ年において修得した単位数が24単位数に満たないものは, 退学させる。

除籍 <学則第22条>

次のいずれかに該当する場合は除籍されることがあります。

- ① 在学年限を超えた者
- ② 許可された休学の期間を超えて, なお修学できない者
- ③ 授業料等の納付を怠り, 督促してもなお納付しない者
- ④ 長期にわたり行方不明の者
- ⑤ その他

再入学

本学を退学したもの, 又は除籍を受けたものは再入学を願い出ることができます。出願の詳細については事務センターにお問い合わせください。

住所の変更, 氏名の変更, 保証人の変更

本人・保証人の住所や電話番号の変更があった場合, 所定用紙にて事務センターに届け出てください。本人氏名や保証人の変更があった場合も, 所定用紙にて事務センターに届け出てください。(本人氏名変更の場合は, 住民票記載事項証明書を添付してください)。

3. 学費の納入**1. 一括納入方式と分割納入方式**

学費は, 原則として1年間分を学年初めに一括して完納することになっています(一括納入方式)。ただし, 都合により全額を一括完納することができない場合には, 年間授業料の2分の1(半額)を, 秋に分納することができます(分割納入方式)。

2. 納入方法

本学から保証人宛に学費納入の案内とともに送付する振込依頼書を使用して, 銀行から振込んでください。金融機関で発行する領収書は, 本学の領収書に代るものなので, 大切に保管してください。

3. 学費請求の送付日と納入期限

学費請求の送付日および納入期限は次のとおりです。学費未納者は学則により, 除籍処分の対象となるので, 必ず納入期限を厳守してください(学則第22条, 第35条を参照のこと)。

		納入方法	学費請求日	納入期限
第1回	完納又は分納(一期分)	完納または分納いずれかを選択	4月2日(月)	4月16日(月)
第2回	分納(二期分)	第1回に分納を選択した場合のみ	9月18日(火)	10月2日(火)

4. 休学者に対する授業料等減額取扱手続

「休学願」(所定用紙)を当該年度の、春学期及び春・秋学期連続休学は6月15日まで、秋学期は11月16日までに提出し許可された者には、当該年度の学費を減額します(新入生も含まれます。なお、入学の際のみ必要として徴収した費目は減額の対象とはなりません)。詳細は事務センター学費担当までお問い合わせください。

4. 個人情報の取扱について

上智大学短期大学部では個人情報保護に以下の通り取り組んでいます。
上智学院個人情報保護への取り組みの詳細は下記URLもご参照ください。
<http://www.sophia.ac.jp/J/sogo.nsf/Content/kojinjoho>

上智大学短期大学部

個人情報の取扱いについて

入学手続書類に記載された入学手続者本人および保証人の氏名、住所、生年月日、その他の個人情報は、本学の諸部門において、次のとおり学生の在籍管理、教育、学生生活指導・支援等の業務並びに当該業務に付随する学生・保証人への連絡・通知など、本学の教育事業運営に必要な範囲でのみ使用します。

- 1) 入学時の学籍データ生成
- 2) 学籍管理および教務
- 3) 課外活動、福利厚生、経済援助等、学生生活全般の支援
- 4) 学費に関する案内
- 5) 学内施設設備利用管理
- 6) 上智大学短期大学部後援会(父母会)および上智大学短期大学部ソフィア会(同窓会)の運営
- 7) 寄付金等の募集案内
- 8) 本人および保証人への事務連絡通知

上記の業務を行う際、本学が入手した個人情報の漏洩、流出、不正使用等が生じないよう、必要な措置を講じます。また、個人情報を取り扱う業務を学外に委託するときは、委託業者との間で覚書等をかわし、委託先に必要かつ適切な管理を義務づけます。

なお、本学では学生への教育・指導をより適切に行うために、保証人の皆様にご理解とご協力をお願いしております。したがって、教育的配慮の必要性から保証人に対して学業成績、出席状況等を開示することや、修業、履修状況等について相談を行う場合があります。特別な事情により、保証人へ学業成績等を開示することに不都合がある場合は、短期大学部事務センターにその旨を申し出てください。

注. 入学時に在学生在が未成年者である場合には、本人の諾否にかかわらず保証人にこれらの通知を行う場合があります。

4. 履修について

1. 履修の基本

学則第25条

授業科目を履修する場合、その授業に出席し、かつ試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

1. 履修とは

大学では学生が自分自身の意志で受講したい科目を選んで履修計画を立て、登録を行い、卒業に必要な単位を修得していきます。この登録から単位の修得までの流れを「履修」と呼びます。

2. 単位とは

すべての科目には一定の単位が定められています。これら科目を履修して試験などに合格すれば単位が修得できます。単位数の計算方法は科目の種類によって異なります。

短期大学設置基準および学則第26条に「授業科目の単位数は、1単位履修に45時間の学習を要することを標準とし」と定められており、単位を修得するために、授業時間以外にも学習のための時間が要求されます。

単位制とは、修業年限（2年）に所定の科目を履修し、単位を修得することによって卒業できるという制度です。卒業に最低必要な単位を「卒業要件単位」と呼びます。

3. 試験とは

試験とは学生の学習効果を問う一つの方法であり、大学における最も重要な履修上の活動の一つです。試験に合格して、はじめてその科目の単位が与えられることになります。

4. 卒業の要件とは

卒業の要件とは学則第40条に定められている通り、本学を卒業するための定められた条件です。

- ① 修業年限（2年）を満たすこと。
- ② 卒業に必要な所定の単位（卒業要件単位）66単位以上を取得すること。

2. 授業

1. 学期と授業期間

授業は、一年度を春学期と秋学期の2学期にわけて実施されます。授業はセメスター制により、春・秋各学期15週で完結します。授業は週2回行われる科目が中心ですが、一部の授業は週1回行われます。

2. 授業時間

<月・火・木・金>

1時限	9:20 ~ 10:50	2時限	11:00 ~ 12:30
3時限	13:20 ~ 14:50	4時限	15:00 ~ 16:30
5時限	16:40 ~ 18:10		

<水>

1時限	9:20 ~ 10:50	2時限	11:00 ~ 12:30
3時限	13:20 ~ 15:20	4時限	15:30 ~ 17:00

水曜日の3時限はAssembly Hourであり、合同授業、各種行事、キャリア講座、各種ガイダンスなどの多目的に利用される時間帯です。

3. 授業の出欠席

大学の単位認定は、授業時間数が基礎になっています。やむを得ない場合を除き、毎時間の授業への参加を重視します。

- ・授業への遅刻は厳に慎んでください。遅刻者の入室を拒否する場合があります。
- ・単位修得の場合には、各授業科目とも授業時間数の3分の2以上の出席が必要です。3分の2以上の出席とは、不可抗力による欠席の可能性を考慮してのことですので、3分の1まで欠席してよいということではありません。
- ・欠席時間数が授業時間数の3分の1を超える者は、原則定期試験の受験資格を失います。ただし授業方針によっては、その比率に関係なく受験資格を失うことがあります。
- ・授業に欠席する者は、各担当教員に欠席の理由を報告してください。なお、個々の授業科目担当教員に医師の診断書を提出する必要はありません。
- ・病気等により欠席が2週間を超えるときは、医師の診断書1通を添え、長期欠席届（所定用紙）を事務センターに提出してください。
- ・引き続き3ヶ月以上欠席するときは、休学願（所定用紙）を提出し許可を受けることが必要です。

4. 教室

授業は、基本的に時間割に示されている教室で行われます。ただし、履修登録後の受講者数によって教室が変更になる場合もあります。この場合は、掲示板でお知らせしますので、各学期の始めは特に注意してください。授業期間中に、設備等の都合で一時的に教室が変更となる場合も、掲示板で「臨時教室変更」によりお知らせします。

5. 休講

担当教員が公務、出張、学会、病気などによってやむを得ず授業を休む場合には掲示板でお知らせします。万一連絡がなく、授業開始より20分を経過した場合には事務センターの指示を受けてください。

6. 補講

各学期授業期間終了後に、補講期間を設けています。補講期間中の時間割の発表についてはP.43を参照してください。

7. 祝日の授業日、他の曜日の時間割での授業実施、臨時休講日

授業日数や定期試験日数の調整のため、特定の祝日にも授業を行うことがあります。また他の曜日の時間割で授業を行う場合や、臨時休講日を定めることがあります。2012年度は下記の通りです。

- | | | |
|-------|-----------|------------|
| 【春学期】 | 4月30日（月） | 振替休日 |
| | 7月16日（月） | 海の日 授業実施日 |
| 【秋学期】 | 10月8日（月） | 体育の日 授業実施日 |
| | 10月26日（金） | 臨時休講日 |

8. 交通機関不通の場合の授業

交通ストライキに伴う休講措置は次のとおりです。

- (a) 小田急線または首都圏のJR線がストライキのとき、午前6時の時点で未解決の場合は全学休講とする。
- (b) 私鉄のみ（小田急線を除く）がストライキのときは、授業は平常どおり行う。

3. 履修登録

(別途配付される「履修登録の手引き」も熟読してください。)

1. 履修登録の基本

学則第32条
履修しようとする科目は、毎学期所定の期間に登録しなければならない。

- * 春学期開講科目は春学期に、秋学期開講科目は秋学期に登録します。
- * 所定期日までに登録を怠った場合、その年度の履修権利を放棄したことになります。
- * 登録していない科目の授業や試験を受けても単位認定されません。登録は慎重に行いましょう。

2. 履修登録関連日程

	春学期	秋学期
必修クラス発表	2年次：3月12日(月) 1年次：4月9日(月)	
新学期ガイダンス 人数制限科目の履修手続	2年次：4月4日(水) 1年次：4月5日(木)* 9日(月) *5日(木)はガイダンスのみ	全学生：9月11日(火)
人数制限科目の手続結果発表	全学生：4月11日(水) 【場所】4号館1F掲示	全学生：9月13日(木) 【場所】4号館1F掲示
履修・進路相談 (アドバイザー)	全学生：4月11日(水) 12日(木) 13日(金)	全学生：9月13日(木) 14日(金)
履修登録	全学生：4月11日(水) 12日(木) 13日(金)	全学生：9月13日(木) 14日(金)
授業開始	4月16日(月)	9月18日(火)
履修登録確認表配布・修正登録	4月23日(月) 24日(火) 25日(水)	9月25日(火) 26日(水) 27日(木)
修正登録確認表配布	4月27日(金)	10月1日(月)

* 人数制限のある科目は履修登録前に仮登録手続きを行い、受講希望者多数の場合抽選を行います。対象科目はP.59～P.61に掲載しています。詳細は「履修登録の手引き」(別紙)をご確認ください。

3. 履修計画

P.51から始まる「5. カリキュラムについて」を熟読し、2年間で何をどのように学びたいか方向を定め、卒業要件単位、履修上の注意、シラバス、時間割(必修科目の時間帯の確認)、ガイダンスでの説明等を参考にし、それぞれの学期の履修計画をしっかりと立ててください。

- * 卒業に必要な単位数およびその内容に関する定めは厳格なものであり、1科目・1単位の不足があっても卒業資格は与えられません。卒業要件単位については十分に注意し、選択の仕方を考えて無理のない計画を立て、自分自身の時間割を作成してください。

4. 履修・進路相談(アドバイザー履修計画票確認)

履修登録をする前に、アドバイザーと面談し、履修計画表にサインを受けてください。

アドバイザーとの面談日は定められた相談期間内に、各自で確認をとってください。履修で不明なことは必ず、アドバイザー、事務センター教務担当まで尋ねるようにしてください。うわさや思い込みに惑わされることなく、わからないことは必ず確認してください。

5. 履修登録

時間割が定まったら、アドバイザーのチェックを受けた「履修計画表」と「履修登録票（OMR用紙）」を定められた履修登録期間に事務センターに提出してください。

6. 登録確認表の受取り

登録した授業科目・担当教員がすべて正しく登録されているか、自らの責任において必ず確認してください。登録確認表で確認をせず、登録ミスがあった場合、卒業できない場合がありますので確認表の受取・確認は必ず行ってください。

7. 修正登録

履修計画の変更や登録の間違いがあった場合、修正登録期間に登録の修正（追加・取消）ができます。抽選で当選した科目は原則取消してできません。修正登録で新たに科目を登録しようとする場合は、修正登録期間前でも担当教員の了解を得た上、授業に出席してください。修正登録をした学生には、新たに修正登録確認票を配布します。こちらも必ず受け取り内容を確認してください。なお、修正登録後の追加・変更はできません。（9. の「履修中止」のみ可能。）

8. 履修登録の上限

各学期に履修できる単位数の上限は以下の通りです。

春学期	秋学期
24単位	24単位

9. 履修中止

履修登録を完了し、実際に授業に出席したものの、「授業の内容が自分の勉強したいものと違っていた」、「授業のスピードについていけないだけの知識が不足していた」、「健康上の理由から履修科目数を減らしたい」といった理由から学期の途中で履修を中止できる制度です。

履修中止期間	
春学期	2012年6月7日（木）～6月13日（水）
秋学期	2012年11月8日（木）～11月14日（水）

（注意事項）

- ① 必修科目は履修中止できません。
- ② 履修中止届（所定用紙）に記入し期間内に事務センターに提出してください。期間を過ぎたものは受付られないので注意すること。また、一度提出した履修中止届を取り下げることができません。
- ③ 履修中止をした科目は成績表に「W」で表示されます。成績証明書には記載されません。「W」はG.P.A（→P.45参照）の計算に含まれません。
- ④ 履修中止をせずに、教員から指示された試験やレポートなど、必要な課題をこなさなかった場合は、その科目は成績表および成績証明書に「F」（不合格）として記載されます。「F」はG.P.Aの計算に含まれます。

4. 試験

1. 試験

履修科目の成績を評価する方法として、筆記試験、レポート、口頭試験、実技テスト等があります。試験に合格し、その科目の単位が与えられたときは、「成績表」に「評価」を記入して、各自に交付します。

履修登録をしていながら受験しない科目は不合格となります。履修登録をしていない科目は受験できません。授業料未納者は、試験を受けることができません。

本学で行う試験には、定期試験・臨時試験と追試験があります。

2. 定期試験

各学期の授業期間終了後、試験期間を設けて実施します。試験時間は原則として60分。試験時間割表は、補講期間の時間割とあわせて、補講・定期試験期間開始の2週間前に掲示します。

	補講・定期試験日程揭示日	補講及び定期試験期間
春学期	2012年7月5日(木)	補講期間： 2012年7月26日(木)～7月30日(月) 定期試験期間(補講含む)： 2012年7月31日(火)～8月6日(月)
秋学期	2012年12月12日(水)	補講期間： 2013年1月18日(金)～1月22日(火) 定期試験期間(補講含む)： 2013年1月23日(水)～1月29日(火)

<定期試験受験上の注意>

試験は、いずれの試験の場合も、厳正に実施されます。学生は次の心得を守ってください。

- (1) 試験を欠席する場合は、事前に事務センターに連絡してください。
- (2) 携帯電話の電源を切り、かばんの中にしまってください。
- (3) 試験開始後20分以上の遅刻者は、特別な場合を除き、受験できません。
- (4) 試験開始後30分を過ぎるまでは退室できません。
- (5) 答案を提出せずに退室することはできません。
- (6) 試験室においては、監督者の指示に従ってください。
- (7) 監督者の指示または注意に直ちに従わない場合は不正行為と見なされ、退室させられます。

<不正行為について>

- (1) 試験における不正行為は、学則第57条によって処分されます。
- (2) 不正行為をおこなった場合、その学期に履修した科目全ての評価が「F」(不合格)となります。
- (3) 停学処分を受けた場合には、停学期間は修業年限に算入されないため、卒業時期は延期となります。

学則第57条

本学学生に対してその本分にもとる行為があったと認められるときは、その軽重にしたがい、譴責、停学又は退学処分とする。

3. 臨時試験(授業内試験)

担当教員が随時授業時間中に行う試験のことです。この場合、試験日時は掲示でなく、主に教室において口頭で伝達されますので確認してください。

4. 追試験

追試験とは、病気・忌引・編入学試験等のやむを得ない事由で定期試験を欠席する場合に限り、定期試験に代えて受けることができる試験です。原則として授業内（補講含む）に行なわれる臨時試験（授業内試験）は追試験の対象となりません。申請は、該当の科目の試験終了後から試験期間に行われる全科目の試験終了後3日以内に、その理由を詳記し、かつ診断書、その他その事由を証明する書類を添えて「追試験願（所定用紙）」を事務センターに提出し、所定の手数料（1科目2,000円）を納入してください。許可された場合は、追試験を受けることができます。追試験の成績の評価は、原則として得点の80%を限度とします。（ただし学校保健法による場合は例外とします。）

詳細は「追試験細則」を参照のこと。

<追試験細則>

(1) 目的

定期試験を受験する資格（履修登録していること。欠席が1/3以上を越えていないこと）を有する者で、下記の理由により未受験で、所定の手続きを済ませた者に対して一定期間を設けて施行する試験のことをいいます。

(2) 日時

追試験日程及び時間割は別に知らせます。

(3) 成績

追試験の成績の評価は、原則として得点の80%を限度とします。（ただし、学校保健法による場合は例外とします。）

(4) 受験資格を得るための必要書類

1. 就職試験（説明会を含む）

当日、会場で担当者の署名、捺印した受験参加証明書（間違いなく受験参加した旨の文章が記載されていること）

2. 編入試験

受験票のコピー

3. 忌引（原則3親等以内の通夜・告別式に限る）

葬儀日程のわかる印刷物

4. 交通事故

交通事故証明書（警察署発行のもの）

5. 交通機関の遅延

遅延証明書（各交通機関発行で日時や遅延時間のわかるもの）

6. 病気

医療機関の診断書（初診日及び安静期間が記載されているもの）

7. その他

公的機関の発行した以下の項目が明記された文書

(a) 該当日時 (b) 受験できなかった理由を説明する文章

(c) 機関名と作成者氏名 (d) 問い合わせ先の電話番号

(5) 申し込み

試験申し込みは、自分が該当する理由に応じて、必要書類と追試験願及び追試験受験料（1科目2,000円）を提出・納入してください。

追試験受験料は、理由の如何を問わず返還はしません。

5. 評価

1. 評価基準

学力の評価は、担当教員の授業方針ならびに評価方針により、試験（定期試験及び随時の試験を含む）、レポート、授業参加など学生の学力表示の実績に基づき、短期大学の水準に照らして次の基準で行われます。

		評価		評点	内 容
判 定	合 格	A	100～90点	4.0	特に優れた成績を示したもの
		B	89～80点	3.0	優れた成績を示したもの
		C	79～70点	2.0	妥当と認められる成績を示したもの
		D	69～60点	1.0	合格と認められるための最低限度の成績を示したもの
	不 合 格	F	59点以下	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの
無 判 定	履修中止	W			所定の期日までに履修中止の手続きをしたもの
	認定科目	N	——		修得単位として認定されたもの

2. G.P.A (Grade Point Average)

各科目の成績評価の「評点」値にその科目の単位数を掛け算し、その値の総合計を総単位数で割ったものがG.P.Aとなります。

不合格科目（F）の単位数は計算式の分母に含まれます。所定の期間に履修中止した科目（W）や、単位認定を受けた科目（N）は計算式に含まれません。

<G.P.Aの計算式>

$$\frac{4.0 \times A \text{の修得単位数} + 3.0 \times B \text{の修得単位数} + 2.0 \times C \text{の修得単位数} + 1.0 \times D \text{の総修得単位数}}{\text{総登録単位数 (F = (不合格) を含む * W (履修中止), N (認定) は含みません)}}$$

3. 成績表

春学期の成績表は9月に、秋学期の成績は3月に通知します。G.P.Aは成績表に記載してお知らせします。成績表の配布の方法、期間、場所については別に掲示します。

なお、成績表は各学期の初めに、アドバイザーから履修のアドバイスを受ける際にも必要ですので大切に保管してください。

4. 評価の確認

評価について疑問のある場合は、「成績評価確認願」（所定用紙）を下記の提出期限までに事務センターへ提出することができます。その際、必ず成績表を持参してください。期日を過ぎた場合の願い出は一切受け付けられません。

「成績評価確認願」提出締切日	
2011年度秋学期科目	4月9日（月）まで
2012年度春学期科目	9月11日（火）まで

なお、特別の事由なく、単に再評価・再検討を願い出るもの、担当教員の情状を求めるものや、他の学生との比較上の不満のみを訴えるもの、その他、確認をする根拠に乏しい成績評価確認願は受け付けられません。

5. 再履修

必修科目の単位未修得者は当該科目を次学期もしくは次年度に再履修しなければなりません。再履修者は科目ごとに履修登録前に手続きを行います。手続きの方法は掲示等によりお知らせします。

6. 単位の認定

単位の認定には次の種類があります。

1. 入学前に他大学等で修得した単位の認定

本学が教育上有益と認めるときは、本学の学生が入学前に、他大学において授業科目を修得している単位がある場合、15単位を超えない範囲で本学において修得したものと認定することができます。該当者は入学年の履修登録前までに事務センターに申し出てください。

必要書類：単位を修得した大学が発行する単位修得証明書（オリジナル）
単位を修得した大学の講義内容
修得単位換算願（所定用紙）

2. 海外短期語学講座による単位認定

本学が認定した海外短期語学講座のプログラムに参加し、単位認定を受ける制度です。下記の3つの条件を満たした場合、審査のうえ、専門科目として2単位が認定されます。

1. 本学が認定した下記の海外短期語学講座のプログラムをPass（合格）で修了
2. プログラムの準備教育として定められた必履修科目の単位を修得
3. 帰国後、レポートを提出

2012年度の予定プログラムは次のとおりです。変更になる場合もあります。その場合は、留学ガイダンス及び掲示によりお知らせします。

<夏の海外短期語学講座プログラム>

- A. University of Victoria (カナダ)
- B. University of Gloucestershire (英国)

実施時期（授業期間）	2012年8月，9月
申込時期	2012年4月 定員以上の応募があった場合は抽選。 定員以下の応募の場合は，中止になる可能性があります。

<春の海外短期語学講座プログラム>

- C. University of Auckland (ニュージーランド)

実施時期（授業期間）	2013年2月，3月
申込時期	2012年10月 定員以上の応募があった場合は抽選。 定員以下の応募の場合は，中止になる可能性があります。

* 申し込みの詳細は留学ガイダンス及び掲示によりお知らせします。

* A, Bのプログラムは、春学期の「留学準備」、Cのプログラムは、秋学期の「留学準備」が必履修科目となります。

* 在学中に複数回、海外短期語学講座に参加することは可能ですが、単位の認定は1回限りです。また抽選になる場合は初回応募の学生が優先となります。

* A, B, Cのプログラム参加者は、出発前と帰国後にTOEIC-IP（有料）を必ず受検する必要があります。

* 夏の短期語学講座プログラムを参加希望の学生はパスポートの取得を急ぐこと。

3. 技能審査（英検、TOEIC等）による単位認定

入学前もしくは在学中に、下記のような検定試験のレベルをクリアした場合は、その資格をもって英語選択必修科目に認定、または他の専門科目での履修を認めます。入学年次によって制度が異なりますので、注意してください。

実用英検	*TOEIC	TOEFL (Computer-Based) TOEFL (Internet-Based)	**TOEFL (Paper-Based)	IELTS
準1級以上	700以上	190以上/68以上	520以上	5.5以上

*TOEICは公開テスト、および学内で実施されるIPテスト（英語力テスト）のスコアを含みます。

**TOEFL (Paper-Based)は公開テスト、および上智大学四谷キャンパスで実施されるITPテストを含みます。

【09年次生】

英語選択必修科目（英語スキルズ科目）を最高6単位まで認定します。単位認定を希望する学生は、所定の「英語科目の履修免除・単位認定願」に記入のうえ、上記のレベルをクリアした認定証（原本）を提示してください。申請時期は各学期の履修登録前になりますが、詳細は掲示でお知らせします。

ただし上記レベルをクリアしていても、英語選択必修科目の履修を希望する場合は、それを妨げません。

【10年次生以降】

下記（1）、（2）のうちいずれかの履修方法を選択できます。

（2）を選択した場合は、所定用紙に記入し、上記レベルをクリアした認定証（原本）を提示してください。

- （1）英語選択必修科目（英語スキルズ科目）3科目6単位を履修する（各学期に履修できるのは1科目まで）。ただし、上記の検定レベルをクリアした後に履修するスキルズ科目は、上級であることが望ましい。
- （2）英語選択必修科目1科目2単位と、指定された英語で行われる専門選択科目1科目4単位を履修する。これらの単位を修得することによって、英語選択必修科目の6単位を満たすことができます。2012年度の指定科目は、「社会正義のグローバルリテラシー」（M. Andrade）です。なお、指定科目を専門科目として単位を修得した場合は、その後検定試験のレベルをクリアしても英語選択必修科目の単位として振り替えることはできません。同様に英語選択必修科目として単位を修得した場合、専門科目として単位を振り替えることはできません。

7. 英語学習支援プログラムとTOEIC-IP試験スケジュール

【英語学習支援プログラム】

本学では、学生の将来のキャリア形成など英語に関わる様々な目標に向け、在学中にすべての学生が将来にわたり継続できる自律的な英語の学習習慣を形成し、着実に英語力を伸ばすことが重要であると考えています。この趣旨に添って本学では自律的な学習習慣形成への手助けとしての英語学習支援プログラムを実施しています。英語学習支援プログラムへの参加は任意です。2012年度の実施時期は春学期授業終了後・秋学期授業開始までの期間となります。参加学生には指導担当教員が学習内容の助言と監督を行い、個々の学生の自律的な学習を促進し、継続的な学習習慣が確実に身に着くよう後押しします。

2012年度の英語学習支援プログラムの詳細とスケジュールに関しては、後日掲示等にてお知らせします。

【学内で行われるTOEIC-IP試験スケジュール】

2012年度

日程	対象者	申込	申込時期（詳細は掲示）
2012年 4月2日（月）	新入生全員【新入生英語力テスト】	不要	/
	①春期海外短期語学講座帰国者（英語圏） ②その他希望者	必要	
8月7日（火）	①夏期海外短期語学講座出発者 ②その他希望者	必要	6月
9月11日（火）	①夏期海外短期語学講座帰国者 ②その他希望者	必要	7月
12月5日（水）	全学生【全学生英語力テスト】	不要	/

その他，詳細は掲示で発表する。

8. 卒業

1. 卒業要件

卒業要件は次のとおりです <学則第40条>

- ① 修業年限（2年）を満たすこと。
- ② 卒業に必要な所定の単位（卒業要件単位）66単位以上を取得すること。

2. 卒業要件を満たすには

- ① 履修要覧の「3. 卒業に必要な科目・最低単位数」(P.52)「5. 履修上の注意」(P.53)を熟読してください。
- ② 2年間（4学期）の履修計画をよく検討し，卒業要件を満たす登録ができるよう心がけてください。
- ③ 正しく履修登録をし，試験等を受け，単位を修得してください。
履修登録をしたら，必ず登録確認表を受け取り自己の責任において正しく履修登録がなされているか確認をしてください。
- ④ 各学期の成績表を受け取ったら，修得科目・単位数，不足単位数をその都度よく確認してください。

3. 9月卒業

年度末に卒業資格を得られなかった学生が，次年度春学期終了時に卒業要件を満たした場合，9月卒業が可能です。9月卒業を希望する学生は学科長の承認を得た上で，春学期の登録前までに事前申請を行ってください。

4. 成業の見込みのない者の取扱い

連続する2ヵ年において（ただし，休学期間を除く）修得した単位が24単位に満たない者は退学となります。<学則第21条>

5. カリキュラムについて

1. 英語科 カリキュラムの特徴

本学のカリキュラムの科目群は、英語科目、教養科目、基礎科目、専門科目で構成されています。

「英語科に入ったのだから、英語の勉強だけをするものだと思っていた」等の声を新入生から聞くことがあります。それでは、「英語を学ぶ」とはどういうことなのでしょう。

言葉というものは、相手に何かを伝える、あるいは相手の言いたいことを理解するために使われます。

「英語を学ぶ」と言っても、学んだ英語で相手に「何を伝えるのか」「何を理解しようとするのか」という中身がなくては、本当の意味での「英語を使える」人間にはなれません。しかも、母語とは異なる言語を使う相手に、何かを伝えて理解してもらうこと、逆に相手のいうことを理解することは、とても大変なことなのです。単に文法や語彙が違うから、という問題ではありません。「異文化コミュニケーション」という言葉が示すように、異なる言語の使い手、つまり異なる文化の人々とコミュニケーションを行うためには、相手の文化や社会についても知る必要があります。

入学後、まず教養科目を履修することで視野を広げ、体系だった学問に触れながら論理的なもののとらえ方を身につけていきます。皆さんの多くにとっての母語は日本語でしょう。まず日本語でものを論理的に考え、説明する力を養うことが、英語を使いこなすためにも不可欠なのです。そのため、日本語で必要な情報を集め、論理的に整理して口頭で発表したり小論文を書いたりするためのアカデミック・スキルズを身につける「基礎ゼミナール」を2010年度より必修科目として新たに開講しました。同じく1年次の必修科目である「人間学」では、本学の教育理念であるWomen for Others, with Others（他者のために、他者とともに）を実現するための学びがあります。

こうしてしっかりと基礎となる土台を作りながら、英語を学びます。英語の授業の時間が大切なことは言うまでもありませんし、英語だけでなくすべての授業は無遅刻・無欠席が当たり前です。しかし、英語力は授業だけでは決して身に付きません。各授業の予習・復習、課題などをしっかりこなす自宅学習が必須です。さらに学内ではパソコンを使ったe-learningシステムやEnglish Café Luncheon等、授業外で英語を学ぶさまざまな機会が提供されています。また、学生の皆さんはTOEICの目標値を決めてその達成に努め、教員もそれを支援していきます。英語力を身に付けるためには、こつこつと積み重ねる毎日の努力と、英語を使い英語により多く触れる自主性が鍵となります。

また、本学では英語力を身につける授業は英語科目に限定されているわけではありません。いくつかの専門科目やゼミナールは英語で行われています。それらの授業では、講義を英語で聞き、英語のテキストや資料を読み、英語で議論して、英語でレポートを書く、というように実際に英語を使って専門的なことを学んでいきます。泳ぎ方をいくら言葉で教わっても、実際に水に入ってみなければ泳げるようにはならないのと同様に、英語についていくら学んでいても、自分が持っている知識をフル活用しながら実際に英語を使ってみなければ、英語が使いこなせるようにはなりません。英語で授業を行う科目が専門科目として提供されている理由はここにあります。

専門科目は、「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」というカテゴリーに括られており、それぞれの分野の入門的な「概論」と「各論」にあたる個々の講義が提供されています。全体像をまず把握してから個別のテーマを扱う「各論」に入るほうがしっかり理解できるので、「概論」は第二外国語などとともに、専門科目のなかの基礎科目として位置付けられています。あるカテゴリーに興味がある場合は、そのカテゴリーの科目を集中して履修して卒業時に「コース修了証」を得ることもできますし、カテゴリーにこだわらずに自分の関心にしたがっているいろいろな分野の科目を履修することもできます。

こうした学内での学びを、児童英語教育ボランティアや日本語教育支援ボランティアなどの地域活動に活かし、学外でのこうしたボランティア体験をさらに学びにフィードバックする活動が活発に行われています。こうした奉仕の体験を学びに活かす活動を、サービス・ラーニング活動といいます。サービス・ラーニング活動を通して、学生の皆さんは学んだことを実践し、他者とともに生きる市民社会の一員として成長する機会を地域社会からいただいているのです。

本学のカリキュラムの内容や目的をどうぞよく理解したうえで、バランスよく科目を履修し、ボランティア活動やさまざまな課外活動にも積極的に参加しながら、将来必要となる英語力や社会力をどうぞ養ってください。

科目履修やプログラム、ボランティア活動などについてわからないこともあるでしょう。アドバイザーとよく相談して、長期的な視野にたった履修計画を立てましょう。

2. 授業科目の構成

授業科目の内容は以下のように構成されています。

- (1) 英語科目
 - └── 必修科目
 - └── 選択必修科目
- (2) 教養科目
 - └── 必修科目 (人間学)
 - └── 選択科目
- (3) 基礎科目
 - ── 選択科目
- (4) 専門科目
 - └── 必修科目 (プレ・ゼミナール, ゼミナール) (基礎ゼミナールー2010年次生より)
 - └── 選択科目

必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目

選択必修科目 …… 指定された科目の中から選択して、所定の単位を必ず履修しなければならない科目

選択科目 …… 自由に選択して履修できる科目

3. 卒業に必要な科目・最低単位数

2年の修業年限を満たし、次の条件を満たすことにより、本学を卒業する資格が与えられます。

(1年次で30単位以上修得できない場合は、卒業見込証明書が発行されない場合があります。)

【09年次生】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	8	6	4	12	6	30	66
合計	14		16		36		

【10年次生以降】

分野	英語科目		教養科目		基礎/専門科目		合計
	必修	選択必修	必修	選択	必修	選択	
単位数	8	6	4	12	8	28	66
合計	14		16		36		

4. 標準配当表

【09年次生】

区分		1年次・春学期 第1 Semester (準備期)		1年次・秋学期 第2 Semester (発展期)		2年次・春学期 第3 Semester (応用期)		2年次・秋学期 第4 Semester (完成期)	
英語科目	必修 (8単位)	英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2	英語 IV	2
	選択必修 (6単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (4単位)	人間学 I	2	人間学 II	2				
	選択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎/専門科目	必修 (6単位)			プレ・ゼミナール	2	ゼミナール I	2	ゼミナール II	2
	選択 (30単位)	選択科目 (30)							

【10年次生以降】

区分		1年次・春学期 第1 Semester (準備期)		1年次・秋学期 第2 Semester (発展期)		2年次・春学期 第3 Semester (応用期)		2年次・秋学期 第4 Semester (完成期)	
英語科目	必修 (8単位)	英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2	英語 IV	2
	選択必修 (6単位)	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	英語スキルズ	2		
教養科目	必修 (4単位)	人間学 I	2	人間学 II	2				
	選択 (12単位)	選択科目 (12)							
基礎／専門科目	必修 (8単位)	基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミナール I	2	ゼミナール II	2
	選択 (28単位)	選択科目 (28)							

5. 履修上の注意

(1) 履修登録の上限

履修できる単位数の上限は1学期につき**24単位**です。

(2) 同一科目の重複履修

同一の授業科目は重複して履修することはできません。担当者が異なっても同じ科目名であれば、同一科目とみなされます。ただし、履修した科目が不合格で単位が修得できなかった場合は、もう一度履修することができます。

(例)「基礎英語スキルズ (リーディング)」の授業は春学期と秋学期で違う担当者 → 同じ科目名なので同一科目 → 春学期に単位が修得できた場合、秋学期は履修できない。

- 下記の科目は科目名が異なりますが、同一科目とみなされます。すでに単位を修得済みの場合、重複履修はできませんので注意すること。

【10年次生以前】

2010年度以前開講科目名	2011年度開講科目名
情報概論	情報リテラシー演習
世界の教育	比較・国際教育学

【09年次生】

2009年度以前開講科目名	2010年度以降開講科目名
映画に見る文化	ビジュアル・レトリック
基礎英語スキルズ (文法)	基礎英語スキルズ (文法・語彙)
基礎英語スキルズ (語彙)	基礎英語スキルズ (文法・語彙)

(3) 受講者数制限科目

人数制限のある科目 (P. 59～P. 64の開講科目表の**備考欄に【人】**とある科目) は履修登録前に仮登録を行い、受講希望者多数の場合抽選を行います (詳細は「履修登録の手引き」を参照のこと)。その他の科目についても原則的には人数制限しませんが、初回の授業の受講希望状況によっては制限を行う場合もあります。第1～2回目の授業、その他掲示等に注意してください。

(4) 必修科目のクラス指定、ゼミ

必修科目は指定されたクラスを履修してください。1年次秋学期必修のプレ・ゼミナールとともに、2年次必修のゼミの選択・登録については1年次中に始まりますので掲示等に注意してください。

- (5) 英語スキルズ科目
原則として各学期に1科目までとします。
- (6) 教養科目の「体育理論・実技」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。ただし、同一科目の重複履修はできません。(例)春学期に「体育理論・実技2」の単位を修得済み→秋学期の「体育理論・実技2」は履修できません(体育理論・実技1か3は履修可能)。
- (7) 基礎科目の「ドイツ語」「フランス語」「スペイン語」「中国語」は卒業要件単位として4単位まで算入されます。
- (8) 他の科目の履修が前提となる科目
児童英語教育演習A, 児童英語教育演習B……履修するには, 児童英語教育概論(2011年度まで開講), 児童英語教育概説, 児童英語指導者養成講座, 第二言語習得のいずれかの単位を修得済であることが必要です。
日本語教育演習……履修するには, 日本語教育概論の単位を修得済であることが必要です。
- (9) 履修希望者が極めて少数の場合, 開講を中止することもあります。

6. 基礎科目／専門科目のコース制度

専門科目は「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育(09年次生以降)」の4つの領域に分類されています。ある領域を集中してコースとして学ぶことも可能ですし, それぞれの領域から自由に科目を選択して履修することも可能です。

それぞれのコースの**基礎科目**(異文化理解:キリスト教文化入門又は異文化間コミュニケーション, 英米文学研究:英文学概論, 言語研究:言語学概論, 言語教育:児童英語教育概説又は日本語教育概論) 4単位 + そのコースの**関連科目**を 16単位以上, 合計20単位以上 修得した場合は, 申請に基づき「コース修了証」を発行し, 修了コース名を成績証明書に記載します。希望者は, 2年次の秋学期の履修登録時に申請を行います(所定用紙)。

(注)【P.61～P.64の開講科目表を参考】

2つのコースどちらにでも算入できる科目は, 1つのコース分には数えられません。2つのコースどちらにでも算入できる科目を, 1回しか数えなくても2コース分の修了証が申請可能な場合は, 申請書を2枚提出してください。

<各コースの概要>

異文化理解コース	英米文学研究コース	言語研究コース	言語教育コース
さまざまな国の文化や社会, 歴史, 考え方などについて学びます。	英語圏の文学を通してさまざまな表現手法や思想について学びます。	ことばの仕組みや使い方, バリエーションなどについて学びます。	子供たちへの英語の教え方や外国籍の方への日本語の教え方を, 理論と実践の両面から学びます。

* 次ページに各年次生の各セメスターでの履修例を示します。あくまでも一例ですので, 自己の目的や興味関心に従って個人の学習計画を立ててください。なお, 開講学期や時間割は年度によってかわります。

* 履修例はあくまでも一例であり、毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【09年次生】

＜異文化理解コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
英語Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語スキルズ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	文化人類学	4
経済学	4	英語スキルズ	2	東洋研究A	4	比較政治制度論	4
マスメディア論	4	情報リテラシー演習	4	国際関係論	4	社会正義のグローバルリテラシー	4
キリスト教文化入門	4	異文化間コミュニケーション	4	ビジュアル・レトリック	4		
		ヨーロッパ現代史	4				
合計 18 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 10					

2年間 計72単位

＜英米文学研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
英語Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語スキルズ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	英語史	4
教育学	4	英語スキルズ	2	体育理論実技3	2	西洋研究	4
体育理論実技2	2	社会学	4	フランス語Ⅱ	2	ヨーロッパ現代史	4
英文学概論	4	フランス語Ⅰ	2	小説研究	4		
		演劇研究	4	映画と文学	4		
		アメリカ文学史	4				
合計 16 単位		合計 22 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 8		教養 6		教養 2		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 12		基礎/専門 12			

2年間 計72単位

＜言語研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
英語Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語スキルズ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
社会学	4	英語スキルズ	2	音声学	4	英語史	4
心理学	4	法学	4	異文化間コミュニケーション	4	社会言語学	4
ドイツ語Ⅰ	2	言語学概論	4	日本語学	4		
		言語とリテラシー教育	4				
合計 16 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 2		基礎/専門 10					

2年間 計70単位

＜言語教育コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
人間学Ⅰ	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
英語Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語スキルズ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	児童心理学	4
心理学	4	英語スキルズ	2	児童英語教育演習A	4	第二言語習得	4
歴史学	4	音楽	4	比較・国際教育学	4	児童英語教育演習B	4
日本語表現法	4	児童英語教育概説	4	音声学	4		
		キャリアプランニング	4				
合計 18 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 10					

2年間 計72単位

カリキュラムについて

* 履修例はあくまでも一例であり、毎年の実際の開講学期・時間割は反映されていません。

【10年次生以降】

＜異文化理解コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	東洋研究B	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	国際関係論	4	文化人類学	4
経済学	4	情報リテラシー演習	4	ビジュアル・レトリック	4	比較政治制度論	4
異文化間コミュニケーション	4	マスメディア論	4	言語とリテラシー教育	4		
		ヨーロッパ現代史	4				
合計 16 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 6		教養 10		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 6		基礎/専門 6					

2年間 計70単位

＜英米文学研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	英語史	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	体育理論実技3	2	西洋研究	4
教育学	4	フランス語Ⅰ	2	フランス語Ⅱ	2	翻訳演習	4
体育理論実技2	2	演劇研究	4	小説研究	4		
歴史学	4	英文学概論	4	映画と文学	4		
合計 18 単位		合計 18 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 12		教養 2		教養 2		基礎/専門 14	
基礎/専門 2		基礎/専門 12		基礎/専門 12			

2年間 計70単位

＜言語研究コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	第二言語習得	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	音声学	4	英語史	4
社会学	4	法学	4	異文化間コミュニケーション	4	社会言語学	4
心理学	4	言語学概論	4	日本語学	4		
ドイツ語Ⅰ	2	バイリンガル教育	4				
合計 18 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 10		教養 6		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 4		基礎/専門 10					

2年間 計72単位

＜言語教育コース（例）＞

1年次・春学期 第1セメスター		1年次・秋学期 第2セメスター		2年次・春学期 第3セメスター		2年次・秋学期 第4セメスター	
基礎ゼミナール	2	プレ・ゼミナール	2	ゼミⅠ	2	ゼミⅡ	2
人間学Ⅰ	2	人間学Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2
英語Ⅰ	2	英語Ⅱ	2	英語スキルズ	2	児童心理学	4
英語スキルズ	2	英語スキルズ	2	児童英語教育演習A	4	第二言語習得	4
歴史学	4	音楽	4	日本語教育演習	4	児童英語教育演習B	4
日本語表現法	4	児童英語教育概説	4	音声学	4		
		法学	4				
合計 16 単位		合計 20 単位		合計 18 単位		合計 16 単位	
英語 4		英語 4		英語 4		英語 2	
教養 6		教養 10		基礎/専門 14		基礎/専門 14	
基礎/専門 6		基礎/専門 6					

2年間 計70単位

7. サービスラーニングとカリキュラムとの関連

学科の中には言語教育コースが設置され、その中に日本語教育と児童英語教育の科目群が置かれています。外国籍市民を対象とした日本語・教科支援ボランティアに参加する学生のために、「日本語学」、「日本語教育概論」、「日本語教育演習」などの授業が用意され、また英語教育ボランティアに参加する学生のためには、「児童英語教育概説」、「児童英語教育演習A」、「児童英語教育演習B」、「第二言語習得」、「児童英語指導者養成講座」などの授業が用意されています。これらの科目を履修することで、理論と実践の上で学問的な裏付けを持って、地域社会における教育支援活動に臨むことが可能です。本学の時間割にはこれら活動を支援するため、サービスラーニング枠が設けられており、その時間を活用して学生は地域社会でのサービスラーニング活動を行うことが奨励されています。

「小学校英語指導者資格」の取得を目指す学生は「児童英語指導者養成講座」の授業の履修に加え、通信講座とワークショップを受講することで、小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）による「小学校英語準認定指導者資格」の取得が可能です。さらに、「児童英語教育演習A」、「児童英語教育演習B」などの授業とサービスラーニング枠を活用し、実際の指導経験を積むことで「小学校英語指導者資格」の取得申請へも繋がります。

「小学校英語準認定指導者資格」「小学校英語指導者資格」を取得するには

1. 児童英語指導者養成講座」を履修、単位を修得する。
併せて通信講座アルク児童英語教師養成コースを受講。（受講料：63,000円（税込）上智大学短期大学部特別価格 2011年9月時点）期限内に課題を提出・成績基準をクリアして修了する。
2. J-SHINE またはアルク主催の「小学校英語指導者資格取得研修講座」に参加する。
（2日間集中、受講料：36,000円（税込）2011年9月時点）
3. J-SHINEの資格認定の申請を行い、「小学校英語準認定指導者資格」取得。
4. 本学サービスラーニング活動等への参加により、幼児および小学生を対象とした50時間の指導経験がある場合、「小学校英語指導者資格」の取得申請が可能。

なお、次ページ以降の9. 開講科目表の「サービスラーニング関連度」項目欄には、これらコース内のサービスラーニング関連科目と、コース外でもサービスラーニングに関連する内容を授業の一部に取り入れている科目には、その度合いによってA（非常に関連）、B（ある程度関連）、C（少々関連）を表示していますので、履修の参考にしてください。

8. インデペンデント・スタディ

既設の科目で扱われている内容をより深く理解するため、あるいは現在開講されていない科目のテーマについて自ら学ぶため、学生が主体的に指導教員のもとで研究し、研究報告書として成果をまとめ、評価を受けることにより、専門科目として2単位を付与する制度です。

登録を希望する学生は自分の研究テーマに相応しい指導教員（専任教員に限る）を選び、登録前に承諾を受けます。登録は在学中に1回限りとします。研究テーマについては、登録する学期の前の学期中に教員と相談することが望まれます。なお、各学期につき一人の教員が指導する学生は原則2名以内です。

<登録までの手続>

- ① 登録を希望する学期までに研究テーマを決め、指導教員を決定します。
- ② 「研究計画書」を作成し、指導教員へ提出します。指導教員は教務委員長、学科長とともにその計画書を審査します。
*研究テーマは指導教員と相談の上決定します。
- ③ 指導教員と教務委員長及び学科長の許可を受けた上で、春学期あるいは秋学期の履修登録期間に登録を行います。

<履修～評価>

- ① 学生は登録した学期の期間中，定期的に担当教員に対し進捗状況を報告し，指導をうけてください。
- ② 学生は登録した学期末までに「研究報告書」を担当教員に提出してください。最終的な研究報告書は十分な研究調査に基づいた論文の体裁をとっている必要があります。各学期末（秋学期登録者は1月，春学期登録者は7月）に開催される「公開研究発表会」で研究成果を教員・学生の前でプレゼンテーションした上，評価を受けます。
- ③ 履修を中止する場合は，登録した学期の履修中止期間に行ってください。

9. 開講科目表

英語科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2 ○=週1 ●=週1,2限連続		関連度 ※ サービスマーケティング	※A 非常に, B ある程度, C 少々		
	必修	選必	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
英語 I	2			◎			1年次	M. Andrade, 平野, 飯田, 永野, 神谷, C. Oliver, 狩野 岩崎, T. Varkey	クラス指定
英語 II	2				◎		1年次	M. Andrade, 平野, 近藤, 永野, 神谷, T. Gould, C. Oliver, 狩野, T. Varkey	クラス指定
英語 III	2			◎			2年次	T. Varkey, R. Burton, J. Dizon, G. Fredes, 深澤, J. Hirai, 國分, M. Nepomuceno, S. Tandon, K. Williams	クラス指定
英語 IV	2				◎		2年次	斐, R. Burton, J. Dizon, G. Fredes, 深澤, J. Hirai, 國分, M. Nepomuceno, S. Tandon, K. Williams	クラス指定
基礎英語スキルズ (生活の英語)		2			◎		1・2年次	M. Nepomuceno	[人]35名
基礎英語スキルズ (ライティング)		2		◎			1・2年次	石原	[人]35名
基礎英語スキルズ (リーディング)		2		◎	◎		1・2年次	(春)秋庭 (秋)石原	[人]各60名
基礎英語スキルズ (文法・語彙)		2		◎			1・2年次	石原	[人]60名
標準英語スキルズ (生活の英語)		2			◎		1・2年次	S. Tandon	[人]35名
標準英語スキルズ (旅行の英語)		2			◎		1・2年次	服部	[人]35名
標準英語スキルズ (職場の英語)		2		◎	◎		1・2年次	(春)K. Williams (秋)J. Hirai	[人]各35名
標準英語スキルズ (メディアの英語)		2		◎			1・2年次	J. Hirai	[人]60名
標準英語スキルズ (文法・語彙)		2		◎	◎		1・2年次	服部	[人]各60名
標準英語スキルズ (ライティング)		2		◎	◎		1・2年次	J. Dizon	[人]各35名
標準英語スキルズ (リーディング)		2		◎	◎		1・2年次	(春)服部, 國分 (秋)石原	[人]各60名
標準英語スキルズ (パブリックスピーキング)		2		◎			1・2年次	S. Howell	[人]35名
標準英語スキルズ (ディスカッション)		2			◎		1・2年次	R. Burton	[人]35名
標準英語スキルズ (アカデミックリスニング)		2		◎			1・2年次	G. Fredes	[人]60名
標準英語スキルズ (TOEIC対策)		2		◎	◎		1・2年次	(春)斐 (秋)秋庭	[人]各60名
上級英語スキルズ (職場の英語)		2		◎			1・2年次	斐	[人]35名
上級英語スキルズ (ライティング)		2		◎			1・2年次	M. Nepomuceno	[人]35名
上級英語スキルズ (ディベート)		2			◎		1・2年次	S. Howell	[人]35名
上級英語スキルズ (学術論文作法)		2			◎		1・2年次	S. Howell	[人]35名
上級英語スキルズ (多読速読)		2		◎			1・2年次	高橋	[人]60名
上級英語スキルズ (編入対策)		2		◎			1・2年次	平野	[人]60名
(社会正義のグローバルリテラシー)		4			◎	B	1・2年次	M. Andrade	注1

注1 技能審査で一定のレベルをクリアした場合のみ、英語科目選択必修として履修可 P.47参照

教養科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2 ○=週1 ●=週1,2限連続		サービ スライ ニング ※ 関連度	※A 非常に, B ある程度, C 少々		
	必修	選 必	選 択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
人間学Ⅰ	2			○		A	1年次	丹木, 岩崎, 小林, 阿部, W. Nampet, 田村	クラス指定
人間学Ⅱ	2				○	A	1年次	丹木, 岩崎, 小林 阿部, W. Nampet, 田村	クラス指定
歴史学			4	◎			1・2 年次	森下	
哲学			4	◎	◎		1・2 年次	丹木	
女性と哲学			4		◎	B	1・2 年次	田内	
宗教学			4	◎	◎	B	1・2 年次	小林	
音楽			4		◎		1・2 年次	北村	
女性学			4					2012年度休講	
社会学			4	◎	◎		1・2 年次	鈴木	
日本国憲法			4	◎		A	1・2 年次	高野	
法学			4		◎		1・2 年次	高野	
教育学			4	◎	◎	B	1・2 年次	神門	
政治学			4					2012年度休講	
経済学			4	◎	◎		1・2 年次	白瀬	
社会福祉入門			4		◎		1・2 年次	森澤	
マスメディア論			4	◎	◎		1・2 年次	(春)国枝 (秋)石川	
情報リテラシー演習			4		◎		1・2 年次	加藤	
自然科学入門			4					2012年度休講	
数学			4	◎			1・2 年次	加藤	
心理学			4	◎		B	1・2 年次	林	
体育理論・実技1			2	○	○		1・2 年次	木皿	[人]各36名
体育理論・実技2			2	○	○		1・2 年次	小澤	[人]各36名
体育理論・実技3			2	○	○		1・2 年次	小澤	[人]各36名

基礎科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2回 ●=週1回		サ ー ビ ス ラ イ ン グ 関 連 度 ※	※A 非常に, B ある程度, C 少々			
	必修	選択	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考	
異文化理解コース関連科目 (基礎科目)						各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい				
キリスト教文化入門			4		◎	B	1・2 年次	輪講(コーディネーター:小林)		
異文化間コミュニケーション			4	◎		C	1・2 年次	C.Oliver	*言語研究コースにも算入可	
英米文学研究コース関連科目 (基礎科目)						各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい				
英文学概論			4	◎	◎		1・2 年次	(春)飯田 (秋)平野		
言語研究コース関連科目 (基礎科目)						各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい				
言語学概論			4	◎	◎	C	1・2 年次	(春)神谷 (秋)近藤		
言語教育コース関連科目 (基礎科目)						各コースの基礎科目は1年次履修が望ましい				
児童英語教育概説			4	◎		A	1・2 年次	狩野		
日本語教育概論			4		◎	A	1・2 年次	樋口		
ドイツ語 I			2	◎	◎		1・2 年次	工藤	[人]各35名	
ドイツ語 II			2	◎			1・2 年次	工藤	[人]35名, ドイツ語 I 既習者か, それに相当する者	
フランス語 I			2	◎	◎	C	1・2 年次	横田	[人]各35名	
フランス語 II			2	◎		C	1・2 年次	横田	[人]35名, フランス語 I 既習者か, それに相当する者	
スペイン語 I			2	◎	◎		1・2 年次	A. Yáñez	[人]各35名	
スペイン語 II			2	◎			1・2 年次	A. Yáñez	[人]35名, スペイン語 I 既習者か, それに相当する者	
中国語 I			2	◎	◎		1・2 年次	廣重	[人]各35名	
中国語 II			2	◎			1・2 年次	廣重	[人]35名, 中国語 I 既習者か, それに相当する者	
日本語表現法			4	◎	◎	C	1・2 年次	(春)樋口 (秋)河北	[人]各35名	
キャリア・プランニング			4		◎		1・2 年次	輪講(コーディネーター:岩崎)	同窓会寄附講座	
留学準備			2	◎			1・2 年次	神谷	夏の短期語学講座申込者のみ	
留学準備			2		◎		1・2 年次	飯田	春の短期語学講座申込者, 他	

専門科目

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2回 ●=週1回		サ ー ビ ス ラ イ ン グ 関 連 度 ※	※A 非常に, B ある程度, C 少々		
	必修	選択	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
基礎ゼミナール	2			○			1年次	丹木, 近藤, 飯田, 森下, 宮崎, 岩崎, 小林	
プレ・ゼミナール	2				○	近藤 B 狩野 A	1年次	高野, M. Andrade, 平野, 丹木, 近藤, 飯田, 森下, 永野, 神谷, T. Gould, 杉村, 狩野, 岩崎, 小林, T. Varkey	原則として2年次にゼミⅠ・Ⅱ担当教員と同一教員を履修。但し, 教員のサバティカルにより同一教員が履修できない場合がある。詳細は6月のゼミナール説明会で説明。
ゼミナールⅠ	2			○		近藤 B 狩野 A	2年次	高野, M. Andrade, 平野, 近藤, 飯田, 森下, 永野, 神谷, C. Oliver, 杉村(ゼミⅡ), 狩野, 岩崎, 小林, 神門(ゼミⅠ)	ゼミⅠとゼミⅡは同一教員を履修(春学期に神門ゼミ(ゼミⅠ)を履修した場合は, 秋学期に杉村ゼミ(ゼミⅡ)を履修する)
ゼミナールⅡ	2			○					
異文化理解コース関連科目									
東洋研究A			4	◎			1・2年次	田畑	
東洋研究B			4		◎		1・2年次	田畑	
西洋研究			4		◎		1・2年次	森下	【隔年開講】
日本文化			4		◎		1・2年次	森下	
英米史			4					2012年度休講	【隔年開講】
ヨーロッパ社会史			4	◎			1・2年次	鍋谷	
ヨーロッパ現代史			4		◎		1・2年次	鍋谷	
比較社会史			4	◎			1・2年次	森下	
国際関係論			4	◎		A	1・2年次	高野	
文化人類学			4		◎	C	1・2年次	C. Oliver	
現代美術			4		◎		1・2年次	G. Fredes	
ビジュアル・レトリック			4		◎		1・2年次	K. Williams	
比較・国際教育学			4		◎	B	1・2年次	杉村	*言語教育・児童英語教育コースにも算入可
社会正義のグローバルリテラシー			4		◎		1・2年次	M. Andrade	【隔年開講】 注2
言語とリテラシー教育			4			B		2012年度休講	*言語研究コースにも算入可 【隔年開講】
個人と人権			4					2012年度休講	【隔年開講】
比較政治制度論			4		◎		1・2年次	高野	【隔年開講】

注2 専門科目4単位として算入する方法と英語選択必修科目4単位として算入する方法があります P.47参照

専門科目（続き）

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2回 ●=週1回		サ ー ビ ス ラ イ ン グ 関 連 度 ※	※A 非常に, B ある程度, C 少々		
	必修	選択	選択	春 学期	秋 学期		履修 年次	担当者	備考
英米文学研究コース関連科目									
英語英米文学入門			4					2012年度休講	
アメリカ短編小説研究			4					2012年度休講	
英詩研究			4					2012年度休講	
演劇研究			4		◎		1・2 年次	飯田	
小説研究			4		◎		1・2 年次	永野	
アメリカ文学史			4					2012年度休講	【隔年開講】
映画と文学			4	◎			1・2 年次	平野	【隔年開講】
翻訳演習			4	◎			1・2 年次	永野	
(英語史)			4		◎		1・2 年次	永野	
言語研究コース関連科目									
社会言語学			4		◎	C	1・2 年次	神谷	
音声学			4	◎			1・2 年次	高橋	*言語教育・児童英語教育コースにも算入可
日本語学			4	◎		B	1・2 年次	宮崎	*言語教育コースにも算入可
語用論			4			C		2012年度休講	【隔年開講】
英語史			4		◎		1・2 年次	永野	*英米文学研究コースにも算入可
通訳演習			4	◎			1・2 年次	近藤	【隔年開講】
(異文化間コミュニケーション)			4	◎		C	1・2 年次	C. Oliver	
(言語とリテラシー教育)			4			B		2012年度休講	【隔年開講】
(バイリンガル教育)			4			A		2012年度休講	
(第二言語習得)			4		◎	B	1・2 年次	T. Gould	
言語教育コース関連科目									
バイリンガル教育			4			A		2012年度休講	*言語研究コースにも算入可
初等教育			4	◎		A	1・2 年次	神門	
児童心理学			4		◎	B	1・2 年次	林	
第二言語習得			4		◎	B	1・2 年次	T. Gould	*言語研究コースにも算入可
児童英語教育演習A			4	◎		A	2 年次	狩野	*児童英語教育概論(2011年度まで開講)、児童英語教育概説、児童英語指導者養成講座、第二言語習得のいずれかの単位習得済が履修の条件

専門科目（続き）

授業科目名	単位			開講期・授業回数 ◎=週2回 ●=週1回		サ ー ビ ス ラ イ ン グ 関 連 度 ※	※A 非常に, B ある程度, C 少々		
	必 修	選 必	選 択	春 学 期	秋 学 期		履 修 年 次	担 当 者	備 考
児童英語教育演習B			4		◎	A	1・2 年次	狩野	*児童英語教育概論（2011年度まで開講）、児童英語教育概説、児童英語指導者養成講座、第二言語習得のいずれかの単位習得済が履修の条件
児童英語指導者養成講座			4		◎	A	1・2 年次	岩崎	
日本語教育演習			4	◎		A	2年 次	宮崎	日本語教育概論の単位修得済が履修の条件。
（比較・国際教育学）			4		◎	B	1・2 年次	杉村	
（音声学）			4	◎			1・2 年次	高橋	
（日本語学）			4	◎		B	1・2 年次	宮崎	
インデペンデント・スタディ			2				1・2 年次	担当教員	詳細はP.57参照
海外短期語学講座			2				1・2 年次	短期留学制度	詳細はP.46参照

6. 講義内容 (シラバス)

英語科目

教養科目

基礎科目

ゼミナール

専門科目

上智大学短期大学部の必修英語

1. 目標 Goals

- 「他者のために、他者と共に」という本学の精神を持つ責任ある地球市民となるために必要な様々な問題について理解を深める
- 複眼的かつ分析的に物事を考える力をつける
- 他者の考えを理解し、自分の考えを効果的に表現する英語力をつける
- 自律した英語学習者となるための知識とスキルを身につける

2. 内容 Contents

◆英語Ⅰ 他者と共に生きる：人とのつながりと人生の意味を探究する

English I. Living with others: exploring relationships and life values

英語Ⅰでは自分自身、身近な他者との関係、人生設計などに関する内容を扱います。

◆英語Ⅱ 異文化との遭遇：他者を理解し尊重する

English II. Crossing cultures: understanding and respecting others

英語Ⅱでは世界の様々な国の多様な文化について扱います。

◆英語Ⅲ 日本における社会問題：より良いコミュニティーを目指して

English III. Social issues in Japan: toward a better community

英語Ⅲでは地域社会や日本全体にかかわる問題を扱います。それらの問題は必ずしも日本特有のものではないかもしれませんが、日本でどのように問題が顕在化し捉えられているかに焦点を当てます。

◆英語Ⅳ 日本と世界：国際社会で生きる

English IV. Japan and the world: living in an international community

英語Ⅳでは世界が直面している重要な問題について扱います。必ずしも全ての問題が日本と大きな関係があるとは限りませんが、世界の重要な問題について日本と日本人がどのような役割を果たすことができるのかについて考えます。

英語科目＜必修＞

科目名	英語 I			担当者名	M. Andrade, 平野 幸治, 飯田 純也, 永野 良博, 神谷 雅仁, C. Oliver, 狩野 晶子, 岩崎 明子, T. Varkey		
開講期	春	分類	必修	単位	2	年次	1年
授業の 目標	<ul style="list-style-type: none"> • For students to gain an understanding of a wide range of issues in order to become responsible global citizens who embody the spirit of “Women for Others, With Others” • For students to acquire critical thinking skills • For students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English • For students to acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English 						
授業の 概要	<p>English I. Living with others: exploring relationships and life values 英語 I 他者と共に生きる：人とのつながりと人生の意味を探究する</p> <p>This class will cover a variety of topics related to the individual, her direct relations with others, and key aspects of the life process. Students will be expected to participate fully in class activities, and to do assignments and independent learning outside of class in order to develop balanced reading, speaking, writing, and listening skills in English.</p> <p style="text-align: center;">Examples of possible topics that might be included:</p> <ul style="list-style-type: none"> • family, friends, interpersonal relationships; • love, marriage, children; • growing up, growing older, growing old; • school, work, independence, lifestyle changes; • illness, caring for others; • service learning; • ethical challenges faced in life; • life goals, aspirations, dreams; • the value of life, the meaning of death. <p>【教職員間授業公開日：Andrade 6/12 (火)・6/15 (金), 平野 5/25 (金)・7/6 (金), 飯田 5/8 (火)・5/11 (金), 永野 5/28 (月)・6/25 (月), 神谷 5/10 (木)・6/18 (月), Oliver 6/25 (月)・7/2 (月), 狩野 5/28 (月)・6/28 (木), 岩崎 5/24 (木)・7/12 (木), Varkey 5/1 (火)・5/18 (金)・6/5 (火)・6/22 (金)】</p>						
準備学習 の内容	Class preparation may include a combination of reading, writing, listening, vocabulary study, or other activities as determined by the instructor. On average, preparation time should be one hour or less per class.						
評価方法	Participation and performance in classroom activities (30%); Homework assignments (30%); Testing and assessment, such as final exam, final presentation, and final report (25%); Independent learning (15%), including 5% for e-learning						
テキスト	To be announced by each teacher.						
参考書	<i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>						

英語科目＜必修＞

科目名	英語Ⅱ	担当者名	M. Andrade, 平野 幸治, 近藤 佐智子, 永野 良博, 神谷 雅仁, T. Gould, C. Oliver, 狩野 晶子, T. Varkey				
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
授業の 目標	<ul style="list-style-type: none"> • For students to gain an understanding of a wide range of issues in order to become responsible global citizens who embody the spirit of “Women for Others, With Others” • For students to acquire critical thinking skills • For students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English • For students to acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English 						
授業の 概要	<p>English II. Crossing cultures: understanding and respecting others 英語Ⅱ 異文化との遭遇：他者を理解し尊重する</p> <p>In this class, students will look at various aspects of culture in different countries in the world. Students will be expected to participate fully in class activities, and to do assignments and independent learning outside of class in order to develop balanced reading, speaking, writing, and listening skills in English.</p> <p style="text-align: center;">Examples of possible topics that might be included:</p> <ul style="list-style-type: none"> • cultural traditions, myths, folklore; • holidays, celebrations, rituals; • world religions, religious beliefs and customs; • art, literature, music, popular culture; • humor in different countries; • food, clothing, housing, daily life; • mass media, media language, media images; • stereotypes, ethnocentrism; • cultural identity, ethnic identity, national identity. <p>【教職員間授業公開日：Andrade 11/13（火）・11/16（金），平野 10/19（金）・12/7（金），近藤 11/5（月）・12/13（木），永野 10/15（月）・11/26（月），神谷 10/4（木）・11/5（月），Gould 10/5（金）・10/12（金），Oliver 11/19（月）・11/22（木），狩野 10/25（木）・11/22（木），Varkey 10/2（火）・10/19（金）・11/6（火）・11/16（金）】</p>						
準備学習 の内容	Class preparation may include a combination of reading, writing, listening, vocabulary study, or other activities as determined by the instructor. On average, preparation time should be one hour or less per class.						
評価方法	Participation and performance in classroom activities (30%); Homework assignments (30%); Testing and assessment, such as final exam, final presentation, and final report (25%); Independent learning (15%), including 5% for e-learning						
テキスト	To be announced by each teacher.						
参考書	<i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>						

英語科目＜必修＞

科目名	英語Ⅲ			担当者名	T. Varkey, R. Burton, J. Dizon, G. Freddes, 深澤 英美, J. Hirai, 國分 有穂, M. Nepomuceno, S. Tandon, K. Williams		
開講期	春	分類	必修	単位	2	年次	2年
授業の 目標	<ul style="list-style-type: none"> • For students to gain an understanding of a wide range of issues in order to become responsible global citizens who embody the spirit of “Women for Others, With Others” • For students to acquire critical thinking skills • For students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English • For students to acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English 						
授業の 概要	<p>English III. Social issues in Japan: toward a better community 英語Ⅲ 日本における社会問題：より良いコミュニティーを目指して</p> <p>In this class, students will explore a range of issues that are found locally, regionally, or throughout Japan. While the issues covered are not necessarily unique to Japan, the class will focus on how the issues are manifest in Japan and experienced by people in Japan.</p> <p>Examples of possible topics that might be included:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Japan's aging population; • sex-based discrimination; • crime, youth crime; • homelessness; • Japan's high suicide rate; • victims of natural disasters; • depopulation of the countryside; • child abuse, elder abuse, animal abuse; • volunteerism. <p>【教職員間授業公開日：Varkey 7/3 (火)・7/13 (金), Burton 6/1 (金)・6/5 (火), Dizon 5/24 (木)・6/28 (木), Freddes 5/11 (金)・6/5 (火), 深澤 5/25 (金)・7/6 (金), Hirai 6/26 (火)・7/3 (火), 國分 6/29 (金)・7/6 (金), Nepomuceno 5/15 (火)・6/8 (金), Tandon 5/11 (金)・6/1 (金), Williams 5/8 (火)・5/11 (金)】</p>						
準備学習 の内容	Class preparation may include a combination of reading, writing, listening, vocabulary study, or other activities as determined by the instructor. On average, preparation time should be one hour or less per class.						
評価方法	Participation and performance in classroom activities (30%); Homework assignments (30%); Testing and assessment, such as final exam, final presentation, and final report (25%); Independent learning (15%), including 5% for e-learning						
テキスト	To be announced by each teacher.						
参考書	<i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>						

科目名	英語Ⅳ	担当者名	斐 哲求, R. Burton, J. Dizon, G. Fredde, 深澤 英美, J. Hirai, 國分 有穂, M. Nepomuceno, S. Tandon, K. Williams				
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	2年
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> • For students to gain an understanding of a wide range of issues in order to become responsible global citizens who embody the spirit of “Women for Others, With Others” • For students to acquire critical thinking skills • For students to acquire abilities to understand others and express themselves effectively in English • For students to acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English 						
授業の概要	<p>English IV. Japan and the world: living in an international community 英語Ⅳ 日本と世界：国際社会で生きる</p> <p>This class will address significant issues confronting the world today. While not every issue covered will have a strong Japan connection, overall the class will allow students to consider the roles of Japan and Japanese with respect to a variety of globally important issues.</p> <p>Examples of possible topics that might be included:</p> <ul style="list-style-type: none"> • human rights, animal rights; • immigration, refugees; • religious freedom, religious suppression; • environmental destruction, environmental activism; • NGOs, NPOs, JICA, the UN; • international conflicts, terrorism, war, peace; • overpopulation; • famine, poverty; • child labor; • AIDS. <p>【教職員間授業公開日：斐 10/9 (火)・10/12 (金), Burton 11/6 (火)・11/9 (金), Dizon 10/25 (木)・12/13 (木), Fredde 10/5 (金)・11/9 (金), 深澤 10/19 (金)・12/14 (金), Hirai 11/27 (火)・12/4 (火), 國分 12/7 (金)・12/14 (金), Nepomuceno 10/12 (金)・11/13 (火), Tandon 10/16 (火)・10/30 (火), Williams 10/2 (火)・10/5 (金)】</p>						
準備学習の内容	Class preparation may include a combination of reading, writing, listening, vocabulary study, or other activities as determined by the instructor. On average, preparation time should be one hour or less per class.						
評価方法	Participation and performance in classroom activities (30%); Homework assignments (30%); Testing and assessment, such as final exam, final presentation, and final report (25%); Independent learning (15%), including 5% for e-learning						
テキスト	To be announced by each teacher.						
参考書	<i>English Essentials: An Academic Skills Handbook</i>						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（生活の英語）				担当者名	M. Nepomuceno	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	1. Students will be able to boost their confidence and will be able to speak the language, grammar and the structures with self esteem and determination. 2. Students will be able to explore and relate the daily life of the people in Japan and overseas through presentations using the units' structures and expressions.						
授業の概要	The course will revolve around the textbook topics. From these familiarities or exposures, the students will have the assurance to communicate with different nationalities living in Japan and when traveling abroad.						
準備学習の内容	Students should always bring the textbook, dictionary and stationery. Read and search vocabulary ahead of time. Be on time wearing a decent outfit and have a sharp focused mentality.						
各回の授業内容	1 Introductions, Syllabus, Rules, Ice Breaker Activities and Games 2 Begin Unit 1: Getting To Know You Homework: Self-study page 3 Finish Unit 1: Breaking the Ice 4 Begin Unit 2: Making a Good Impression Homework: Self-study page 5 Finish Unit 2: On the Phone 6 Begin Unit 3: Food and Cooking Homework: Self-study page 7 Finish Unit 3: Going to Eat 8* Review Units 1, 2, & 3 and Quiz Number 1 9 Begin Unit 4: Weather Homework: Self-study page 10 Finish Unit 4: Extreme Weather 11 Begin Unit 5: Working for a Living Homework: Self-study page 12 Finish Unit 5: Unusual Jobs 13 Begin Unit 6: Leisure Time Homework: Self-study page 14 Finish Unit 6: Hobbies and Interests 15* Review Units 4, 5, & 6 and Quiz Number 2 16 Begin Unit 7: Sports and Games Homework: Self-study page 17 Finish Unit 7: How About Games? 18 Begin Unit 8: Transportation and Travel Homework: Self-study page 19 Finish Unit 8: Going Places 20 Review Units 7 and 8 and Quiz Number 3 21 Writing Techniques & Speech 22 Writing and Class Activities & Speech 23 Preparation of Presentations and Interview 24 Continue the preparation, memory and practice and Interview 25 Groups' Presentations 26 Continuation of Groups' Presentations 27 Video 28 Video Analysis and Reaction / Discussion *【教職員間授業公開日：10/12（金），11/13（火）】						
評価方法	Attendance (10%), Homework (10%), Final Exam (10%), Daily Expression (25%), Group Presentation (20%), Speech (10%), Quiz (15%)						
テキスト	Leo Jones, <i>LET'S TALK Book 2 (New Edition)</i> (Cambridge University Press)						
参考書							
その他特記事項	Students will be engaged in different activities with maximum talking, reveal their hidden talents and be creative with lots of fun and enjoyment. Unique presentations are expected.						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（ライティング）				担当者名	石原 久子	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	今迄に学んだ文法事項の整理ができ、文章構成の基本を習得できます。読解やコミュニケーションに応用できる英作法が身に付きます。基礎力が強化されるので、各種資格試験に自信をもって臨めます。						
授業の概要	基本的文法事項の約束事を確認したのち、それらを使った英作文に取り組みます。文章構成の知識を読解にも応用していきます。						
準備学習の内容	毎回の授業で少しずつ宿題をだすので、準備が必要です。						
各回の授業内容	1 インTRODakション 2 名詞（1） 3 名詞（2） 4 冠詞 5 代名詞 6* 動詞（1） 7 動詞（2） 8* 助動詞 9 時制 10 準動詞 11 主語 12 確認テスト（1） 13 形容詞（1） 14 形容詞（2） 15 副詞（句） 16 比較 17 関係詞 18 接続詞 19 前置詞（1） 20 前置詞（2） 21 コロケーション 22 カタカナ語 23 確認テスト（2） 24 応用問題（1） 25 応用問題（2） 26 応用問題（3） 27 応用問題（4） 28 応用問題（5） *【教職員間授業公開日：5/7（月）、5/14（月）】						
評価方法	出席および授業参加（50%）、テスト（50%）						
テキスト	<i>Grammar Clinic</i> （南雲堂） <i>Write It. Right.</i> （鶴見書店）						
参考書	『総合英語フォレスト』（桐原書店）						
その他特記事項	毎回の出席を期待します。						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（リーディング）			担当者名	秋庭 大悟		
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	様々なジャンルやスタイルの英文に慣れる。長文の概要の把握や正確な読解のための文法と読解技術を習得し、より高度な読解力を身につけるための基礎を固める。						
授業の概要	様々なジャンルやスタイルの英文を用いて、文法や語彙を確認しながらの精読や、初めて読む文献の概要を把握する練習等を通し、基本的な読解技術を習得していく。テキスト以外にも適宜文献を配布する。ブックレポートの課題あり。						
準備学習の内容	授業で扱う文献はあらかじめ読んでくること。						
各回の授業内容	1 ガイダンス 2 Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep? (読解技術 : Previewing) 3 ↓ 4 Chapter 2 Mika's Homestay in London (Scanning for details) 5 ↓ 6 Chapter 3 It's Not Always Black and White (Skimming) 7 ↓ 8 Chapter 4 Helping Others (Identifying the topic and main idea) 9 ↓ 10 Chapter 5 Generation Z: Digital Natives (Finding supporting ideas) 11* ↓ 12 Chapter 6 How to Be a Successful Businessperson (Making inferences) 13 ↓ 14 Mid-Term Exam 15 Chapter 7 The Growth of Urban Farming (Understanding the author's purpose) 16 ↓ 17 Chapter 8 Can You Live Forever? (Understanding headings) 18 ↓ 19 Chapter 9 Baseball Fans Around the World (Making predictions) 20 ↓ 21 Chapter 10 Mobile Phones: Hang Up or Keep Talking? 22 ↓ (Distinguish facts from opinions) 23 Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21 st Century Musician 24 ↓ (Dealing with unfamiliar words) 25 Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman (Using context clues) 26* ↓ 27 Chapter 13 Love at First Sight (Summarizing) 28 ↓						
	*【教職員間授業公開日：5/25（金），7/17（火）】						
評価方法	出席・授業参加（30%），課題（30%），中間・期末テスト（40%）						
テキスト	Linda Lee and Eric Gunersen, <i>Select Readings Pre-Intermediate Second Edition</i> (Oxford University Press)						
参考書	Graded Readers						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（リーディング）				担当者名	石原 久子	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	文法事項の整理ができ、それらの知識を応用して読解ができるようになります。基礎力が強化されるので、各種資格試験に自信をもって臨めます。						
授業の概要	読解を中心としますが、文法事項の確認や、ボキャブラリー問題にも取り組みます。						
準備学習の内容	毎回少しずつ宿題をだすので、準備が必要です。						
各回の授業内容	1 イン트로ダクション 2 Getting into Hot Water 3 Tips for University Students 4* What Happens to Our Trash? 5 To Your Health 6 Hello Cutie 7 Thank You John and Christopher 8* Street Fashion & Fast Fashion 9 It's in the Bag 10 Cars of the Future 11 The Tsukiji Fish Market 12 A Nice Hotel or an Ice Hotel? 13 Who Needs Real Money? 14 Smart Houses 15 For the Love of Sports 16 Amusement Parks 17 It's All About Location 18 Barak Obama 19 Motivation 20 Pets 21 Teleworking 22 Our Precious Earth 23 Marriage 24 応用問題（1） 25 応用問題（2） 26 応用問題（3） 27 応用問題（4） 28 応用問題（5）						
	*【教職員間授業公開日：10/1（月）、10/15（月）】						
評価方法	出席および授業参加（50%）、テスト（50%）						
テキスト	<i>Reading Sense</i> （金星堂）						
参考書	関山健治著『英語のしくみ』（白水社） 山田敏弘著『日本語のしくみ』（白水社）						
その他特記事項	毎回の出席を期待します。						

英語科目

科目名	基礎英語スキルズ（文法・語彙）				担当者名	石原 久子	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	英文を読んだり書いたりする上で必要となる、基本的な文法の約束事を習得できます。語彙の強化も図るので、各種資格試験に自信をもって臨めます。						
授業の概要	文法の解説をしたのち、様々な練習問題を行います。文法理解のための短い読解にも取り組みます。						
準備学習の内容	毎回単語テストを1ページずつ行うので、準備が必要です。						
各回の授業内容	1 インTRODakション 2 文の要素 3 同上 (comprehension) 4 基本5文型 5 同上 (comprehension) 6* 第1文型, be動詞, 一般動詞 7 同上 (comprehension) 8* 動詞の種類 9 同上 (comprehension) 10 第2文型, 名詞 (1) 11 同上 (comprehension) 12 名詞 (2) 13 同上 (comprehension) 14 第3文型, 代名詞 (1) 15 同上 (comprehension) 16 代名詞 (2) 17 同上 (comprehension) 18 第4文型, 形容詞 19 同上 (comprehension) 20 第5文型, 副詞 21 同上 (comprehension) 22 冠詞 23 同上 (comprehension) 24 前置詞 25 同上 (comprehension) 26 接続詞 27 同上 (comprehension) 28 関係詞 *【教職員間授業公開日：5/7（月），5/14（月）】						
評価方法	出席および授業参加（30%），単語テスト（30%），期末テスト（40%）						
テキスト	TOEIC Test Vocabulary Quizzes（南雲堂） Make It Clear（朝日出版）						
参考書	『総合英語フォレスト』（桐原書店）						
その他特記事項	毎回の出席を期待します。						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（生活の英語）				担当者名	S. Tandon	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	By taking this course, students will learn to express their ideas and develop their communication skills in a variety of real-life situations.						
授業の概要	This course introduces everyday conversation based on real-life situations related to work, holidays, commuting, hobbies, cooking, expressing opinions, etc.						
準備学習の内容	Students will need to set aside about two hours each week for study and completing assignments at home, and to be prepared in advance for the class.						
各回の授業内容	1 Let's be friends – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 2 Getting to know me better. Reading, Writing 3 Those were the days – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 4 A short but busy weekend. Reading, Writing 5 Interesting lifestyles – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 6 You're only young once. Reading, Writing 7 Beauty is only skin-deep – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 8 A family of interesting characters. Reading, Writing 9 I need a vacation – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 10 A trip to remember. Reading, Writing 11 I'm broke – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 12 A letter from your son. Reading, Writing 13 City life, country life – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 14 Living in Seattle. Reading, Writing 15 Your opinion matters – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 16 School: Balancing Fun and Work. Reading, Writing 17 Cooking for fun – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 18 Variety – The spice of life. Reading, Writing 19 Best times of my life – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 20 A day I'll never forget. Reading, Writing 21 Traveling in Japan – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 22 Don't miss Harajuku. Reading, Writing 23 A look at the future – Vocabulary, Interview, Listening, Group Talk 24 Dreams Come True – Sometimes 25 Study of Glossary 26 Additional practice and review 27 Additional practice and review 28 Review *【教職員間授業公開日：10/16（火）、10/30（火）】						
評価方法	授業参加（40%）、中間テストおよび期末テスト（60%）						
テキスト	Dale Fuller, Chris Fuller, <i>New Changing Times</i> (Macmillan Language House)						
参考書							

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（旅行の英語）				担当者名	服部 通子	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	海外旅行で出会う場面を想定したモデル会話の練習を通し、様々な場面に対処できる英語力が養成できます。また、海外では各自が日本の代表となるので、日本の伝統を学び英語で紹介できるようにします。						
授業の概要	授業前半は、テキストの会話文の聞き取り・ディクテーション・役割練習が中心になります。後半は、日本についての『トラッドジャパン』DVDを鑑賞後、プリントの例文を参考に伝統を説明し、自分の体験を英文で書いて提出します。						
準備学習の内容	復習時に、5分間、テキスト付属のCDでリスニング・シャドウイングの練習をし、モデル会話文の暗唱をすること。返却された英文は、毎回自分で書き直し再提出するので、復習を含め30分はかかります。						
各回の授業内容	1 授業紹介、クラスメート紹介 2 Unit 1 機内（乗務員、隣の座席の客との会話） 3 （機内アナウンス・税関申告書） 4* Unit 2 到着（到着アナウンス・入国審査） 5 Unit 3 ケイトと再会（挨拶・天気予報） 6 Unit 4 自由の女神（バス、フェリーに乗る） 7 （ターミナルの掲示・自由の女神説明文） 8 Unit 5 メトロポリタン美術館（道を尋ねる、館内図を見る） 9 （美術品について話す） 10 Unit 6 レストラン（予約・注文） 11 （レシート・メニュー） 12* Unit 7 ミュージカル（チケットを買う・パンフレット） 13 Unit 8 体調不良（体調を伝える・ドラッグストア） 14 （薬の情報・健康センター） 15 中間テスト 16 Unit 9 スーパーでの買い物（買い物リスト・売り場を尋ねる） 17 （クーポン・広告） 18 Unit 10 スポーツ観戦（地下鉄に乗る・オンラインチケット） 19 Unit 11 ワシントンDCへ（別れの言葉・タクシーに乗る） 20 （バス発着所のアナウンス） 21 Unit 12 ホテル（チェックイン・エアコンの故障） 22 （電話のかけ方） 23 Unit 13 ホワイトハウス（旅行者との会話・落とし物） 24 Unit 14 大学訪問（大学生活について質問） 25 （キャンパスマップ） 26 Unit 15 帰国（チェックインカウンター・免税店） 27 （出発便掲示板を見る） 28 まとめ						「花火」 「すし」 「広重」 「友禅」 （復習） 「竹」 「城」 「畳」 「抹茶」 「弁当」 （復習） 「和菓子」 「盆栽」 「漆」 「西陣織」 「五重塔」 （復習） 「藍染」 「神輿」 「箸」 「温泉」 「庭園」 （復習） 「神社」 「日本酒」 「折り紙」 「富士山」
	*【教職員間授業公開日：10/1（月）、10/29（月）】						
評価方法	出席（10%）、授業参画（20%）、宿題他提出物（30%）、テスト（40%）						
テキスト	西蔭浩子他著、 <i>Let's Go Abroad! Takeshi's journey to the U.S.</i> （センゲージラーニング株式会社）						
参考書	NHKテレビテキストおよびDVD『トラッドジャパン』2009年4月～						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（職場の英語）				担当者名	K. Williams	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	Students will learn how to greet visitors, discuss their company and work along with taking messages, functioning in meetings, negotiating, networking along with other business skills.						
授業の概要	The class course is student focused. It is important that students familiarize themselves with the topics to be done before class activities prior to the class.						
準備学習の内容	Students should always bring their textbook, a dictionary and paper to write on. Be ready to work and learn!						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Students will learn to greet visitors at an airport. 2 Students will learn to greet visitors at their office. 3 Students will learn to describe their company. 4 Students will learn to describe their job. 5 Next they will learn to talk about their abilities. 6 The equipment in the office will be learned about. 7 Students will acquire ways to discuss the benefits of the company. 8 Students will learn to compare the business services with other companies. 9 The broad business services available in the company will be learned to discuss. 10 Students will learn to discuss their own opinions. 11 Students will learn to compare various company services. 12 The company's services will be learned. 13 Leaving and taking phone messages will be practiced. 14 Learning to leave voice mail will be accomplished. 15 The ability to make appointments will be learned. 16 How to change an appointment is next. 17 Learning to organize a meeting will be learned. 18 Taking part in a meeting is next. 19 Learning how to negotiate will be introduced. 20 Continue with negotiation. 21 Currency exchanged will be learned 22 International payments will be learned. 23 An overall view of marketing will be looked at. 24 Understanding websites will be learned. 25 A review of meeting people will be done. 26 A review of trends will be considered again. 27 An all over communication activities will be presented by groups of students. 28 Review. <p>*【教職員間授業公開日：5/8（火），5/11（金）】</p>						
評価方法	Attendance (10%), Participation (15%), Reports (15%), Quizzes (30%), Final Exam (30%)						
テキスト	Gareth Knight, <i>Business Goals 2</i> (Cambridge)						
参考書							

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（職場の英語）				担当者名	J. Hirai	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	Students will have the opportunity to practice English used in offices and other workplaces. Specifically, they will learn how to make appointments, negotiations and presentations, and how to speak confidently in front of an audience.						
授業の概要	Individual, group and pair work activities will focus on improving speaking, listening and discussion skills. Some lessons will include video clips of real business situations.						
準備学習の内容	Students will need to review the previous lesson and do the homework. It will require about 30 minutes of preparation.						
各回の授業内容	1 Orientation 2 Making an appointment for a meeting 3 Making a hotel reservation 4 Meeting a client at the airport 5 Hotel check-in 6 Business lunch 7 Invitation to an opening ceremony 8 Presentation request 9* Introduction at a reception 10 Celebrating a promotion 11 Meeting announcement 12 Sales reports 13 Exhibition proposals 14 Introducing new staff members 15* Ordering office supplies 16 Taking a vacation 17 Request for a catalog 18 Learning presentation skills (1) 19 Learning presentation skills (2) 20 Inquiry regarding a new product 21 Negotiating a discount 22 Placing an order 23 Inquiry about non-delivery 24 Job query 25 Job interviews 26 Job references 27 Giving presentations (1) 28 Giving presentations (2)						
	*【教職員間授業公開日：10/16（火）、11/13（火）】						
評価方法	Attendance (20%), active participation (20%), short tests (30%), final presentation (30%)						
テキスト	Janusz Buda, Akatsuki Toyoda, <i>TRANSACTIONS, Real Business Conversations</i> (Nan'un-do)						
参考書							
その他特記事項	Students will be required to do some Internet research several times during the semester.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ (メディアの英語)			担当者名	J. Hirai		
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	Students will improve their knowledge of the English language in key areas of the media. They will learn to think more critically about the issues currently reported in the news.						
授業の概要	We will study using a variety of materials related to the media. Students will also practice presenting news reports and writing short articles.						
準備学習の内容	Students will need to prepare short news stories for every class. This will require about 30 minutes.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction to the course 2 Discussing the basics of good journalism 3 Newspapers – analyzing newspaper sections, understanding headlines 4 Practicing interview skills 5 Planning and writing short articles 6 Magazines – discussing the language of magazine covers 7 Designing a magazine cover 8 Reading and discussing true-life stories 9 Television – watching and understanding TV news 10 Watching and discussing a documentary 11 Planning the agenda of a news broadcast, presenting it 12 Radio – understanding the language of radio presenters 13 Introducing radio programmes and discussing the future of the radio 14* New media – practicing technical vocabulary of websites 15* Social networking 16 Discussing website designs 17 Planning and writing a blog 18 Watching and discussing YouTube 19 Podcasts and Twitter 20 Photography and its role in the news 21 Presenting the latest most impressive photos 22 Advertising and its role in the media 23 Watching and understanding the language of TV commercials 24 Creating TV commercials 25 Presenting TV commercials 26 Japan in the foreign media 27 News about foreign countries in the Japanese media 28 Presenting final projects <p>* 【教職員間授業公開日 : 6/5 (火), 6/12 (火)】</p>						
評価方法	Attendance (20%), active participation (30%), short tests (30%), final presentation (20%)						
テキスト	Peter Weld, <i>Views on the News – Media Literacy in the 21st Century</i> (Kinseido)						
参考書							
その他特記事項	Students will be required to do some Internet research.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（文法・語彙）				担当者名	服部 通子	
開講期	春/秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	英文法の知識を習得すると、正確に読解し作文できるようになります。様々なトピックの200語程の英文を通して、語彙の補強と文法知識の確認・定着を図ります。英英辞書を使うことで英語らしい英文や語彙の増強が図れます。						
授業の概要	各章の文法事項を説明し、文法・読解問題の答合わせをしながら進めます。疑問点は必ずその場で質問すること。毎週授業の初めに単語と例文の確認テストをします。						
準備学習の内容	文法用語・重要な例文など、英語力の土台として覚える事柄が多いです。提出用のノートを用意し、1時間かけて、授業後すぐに例文・単語を音読しながら書き、作文の解答を書いて提出すること。						
各回の授業内容	1 Lesson 1 文の種類 授業紹介, 英英辞書の使い方 2 Lesson 2 動詞 (1) be 動詞 3 Lesson 3 動詞 (2) 自動詞と他動詞・状態動詞と動作動詞 4 Lesson 4 時制 (1) 現在・過去・未来 5 Lesson 5 時制 (2) 進行形 6 Lesson 6 完了形 7* Lesson 7 助動詞 (1) 8 Lesson 8 助動詞 (2) 9 Lesson 9 文型 (1) 第1文型～第3文型 10 Lesson 10 文型 (2) 第4文型～第5文型 11 Lesson 11 名詞 (1～10課の15分テスト) 12 Lesson 12 形容詞と副詞 13 Lesson 13 代名詞 (1) 人称代名詞・itの特別用法 14 Lesson 14 代名詞 (2) 指示代名詞・不定代名詞 15* Lesson 15 態 (1) 受動態と能動態 16 Lesson 16 態 (2) 注意すべき受動態 (11～15課の15分テスト) 17 Lesson 17 不定詞 (1) 名詞用法と形容詞用法 18 Lesson 18 不定詞 (2) 副詞用法 19 Lesson 19 不定詞 (3) 完了不定詞・原形不定詞・独立不定詞 20 Lesson 20 動名詞 (1) 基本用法 21 Lesson 21 動名詞 (2) 動詞の目的語としての動名詞と不定詞 22 Lesson 22 分詞 (1) 限定用法と叙述用法・慣用表現 23 Lesson 23 分詞 (2) 分詞構文・慣用表現 24 Lesson 24 関係代名詞 (1) 種類・制限用法と非制限用法 25 Lesson 25-26 関係代名詞 (2) (3) that, what, 複合関係代名詞 26 Lesson 27 比較 (1) 原級・比較級・最上級 27 Lesson 28 比較 (2) 注意すべき表現 28 まとめ *【教職員間授業公開日：5/10（木）、6/7（木）、10/11（木）、11/12（月）】						
評価方法	出席（10%）、宿題他提出物（40%）、テスト（50%）						
テキスト	松井豊次他著『First Year English —習熟度別・文法と読解のコア演習—』（開文社）						
参考書	綿貫陽・マークピーターセン共著『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社）						
その他特記事項	上記のリザーブブックには、さらに詳しい説明と難度の高い問題があります。自主的に活用して実力アップを図ってください。						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ (ライティング)				担当者名	J. Dizon	
開講期	春 / 秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	The aim of this course is to help students become confident and independent writers in English. Students will learn how to write cohesive paragraphs and organize these paragraphs into clear compositions. In addition, students will learn the importance of brainstorming, drafting and revision. Collaborative / Peer editing will also be conducted in class.						
授業の概要	In class students will work in pairs or in groups to brainstorm ideas and to give feedback. Students will have the opportunity to write about topics that interest them.						
準備学習の内容	Some classes will be conducted in the computer room, allowing students to gather information from the Internet for their assignments. However, students should be aware that <u>plagiarism</u> will not be tolerated. For the course, each student should have a memory stick. It is important for students to read the assigned material in advance of the lecture.						
各回の授業内容	1 Course Outline Common Writing Mistakes 2-4 Specific Information (Write about Yourself) 5 Peer Editing 6-9 Interview / Direct & Indirect Quotations (Write about a Person) 10-11 Language & Structure (Write a Formal Letter) 12-15* Listing Adjectives & Verb Tense Consistency (Telling a Story) 16 Language & Structure (Write a Friendly Letter) 17-20* Paragraphs & Topic Sentences (Write a Tourist Guide) 21-24 Compound Sentences & Summarizing a Story (Write a Movie Review) 25-28 Facts & Information / Expressing Ideas & Opinions (Write a Speech) * 【教職員間授業公開日 : 5/31 (木), 6/18 (月), 11/5 (月), 11/22 (木)】						
評価方法	Evaluation will be based on attendance (15%), class participation (15%), assignments (50%), and tests (20%)						
テキスト	David Olsher, <i>Words in Motion: An Interactive Approach to Writing</i> (Oxford University Press)						
参考書	Have an English-English dictionary and a thesaurus.						
その他特記事項	<u>Plagiarism</u> will not be tolerated. <u>Assignments</u> must be typed. <u>Assignments</u> must be handed in on time.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（リーディング）			担当者名	服部 通子		
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	英米短編の各作品の時代背景や人間模様を理解し、内容についてグループ討論することを通して広い視点からものを見る力を養います。各作品の要約をすることで、要点を把握し分かりやすく表現する力が養われます。						
授業の概要	英文法・単語の知識を確認しながら正確に読解し、適切な日本語に訳していきます。表現解釈についてはグループで検討し、各作品の要約・感想文についてはクラスで読了後、各自が次週に提出する課題とします。						
準備学習の内容	予習時に必ず音読し、不明な箇所を質問できるようにしておくこと。復習時は物語の流れの確認と文法事項を意識しながら、音読すること。要約・感想文は文章修行と考えて、推敲し清書して提出すること。合計1時間ほどの自宅学習が必要です。						
各回の授業内容	1 授業紹介、英英辞書の使い方 2 “The Lovebirds” by Eleanor Farjeon 3 ボタンインコはおみくじの渡し役です。どんな占いが？ 4 “Little Polly Riding Hood” by Catherine Storr 5 「赤ずきん」のパロディーです。ペローとグリム兄弟の「赤ずきん」も 6 プリントで併せて読みます。自分の記憶にある「赤ずきん」との違いから、 7 時代の変遷を知りましょう。 8 9* “Princess September” by W. S. Maugham 10 モーム唯一の童話です。姉妹の確執とペットへの愛情の表し方、自分に 11 置き換えて考えてみましょう。 12 13 “Rex” by D. H. Lawrence 14* 叔父さんに連れてこられたレックスというフォックステリアの子犬を 15 子供たちはかわいがり甘やかすすぎて、叔父さんに連れて行かれてしまう… 16 17 18 “The Nightingale and the Rose” by Oscar Wilde 19 ナイチンゲールは、青年のため命と引き換えに真紅のバラを咲かせるのだが… 20 21 “The Fly” by Katherine Mansfield 22 真新しい社長室の中で、戦死した息子の写真は6年前のままだった… 23 描出話法で描き出される社長の内面の独白に注意しながら、インク壺に 24 落ちてしまったハエの表しているものを考えましょう。 25 26 Mother Goose 27 poems: “The Lamb” by William Blake, “The Eagle” by Alfred Tennyson 28 まとめ *【教職員間授業公開日：5/17（木）、6/4（月）】						
評価方法	出席（10%）、授業参画（20%）、レポート他提出物（30%）、テスト（40%）						
テキスト	今泉晴子他編、 <i>Stories and Poems of Living Creatures by British and American Authors</i> （朝日出版社）						
参考書							

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（リーディング）			担当者名	國分 有穂		
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	「英語を英語として読む楽しさを感じる」ことができるようになることを目指し、task 中心に「速読」「精読」のための基本的技術を段階的に身につける。英文をチャンクで理解し、出来る限り英語で英語を理解する訓練も同時に行う。また、topic に関して discussion を行い、簡単な表現を用いて英語で自分の意見が言えるようになることも目標とする。						
授業の概要	新聞や雑誌からの様々なジャンルの英文を多読し、速読・精読のコツを紹介する。読解能力向上に必要な語彙力の増強も図る。速読・速聴・発話能力の向上のため、シャドーウィングを用いた訓練も行う。						
準備学習の内容	毎回授業後、自宅で再度エッセイを読み返し復習を行うこと。その後、英英辞書を使用し、次回の授業で扱うエッセイ中の分からない単語を調べ、Vocabulary Notebook を作成すること。						
各回の授業内容	1 Class Introduction 2 Unit 1 How You Read + How Well You Read 3 Unit 2 Developing Your “Before Reading Skills” 4 Unit 3 Identifying the Main Idea 5 Unit 4 Understanding Supporting Details to Find Main Ideas 6 Unit 5 Using Signal Words to Predict Ideas 7 Skimming/ Scanning 8 Easy True Stories (1) 9 Unit 6 Using Referring Words to Follow Ideas 10 Unit 7 Understanding Paragraph Organization <I> Comparison and Contrast 11 Unit 8 Understanding Paragraph Organization <II> Cause and Effect 12 Unit 9 Understanding Paragraph Organization <III> Time Order 13 Unit 10 Understanding Paragraph Organization <IV> Space order 14 Review 1 15 Easy True Stories (2) 16 Unit 11 Summarizing Ideas 17 Unit 12 Searching for Information 18 Unit 13 Using Illustrations and Photos to Aid Comprehension 19 Unit 14 Read between the Lines 20 Unit 15 Reading as a Guessing Game 21 Review 2 22 Easy True Stories (3) 23 Unit 16 Critical Reading <I> Distinguishing Facts from Opinions 24* Unit 17 Critical Reading <II> Making Inferences 25 Unit 18 Reading for Pleasure 26* Unit 19 Understanding News Styles 27 Unit 20 Assess Your Achievement 28 Review 3 *【教職員間授業公開日：7/6（金），7/13（金）】						
評価方法	Attendance (20%), Active Participation in Class Activities (20%), Homework Assignment (20%), Exam (40%)						
テキスト	Yuji Ushiro, Chikako Nakagawa, Mari Le Pavoux, <i>Reader's Ark: 20 Treasures of Effective Reading Techniques</i> (Kinseido)						
参考書	秋葉利治, その他『英単語・熟語ダイアログ 1800—対話文で覚える』（旺文社） Sandra Heyer, <i>EASY TRUE STORIES</i> (Longman)						
その他特記事項	積極的な授業参加、及び自宅学習、「復習」が必要です。また、講義中に適切なノートを作成することが大切です。英英辞書を使用します。						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ（リーディング）			担当者名	石原 久子		
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	読解力が養成されると同時に、イギリスの社会背景や文化背景や歴史背景についての理解が深まります。応用力が身に付くので、各種資格試験に自信をもって臨めます。						
授業の概要	注意すべき単語や慣用表現を確認しながら文章を精読し、その後、各種の練習問題に取り組みます。						
準備学習の内容	毎回の授業で2ページを目安に読むので、準備が必要です。						
各回の授業内容	1 インTRODakション 2 Arriving in London（会話読解） 3 同上（文章読解） 4* London's museums and art galleries（会話読解） 5 同上（文章読解） 6 Royal palaces and castles（会話読解） 7 同上（文章読解） 8* Sports venues（会話読解） 9 同上（文章読解） 10 Shopping in London（会話読解） 11 同上（文章読解） 12 Canterbury（会話読解） 13 同上（文章読解） 14 Cheddar, Wells and Glastonbury（会話読解） 15 同上（文章読解） 16 Chester（会話読解） 17 同上（文章読解） 18 The Yorkshire Dales（会話読解） 19 同上（文章読解） 20 Newcastle-upon-Tyne（会話読解） 21 同上（文章読解） 22 Seansa and Gower（会話読解） 23 同上（文章読解） 24 Brecon Beacons（会話読解） 25 同上（文章読解） 26 Conwy and Caernarfon（会話読解） 27 同上（文章読解） 28 まとめ *【教職員間授業公開日：10/1（月）、10/15（月）】						
評価方法	出席および予習状況（50%）、テスト（50%）						
テキスト	<i>Touring Britain</i> （朝日出版）						
参考書	『イギリスを知るための65章』（明石書店） 『イギリス文化55のキーワード』（メネルヴァ書房）						
その他特記事項	毎回の出席を期待します。						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ (パブリックスピーキング)			担当者名	S. Howell		
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	Students will gain self-confidence by speaking to their classmates in English several times. They will realize that public speaking includes creating an advantage for the each listener.						
授業の概要	We will follow the textbook divisions in this order: physical message, visual message, and finally story message. If some class days remain, students will read and present a championship quality speech written for a nationwide contest.						
準備学習の内容	About an hour will be needed for each pair of classes. The preparation of visuals will take the most time: these should be in Power-Point Presentations or well drawn on wide pieces of paper.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Class and textbook introduced. We will begin with self-introductions and posture checks. 2 Self-introductions and posture checks will be completed. 3 The Physical Message section will be started; each student will create one or more gestures that she will perform in front of the other students, to their delight. 4 Continue work on gestures. Introduction to inflections. 5 Introduction to visuals: words and pictures, and numerical visuals. 6 Poor and good visuals from the textbook. 7 Each student will create a first version of two visuals; we will check them for visibility. 8 We will continue the above. 9* Students will present two visuals that they have prepared. They will learn how to use a pointer effectively. 10 Presentations will continue. 11 We will begin story message explanations. 12 Students will choose a style of speech (informative, location, persuasive) and a tentative topic for a short speech. Group presentations are welcomed. Visuals are welcomed. 13* Creation and testing of introductions. 14 More work on introductions. 15 Check on three or more main points and transitions. 16 Check on introduction-conclusion matching. 17 In-class creation of this short speech. Outside research allowed under severe conditions. 18 Practice or real presentations are started. Other students will act as audience members. 19 Continue presentations and late re-writings. 20 Continue presentations. 21 Continue presentations until the end of the course. 22 When there are no presentations ready, I will introduce champion college and high school model speeches. 23-27 Presentations of original short speeches; more about speech contest speeches. 28 Review of textbook. <p>*【教職員間授業公開日：5/18（金），6/1（金）】</p>						
評価方法	Attendance (40%), Preparations for Presentation (30%), Presentations (30%)						
テキスト	David Harrington and Charles LeBeau, <i>Speaking of Speech New Edition</i> (MacMillan)						
参考書	Some model speeches will be provided						
その他特記事項	Please encourage each other to speak impressively in English.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ (ディスカッション)			担当者名	R. Burton		
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	Students will learn to give English summaries of discussions of value and policy topics.						
授業の概要	We will follow the textbook. When we finish, we will move to policy-determining discussions, using copies of materials in English.						
準備学習の内容	Some parts of the textbook will be covered during class and other parts will be assigned as homework, taking perhaps 20-30 minutes.						
各回の授業内容	1 Self-introductions and textbook overview 2 Unit One: Eating Well; exercises from the textbook 3 Unit One: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 4 Unit Two: Personality types; exercises from the textbook 5 Unit Two: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 6 Unit Three: Sports / Music; exercises from the textbook 7 Unit Three: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 8 Unit Four: Animal rights; exercises from the textbook 9 Unit Four: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 10 Unit Five: Lifestyles; exercises from the textbook 11* Unit Five: thirty minute discussion on one suggested topic, followed by reports 12 Unit Six: Drinking / Smoking; exercises from the textbook 13 Unit Six: thirty minute discussion on one assigned topic, followed by reports 14 Unit Ten: Man's Best Friend; exercises from the textbook 15 Unit Ten: thirty minute discussion on one assigned topic, followed by reports 16 Unit Thirteen: The Influence of Television; exercises from the textbook 17 Unit Thirteen: thirty minute discussion on one assigned topic, followed by reports 18 Unit Fourteen: Summer or Winter?; exercises from the the textbook 19 Unit Fourteen: thirty minute discussion on one assigned topic, followed by reports 20 Policy Making discussion: Introduction of English explanation materials 21 Policy Making themes chosen; agents are specified 22 Preparation for group presentations / discussions 23 Group discussions, presentations, and feedback 24 Revised group presentations 25-28 Repeat classes 20-23 for another policy * 【教職員間授業公開日 : 11/6 (火), 11/9 (金)】						
評価方法	Attendance (50%), Participation (40%), Homework (10%)						
テキスト	Paul McLean, <i>My Opinion, Your Opinion Second Edition</i> (Macmillan Language House)						
参考書	Some explanation material in English will be provided.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ (アカデミックリスニング)			担当者名	G. Freddes		
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	In this course students will develop the ability to comprehend academic talks, interviews and lectures on a variety of topics at the intermediate level.						
授業の概要	Students will engage in intensive listening activities in and outside the class. Students will develop the background knowledge and vocabulary necessary for successful listening comprehension by reading, discussing and writing about the topic.						
準備学習の内容	Students will complete textbook and other writing assignments and visit the class website to listen to the lectures. This will require at least 30 minutes. Additionally, students will be required to do at least one hour of independent listening activities per week and keep a journal.						
各回の授業内容	1 Introduction 2-3 Happiness (Psychology) 4-5 A Time to Learn (Linguistics) 6-7* Sleep (Public Health) 8-9 Negotiating for Success (Business) 10-11 Modern Art (Art History) 12-13 Robots (Technology) 14*-15 Video Games (Media Studies) 16-17 Genetically Modified Food (Biology) 18-19 The Search for Extraterrestrial Intelligence (Astronomy) 20-21 Journey to Antarctica (History) 22-23 Ethics (Philosophy) 24-25 Opportunity Cost (Economics) 26-27 Review 28 Interview / Portfolio Review *【教職員間授業公開日：5/11 (金), 6/5 (火)】						
評価方法	Attendance (15%), participation (15%), written assignments (30%), quizzes and a test (40%)						
テキスト	Helen S. Solorzano and Laurie Frazier, <i>Contemporary Topics 1 (3rd Edition): Academic Listening and Note-Taking Skills</i> (Pearson Longman)						
参考書	English Listening Lesson Library Online: www.elllo.org Vocabulary Exercises for the Academic Word List: www.academicvocabularyexercises.com						
その他特記事項	An MP3 Player is highly recommended for listening to podcasts outside class.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ (TOEIC 対策)			担当者名	裴 哲求		
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	本番の TOEIC と同じ形式の問題を計 2 回解くことで、TOEIC の問題を知り、慣れ親しむ。得点だけの向上ではなく、英語で聞いて考えることができ、また簡単な質問に英語で答えられるようになる。						
授業の概要	スケジュール通りのテキスト問題を解きながら、時間がある限り、当日扱った内容の語彙・表現のチェックを行う。授業の中で繰り返して使う教室英語 (Classroom English) は英語のままで行う。						
準備学習の内容	次の授業で扱う箇所の語彙・表現の自主的予習 (≒1 時間)、特に聞き取り (listening comprehension) を伸ばしたい人は、 <u>責任をもって自分で CD を繰り返して聞くこと。</u>						
各回の授業内容	1 Course Description, Classroom English, & Introduction to TOEIC 2 Test 1: Qs. 1-20 (Parts 1&2: Listening) 3 : Qs. 21-40 (Part 2: Listening) 4 : Qs. 41-58 (Part 3: Listening) 5 : Qs. 59-76 (Parts 3&4: Listening) 6 : Qs. 77-100 (Part 4: Listening) 7 : Qs. 101-120 (Part 5: Reading) 8* : Qs. 121-140 (Part 5: Reading) 9* : Qs. 141-152 (Part 6: Reading) 10 : Qs. 153-161 (Part 7: Reading) 11 : Qs. 162-171 (Part 7: Reading) 12 : Qs. 172-185 (Part 7: Reading) 13 : Qs. 186-200 (Part 7: Reading) 14 REVIEW 15 Mid-term exam 16 Test 2: Qs. 1-20 (Parts 1&2: Listening) 17 : Qs. 21-40 (Part 2: Listening) 18 : Qs. 41-58 (Part 3: Listening) 19 : Qs. 59-76 (Parts 3&4: Listening) 20 : Qs. 77-100 (Part 4: Listening) 21 : Qs. 101-120 (Part 5: Reading) 22 : Qs. 121-140 (Part 5: Reading) 23 : Qs. 141-152 (Part 6: Reading) 24 : Qs. 153-161 (Part 7: Reading) 25 : Qs. 162-172 (Part 7: Reading) 26 : Qs. 173-185 (Part 7: Reading) 27 : Qs. 186-200 (Part 7: Reading) 28 REVIEW *【教職員間授業公開日：5/15 (火)、5/18 (金)】						
評価方法	Active attitude toward learning & respect for friends and the teacher (40%), Mid-term exam (30%), Final exam (30%)						
テキスト	Educational Testing Service『TOEIC テスト 新公式問題集 Vol. 4』(TOEIC 運営委員会)						
参考書	阿川敏恵『TOEIC テスト英文法・語彙の押さえドコ』(ティエス企画) 成重寿『TOEIC TEST 英単語スピードマスター』(J リサーチ)						
その他特記事項	大人としての自覚を持って行動すること。Behave like and as an adult. Aim high and try to get the most out of your teacher.						

英語科目

科目名	標準英語スキルズ (TOEIC 対策)			担当者名	秋庭 大悟		
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	TOEIC スコアの向上とのためのリーディング, リスニング, 文法, 語彙の各スキルの習得。また, 出席者が各自で自己分析を行い自分の苦手分野を把握し, 自身で具体的な学習計画を組み立てられるようにする。						
授業の概要	TOEIC スコアの向上を目指し, リーディング, リスニング, 文法, 語彙の各スキルを総合的に学習する。練習問題の解説を行った上で, 実践的な問題を解いていく。また, 毎回1つのパートに焦点をあて, パート別の対策を解説する。定期的な単語テストあり。						
準備学習の内容	毎回テキストの練習問題を事前に解いてくること (30 分程度)。また, 毎回実施する単語テストに備え, 単語の学習を行うこと。						
各回の授業内容	1 ガイダンス 2 第1回実力診断テスト (リーディング: 以下 R) 3 第1回実力診断テスト (リスニング: 以下 L) 4 Unit 1 Business Communication (1), パート解説 Part 1 5 Unit 2 On the Telephone, パート解説 Part 5 6 Unit 3 Preparing Food, パート解説 Part 2 7 Unit 4 In the Work Place, パート解説 Part 6 8 Unit 5 Shopping (1), パート解説 Part 3 9 Unit 6 Using Transportation, パート解説 Part 7-1 10 Unit 7 Daily Life, パート解説 Part 4 11* Unit 8 Residence (1), パート別対策 Part 7-2 12 Unit 9 Making Excuses, パート別対策 (L) 13 Unit 10 Business Communication (2), パート別対策 (R) 14 第2回実力診断テスト (R) 15 第2回実力診断テスト (L) 16 Unit 11 Travel (1), パート別対策 (L) 17 Unit 12 Complaining, パート別対策 (R) 18 Unit 13 Personal Affairs, パート別対策 (L) 19 Unit 14 Negotiations, パート別対策 (R) 20 Unit 15 Weather, パート別対策 (L) 21 Unit 16 Events, パート別対策 (R) 22 Unit 17 Residence (2), パート別対策 (L) 23* Unit 18 Travel (2), パート別対策 (R) 24 Unit 19 Shopping (2), パート別対策 (L) 25 Unit 20 Job Hunting, パート別対策 (R) 26 第3回実力診断テスト (R) 27 第3回実力診断テスト (L) 28 まとめ *【教職員間授業公開日: 10/23 (火), 12/14 (金)】						
評価方法	出席・授業参加 (40%), 小テスト (20%), 期末テスト (40%)						
テキスト	①大学英語教育改革フォーラム (監修) ヒロ前田他著 『Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST Step 3 Advanced Course』(アルク) ②『TOEIC テスト新公式問題集 Vol. 4』 (国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会)						
参考書							

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（職場の英語）				担当者名	裴 哲求	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	In this advanced Business English course, students will learn common business English communication skills and essential expressions for specific business situations such as business calls, presentations, and negotiations. Students are expected to manipulate those imperative communication skills without getting help from the text by the end of the semester.						
授業の概要	1. A quick check for basic Qs / expressions in each unit (Language / Skills Checklist) 2. Reading, Listening, Pair work, etc, as shown in the text. *To cover all the units in the text, some minor exercises will be skipped.						
準備学習の内容	Students are supposed to check the basic meanings of unfamiliar words and expressions before coming to class. (1-1.5 hours → Minimum Requirement)						
各回の授業内容	1 Course Description, Self-intro., & Classroom English 2 Unit 1 Building a relationship 3 Unit 1 Building a relationship & Unit 2 Culture and entertainment 4 Unit 2 Culture and entertainment 5 Unit 3 Could I leave a message? 6 Unit 3 Could I leave a message? & Unit 4 Good to hear from you...! 7 Unit 4 Good to hear from you again! 8* Unit 5 Unfortunately there's a problem... 9* Unit 5 Unfortunately there's... & Introduction to "Presentations" 10 <u>Presentation by the teacher & Planning for Group Presentations</u> 11 Unit 6 Planning and getting started 12 Unit 6 Planning and getting started & Unit 7 Image, impact and... 13 Unit 7 Image, impact and making an impression 14 Unit 8 The middle of the presentation 15 Unit 8 The middle of the presentation & Unit 9 The end is near... 16 Unit 9 The end is near... this is the end 17 <u>Group Presentations 1・2</u> 18 <u>Group Presentations 3・4</u> 19 Unit 10 Making meetings effective 20 Unit 10 Making meetings effective & Unit 11 Sorry to interrupt,... 21 Unit 11 Sorry to interrupt, but... 22 Unit 12 What do you mean by...? 23 Unit 12 What do you mean by...? & Unit 13 Know what you want 24 Unit 13 Know what you want 25 Unit 14 Getting what you can 26 Unit 14 Getting what you can & Unit 15 Not getting what you don't... 27 Unit 15 Not getting what you don't want 28 Review *【教職員間授業公開日：5/15（火）、5/18（金）】						
評価方法	Active attitude toward learning & respect for friends and the teacher (40%), Group presentation (30%), Final exam (30%)						
テキスト	Simon Sweeney, <i>Communicating in Business Student's Book</i> (Cambridge University Press)						
参考書	小島加奈子（他）『ビジネス英語シンプル会話表現 400』（Z会） 勝木 龍（他）『ビジネス英会話フレーズ 2255』（すばる舎）						
その他 特記事項	大人としての自覚を持って行動すること。Behave like and as an adult. Aim high and try to get the most out of your teacher.						

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（ライティング）				担当者名	M. Nepomuceno	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	Students will develop their writing skills while being imaginative as well as entertaining or fascinating the readers. Students are going to organize ideas in an effective manner to facilitate the process flow while writing and presenting them in a logical sequence so that they make sense.						
授業の概要	Students will write during each class. Corrections will be made in a RED pen with approaches to propositions and writing techniques. Unfinished materials will be considered as homework.						
準備学習の内容	Students will: brainstorm a topic; do drafting, revising and editing; create imaginative stories; make their own activities; write weekly journals from their experiences; use simple dictations, constructions & punctuation; and do a peer-to-peer and student to teacher discussion. Let's establish and have an effective and fun writer's circle. Please bring an A-4 notebook and a dictionary.						
各回の授業内容	1 Class Rules, Pre-Writing Test and Activities 2 Word Buildings: Nouns and Adjectives 3 Word Buildings: Verbs and Adverbs 4 Phrases: Prepositions and Conjunctions with Nouns and Adjectives 5 Phrases: Prepositions and Conjunctions with Verbs and Adverbs 6 Verbs 7 Verbs 8* All Parts of Speech 9 Simple Sentences 10 Simple Sentences 11 Compound Sentences 12 Compound Sentences 13 Complex Sentences 14 Complex Sentences 15* Paragraphs 16 Paragraphs 17 Journal Writing 18 Business Writing 19 Business Writing 20 Poem Making 21 Music Making 22 Résumé Writing 23 Electronic / Note Writing (e-mailing) 24 Creating Stories 25 Movie Scriptwriting 26 Movie 27 Movie Analysis 28 Post-Writing Test and Letter Writing *【教職員間授業公開日：5/15（火）、6/8（金）】						
評価方法	Attendance (15%), Homework (15%), Final Exam (10%), Daily Writing (30%), Writing Project (30%)						
テキスト							
参考書							
その他特記事項	Let's write correctly and enjoy the class! Let's make the writing styles more appealing.						

英語科目

科目名	上級英語スキルズ (ディベート)				担当者名	S. Howell	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	All students will mature by being forced to give reasons for their opinions, rather than just saying "I like it." Worse than that, they will learn to defend and to attack reasons and supports.						
授業の概要	I will use the explanations and vocabulary in the textbook. At least four times the students will have to speak in front of students with different opinions. We will find several class resolutions about which the opinions are equally divided.						
準備学習の内容	Many classes will not require homework. A few textbook pages will function as quizzes. Preview and review of text book should take about 20-30 min per class.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Self-introductions; overview of high school and college English debate in Japan 2 Unit one of textbook: opinions of fact or value or policy 3 Giving reasons: we will find several class resolutions 4* Impromptu reason-giving, orally 5 Organized explanation about giving reasons and supports 6 Introductions and conclusions in formal debate 7 Impromptu brainstorming reports 8 Evidence for both sides of the first class resolution 9 Model affirmatives for a two-sided resolution 10 Patterns of negative arguments 11 Evidence selection and evidence attacks 12* Begin tennis debates using the first class resolution 13 Continue tennis debates 14 Tennis debates will continue until each student has participated twice; the wording will be changed so that a student can defend the same ideas from affirmative and negative standpoints 15 How to attack and defend printed evidence: Unit six, Challenging supports 16 Organizing the first negative constructive speech 17 Organizing 1NC continued 18 Mini debates on the other class resolutions 19 Continue mini-debates 20 Continue mini-debates until each student has participated twice; wordings change as in 14 21 Conclude mini-debates 22 Flowing debates and judging debates 23 Flow Cats and Dogs debate in textbook 24 Study excellent flow of this debate 25 High school debating: current tournament 26 Video of past high school tournament 27 Continue video 28 Overview of textbook and homework assignments <p>*【教職員間授業公開日：9/28 (金), 10/30 (火)】</p>						
評価方法	Attendance (60%), Speaking out in class exercises (20%), homework / quizzes (20%)						
テキスト	Michael Lubetsky, Charles LeBeau, and David Harrington, <i>Discover Debate</i> (Language Solutions)						
参考書	Some materials about High School English debating in Japan						
その他特記事項	Students who refuse to speak will be penalized.						

科目名	上級英語スキルズ (学術論文作法)				担当者名	S. Howell	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	Students will learn some of the technical points of an academic research paper (visuals, references in text, etc.). Each student will create or improve a piece of academic writing that is relevant to her immediate academic future: transfer or employment.						
授業の概要	We will use the textbook models. Each student will find her own graphic and numerical table and present it to her classmates. Each will create or improve her own research paper or similar piece of academic writing, starting from an outline. Use of English references is encouraged. Typing or word-processing is demanded.						
準備学習の内容	Research will take place outside of classtime. Preparation of oral presentations will also consume time. All writing produced by each student will be carefully checked and returned, to be kept and improved.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Textbook and glossary will be introduced. 2 Textbook Unit 12, Types of graphs, with additional examples. 3 Vocabulary for graphs and tables. 4 Each student will prepare an oral presentation of a graph and an oral presentation of a table. Tables with explanations in Japanese are ok, but the Japanese should be translated into English. The meanings and units of each number will be severely checked. 5 Continue oral presentations of graphs and tables. 6 Unit one, model research papers. 7 Unit two, selecting and narrowing a topic. 8* Sources and resources, unit three. How about quoting from Wikipedia? 9 Reference styles. Each student should select a genre of academic writing and a topic. 10 Unit four, taking notes. 11 Present an example of your note-taking; unit 5 plagiarism. 12 Unit 8, planning and writing an outline. 13 Unit 7, Main idea; each student will read her outline to the other students. 14 Unit 6, in-text citations. 15 Units 9 and 10: Introductions and conclusions, topic sentences and paragraphs. 16 Examples of introductions with topic sentences. 17* Students bring in researched materials to check reference styles. 18 Finish and present topic sentence of introduction. 19-20 Finish first draft of academic writing selection; present orally for feedback. 21 Polish Introduction and Conclusion review unit 9 again. 22 Polish main points of your piece of academic writing, check unit 10 again. 23 Polish supporting points, unit 11. 24-27 Second drafts of pieces of academic writing are due; Oral presentations will include graphs and tables as needed (these need not be the same graph and table used in earlier presentations). 28 Review of textbook suggestions. <p>*【教職員間授業公開日：10/12 (金), 11/20 (火)】</p>						
評価方法	Attendance (50%), Efforts to improve your own writing (25%), Quality of presentations (25%)						
テキスト	Robyn Najjar and Lesley Riley, <i>Developing Academic Writing Skills</i> (MacMillan Language House)						
参考書	Book created by SJC; prints from other writing textbooks						
その他特記事項	You learn to write by writing and being corrected. The more you write, the more I will correct.						

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（多読速読）				担当者名	高橋 絹子	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	数多くの文章の読解と文章理解に関するエクササイズを通して、多読力・速読力を伸ばすことが目的。授業では多読力・速読力養成のために必要な英文読解の技術の修得するため、ディスカッションをしながら理解を確認する。						
授業の概要	毎回の授業は、長文に関する英語での質疑応答が中心となり進められる。その際、センテンス、パラグラフ、パッセージの持つ主要な考えを読み取り、文章の論理的構成と発展を理解し、文章の提示する意見を批判的に考察する訓練を行う。						
準備学習の内容	予習（60分） 予め与えられた課題を読んでくる。 復習（30分） 単語の整理など						
各回の授業内容	<p>1-7* Reading materials: newspaper articles; legal documents; personal letters; a social worker's report. Reading skills: understanding how information is organized; finding a topic of each paragraph; dealing with technical readings; identifying the author's purpose; making inferences; looking for language signals; reading spoken language.</p> <p>8-13* Reading materials: an encyclopedia article; how-to instructions; a book chapter; movie reviews; an academic article. Reading skills: examining organization; understanding and using subtitles; understanding the format of a text; understanding what words refer to; summarizing; understanding the author's tone; understanding the use of examples; looking for guiding sentences.</p> <p>14-19 Reading materials: newspaper articles and magazine articles with graphs. Reading skills: understanding and using graphs; understanding different levels of information; analyzing problems and finding a solution.</p> <p>20-28 Reading materials: academic texts; an interview; magazine articles. Reading skills: learning how to understand complex concepts and arguments</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/11（金）、5/18（金）】</p>						
評価方法	出席（10%）、提出物（20%）、小テスト・最終レポート（70%）						
テキスト	Anne Ediger & Cheryl Pavlik, <i>Reading Connections: Skills and Strategies for Purposeful Reading (Intermediate)</i> (Oxford University Press)						
参考書							
その他特記事項	授業は基本的にディスカッションも含め、英語で実施						

英語科目

科目名	上級英語スキルズ（編入対策）				担当者名	平野 幸治	
開講期	春	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	この授業の終了時には、受講生それぞれが興味を持つ専門分野を端的に表現する専門用語を中心にその keywords を理解する力、対話のスキル及び論述・記述形式の設問に慣れ、適切な解答作成の技術が身に付く。						
授業の概要	授業では、授業担当者が編集した実際の編入試験の過去問のテキストの解答と解説、学生によるパネル・ディスカッション、topics・keywords の解説、writing の添削、further reading のリストの配布等を適宜行う。一方通行ではない授業を展開する。						
準備学習の内容	授業で過去問を教材として 1 週間に最低でも 2 校は扱う。答案作成や課題文の要約等、学生によって個人差はあるが約 1 時間半から 2 時間を要する事前準備学習を期待する。						
各回の授業内容	<p>1-6 経済学・法学・国際関係論のトピックスを読む・書く [2011 年度は、過去問と以下の書籍の一部を読んだ] Partha Dasgupta, <i>Economics: A Very Short Introduction</i> (Oxford UP) Kenneth Minogue, <i>Politics</i> (Oxford UP) Manfred B. Steger, <i>Globalization</i> (Oxford UP)</p> <p>7-14* 社会学，特に家族・公共性・ジェンダー・(社会学の視点で見た) 文化のトピックスを読む・書く [2011 年度は、過去問と以下の書籍の一部を読んだ] Steve Bruce, <i>Sociology: A Very Short Introduction</i> (Oxford UP) Anthony Giddens, <i>Sociology</i> (Polity Press)</p> <p>15 中間テスト</p> <p>16 パネル・ディスカッション [昨年度のテーマ：『日本の論点 2010』(文藝春秋社) —働くとはどういうことか—</p> <p>17-20* 哲学・文学・歴史・文化のトピックスを読む・書く [2011 年度は、過去問と以下の書籍の一部を読んだ] Edward Craig, <i>Philosophy</i> (Oxford UP) Lewis Copeland, <i>High School Subjects Self Taught</i> (Doubleday) John H. Arnold, <i>History</i> (Oxford UP)</p> <p>21 パネル・ディスカッション [昨年度のテーマ：『日本の論点 2010』(文藝春秋社) —小学校の英語教育はどうする—</p> <p>22-25 教育・心理学のトピックスを読む・書く [2011 年度は、過去問と以下の書籍の一部を読んだ] Lewis Copeland, <i>High School Subjects Self Taught</i> (Doubleday) Robert Wokler, <i>Rousseau</i> (Oxford UP) Gillian Butler & Freda McManus, <i>Psychology</i> (Oxford UP)</p> <p>26-28 言語学のトピックスを読む・書く [2011 年度は、過去問と以下の書籍の一部を読んだ] P. H. Matthews, <i>Linguistics</i> (Oxford UP)</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/11（金），6/22（金）】</p>						
評価方法	授業参画（20%），発表（10%），テスト（70%）						
テキスト	『10 日間完成英検準 1 級一次試験対策』（南雲堂） 適宜，プリントを配布する。						
参考書	『日本の論点 2011』（文藝春秋社） 『朝日キーワード 2011-12』（朝日新聞社）						
その他特記事項	受講生のニーズの高い実際の編入試験の過去問を教材として用いるが、当然のことながらかなりの手強い難問である。						

教養科目＜必修＞

科目名	人間学Ⅰ / 人間学Ⅱ			担当者名	丹木 博一, 岩崎 明子, 小林 宏子, 阿部 善彦, W.Nampet, 田村 和子		
開講期	春 / 秋	分類	必修	単位	春 2 / 秋 2	年次	1 年
授業の目標	建学の精神であるキリスト教ヒューマニズムに基づく人間観を学び、かかわりの中で人格の主体性を生きる人間の尊厳を理解する。テキスト講読を通し、よりよい社会の建設を目指し、「他者のために他者と共に」努力する営みの中に、個々人に固有の輝きを見出す道があるという本学教育方針の理論的背景を学ぶと同時に、日本語力を向上させることができる。						
授業の概要	春学期には、人格的主体である人間の内面を理解し、秋学期は、外面的現実の中で他者との関係性を生きる課題を考察する。日々変化する社会環境の中にある諸問題を、全人的成長のための課題と捉え、それらに自覚的に応答する人間の尊厳を学ぶ。						
準備学習の内容	毎回、テキスト熟読のための時間を必要とする。						
各回の授業内容	<p>(人間学Ⅰ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生命とのかかわり (生命と進化：他生物との連帯) 2 生命とのかかわり (人間的行動の特徴) 3 内面的自分とのかかわり (意識の発達) 4 内面的自分とのかかわり (意識の発達) 5 内面的自分とのかかわり (自律と自由) 6 内面的自分とのかかわり (自律と自由) 7 内面的自分とのかかわり (西洋倫理：モラル) 8 内面的自分とのかかわり (西洋倫理：モラル) 9 内面的自分とのかかわり (日本思想の道徳性) 10 内面的自分とのかかわり (日本思想の道徳性) 11 自然とのかかわり (東洋と西洋の自然観) 12 他者とのかかわり (対話) 13 他者とのかかわり (対話) 14 まとめ <p>【教職員間授業公開日：丹木 5/23 (水)・6/13 (水), 岩崎 5/9 (水)・7/18 (水), 小林 5/16 (水)・7/4 (水), 阿部 5/23 (水)・5/30 (水), Nampet 6/19 (火)・7/3 (火), 田村 6/13 (水)・7/4 (水)】</p> <p>(人間学Ⅱ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 他者とのかかわり (成熟とエロス) 16 他者とのかかわり (成熟とエロス) 17 他者とのかかわり (人間と家庭) 18 他者とのかかわり (人間と家庭) 19 社会とのかかわり (人間と国家) 20 社会とのかかわり (国際的連帯性) 21 社会とのかかわり (国際的連帯性) 22 深みの次元とのかかわり (生と死) 23 深みの次元とのかかわり (生と死) 24 深みの次元とのかかわり (宗教と宗教心) 25 深みの次元とのかかわり (宗教と宗教心) 26 深みの次元とのかかわり (キリスト教の人間観) 27 深みの次元とのかかわり (キリスト教の人間観) 28 まとめ <p>【教職員間授業公開日：丹木 10/10 (水)・10/31 (水), 岩崎 9/26 (水)・11/21 (水), 小林 10/10 (水)・11/14 (水), 阿部 10/17 (水)・10/24 (水), Nampet 11/21 (水)・12/5 (水), 田村 11/7 (水)・11/28 (水)】</p>						
評価方法	出席 (20%), 授業参画 (発表・リアクションペーパー・小レポートなど) (50%), 期末レポートまたはテスト (30%)						
テキスト	ハイメ・カスタニエダ, 井上英治編『現代人間学』(春秋社)						
参考書	『叡智を生きる—他者のために, 他者とともに』上智大学出版						
その他特記事項	担当者ごとに授業展開の順序や時間配分、及び教職員間授業公開日は異なる。W. Nampet 講師による授業は英語で行うものとする。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	社会的弱者の側に立つキリスト教ヒューマニズムに基づき授業外や長期休暇期間の国内外のボランティア活動, コミュニティー・サービスの経験を推奨する。				

教養科目

科目名	歴史学			担当者名	森下 園		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	近年の歴史認識をめぐる議論で使われる用語・概念を理解し、受講生がそれを用いて「他者とともに生きる歴史」について各自の見解を論述できるようにする。						
授業の概要	近代に成立した「歴史学」の解体作業を通して、「唯一絶対の歴史」にひそむ西欧中心主義と、近代国家のための「物語」として創出された「他者を排除する歴史」の見直しをはかる。「世界史」の講義ではないので、注意すること。						
準備学習の内容	各回の講義後に、プリント・ノートから要点をまとめておくこと。これを怠ると課題提出に支障をきたすので注意すること。						
各回の授業内容	<p>1 「歴史学」とはどんな学問か</p> <p>2 歴史学の歴史 (1) 西洋古代と中世</p> <p>3 歴史学の歴史 (2) ルネッサンス～啓蒙時代</p> <p>4 歴史学の歴史 (3) 中国</p> <p>5 歴史学の歴史 (4) 日本</p> <p>6 歴史学の歴史 (5) ランケ史学</p> <p>7 歴史学の歴史 (6) アナール派</p> <p>8 研究紹介 マルク・ブロック『王の奇跡』</p> <p>9* 史料を読むために (1) 古書体学, 古書冊学, 文書形式学</p> <p>10 史料を読むために (2) 図像解釈学と絵画資料</p> <p>11 史料を読むために (3) 考古学と文化人類学</p> <p>12 史料を読むために (4) オーラルヒストリー <課題1提出></p> <p>13 研究紹介 ナタリー・Z・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール』</p> <p>14 理論 (1) 構造主義とポスト構造主義</p> <p>15 理論 (2) 言語論的転回と歴史学</p> <p>16 理論 (3) 比較文学とポストコロニアリズム</p> <p>17 理論 (4) 歴史修正主義と社会構築主義 <課題2提出></p> <p>18 理論 (5) ジェンダーと歴史学</p> <p>19 研究紹介 エドワード・サイード『オリエンタリズム』</p> <p>20 歴史とメディア (1) 写本からマス・メディアの登場まで</p> <p>21 歴史とメディア (2) 現代メディアの問題点</p> <p>22 研究紹介 ミッシェル・フーコー『監獄の歴史』</p> <p>23 歴史教育 (1) 国際歴史教科書問題</p> <p>24* 歴史教育 (2) 英国の歴史教育</p> <p>25 歴史教育 (3) 日本で今問われていること <課題3提出></p> <p>26 研究紹介 網野善彦『異形の王権』</p> <p>27 震災と歴史</p> <p>28 まとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/17（木），7/9（月）】</p>						
評価方法	学期中の課題（ノートのまとめ）が各 10%×3 回＝（30%），プリント・自筆ノート持ち込み可のペン書き論述式の学期末試験を（70%）として評価する。なお、6 回以上の欠席は不可とする（就活などの事情がある場合は除く）。						
テキスト	なし，プリント配布						
参考書	J・H・アーノルド『1冊でわかる歴史学』（岩波書店） 中谷功治『歴史を冒険するために』（関西学院大学出版会）						
その他特記事項	板書はしない方針なので，ノートを取る工夫を各自がすること。20分以上の遅刻および無断退出は欠席とみなす。						

教養科目

科目名	哲学	担当者名	丹木 博一
開講期	春 / 秋	分類	選択
		単位	4
		年次	1・2年
授業の目標	何気ない日々の営みの中にも、実は哲学的な謎が潜んでいるということに気づき、その謎の成り立ちを西洋哲学の歴史に照らして考え進めることによって、人生をこれまで以上に豊かなものとして再発見することが目標である。		
授業の概要	世界が私に現れ、その世界のうちに私が住まうということの謎を、認識論、存在論、行為論などさまざまな視点から哲学的に考察する。講義形式で授業を進めるが、毎回授業の最後に問いを投げかけ、リアクションペーパーによる回答を求める。		
準備学習の内容	毎回、テキストの指定箇所を事前の一読しておくこと。		
各回の授業内容	<p>1 導入</p> <p>2 世界が見えるということの謎 (1) 感覚と知覚の違い</p> <p>3 世界が見えるということの謎 (2) 因果的説明の困難</p> <p>4 世界が見えるということの謎 (3) 世界へと開かれていること</p> <p>5 世界が見えるということの謎 (4) リアリティとアクチュアリティ</p> <p>6 有ることと無いこととの関係 (1) 見立てと取り合わせ</p> <p>7 有ることと無いこととの関係 (2) 生成変化</p> <p>8* 有ることと無いこととの関係 (3) 対象喪失</p> <p>9* 時間とは何か (1) 過去</p> <p>10 時間とは何か (2) 未来</p> <p>11 時間とは何か (3) 現在</p> <p>12 身体の重層性 (1) 見える客体</p> <p>13* 身体の重層性 (2) 見えさせる媒体</p> <p>14* 身体の重層性 (3) 見る主体</p> <p>15 言語の多面性 (1) 呼びかけられる経験</p> <p>16 言語の多面性 (2) 語るという行為</p> <p>17 言語の多面性 (3) 世界の表現</p> <p>18 感情の力 (1) 世界開示</p> <p>19 感情の力 (2) 世界分割</p> <p>20 感情の力 (3) 世界の様相</p> <p>21 自己の成り立ち (1) その必然性</p> <p>22 自己の成り立ち (2) その偶然性</p> <p>23 他者との関係 (1) 自己と他者の境界</p> <p>24 他者との関係 (2) 自己と他者の交わり</p> <p>25 世界に対する態度 (1) 意志と習慣</p> <p>26 世界に対する態度 (2) 思考と表現</p> <p>27 世界に対する態度 (3) 住むことと旅すること</p> <p>28 まとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/15（火）、6/1（金）、10/16（火）、11/9（金）】</p>		
評価方法	出席及びリアクションペーパー（30%）、レポート（70%）		
テキスト	熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ—』（岩波新書）		
参考書	飯田隆他編『いま〈哲学する〉ことへ（岩波講座哲学01）』（岩波書店）		
その他特記事項	主体的な関心をもって授業に臨んで欲しい。分からない点や疑問点がある場合は、質問を歓迎する。		

教養科目

科目名	女性と哲学			担当者名	田内 千里		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	哲学およびキリスト教において女性がどのように捉えられてきたのかをさまざまな思想家および聖書から学ぶことによって、現代社会において女性として生きることの意味を積極的に探究するための思考の土台づくりを行う。						
授業の概要	第一部では、『ジェンダー・トラブル』を主なテキストにして、哲学における女性観について学ぶ。第二部では、哲学における女性観に影響を与えてきたキリスト教の伝統的な女性観と、フェミニスト神学の学問的成果を参考にした聖書における女性観を学ぶ。						
準備学習の内容	グループ・ディスカッションを複数回行う予定である。その場合には、事前に、配布資料を読み自分の意見をまとめておくこと。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 第一部：導入 女性と哲学／哲学とは何か 2 女性の歴史 3 現代における女性 4 『ジェンダー・トラブル』序文 5 ボーヴォワール『第二の性』(1) 6 ボーヴォワール『第二の性』(2) 7 フェミニズムの「主体」 8 ジェンダーとアイデンティティ 9 言語と権力 10 構造主義：レヴィ＝ストロース「親族の構造」 11 精神分析：ラカン「象徴界」 12 クリステヴァ：「詩的言語」と「母性」 13 フーコー：「性の歴史」 14 まとめ 15* 第二部：哲学とキリスト教 16 女性とキリスト教 17 聖書と父権制 18 フェミニスト神学 19 「創世記」(1) 20 「創世記」(2) 21* 女性指導者の姿：「出エジプト記」ミリアム 22 マリアとマルタ (1) 23 マリアとマルタ (2) 24 「ルツ記」(1) 25 「ルツ記」(2) 26 神の母マリア (1) 27 神の母マリア (2) 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：11/13（火）、12/7（金）】</p>						
評価方法	出席（40%）、授業参加（20%）、レポート（40%）						
テキスト	ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』（青土社） ほかに資料を配布する						
参考書	授業中に指示する						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	本講義を通じて得られた知見は、自分自身の生き方を考えることに対してだけではなく、他者との共生を考える上でさまざまな示唆を与えうるものであろう。				

教養科目

科目名	宗教学			担当者名	小林 宏子		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	西洋社会の常識であるキリスト教起源の用語や概念を学び、辞書的意味の置き換えでは把握できない聖書的背景の意味を知ること、神に関する誤信を解くことができる。有名な聖書箇所を英語で読み、代表的なキリスト教用語（英語）を知ることができる。						
授業の概要	テキストに沿って聖書の基礎的知識を学ぶ。英語聖書を読む機会を持つ。						
準備学習の内容	毎回、予習として聖書や解説文（英文を含む）を読むための時間を必要とする。						
各回の授業内容	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 聖書について</p> <p>3 旧約聖書 (1) 天地創造</p> <p>4 " (2) 人間の創造と自由</p> <p>5 " (3) アダムとエバ</p> <p>6 " (4) 人間の罪と失楽園</p> <p>7* " (5) ノアの箱舟とバベルの塔</p> <p>8 " (6) アブラハムと契約思想</p> <p>9 " (7) 出エジプトと過越し</p> <p>10 " (8) 十戒と神の掟</p> <p>11 " (9) ダビデ王とイスラエルの王たち</p> <p>12 " (10) 預言者の役割</p> <p>13 " (11) バビロン捕囚とメシア待望</p> <p>14 新約聖書 (1) メシアニズムと時代背景</p> <p>15 " (2) 神の国の宣教</p> <p>16 " (3) フェリサイ派と罪人</p> <p>17 " (4) 奇跡物語</p> <p>18 " (5) 放蕩息子のたとえ話</p> <p>19 " (6) よきサマリア人のたとえ話</p> <p>20 " (7) 山上の説教</p> <p>21 " (8) 最後の晩餐</p> <p>22 " (9) イエスの受難と死</p> <p>23 " (10) イエスの復活</p> <p>24* " (11) イエスの死の意味</p> <p>25 " (12) 教会の誕生とキリスト教の伝播</p> <p>26 ローマ・カトリックと聖地</p> <p>27 カトリックとプロテスタント</p> <p>28 まとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/11（金）、7/10（火）、10/9（火）、12/18（火）】</p>						
評価方法	出席（30%）、授業参画・リアクションペーパー（30%）、期末テスト（40%）						
テキスト	雨宮慧『旧約聖書』（ナツメ社）						
参考書	百瀬文晃著『キリスト教の原点』（教友社） 足立恵子著、ジョン・ベスター訳『対訳英語で話す「キリスト教」Q&A』（講談社）						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	ボランティア精神の原点に通じるキリスト教的隣人愛を学ぶ。				

教養科目

科目名	音楽			担当者名	北村 さおり		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	音楽鑑賞の楽しみを知る。合唱などを通じて音楽を体験する。						
授業の概要	音楽史を踏まえつつ、オペラ鑑賞を中心に同じ演目を異なる演出で見比べたり、ディスカッションをしながら、音楽への興味を深める。専門知識を学ぶことを最終目的とはしない。歌唱実技ではクリスマス会での発表を目標に合唱に取り組む。						
準備学習の内容	小説『椿姫』（デュマ・フィス）、映画『アマデウス』をそれぞれ見ておくこと。授業で配布するオペラ解説等のプリントを読んでくること。						
各回の授業内容	1	中世		グレゴリオ聖歌			
	2	バロック		オペラの誕生と隆盛			
	3-5	古典派		モーツァルト「フィガロの結婚」全幕 鑑賞・ディスカッション			
	6	前期ロマン派		交響曲、ドイツリート、ピアノ曲の鑑賞			
	7-9	イタリアオペラ		ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」全幕 鑑賞・ディスカッション			
	10-14	イタリアオペラ		ヴェルディ「椿姫」鑑賞・ディスカッション			
	15*-16	イタリアオペラ		プッチーニ「ボエーム」鑑賞・ディスカッション			
	17	後期ロマン派～近現代		近現代の作品の鑑賞と近年のオペラ演出の傾向と受容			
	18	鑑賞のまとめ		小テスト・小論文の準備			
	19*	歌唱実技基礎		キレイな姿勢、声、発音、緊張をほぐす呼吸法等			
	20-25	歌唱実技合唱		クリスマス・ソング等			
	26	小テスト					
	27-28	バレエ		チャイコフスキー「白鳥の湖」全幕 鑑賞・ディスカッション			
	*【教職員間授業公開日：11/12（月）、11/26（月）】						
評価方法	出席・授業参画・授業毎のリアクションペーパー（50%）、小テスト（25%）、小論文（25%）						
テキスト	特になし						
参考書	特になし						
その他特記事項	音楽鑑賞は私語・居眠り厳禁。積極的に実技に参加できる方を望みます。（ピアニスト大歓迎！）						

教養科目

科目名	社会学			担当者名	鈴木 薫		
開講期	春/秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	この授業を履修する事により、学生は社会学の基本的な理論や概念について理解を深め、これらの理論や概念を用いてさまざまな社会事象について検討することができるようになる。						
授業の概要	社会学の基本的な理論、概念、方法論的立場について講義を行う。社会と個人をめぐる理論を、古典的研究から近年の研究まで幅広く紹介し、社会学の理論と具体的な社会事象との関連性についても論じる。						
準備学習の内容	参考書など、社会学関係の書籍に積極的に親しみ、授業内容に対する関心を育むことを期待する。目安となる時間は2時間程度とする。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会学とはどのような学問か (1) 2 社会学とはどのような学問か (2) 3 社会規範について 4 逸脱について (1) アノミー論 5 逸脱について (2) ラベリング論 6 逸脱について (3) スティグマ論 7 自我と社会的性格について (1) 無意識 8 自我と社会的性格について (2) 権威主義的性格 9 自我と社会的性格について (3) 文化と性格構造 10* 家族について (1) 家族の形態と機能 11 家族について (2) 家族規範 12 家族について (3) 家族の個人化 13 性差について (1) ジェンダー 14 性差について (2) 性別分業 15 組織について (1) 官僚制 16 組織について (2) ネットワーク 17 都市について 18 労働について 19 社会階層について 20* コミュニティについて 21 エミール・デュルケムの社会学 (1) 社会学主義 22 エミール・デュルケムの社会学 (2) 社会分業論 23 マックス・ウェーバーの社会学 (1) 理解社会学 24 マックス・ウェーバーの社会学 (2) 支配の諸類型 25 ゲオルグ・ジンメルの社会学 (1) 形式社会学 26 ゲオルグ・ジンメルの社会学 (2) 社会分化論 27 社会学の3つの方法論的立場について 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：5/21 (月), 6/25 (月), 10/22 (月), 11/29 (木)】</p>						
評価方法	出席および授業参加 (50%), リアクション・ペーパー (30%), レポート (20%)						
テキスト	特になし。プリントを配布して授業を進める。						
参考書	西澤晃彦・渋谷望著 2008『社会学をつかむ』(有斐閣)						

教養科目

科目名	日本国憲法			担当者名	高野 敏樹		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	国家形成の基本法である日本国憲法において、人権保障、国民主権、権力分立などの立憲主義の諸原則がどのように実現されているかを理解するとともに、個人と社会の現代的課題を分析し、自己の考えを的確に表現する力を涵養します。						
授業の概要	日本国憲法の諸原理の意義を憲法の条文構成にしたがって解釈・考察します。その考察に際しては、立憲主義の諸原理を生み出したイギリス、フランス、ドイツ、アメリカ等の憲法状況と比較しながら、比較憲法的手法でアプローチします。						
準備学習の内容	講義の事前に必要な資料を配布します。事前にその資料を熟読して講義内容を理解し自己の考えを形成するために、各回2時間程度の自己学習を要します。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 憲法とはなにか―憲法の最高法規性 2 近代立憲主義 (constitutionalism) の意味と課題① 3 近代立憲主義 (constitutionalism) の意味と課題② 4 日本国憲法の制定と憲法改正の限界論 5 国民主権論の形成と課題 6 国民主権論と人民主権論―純粹代表制と半代表制 7 人権思想の二つの系譜①―天賦人権論の形成と発展 8 人権思想の二つの系譜②―国民権利論と明治憲法下の「法律の留保」論 9 人権の享有主体―外国人の人権保障 10 法の下での平等①―平等の意味と構造 11 法の下での平等②―平等原則の適用状況 12* 法の下での平等③―女性の権利の国際的展開 13 信教の自由と政教分離原則①―信教の自由の意義と課題 14 信教の自由と政教分離原則②―政教分離原則の意義と課題 15 精神的自由①―思想信条の自由 16 精神的自由②―表現の自由の地味と現代的展開 17 精神的自由③―表現の自由・メディアの自由の規制とその限界 18 社会権①―生存権の意味とその権利性 19* 社会権②―教育を受ける権利と「こどもの学習権」 20 社会権③―労働基本権と労働者保護法制 21 自己決定権と幸福追求権 22 プライバシーの権利の現代的展開 23 議会制の基本構造 24 二院制のしくみとその課題 25 議院内閣制の基本構造 26 象徴天皇制 27 平和と憲法―憲法9条の意義と課題 28 安全保障の国際的枠組み <p>*【教職員間授業公開日：5/28（月）、6/21（木）】</p>						
評価方法	本学所定の出席率を満たした者について、試験の結果（80%）と出席状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	テキストはとくに指定しません。必要な資料は講義中に配付します。						
参考書	高野敏樹他『憲法』（不磨書房） 佐藤功『日本国憲法概説』（学陽書房） その他、参考資料として六法を持参することを勧めます。						
その他特記事項	配付資料の内容を適切に理解するとともに、講義中に適切なノートを作成することが大切です。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	外国人の人権が憲法上どのように保障されているかという視点から、秦野市在住の外国籍市民の市民権と生存権保障の意味と現状を考えます。				

教養科目

科目名	法学			担当者名	高野 敏樹		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	この講義では私法とよばれる法分野に焦点をあてて、私たちが市民生活を送る上でぜひとも知っておきたい身近な法律上の基礎知識を修得し、市民法的課題について自己の考えを形成すると同時に、それを的確に表現する力を涵養します。						
授業の概要	この講義では私法の分野のうち、社会の基礎である契約関係や現代の家族関係、企業や取引に関する法律上のしくみと課題を、身近な例をあげて検討します。						
準備学習の内容	講義の事前に必要な資料を配布します。事前にその資料を熟読して講義内容を理解し自己の考えを形成するために、各回2時間程度の自己学習を要します。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 法的視点からみた人間像—人間の理性と法 2 個人の権利能力と法的権利—権利を享有する能力 3 個人の行為能力と法律行為—法的判断能力と法律行為 4 契約のしくみとはたらき 5 意思表示の瑕疵と契約の効力 6 契約自由の原則の修正と公共の福祉—公序良俗の原則 7 権利の実現方法とその課題 8 保証債務と保証人の権利義務 9 不法行為責任の理論と実際 10* 無過失責任論の理論と実際—環境保護法制の国際的展開 11 現代家族と法の形成—「家」制度の廃止とその意義 12 家族のなかの個人の平等と権利 13 婚姻のしくみと現代的課題 14 親と子の法律関係①—嫡出子の地位と権利 15 親と子の法律関係②—非嫡出子の地位と権利 16 離婚の法理—離婚における有責主義と破綻主義の国際比較 17* 人工生殖と家族法の課題—人工授精、代理母の法的課題 18 相続のしくみとその課題①—相続人の範囲とその権利 19 相続のしくみとその課題②—相続分と遺言の効力 20 相続のしくみとその課題③—遺留分の意味とはたらき 21 ジェンダーと労働法 22 男女雇用機会均等法のしくみとその課題 23 労働基準法のしくみとその課題 24 消費者の権利保障 25 製造物責任と消費者の権利 26 企業社会のしくみとその展開 27 企業の法的責任とその展開① 28 企業の法的責任とその展開② <p>*【教職員間授業公開日：5/21（月）、6/14（木）】</p>						
評価方法	本学所定の出席率を満たした者について、試験の結果（80%）と出席状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	テキストはとくに指定しません。必要な資料は講義中に配付します。その他、参考資料として六法を持参することを勧めます。						
参考書	末川博『法学入門』（有斐閣） 伊藤正巳『法学入門』（有斐閣）						
その他特記事項	配付資料の内容を適切に理解するとともに、講義中に適切なノートを作成することが大切です。						

教養科目

科目名	教育学			担当者名	神門 しのぶ		
開講期	春 / 秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	教育についての根本的な理解を形成することを目標とする。その際、与えられた情報を単に羅列することによってではなく、ある物事にかんする自分のそれまでの考えが揺さぶられ、問いが生まれ、再考を迫られることによって、理解が進むことをめざす。						
授業の概要	哲学的、思想的、歴史的、社会学的観点から、教育という人間の営みについて考える。講義形式。						
準備学習の内容	〈教える〉と〈学ぶ〉は深く関わっています。教える行為について考察すればするほど、学ぶ者としての自己のあり方を点検させられることになるでしょう。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション～授業の進め方とリアクションペーパーの位置づけ 2 人間にはなぜ教育が必要なのか 3 教育の目的とは何か 4 近代日本の教育史 (1) 5 近代日本の教育史 (2) 6* 近代日本の教育史 (3) 7 近代日本の教育史 (4) 8 日本の教育者たち (1) 9 日本の教育者たち (2) 10 教育の原型としてのソクラテス (1) 11 教育の原型としてのソクラテス (2) 12 西洋教育史にみる子ども・家族・学校 (1) 13 西洋教育史にみる子ども・家族・学校 (2) 14 西洋教育史にみる子ども・家族・学校 (3) 15 教育学の基本思想～ロック 16 教育学の基本思想～ルソー 17 教育学の基本思想～ペスタロッチ 18 教育学の基本思想～デューイ 19* カリキュラムとは何か (1) 20 カリキュラムとは何か (2) 21 道徳は誰が教えるのか (1) 22 道徳は誰が教えるのか (2) 23 現代の教育が直面している問題～いじめ 24 現代の教育が直面している問題～不登校 25 グローバル化時代と教育 (1) 26 グローバル化時代と教育 (2) 27 価値多元社会における〈教育〉の定義 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：5/8 (火)、6/22 (金)、10/5 (金)、11/27 (火)】</p>						
評価方法	授業内容について主体的に関わることができたかどうかを評価の対象とする。自分の考えが刺激された経緯を論理的に説明するためのリアクションペーパー (50%)、出席 (25%)、授業参画 (25%)。						
テキスト	沼田裕之・増淵幸男編著『教育学 21 の問い』(福村出版)						
参考書							
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	教育の理論的考察をとおして、教える行為の介在する各種実践活動の支えとなりうる教育理解が構築されるように導く。				

教養科目

科目名	経済学			担当者名	白瀬 宗範		
開講期	春/秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	皆さんは毎日の生活の中で、経済にかかわる興味を様々に持っていると思います。この授業では、経済学の基礎を学びながら、皆さんの興味を一步進めて、経済学の知識や考え方と結び付けたいと思います。						
授業の概要	下記のテキストを基本としますが、内容に関連する新聞記事、各種メディアなどを活用します。簡単な計算や数学の知識も学習します。						
準備学習の内容	課題や小テストなどを予定しているので、その準備は各自の理解度によって必要となります。						
各回の授業内容	<p>1 経済学とは (ガイダンス)</p> <p>2 経済学のための計算・数学 ①</p> <p>3- 7* ミクロ経済学 市場経済において、モノの価格はどのように決まるのか、それがミクロ経済学です。需要と供給の考え方を紹介し、市場を分析します。</p> <p>8 小テスト</p> <p>9 計算小テスト①&経済学のための計算・数学 ②</p> <p>10-13 市場と企業 ミクロ経済学で学習した理論を基に、市場での企業の行動を考えます。</p> <p>14 小テスト</p> <p>15 計算小テスト②&経済学のための計算・数学 ③</p> <p>16-20* マクロ経済学 様々なモノの価格が決まる市場の集合体としての一国そして世界の経済を考えます。途上国の貧困問題、経済成長なども含みます。</p> <p>21 小テスト</p> <p>22 計算小テスト③&経済学のための計算・数学 ④</p> <p>23-26 経済学の課題 ここまで学んだ経済学の考え方を使得、現在、問題となっている現象を取り上げます。</p> <p>27 小テスト</p> <p>28 計算小テスト④&経済学のための計算・数学 ⑤</p> <p>(受講者数によって、内容や授業方法を変更することがあります。)</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/8 (火), 6/12 (火), 10/5 (金), 11/16 (金)】</p>						
評価方法	出席および授業参加 (40%), テスト (60%)						
テキスト	岩田規久男『経済学への招待』(新世社)						
参考書	岩田規久男『経済学的思考のすすめ (筑摩選書)』(筑摩書房) 井堀利宏『入門経済学』(新世社)						

教養科目

科目名	社会福祉入門			担当者名	森澤 陽子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	社会福祉の成り立ちを抑えつつ、事例検討を中心に専門職業としてのソーシャルワークと精神科ソーシャルワークの仕事にアプローチする。 これにより、社会福祉専門職がどのようなフィールドで社会活動をしているのかを知る。またその基盤となる社会福祉の理念と基礎的技法を学ぶ。						
授業の概要	講義により社会福祉の基盤と現代におけるニーズを学び、その後各分野の事例から具体的に読み取り、検討する。事例からの疑問を学生自身が調査・発表する。 レジメのプリントを配布する。						
準備学習の内容	発表のための調査、テキストの指定箇所を読む。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉の扉を開こう 2 社会福祉の意味 3 社会福祉を捉えていく立場 4 社会福祉の構造 5 生活問題と社会福祉 6 社会福祉の基本的動向 7 社会福祉と社会保障制度 8 社会福祉と社会保障制度 9 福祉が必要になる時 10 ソーシャルワークとは 11* ソーシャルワーカーの仕事 12 事例検討 1. 13 事例検討 2. 14 事例検討 3. 15* 事例検討 4. 16 精神障害者の福祉 17 精神障害者のソーシャルワーク 18 事例検討 1. 19 事例検討 2. 20 研究 21 研究発表 22 精神障害者の福祉とリハビリテーション 23 ビデオ学習 24 事例とまとめ 25 ソーシャルワークの倫理と価値 26 ビデオ学習 27 演習 28 社会福祉と医療・看護との連携 <p>*【教職員間授業公開日：10/23（火）、11/13（火）】</p>						
評価方法	テスト（50%）、出席と参加度（50%）						
テキスト	『社会保障制度と生活者の健康（3）社会福祉』（医学書院）						
参考書	岩田正美，上野谷加代子，藤村正之著『ウェルビーイング・タウン社会福祉入門』（有斐閣アルマ） 『わかりやすい社会福祉』（ミネルヴァ書房）						
その他特記事項	社会福祉の分野と仕事に多少とも興味のある学生がこの授業を取ることを望んでいる。						

教養科目

科目名	マスメディア論			担当者名	国枝 智樹		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	日々接するメディアに対して、産業の歴史やマス・コミュニケーション理論、ジャーナリズムやPRといった様々な側面から理解することによって、より主体的に接し、活用する態度を身につけます。						
授業の概要	歴史や理論、産業など基礎を幅広く扱うとともに、様々な学問分野や組織活動とメディアの関係にフォーカスします。ディスカッションやレポート提出を通して自分の考えを整理します。						
準備学習の内容	普段の生活で様々なメディアにどう接し、どう利用しているのかを意識するようにし、新聞やテレビなどで日々のニュースに目を通してください。受講に際しては、事前に2時間程度の準備が必要になります。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション：社会とメディア 2 マスメディア／マス・コミュニケーションの概念 3 歴史1：文明とメディア 4 歴史2：戦前のメディア 5 歴史3：戦後のメディア 6 歴史4：デジタルメディア 7 理論1：弾丸効果・限定効果論 8 理論2：中範囲理論 9 理論3：オーディエンス研究 10 理論4：批判理論／カルチュラル・スタディーズ 11* 理論5：社会，文化，ジェンダー，子ども 12 理論6：メディアの規範理論 13 歴史・理論のまとめ 14 ジャーナリズム1：権力とメディア 15 ジャーナリズム2：ニュース報道 16 ジャーナリズム3：報道の自由と責任 17 ジャーナリズム4：現代ジャーナリズムの諸問題 18* パブリック・リレーションズ1：プロパガンダと民主主義 19 パブリック・リレーションズ2：情報源の戦略 20 メディア・リテラシー1：批判的読み解き 21 メディア・リテラシー2：ワークショップ 22 産業1：印刷メディア（新聞，雑誌） 23 産業2：放送メディア（テレビ，ラジオ） 24 産業3：コンテンツ（音楽，映画，その他） 25 産業4：インターネット 26 産業5：広告 27 産業6：グローバリゼーション 28 総括 <p>*【教職員間授業公開日：5/24（木），6/18（月）】</p>						
評価方法	出席およびリアクションペーパー（40%），レポート3回（60%）						
テキスト	特に指定しない						
参考書	大石裕『コミュニケーション研究（第3版）—社会の中のメディア』（慶応義塾大学出版会） 春原昭彦，武市英雄『「ゼミナール」日本のマス・メディア（第2版）』（日本評論社）						

教養科目

科目名	マスメディア論			担当者名	石川 旺		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	<p>マス・メディアへの接触は現代に生きる人々にとって日常体験である。しかし、マス・メディアとの接触がわれわれに何をもたらしているかは明確には意識されていない。本講はマス・メディアの歴史的な発展を検討し、理論研究の推移をたどることにより、人々とマス・メディアのかかわりがどのように変化してきたのかについて理解を深める。そしてその理解を基盤とし、現代の情報社会の中でのメディアの現状を分析し、メディアの受け手個人としての主体性・自律性を確立することを目標とする。</p>						
授業の概要	<p>学期始めの2回の講義の後、以降の授業内容は2回で1セットとなっている。一回目は主として講義を行う。二回目はその講義をもとに提示された課題について、受講生による討論を主体として検討を進める。受講生に事前準備を求め、積極的な相互討論への参加を期待する。</p>						
準備学習の内容	<p>テレビ、新聞、雑誌、インターネットなどを利用する際の自身のありようを自らに問いかけ、メディア情報を無批判に受け入れていないかを意識しててください。</p>						
各回の授業内容	<p>1 開講 メディア・スタディーズとメディア・リテラシー 2 20世紀におけるメディアの技術的発展と社会的背景 3 メディア研究の歴史 4 メディア研究の歴史 / 討論 5 メディア研究の歴史 6 メディア研究の歴史 / 討論 7 メディアの発達に伴って生じた問題—通俗化、センセーショナルリズム etc. 8 メディアの発達に伴って生じた問題—通俗化、センセーショナルリズム etc. / 討論 9 メディアの社会的責任に対する検討 10 メディアの社会的責任に対する検討 / 討論 11 メディアの公共性に関する議論 12 メディアの公共性に関する議論 / 討論 13* 日本社会のメディア特性—戦前・戦後のメディア 14 日本社会のメディア特性—戦前・戦後のメディア / 討論 15 メディアへの政治介入 16 メディアへの政治介入 / 討論 17 テレビ報道のフロー化と娯楽化 18 テレビ報道のフロー化と娯楽化 / 討論 19 プロパガンダ・モデルの検討 20 プロパガンダ・モデルの検討 / 討論 21* メディアと世論—憲法をめぐる問い、原発をめぐる問い etc. 22 メディアと世論—憲法をめぐる問い、原発をめぐる問い etc. / 討論 23 選挙とメディア・政治とメディア 24 選挙とメディア・政治とメディア / 討論 25 メディアへの市民参加 26 メディアへの市民参加 / 討論 27 受け手の主体性、自律性の確立へ向けて 28 受け手の主体性、自律性の確立へ向けて / 討論</p> <p>*【教職員間授業公開日：11/6（火）、12/7（金）】</p>						
評価方法	出席（20%）、授業内討論への参加の積極性（20%）、期末試験（60%）						
テキスト	特に指定しない						
参考書	田崎篤郎・児島和人 1992『マス・コミュニケーション効果研究の展開』（北樹出版） 石川旺 2004『パロティングが招く危機』（リベルタ出版）						
その他特記事項	メディアに関する議論を深めるために、同時進行している時事問題もしばしば授業での検討課題となるので、新聞は常に読んでおいてください。						

教養科目

科目名	情報リテラシー演習			担当者名	加藤 誠		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	今や欠かせないツールとなったコンピュータや情報機器は、今までどのように発達し、今後どのように進化してゆくのか。また、それによって私たちの生活はどう変わってゆくのか。日進月歩の情報技術の根底にあって普遍的なもの、将来的にも通用する基礎知識を身につけ、新しい技術やそれに伴い変化する社会に対応する能力を養います。						
授業の概要	まず全般的な基礎知識から始め、その後「ハードウェア」「ソフトウェア」「ネットワーク」の3項目を軸に、実機や映像資料などを用いながら平易に解説します。						
準備学習の内容	授業毎の復習をしっかりと行ってください。また、情報関連のニュースや話題を Web サイトなどで随時チェックして、自ら関心を高め、知識を深めていってください。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに／“情報”とは何か 2 基礎知識 (1) コンピュータの発展とその歴史 3 基礎知識 (2) アナログとデジタル 4 基礎知識 (3) 2進法と16進法 5 基礎知識 (4) 文字の符号化、文字コード 6* 基礎知識 (5) 音声や画像、動画のデジタル化と圧縮技術 7 基礎知識 (6) 論理演算～スイッチで作る計算回路～ 8 ハードウェア (1) コンピュータの構成・5大装置 9 ハードウェア (2) CPU (中央処理装置) の機能と仕組み 10 ハードウェア (3) CPU およびコンピュータの高速化技術 11 ハードウェア (4) メモリ (主記憶装置) の機能と仕組み 12 ハードウェア (5) HDD・補助記憶装置の機能と仕組み 13 ハードウェア (6) 入力装置・出力装置の機能と仕組み 14 ハードウェア (7) スマートフォンなどの新しい情報機器 15* ソフトウェア (1) “ソフトウェア”とは 16 ソフトウェア (2) OS (オペレーティングシステム) の機能と役割 17 ソフトウェア (3) ファイルとファイル管理 18 ソフトウェア (4) ユーザーインターフェイス 19 ソフトウェア (5) プログラミング/プログラム言語 20 ソフトウェア (6) オープンソース/著作権について 21 ネットワーク (1) コンピュータネットワーク・LAN 22 ネットワーク (2) インターネット/ドメイン名とIPアドレス 23 ネットワーク (3) 電子メールの仕組み 24 ネットワーク (4) WWW (World Wide Web) の仕組み 25 ネットワーク (5) ネットワークセキュリティ/コンピュータウイルス 26 ネットワーク (6) プライバシー・個人情報とその保護/暗号化技術 27 ネットワーク (7) トラブルシューティング 28 まとめ/情報と社会 <p>*【教職員間授業公開日：10/2 (火)、11/13 (火)】</p>						
評価方法	授業毎の出席およびリアクション等 (30%)、レポート3回 (20+20+30%) の合計により評価します。						
テキスト	監修：久野靖、辰己丈夫、佐藤義弘『キーワードで理解する最新情報リテラシー 第3版』(日経BP社)						
参考書							

教養科目

科目名	数学			担当者名	加藤 誠		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	手元のわずかな情報から全体的な傾向をつかみたい。あるいは、これまでの流れから将来の予測を立てたい。このような問題に対する統計学的な考え方とその基礎を身につけること、そしてその過程を通じて論理的な思考力を養うことを目標とします。数学が私たちの身近なところに応用されていることを実感してもらえたらと思います。						
授業の概要	単純な計算の積み重ねでここまでできる、という基本的な手法を、理論と具体的な手順の両面から解説します。また、表計算ソフトを使ったパソコンでの演習も行います。						
準備学習の内容	各回の授業は、その前回までの内容をふまえて進めますので、復習をしっかりと行ってください。						
各回の授業内容	<p>1 はじめに</p> <p>2-7 統計学の基礎 (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計的手法によってできること／できないこと ・平均値 ・分散，標準偏差 ・偏差値を求める ・MS・Excel による実習 (1) <p>8-19* 統計学の基礎 (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続量，分布曲線 ・標準正規分布，正規曲線 ・正規分布とその利用 ・統計的推定の考え方 ・t分布とその利用 ・カイ 2 乗分布とその利用 ・統計的検定の考え方 ・MS・Excel による実習 (2) <p>20-27* 統計学の基礎 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つのデータの相関を調べる ・回帰分析の考え方 ・重回帰分析の考え方 ・MS・Excel による実習 (3) <p>28 まとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/25 (金)，7/3 (火)】</p>						
評価方法	授業毎のリアクションおよび課題 (50%)，期末レポート (50%) の合計により評価します。						
テキスト	小島寛之『統計学入門』(ダイヤモンド社)						
参考書	向後 千春，富永 敦子『統計学がわかる』シリーズ (技術評論社) 松原 望，前野 昌弘『知識ゼロでもわかる統計学』シリーズ (技術評論社)						
その他特記事項	経済方面への進学や就職を希望する方はもちろん，高校 1 年次の数 I 程度の予備知識があれば十分ですので，数学が苦手な (だった) 人も歓迎します。						

教養科目

科目名	心理学			担当者名	林 百合		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	心理学は、関心の高さの一方で、その実際はよく知られていないのが実情です。この授業の履修により、人の心の仕組みと働きを「科学的」に解明していく学問としての心理学の基礎知識や概念、観点などを学び、人の心のむずかしさと興味深さを実感できます。						
授業の概要	基本的に講義形式をとりますが、テーマによってディスカッションや心理学の不思議な世界を体験して戴くこともあります。積極的に感じ、考えることにより、実際的に心理学を学んでいきます。						
準備学習の内容	心理学の領域はとても広く、はじめて出会う専門知識・用語がとても多いので、復習や自己学習をお勧めします。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理学とは（オリエンテーション、科学としての心理学の概観） 2 心理学のあゆみ（現代心理学の歴史と発展、心理学の方法） 3 感覚（感覚・知覚とは何か、感覚のしくみと役割） 4 知覚（複雑で適応的な知覚のしくみ） 5 学習①（心理学が扱うさまざまな学習） 6* 学習②（条件づけ） 7* 記憶①（記憶の構成と過程、情報処理モデル） 8 記憶②（憶える心理と忘れる心理） 9 言語（言語の獲得と機能） 10 言語（ことばの障害・遅れ） 11 思考①（いろいろな「考える」について） 12 思考②（問題解決過程と方法・推論や判断の誤り） 13 要求・行動（行動の規定因と、要求、動機づけ） 14 感情・情緒（感情・情緒の役割や理論） 15 性格①（性格の研究、パーソナリティの個人差のとらえ方） 16 性格②（性格構造の形成と発達、性格検査概論、性格の認知） 17 知能（「頭の良さ」とは。知能尺度について） 18 発達①（発達の規定要因） 19 発達②（ライフサイクル、発達障害） 20 家族（人の発達やこころの健康に及ぼす家族の影響） 21 社会①（社会心理と対人心理） 22 社会②（社会的態度、社会的状況が及ぼす人への影響） 23 臨床①（臨床心理アセスメントと心理療法） 24 臨床②（心理療法各論） 25 異常（異常心理現象と精神疾患） 26 犯罪（犯罪心理学の研究知見について） 27 脳と心（脳損傷と心の働き） 28 ストレスとメンタルヘルス <p>*【教職員間授業公開日：5/7（月）、5/10（木）】</p>						
評価方法	出席状況（20%）、受講態度（20%）、リアクションペーパー（20%）、中間テスト（20%）、最終レポートまたはテスト（20%）による総合評価						
テキスト	詫摩武俊編『心理学 [改訂版]』（新曜社）						
参考書	長谷川寿一、東條正城、大島尚、丹野義彦著『はじめて出会う心理学 改訂版』（有斐閣アルマ）						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	メンタルフレンドボランティアなどを行っている学生に、支援の実際、体験を通して気づいたこと、教育現場における工夫や問題点について発表してもらい、発達障害や子どもの心の支援のあり方について、ディスカッションを行う。				

教養科目

科目名	体育理論・実技 1			担当者名	木皿 久美子		
開講期	春/秋	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来る。 自分の健康を保持増進していく為に運動の意義や必要性を知ることが出来る。 体操の特性や捉え方について理解を深める。</p>						
授業の概要	<p>従来の授業展開とは異なり，実技と理論を融合させて進めます。 身体づくり，動きづくり，健康づくりを中心に，ストレッチ体操，リズム体操，手具体操を取り入れながら，自己の身体を知り，運動の役割を理解します。</p>						
準備学習の内容	<p>授業準備・予習は必要ないが，授業内に行う補強運動を復習し継続して行う。時間は15分程度。</p>						
各回の授業内容	<p>1 からだ気づき・からだほぐし・身体づくり 2 ストレッチ体操・リズム体操（一人・二人で行う体操） 3* ストレッチ体操・リズム体操（小グループで行う体操） 4* 手具体操フープ（基本操作） 5* 手具体操フープ（二人組・小グループ） 6 手具体操ボール（基本操作） 7 手具体操ボール（二人組・小グループ） 8 手具体操リボン（基本操作） 9* 手具体操リボン（二人組・小グループ） 10 実技テスト 11 グループによる作品作り① 12 グループによる作品作り② 13 作品発表・まとめ 14 合同講演会（予定）</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/18（金），5/25（金），10/5（金），10/12（金）】</p>						
評価方法	出席および授業参加（50%），実技テスト（25%），レポート（25%）						
テキスト							
参考書	浅田隆夫編『現代の保健体育』（学術図書出版） 配布プリント 担当者作成資料						

教養科目

科目名	体育理論・実技 2			担当者名	小澤 共子		
開講期	春/秋	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	室内種目を通し、スポーツに親しむことの必要性を考えることができます。						
授業の概要	実技と理論を融合させて進めます。 チームゲームを楽しみながら「身体知」を高めます。国際試合にも目を向け大会運営も学びます。また、「からだを動かすことの意味」「運動・健康・食事」「ライフスタイル」についても学習します。						
準備学習の内容	自己管理をしっかりし、授業に臨む。 種目のルールを覚える。						
各回の授業内容	<p>1-6* からだほぐし・バドミントン・テーブルテニス</p> <p>7-12 バレーボール・バスケットボール <ul style="list-style-type: none"> ・チームワークを学びながらゲームを中心に授業展開します。 ・ゲームの記録をつけ競技の特性を学びます。 </p> <p>13 ニュースポーツ <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースポーツへの挑戦—インディアカ・フィットネスボール、エアロビクス・セパタクロールFD など ・「運動」・「健康」・「食事」のバランスシートをつけ日常生活へのアプローチをします。 種目選択 <ul style="list-style-type: none"> ・大会運営を学びます。 </p> <p>14 まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの魅力について考えます。理論のみ ※合同講演会（予定）</p> <p>(火曜クラス)</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/8（火）、5/15（火）、10/9（火）、10/16（火）】</p>						
評価方法	出席（50%）、授業参画（25%）、レポート（25%）						
テキスト							
参考書	浅田隆夫編『現代の保健体育』（学術図書出版） 配布プリント 担当者作成資料						
その他特記事項	スポーツウエア・体育館シューズ着用						

教養科目

科目名	体育理論・実技 3			担当者名	小澤 共子		
開講期	春/秋	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	野外種目を通し、スポーツに親しむことの必要性を考えることができます。						
授業の概要	実技と理論を融合させて進めます。 テニスは基礎からはじめ「できない」から「できる」への運動メカニズムに挑戦します。 他の種目は、ゲームを楽しみながら「私達にとってスポーツとは何か」「運動・健康・食事」「ライフスタイル」についても学習します。						
準備学習の内容	自己管理をしっかりし、授業に臨む。 種目のルールを覚える。						
各回の授業内容	<p>1 からだほぐし</p> <p>2-8 テニス</p> <p>2-4* ・基礎からはじめます。グランドストローク</p> <p>5* ・サーブ&サーブレシーブ</p> <p>6 ・ボレー</p> <p>7-8 ・ダブルスゲーム コンビネーション・初歩的ルール・ソフィアルールをつくりゲームを楽しみます。又、大会運営も学びます。</p> <p>9-10 野外スポーツ</p> <p>・T-ソフトボール, FDを楽しみます。</p> <p>・「運動・健康・食事」バランスシートをつけ日常生活へのアプローチをします。</p> <p>11-13 テニス</p> <p>・ゲーム(シングルス・ダブルス)を通しトレーニング方法(テニス・ドリル)を学びます。</p> <p>14 まとめ</p> <p>・スポーツの魅力について考えます。理論のみ</p> <p>※合同講演会(予定)</p> <p>※天候により変更あり</p> <p>(金曜クラス)</p> <p>*【教職員間授業公開日: 5/18(金), 5/25(金), 10/12(金), 10/19(金)】</p>						
評価方法	出席(50%), 授業参画(25%), レポート(25%)						
テキスト							
参考書	浅田隆夫編『現代の保健体育』(学術図書出版) 配布プリント 担当者作成資料						
その他特記事項	天候により変更の場合は掲示します。 スポーツウェア・スポーツシューズを着用						

基礎科目（異）

科目名	キリスト教文化入門			担当者名	輪講（小林）		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	西洋文化に与えたキリスト教の影響を多角的に学び、異文化に開く対話的姿勢を学ぶ。また、個人的に興味を持った項目を小論文の形にまとめた上で発表することで、他者と意見を共有することができるようになる。						
授業の概要	複数講師による輪講形式をとり、広範囲の領域に及ぶキリスト教の影響を知ることができる。						
準備学習の内容	毎回の授業のための予習は要求しないが、小論文作成と発表のための準備には、学期当初から積極的に取り組む必要がある。						
各回の授業内容	1 キリスト教と世界 2 旧約聖書 その1 3 旧約聖書 その2 4 新約聖書 その1 5 新約聖書 その2 6* マリア論 7 キリスト教と美術 その1 8 フランシスコ・ザビエルと上智の関連 9 キリスト教と美術 その2 10 イエズス会の教育とイグナチオの霊操 11 キリスト教と経済 その1 12 キリスト教と音楽 その1 13 キリスト教と経済 その2 14 キリスト教と音楽 その2 15 キリスト教と倫理 その1 16 キリスト教文化への修道院の貢献 17 キリスト教と倫理 その2 18 キリスト教と哲学 その1 19 キリスト教と哲学 その2 20* キリスト教と仏教 その1 21 キリスト教と仏教 その2 22 キリスト教と紛争 その1 23 キリスト教と紛争 その2 24 時代の必要に応えた人びと 1 アッシジの聖フランシスコ 25* 時代の必要に応えた人びと 2 マザー・テレサ 26 研究発表 その1 27 研究発表 その2 28 研究発表 その3 *【教職員間授業公開日：10/5（金）、12/21（金）】						
評価方法	出席（30%）、リアクションペーパー（30%）、小論文（30%）、研究発表（10%）						
テキスト	毎回 各講師がプリントを配布						
参考書	初回に、各講師が推薦する参考文献を一覧表の形で配布する						
その他特記事項	講師の希望で、授業の順番・内容に変更が生ずる可能性がある						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	キリスト教における信仰理解が文化の歴史的展開に与えた影響を学ぶことで、ボランティア活動を通して出会う、異文化理解の視点と尊重の態度を学ぶ。				

基礎科目（異）、専門科目（言）

科目名	異文化間コミュニケーション			担当者名	C. Oliver		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	Students will learn to understand “intercultural communication” (ICC) using concepts and perspectives coming from linguistics, social psychology, and anthropology; to describe and analyze their own experiences of ICC; and to think critically about ICC as a problem in modern societies.						
授業の概要	Readings and lectures will cover basic definitions, concepts, and issues related to intercultural communication. Students will keep a record of their own intercultural communication experiences. We will also carry out one lengthy intercultural simulation. All class work will be in English.						
準備学習の内容	Students should read the assigned pages in the textbook, review their lecture notes, and complete all homework assignments. Reading time will depend on each student, but preparation time will likely take 60-90 minutes per class.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Course overview 2 Defining intercultural communication 3 “Culture” in intercultural communication 4 Features of human communication 5 Features of human communication 6 Communication and language 7 Communication and language 8 Non-verbal communication 9 Non-verbal communication 10 Edward T. Hall: the first interculturalist 11 Stereotypes 12 Stereotypes 13 Values 14 Values 15 Culture shock 16 Communication “events” 17 Communication “events” 18 Intercultural training 19 Intercultural training and intercultural simulations 20* Intercultural simulation: do in class 21 Intercultural simulation: follow-up discussion 22* Historical, social, and political contexts of intercultural communication 23 Historical, social, and political contexts of intercultural communication 24 Historical, social, and political contexts of intercultural communication 25 Power and inequality in communication 26 Practical implications of the study of intercultural communication 27 Paths toward better knowledge and understanding of others 28 Review <p>*【教職員間授業公開日：6/25（月）、7/2（月）】</p>						
評価方法	Attendance and participation (15%), final exam (40%), all other assignments, quizzes, etc. (45%).						
テキスト	Hidasi Judit, <i>Intercultural Communication: An Outline</i> (三元社)						
参考書	古田暁監修『異文化コミュニケーション・キーワード』（有斐閣）						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	“Intercultural communication” may be an important aspect of some students’ volunteer activities. Students are welcome to reflect upon and use their service-learning experiences in homework assignments.				

基礎科目（文）

科目名	英文学概論			担当者名	飯田 純也		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	この概論は、文学を通して、学生が現実を相対的に、そして同時に普遍的に考える訓練の場を提供する。学生はこの訓練を通して、ますます激化するイデオロギー対立の中で、安易に政治的にならず、問題を常に巨視的、段階的に考える能力を身につける。						
授業の概要	英語圏の近代文学を研究する上で重要と思われる作品を取り上げ、人間の心理、社会の思想に注目しながら、男性対女性、文化の衝突、引裂かれた社会等の討論を通して、理解と分析を深める。文学作品に基づいたDVDを多く観てきてもらう。						
準備学習の内容	毎週DVDを指示するので、各自事前に観てくること。話の内容を押さえたら、もう一度メモを取りながら観てほしい。1回の授業に2～3時間の準備学習が必要になる。						
各回の授業内容	<p>1 授業紹介: 文学ジャンル</p> <p>2-4 物語論: エンディングは問題提起 (<i>Citizen Kane, Black Orpheus, A Man and a Woman</i>)</p> <p>5-7* パラブル <i>Romeo and Juliet / Tristan and Isolde</i></p> <p>8 作品研究 <i>Jane Eyre</i></p> <p>9 作品研究 討論</p> <p>10 作品研究 <i>A Passage to India</i></p> <p>11 作品研究 討論</p> <p>12 作品研究 <i>Vanity Fair</i></p> <p>13 作品研究 討論</p> <p>14 作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i></p> <p>15 作品研究 討論</p> <p>16-18 作家研究 Charles Dickens: <i>David Copperfield / Nicholas Nickleby / Oliver Twist</i></p> <p>19-22 作家研究 Jane Austen: <i>Sense and Sensibility / Pride and Prejudice / Mansfield Park</i></p> <p>23-26 テーマ研究 <i>The Scarlet Letter / The Great Gatsby</i></p> <p>27-28 論文指導</p> <p>授業内容及び日程の変更あり。</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/8（火）、5/11（金）】</p>						
評価方法	出席を前提とした上で、評価はリアクションペーパーが（10%）、レポートが（90%）、発表がある場合は、発表が（30%）、レポートが（60%）とする。						
テキスト	随時プリントを配布する。						
参考書	E. M. Forster, <i>The Aspects of the Novel</i> (Penguin Books)						
その他特記事項	授業内容の性質上、授業時の情報量が多くなるので、準備学習の段階から作品の情報をノートに整理しておくこと。						

基礎科目（文）

科目名	英文学概論			担当者名	平野 幸治		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	学期末に、文学、特に英語圏の文学を研究する上で重要と思われる作品や作家および文学研究で必要と思われる基礎知識、keywords や考え方が身に付き、文学研究を目的としたゼミで有用なスキルを獲得できる。						
授業の概要	前半はジャンルを切り口に詩、劇、小説を取り上げ、特に物語（narrative）の視点からパラブルや内的独白（internal monologue）を、後半は「個人と社会」を切り口に伝統、文化、風俗、歴史の持つ意味や影響を考察する。指示した DVD を見てディスカッションや発表を行い、一方通行ではない授業を展開する。						
準備学習の内容	事前に授業外で DVD を見ながらメモを取る作業を習慣化するのに学生によって個人差がある。指示された DVD によっても異なるが、約 2 時間から 2 時間半を要する準備学習を期待する。						
各回の授業内容	1 授業紹介 2-6 文学ジャンルと物語論 7-8* パラブル <i>Romeo and Juliet / Tristan and Isolde</i> 9 作品研究 <i>Jane Eyre</i> 10 作品研究・ディスカッション 11 作品研究 <i>A Passage to India</i> 12 作品研究・ディスカッション 13 作品研究 <i>Vanity Fair</i> 14 作品研究・ディスカッション 15 作品研究 <i>Tess of the d'Urberville</i> 16 作品研究・ディスカッション 17-19* 作家研究 Charles Dickens: <i>David Copperfield / Nicholas Nickleby / Oliver Twist</i> 20-22 作家研究 Jane Austen: <i>Sense and Sensibility / Pride and Prejudice / Mansfield Park</i> 23-26 テーマ研究 <i>The Scarlet Letter / The Great Gatsby</i> 27-28 論文指導 *【教職員間授業公開日：10/12（金）、11/23（金）】						
評価方法	出席を前提とした上で、評価はリアクションペーパーが（10%）、レポートが（90%）、あるいは発表がある場合は、発表が（30%）、レポートが（60%）とする。						
テキスト	毎回プリントを配布する。						
参考書	E. M. Forster, <i>The Aspects of the Novel</i> (Penguin Books)						
その他特記事項	春学期に開講されている授業とほぼ同じ内容を目指している。文学研究を目的としたゼミが本学には複数あり、そこで共通理解となる知識や技術を獲得できるよう配慮しているからである。						

基礎科目（言）

科目名	言語学概論			担当者名	神谷 雅仁		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	本講を通じて学生は音声、語形成、文構造、文の意味、発話の意味といった基本的な「言語の構造」について学ぶ。また英語の歴史やことばのバリエーション、コミュニケーションと文化の接点や言語習得に関しても、その基本的概念・理論の理解を深めていくことになる。学生は自らの母語である日本語や学習言語である英語が単なる意思疎通のための道具だけではなく、人間にとってより本質的な、そして思考の形成に不可欠な要素であるという言語観に触れることになる。						
授業の概要	普段、何気なく使っている「ことば」を客観的に見て、分析することでその本質を探るのが「言語学」という学問である。授業はテキストとそれをまとめたプリントを中心に講義形式で進められ、理解促進のため單元ごとに練習問題も扱う。						
準備学習の内容	授業に対する準備としてはテキストに関する読みの予習、および既習内容の復習が大きな柱となる。テキストは日本語で書かれているため比較的読みやすいが、單元によっては多くの章が関連してくるため、しっかりと時間をかけて読み、理解する必要がある。また、難解な概念や用語に関しては、講義やテキストの読解に加え、自ら他の言語学の関連本や言語学事典などを参照し、理解を深めていくことが求められる。						
各回の授業内容	1 言語学とは（第2章） 2 ことばとは（第1-2章） 3 英語の歴史—英語の始まりと発展—（第3-7章） 4 英語の歴史—英語の広がり—（第3-7章） 5 音声学・音韻論 [音の構造]（第8-9章） 6 音声学・音韻論 [音の構造]（第8-9章） 7* 音声学・音韻論 [音の構造]（第8-9章） 8 形態論 [語構造・語形成]（第10章） 9 形態論 [語構造・語形成]（第10章） 10 形態論 [語構造・語形成]（第10章） 11 統語論 [句構造・文構造]（第11-12章） 12 統語論 [句構造・文構造]（第11-12章） 13 前半のまとめ・中間試験準備 14 中間試験 15 統語論 [句構造・文構造]（第11-12章） 16 統語論 [句構造・文構造]（第11-12章） 17 意味論 [語の意味・文の意味]（第13-16章） 18* 意味論 [語の意味・文の意味]（第13-16章） 19 語用論 [談話の構造・意味]（第17-20章） 20 語用論 [談話の構造・意味]（第17-20章） 21 コミュニケーション論（第21章） 22 ことばと文化（第22章） 23 社会言語学 [言語のバリエーション]（第23-24章） 24 社会言語学 [言語のバリエーション]（第23-24章） 25 応用言語学 [言語習得]（第25章） 26 応用言語学 [言語習得]（第25章） 27 応用言語学 [言語習得]（第25章） 28 まとめ *【教職員間授業公開日：5/10（木）、6/18（月）】						
評価方法	試験（70%：中間・期末各35%）、ブックレポート（20%）、出席・授業参加度・提出物（10%）						
テキスト	長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』（研究社）						
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』（講談社現代新書） 大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房）						
その他特記事項	この科目は言語研究コースを修了するための必修科目である。また、言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	言語学概論で扱う一部に関して（語用論、コミュニケーション論、ことばと文化、社会言語学、応用言語学など）、日本語教育および英語教育ボランティアを行っている学生が活動体験を通して言語使用に関してどのような「気づき」があったかを他の学生と共有してもらい、授業で扱った項目との関連性を考察する。				

基礎科目（言）

科目名	言語学概論			担当者名	近藤 佐智子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	本講を通じて学生は音声、語形成、文構造、文の意味、発話の意味といった基本的な「言語の構造」について学ぶ。また英語の歴史やことばのバリエーション、コミュニケーションと文化の接点や言語習得に関しても、その基本的概念・理論の理解を深めていくことになる。学生は自らの母語である日本語や学習言語である英語が単なる意思疎通のための道具だけではなく、人間にとってより本質的な、そして思考の形成に不可欠な要素であるという言語観に触れることになる。						
授業の概要	普段、何気なく使っている「ことば」を客観的に見て、分析することでその本質を探るのが「言語学」という学問である。授業はテキストとそれをまとめたプリントを中心に講義形式で進められ、理解促進のため單元ごとに練習問題も扱う。						
準備学習の内容	授業に対する準備としてはテキストに関する読みの予習、および既習内容の復習が大きな柱となる。テキストは日本語で書かれているため比較的読みやすいが、單元によっては多くの章が関連してくるため、しっかりと時間をかけて読み、理解する必要がある。また、難解な概念や用語に関しては、講義やテキストの読解に加え、自ら他の言語学の関連本や言語学事典などを参照し、理解を深めていくことが求められる。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 言語学とは（第2章） 2 ことばとは（第1-2章） 3 英語の歴史—英語の始まりと発展—（第3-7章） 4 英語の歴史—英語の広がり—（第3-7章） 5 音声学・音韻論 [音の構造]（第8-9章） 6 音声学・音韻論 [音の構造]（第8-9章） 7 音声学・音韻論 [音の構造]（第8-9章） 8 形態論 [語構造・語形成]（第10章） 9 形態論 [語構造・語形成]（第10章） 10* 形態論 [語構造・語形成]（第10章） 11 統語論 [句構造・文構造]（第11-12章） 12 統語論 [句構造・文構造]（第11-12章） 13 前半のまとめ・中間試験準備 14 中間試験 15 統語論 [句構造・文構造]（第11-12章） 16 統語論 [句構造・文構造]（第11-12章） 17 意味論 [語の意味・文の意味]（第13-16章） 18 意味論 [語の意味・文の意味]（第13-16章） 19 語用論 [談話の構造・意味]（第17-20章） 20* 語用論 [談話の構造・意味]（第17-20章） 21 コミュニケーション論（第21章） 22 ことばと文化（第22章） 23 社会言語学 [言語のバリエーション]（第23-24章） 24 社会言語学 [言語のバリエーション]（第23-24章） 25 応用言語学 [言語習得]（第25章） 26 応用言語学 [言語習得]（第25章） 27 応用言語学 [言語習得]（第25章） 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：10/22（月）、11/29（木）】</p>						
評価方法	試験（70%：中間・期末各35%）、ブックレポート（20%）、出席・授業参加度・提出物（10%）						
テキスト	長谷川瑞穂編著『はじめての英語学』（研究社）						
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』（講談社現代新書） 大津由紀雄『探検！ことばの世界』（ひつじ書房）						
その他特記事項	この科目は言語研究コースを修了するための必修科目である。また、言語系のゼミ受講への基礎知識を与えるものである。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	言語学概論で扱う一部に関して（語用論、コミュニケーション論、ことばと文化、社会言語学、応用言語学など）、日本語教育および英語教育ボランティアを行っている学生が活動体験を通して言語使用に関してどのような「気づき」があったかを他の学生と共有してもらい、授業で扱った項目との関連性を考察する。				

基礎科目（教）

科目名	児童英語教育概説			担当者名	狩野 晶子		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	児童英語教育の基本的な背景知識と英語教育・言語習得理論の基礎知識について学ぶ。						
授業の概要	児童英語教育に関心のある者に向け児童心理学，言語習得論，教育学，英語教授法など多岐にわたる分野に関する内容を扱う。講義，学生による発表，指導実践						
準備学習の内容	テキストを読み，理解したうえで授業に臨み，テキストの復習と実践練習も行う。発表担当の際は発表準備とレジュメ作成を行う。一日1時間以上の主体的な学習が望まれる。						
各回の授業内容	1 児童英語教育が目指すもの 2 従来の英語教育を概観する 3 外国語習得における年齢別特徴と教授法 4 児童英語教育の基本知識 5 英語教育，第二言語習得研究におけるコミュニケーション能力 6 国際コミュニケーション能力を育てる 7 理論と実践：communication activities 8 理論と実践：information gap tasks 9 理論と実践：nursery rhymes 10 理論と実践：picture books 11 理論と実践：songs 12* 理論と実践：chants 13 理論と実践：TPR 14 理論と実践：phonics 15 理論と実践：creative writing 16 理論と実践：active reading 17 理論と実践：シラバスとカリキュラム 18 理論と実践：児童英語教育における文法・文型事項 19 理論と実践：評価 20 振り返り・発表準備 21* 発表：モデルレッシンプラン（1）・相互評価・講評 22 発表：モデルレッシンプラン（2）・相互評価・講評 23 発表：モデルレッシンプラン（3）・相互評価・講評 24 発表：モデルレッシンプラン（4）・相互評価・講評 25 発表：モデルレッシンプラン（5）・相互評価・講評 26 発表：モデルレッシンプラン（6）・相互評価・講評 27 発表：モデルレッシンプラン（7）・相互評価・講評 28 まとめ *【教職員間授業公開日：5/28（月），6/28（木）】						
評価方法	出席・授業参加・実践発表（30%），小課題・リアクションペーパー（10%），モデルレッシンプラン発表（30%），期末課題（30%）						
テキスト	中本幹子『実践家からの児童英語教育法・解説編』（アプリコット社）						
参考書	鈴木孝夫『日本人はなぜ英語ができないか』（岩波新書） 白井恭弘『外国語学習に成功する人，しない人』（岩波書店）						
その他特記事項	・この科目を履修し修了していることが児童英語教育演習 A・B の履修条件となる。 ・この授業を取る者は積極的にサービ斯拉ーニング活動に参加し，理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。						
サービ斯拉ーニング関連度	A	サービ斯拉ーニング関連内容	英語教育ボランティア活動のベースとなる専門知識を得るとともに児童英語教育の概観を知ることが，実際のボランティア活動を行うに当たっての助けとなるものである。				

基礎科目（教）

科目名	日本語教育概論			担当者名	樋口 万喜子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	外国語としての日本語の教え方について、基本を学ぶことと、学習者の日本語に慣れ相手の日本語に合わせてコミュニケーションが図れるようになる。また、サービスラーニングの日本語支援活動で遭遇する問題を解決できるようになる。						
授業の概要	日本語を教える方法について、教材の選び方、レッスンプランのたてかた等を具体的に学ぶ。学期末にグループに分かれて模擬授業を行う。						
準備学習の内容	授業の前に教科書に目を通しておく。毎回 40 分程度。模擬授業の準備の際は週に数時間の準備を要する。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本語教育の歴史と現状 2 言語と社会の関係 3 異文化間教育・日本語教育におけるコミュニケーション教育 4* 言語接触とアイデンティティ 5 言語習得・発達 (1) 6 言語習得・発達 (2) 7 読むことを教える (1) 8 読むことを教える (2) 9 書くことを教える (1) 10 書くことを教える (2) 11 話すことを教える (1) 12 話すことを教える (2) 13 聞くことを教える 14 教材・教具作成 (1) 15 日本事情・日本文化を教える (1) 16 日本事情・日本文化を教える (2) 17 教材・教具 発表 (2) 18 教科書分析 (1) 19* 教科書分析 (2) 20 教科書分析 (3) 21 教科書分析 (4) 22 レッスンプラン作成方法 (1) 23 レッスンプラン作成方法 (2) 24 レッスンプラン作成方法 (3) 25 レッスンプラン作成方法 (4) 26 模擬授業 (1) 27 模擬授業 (2) 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：10/1（月）、11/19（月）】</p>						
評価方法	出席 (30%)、作成教材評価 (10%)、模擬授業 (30%) レポート (30%)						
テキスト	水谷信子著『日本語教育概論』（放送大学教育振興会）						
参考書	坂野他『初級日本語 げんき An integrated course in elementary Japanese I』（ジャパントイムス）						
その他特記事項	日本語教育演習（春）を履修するには、この授業を1年秋に履修する必要がある。授業外で全員サービスラーニング活動を行う。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	授業で学んだことがらを日本語支援の場で直接役立てることが可能であると同時に、サービスラーニングでの学びを授業で他の学生と共有する。				

基礎科目

科目名	ドイツ語 I			担当者名	工藤 花野		
開講期	春/秋	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	日常のさまざまな場面をモデルにした、聞く・話す・読む・書く技能をバランスよく学ぶことで、学生はドイツ語の読み方・発音方法と基本的な文法的操作を身につけます。						
授業の概要	CD 等でドイツ語の発音を確認した後（聞く）、ペアで対話練習をし（話す）、テキスト中の練習問題を一緒に解きます（読む）。授業で理解した知識を元に、各自の課題をこなします（書く）。						
準備学習の内容	予習の指示は特にないが、毎回授業の復習を兼ねた宿題（筆記）を出します。教科書に沿った内容で、所要時間は 10 分～30 分程度です。						
各回の授業内容	<p>1 導入：ドイツ語の発音・アルファベット・基本の挨拶</p> <p>2-5 1 課：人と知り合う 挨拶・名前・出身・住まい・言語・専攻・メール (人称代名詞 1・規則動詞の現在人称変化・疑問文・語順 1)</p> <p>6-9* 2 課：自由時間 趣味・年齢・住所・電話番号・綴り・職業 (人称代名詞 2・不規則動詞の現在人称変化)</p> <p>10-14 3 課：一日の行動 時間表現・日常の行動・週間予定・電話で約束 (分離動詞・語順 2・話法の助動詞)</p> <p>15-16 1-3 課のまとめ：筆記試験・会話試験</p> <p>17-22 4 課：食事 食べ物と飲み物・食習慣・レストランでの注文と支払い (名詞の性と格・定冠詞・不定冠詞・否定冠詞)</p> <p>23-27 5 課：住まい 家や部屋の様子・場所の表現 (不定冠詞・定冠詞・所有冠詞・名詞の複数形・場所の前置詞)</p> <p>28 4-5 課のまとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/7（月）、5/10（木）、10/8（月）、10/11（木）】</p>						
評価方法	出席・授業参加（25%）、宿題・課題（25%）、中間・期末試験（50%）						
テキスト	藤原三枝子他『CD 付き スタート！—コミュニケーション活動で学ぶドイツ語—』（三修社）						
参考書	斉藤佑史著／荒木詳二『若草のドイツ語文法』（三修社） [教科書にない文法事項が簡潔にまとまっています。必須ではありません。]						
その他特記事項	ペアワーク・グループワークが多いので、積極的な参加が望ましい。 授業の復習と各自の宿題（提出）は毎回必ずやってくることを。						

基礎科目

科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者名	工藤 花野		
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	ドイツ語Ⅰに引き続き、日常の様々な場面での表現方法を学びながら、新たな文法的な要素をしっかりと押さえ、語彙力を上げることで、学生はドイツ語の基礎力を完成します。						
授業の概要	CD等でドイツ語の発音を確認した後（聞く）、ペアで対話練習をし（話す）、テキスト中の練習問題を一緒に解きます（読む）。授業で理解した知識を元に、各自の課題をこなします（書く）。						
準備学習の内容	予習の指示は特にないが、毎回授業の復習を兼ねた宿題（筆記）を出します。教科書に沿った内容で、所要時間は内容によって10分～30分程度です。						
各回の授業内容	<p>1-2 導入：ドイツ語Ⅰ（～5課）の復習 （現在人称変化・数字・話法の助動詞・名詞／冠詞類・前置詞を中心に）</p> <p>3-8* 6課：買い物 店や商品の種類・店員との会話・広告の理解・依頼に関するやりとり 1・営業時間の理解 （序数・指示代名詞主格／目的格・命令形・人称代名詞目的格）</p> <p>9-14 7課：家族 家族の紹介・前後左右の位置関係・招待に関するやりとり・贈り物についての相談・統計の読み方・指示表現の理解 （所有冠詞2・人称代名詞主格／目的格／与格・命令形2）</p> <p>15-16 6-7課のまとめ：筆記試験・会話試験</p> <p>17-21 8課：旅行 休暇先と活動についての計画・宿泊リストへの記入・宿泊先の利用案内の理解・依頼に関するやりとり2・観光局への問い合わせメールの書き方 （場所を表す前置詞・話法の助動詞 dürfen とまとめ）</p> <p>22-27 9課：街角で 過去の説明・道を尋ねる・切符の買い方・駅の案内を理解する・旅先からのメール （現在完了・過去分詞）</p> <p>28 8-9課のまとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/7（月）、5/10（木）】</p>						
評価方法	出席・授業参加（25%）、宿題・課題（25%）、中間・期末試験（50%）						
テキスト	藤原三枝子他『CD付き スタート！—コミュニケーション活動で学ぶドイツ語—』（三修社）[ドイツ語Ⅰで使用した教科書の後半を使います。]						
参考書	斉藤佑史著／荒木詳二『若草のドイツ語文法』（三修社） [教科書にない文法事項が簡潔にまとまっています。必須ではありません。]						
その他特記事項	履修はドイツ語Ⅰ既習者かそれに相当する者に限ります。 引き続き、積極的なペアワーク・グループワーク・課題提出を期待します。						

基礎科目

科目名	フランス語 I			担当者名	横田 千晶		
開講期	春/秋	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	綴り字と発音の法則を覚えてフランス語を正しく読めるようにします。会話表現を通して文法を理解し、基本的な表現や単語を身につけることを目指します。フランス語で自分について話したり、相手にたずねたりできるようにします。						
授業の概要	綴り字と発音の基礎から学びます。会話表現を通して文法事項を理解・運用します。そのため二人組の対話練習も多く行います。前回の復習を兼ねた小テストで学習を定着させます。折に触れてフランスの文化や社会についてのビデオも見ます。						
準備学習の内容	前回の復習と課題（宿題および小テスト勉強）に、毎回 30 分程度の学習が望まれます。						
各回の授業内容	<p>1 アルファベ、発音と綴り字 1, 簡単な自己紹介</p> <p>2 発音と綴り字 2, 数字 (1~10) と買い物</p> <p>3 発音と綴り字 3, 数字 (11~20), 挨拶の表現</p> <p>4 Leçon 1 動詞 être</p> <p>5 名詞の性・数</p> <p>6* 国籍・職業を言う</p> <p>7 名前を言う</p> <p>8 Leçon 2 er 動詞</p> <p>9 住んでいるところ, 話せる言語</p> <p>10 否定形</p> <p>11 定冠詞, 学んでいること</p> <p>12 Leçon 3 動詞 avoir</p> <p>13 不定冠詞, 家族・年齢を言う</p> <p>14 好みを言う</p> <p>15 中間テスト</p> <p>16 Leçon 4 部分冠詞, ~がある</p> <p>17 動詞 boire, prendre</p> <p>18 食べる・飲む, 食べ物の名</p> <p>19 たずねる「何?」「いくつ?」</p> <p>20* Leçon 5 形容詞, 人・物を描写する</p> <p>21 たずねる「誰?」「どんな?」</p> <p>22 所有形容詞</p> <p>23 物を描写する, 物の名</p> <p>24 Leçon 6 動詞 aller, ~に行く</p> <p>25 定冠詞の縮約形, 国名と国名につく前置詞</p> <p>26 動詞 venir, ~と来る, 数字 30~60</p> <p>27 いろいろな疑問文</p> <p>28 まとめと復習</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/7（月）、6/25（月）、10/8（月）、11/29（木）】</p>						
評価方法	出席+小テスト（10%）、中間テスト（45%）、期末テスト（45%）						
テキスト	田辺保子他『やさしいサリュ』（駿河台出版社） 上記教科書とともに授業時に配布するプリントを使用します。						
参考書							
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	フランス語はフランス本国だけでなく、近隣のヨーロッパ諸国やカナダ、北アフリカなどで話されているため、それらの国の人たちとフランス語でコミュニケーションがとれます。				

基礎科目

科目名	フランス語Ⅱ			担当者名	横田 千晶		
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	フランス語Ⅰで学んだ基本事項を定着させながら、より発展した文法を学び、応用力をつけることが目標です。フランス語で自分の行動や予定を話したり、買い物や食事などの日常的な場面での会話ができるようにします。						
授業の概要	綴り字と発音の基礎から学びます。会話表現を通して文法事項を理解・運用します。そのため二人組の対話練習も多く行います。前回の復習を兼ねた小テストで学習を定着させます。折に触れてフランスの文化や社会についてのビデオも見ます。						
準備学習の内容	前回の復習と課題（宿題および小テスト勉強）に、毎回30分程度の学習が望まれます。						
各回の授業内容	1 ヴィデオで学ぶ① 人について語る（前学期の復習） 2 動詞：er 動詞 / être / avoir / faire 3 国籍・職業・年齢，名詞・形容詞の性・数，否定形，数字20～100 4 ヴィデオで学ぶ② 飲み物についてのインタビュー 5 動詞：boire / prendre 冠詞のまとめ 6* 中性代名詞 en 7 Leçon 6 動詞：aller / venir 前置詞，場所の名 8 いろいろな疑問文 9 Leçon 7 時刻の表現 10 疑問形容詞 11 ir 動詞 12 Leçon 8 近接未来・近接過去 13 動詞：vouloir / pouvoir / sortir (partir, dormir) 14 身体の名称，理由をたずねる 15 ヴィデオで学ぶ③ 買い物をする 16 指示形容詞，服飾品の単語，色の名 17 直接目的語・間接目的語 18 Leçon 9 代名動詞 19 時の表現 20* 天気表現 21 Leçon 10 場所の表現 22 道を尋ねる，命令形 23 動詞 devoir，序数 24 Leçon 11 avoir をとる複合過去形 25 être をとる複合過去形 26 過去の否定形 27 さまざまな否定表現 28 まとめと復習 *【教職員間授業公開日：5/7（月），6/25（月）】						
評価方法	出席＋小テスト（50%），期末テスト（50%）						
テキスト	田辺保子他『やさしいサリュ』（駿河台出版社） 上記教科書とともに授業時に配布するプリントを使用します。						
参考書							
その他特記事項	履修はフランス語Ⅰ既修者かそれに相当する者に限ります。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	フランス語はフランス本国だけでなく、近隣のヨーロッパ諸国やカナダ、北アフリカなどで話されているため、それらの国の人たちとフランス語でコミュニケーションがとれます。				

基礎科目

科目名	スペイン語 I			担当者名	A. Yáñez																																																																																						
開講期	春/秋	分類	選択	単位	2	年次	1・2年																																																																																				
授業の目標	正しい発音とイントネーションを学びスペイン語の基礎文法を少しずつ理解できるようになります。簡単な会話やあいさつ、自己紹介などが身につきます。文化や習慣、スペインの各地方の名所や旧跡が学べます。																																																																																										
授業の概要	授業の始めに小テストをしてから前回の復習をします。テキストとプリントで進め言葉の背景になっているスペインの文化や習慣について理解していきます。																																																																																										
準備学習の内容	授業の重要なポイントは次の授業で小テストをします。また復習のため宿題を出します。(約 30 分)																																																																																										
各回の授業内容	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>アルファベットと自己紹介</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>発音の練習</td> <td>授業でよく使われる表現</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発音の練習</td> <td>あいさつ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>名詞の性と数</td> <td>あいさつ (2) 数字 (1)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>名詞の性と数</td> <td>数字 (2)</td> </tr> <tr> <td>6*</td> <td>定冠詞, 不定冠詞</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>人称代名詞と国名</td> <td>カフェテリアにおいて</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>“ser” 動詞の活用と使い方</td> <td>国籍</td> </tr> <tr> <td>9*</td> <td>“ser” 動詞の活用と使い方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>疑問文と否定文</td> <td>職業</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>“estar” 動詞の活用と使い方</td> <td>人, 物, 場所の紹介</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>“hay” 動詞の使い方, 疑問詞 (1)</td> <td>人, 物, 場所の紹介</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場所表わす前置詞</td> <td>よく使われる表現 (2)</td> </tr> <tr> <td>14*</td> <td>形容詞</td> <td>時間表現 (1)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>疑問詞 (2)</td> <td>時間表現 (2)</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>まとめ</td> <td>パソコンでスペイン語を入力</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>規則動詞の説明, “ar” 動詞の活用</td> <td>職業の紹介</td> </tr> <tr> <td>18*</td> <td>前置詞, “ar” 動詞</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>所有形容詞</td> <td>家族の紹介</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>“er”, “ir” 動詞活用と使い方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>指示形容詞</td> <td>スペイン語で自己紹介 (1)</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>練習と質問</td> <td>スペイン語で自己紹介 (2)</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>直接法現在の不規則動詞 (1)</td> <td>スペイン語で自己紹介 (3)</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>直接法現在の不規則動詞 (2)</td> <td>色の紹介, 日付について</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>直接法現在の不規則動詞 (3)</td> <td>月, 季節</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>目的語代名詞</td> <td>天候</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>不定詞表現</td> <td>予定について</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>*【教職員間授業公開日：5/7 (月), 5/17 (木), 11/8 (木), 11/22 (木)】</p>							1	アルファベットと自己紹介		2	発音の練習	授業でよく使われる表現	3	発音の練習	あいさつ	4	名詞の性と数	あいさつ (2) 数字 (1)	5	名詞の性と数	数字 (2)	6*	定冠詞, 不定冠詞		7	人称代名詞と国名	カフェテリアにおいて	8	“ser” 動詞の活用と使い方	国籍	9*	“ser” 動詞の活用と使い方		10	疑問文と否定文	職業	11	“estar” 動詞の活用と使い方	人, 物, 場所の紹介	12	“hay” 動詞の使い方, 疑問詞 (1)	人, 物, 場所の紹介	13	場所表わす前置詞	よく使われる表現 (2)	14*	形容詞	時間表現 (1)	15	疑問詞 (2)	時間表現 (2)	16	まとめ	パソコンでスペイン語を入力	17	規則動詞の説明, “ar” 動詞の活用	職業の紹介	18*	前置詞, “ar” 動詞		19	所有形容詞	家族の紹介	20	“er”, “ir” 動詞活用と使い方		21	指示形容詞	スペイン語で自己紹介 (1)	22	練習と質問	スペイン語で自己紹介 (2)	23	直接法現在の不規則動詞 (1)	スペイン語で自己紹介 (3)	24	直接法現在の不規則動詞 (2)	色の紹介, 日付について	25	直接法現在の不規則動詞 (3)	月, 季節	26	目的語代名詞	天候	27	不定詞表現	予定について	28	まとめ	
1	アルファベットと自己紹介																																																																																										
2	発音の練習	授業でよく使われる表現																																																																																									
3	発音の練習	あいさつ																																																																																									
4	名詞の性と数	あいさつ (2) 数字 (1)																																																																																									
5	名詞の性と数	数字 (2)																																																																																									
6*	定冠詞, 不定冠詞																																																																																										
7	人称代名詞と国名	カフェテリアにおいて																																																																																									
8	“ser” 動詞の活用と使い方	国籍																																																																																									
9*	“ser” 動詞の活用と使い方																																																																																										
10	疑問文と否定文	職業																																																																																									
11	“estar” 動詞の活用と使い方	人, 物, 場所の紹介																																																																																									
12	“hay” 動詞の使い方, 疑問詞 (1)	人, 物, 場所の紹介																																																																																									
13	場所表わす前置詞	よく使われる表現 (2)																																																																																									
14*	形容詞	時間表現 (1)																																																																																									
15	疑問詞 (2)	時間表現 (2)																																																																																									
16	まとめ	パソコンでスペイン語を入力																																																																																									
17	規則動詞の説明, “ar” 動詞の活用	職業の紹介																																																																																									
18*	前置詞, “ar” 動詞																																																																																										
19	所有形容詞	家族の紹介																																																																																									
20	“er”, “ir” 動詞活用と使い方																																																																																										
21	指示形容詞	スペイン語で自己紹介 (1)																																																																																									
22	練習と質問	スペイン語で自己紹介 (2)																																																																																									
23	直接法現在の不規則動詞 (1)	スペイン語で自己紹介 (3)																																																																																									
24	直接法現在の不規則動詞 (2)	色の紹介, 日付について																																																																																									
25	直接法現在の不規則動詞 (3)	月, 季節																																																																																									
26	目的語代名詞	天候																																																																																									
27	不定詞表現	予定について																																																																																									
28	まとめ																																																																																										
評価方法	テスト (70%), 提出物 (20%), 出席 (5%), 授業の積極性 (5%)																																																																																										
テキスト	Eugenio del Prado・斎藤華子・仲道慎治『スペイン語でスケッチ』(第三書房)																																																																																										
参考書	『スペイン語文法と実践』(朝日出版)																																																																																										
その他特記事項	毎回の復習と練習問題をやることによって成果があがりますから、必ずやることです。																																																																																										

基礎科目

科目名	スペイン語Ⅱ			担当者名	A. Yáñez																																																																																						
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1・2年																																																																																				
授業の目標	日常生活で使われる会話力を養うための学習をします。ここではさらに文法や単語が増えていきますが、それを学習することにより、いろいろな場面で上手に自分の言いたいことが表現できるようになります。																																																																																										
授業の概要	スペイン語Ⅰの復習をしながら理解度を高めていきます。必要に応じて作文や簡単な会話、練習問題などを行っていきます。																																																																																										
準備学習の内容	授業の重要なポイントは次の授業で小テストをします。また復習のため宿題を出します。(約30分)																																																																																										
各回の授業内容	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>スペイン語Ⅰの復習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>スペイン語Ⅰの復習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>直接法現在の不規則動詞(1), 不定詞表現(1)</td> <td>何時に始まるのか?</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>疑問詞</td> <td>予定について</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>所有形容詞(後置形)</td> <td>洋服の買い物</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>直接法現在の不規則動詞(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7*</td> <td>不定詞表現(2)</td> <td>「～しなければならない」</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>感嘆文, 序数</td> <td>どこへ行って何をしたい?</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>直接目的格と間接目的格代名詞</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>間接目的格代名詞</td> <td>貸し借りの練習</td> </tr> <tr> <td>11*</td> <td>“Gustar”動詞</td> <td>「～が好きです」</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>“Gustar”形の動詞</td> <td>スポーツ, 食べ物</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>“Gustar”形の動詞</td> <td>スポーツ, 食べ物</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>再帰動詞の活用</td> <td>一日の行動</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>再帰動詞の使い方</td> <td>一日の行動</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>比較級, 最上級</td> <td>形容詞との練習</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>比較級, 最上級</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>現在完了の活用・過去分詞, 頻度の表現</td> <td>「～したことがある」</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>現在完了</td> <td>過去の出来事, 経験を話す</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>不定語と否定語</td> <td>過去の出来事, 経験を話す</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>直接法点過去の活用</td> <td>[～した, ～だった。]</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>直接法点過去不規則動詞</td> <td>昨日の行動</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>直接法点過去</td> <td>昨日の行動</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>直接法線過去の活用</td> <td>「～していた」</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>直接法線過去不規則動詞</td> <td>小さい時</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>点過去と線過去</td> <td>小さい時</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>点過去と線過去</td> <td>習慣</td> </tr> </table> <p>*【教職員間授業公開日：5/10(木), 5/24(木)】</p>							1	スペイン語Ⅰの復習		2	スペイン語Ⅰの復習		3	直接法現在の不規則動詞(1), 不定詞表現(1)	何時に始まるのか?	4	疑問詞	予定について	5	所有形容詞(後置形)	洋服の買い物	6	直接法現在の不規則動詞(2)		7*	不定詞表現(2)	「～しなければならない」	8	感嘆文, 序数	どこへ行って何をしたい?	9	直接目的格と間接目的格代名詞		10	間接目的格代名詞	貸し借りの練習	11*	“Gustar”動詞	「～が好きです」	12	“Gustar”形の動詞	スポーツ, 食べ物	13	“Gustar”形の動詞	スポーツ, 食べ物	14	再帰動詞の活用	一日の行動	15	再帰動詞の使い方	一日の行動	16	まとめ		17	比較級, 最上級	形容詞との練習	18	比較級, 最上級		19	現在完了の活用・過去分詞, 頻度の表現	「～したことがある」	20	現在完了	過去の出来事, 経験を話す	21	不定語と否定語	過去の出来事, 経験を話す	22	直接法点過去の活用	[～した, ～だった。]	23	直接法点過去不規則動詞	昨日の行動	24	直接法点過去	昨日の行動	25	直接法線過去の活用	「～していた」	26	直接法線過去不規則動詞	小さい時	27	点過去と線過去	小さい時	28	点過去と線過去	習慣
1	スペイン語Ⅰの復習																																																																																										
2	スペイン語Ⅰの復習																																																																																										
3	直接法現在の不規則動詞(1), 不定詞表現(1)	何時に始まるのか?																																																																																									
4	疑問詞	予定について																																																																																									
5	所有形容詞(後置形)	洋服の買い物																																																																																									
6	直接法現在の不規則動詞(2)																																																																																										
7*	不定詞表現(2)	「～しなければならない」																																																																																									
8	感嘆文, 序数	どこへ行って何をしたい?																																																																																									
9	直接目的格と間接目的格代名詞																																																																																										
10	間接目的格代名詞	貸し借りの練習																																																																																									
11*	“Gustar”動詞	「～が好きです」																																																																																									
12	“Gustar”形の動詞	スポーツ, 食べ物																																																																																									
13	“Gustar”形の動詞	スポーツ, 食べ物																																																																																									
14	再帰動詞の活用	一日の行動																																																																																									
15	再帰動詞の使い方	一日の行動																																																																																									
16	まとめ																																																																																										
17	比較級, 最上級	形容詞との練習																																																																																									
18	比較級, 最上級																																																																																										
19	現在完了の活用・過去分詞, 頻度の表現	「～したことがある」																																																																																									
20	現在完了	過去の出来事, 経験を話す																																																																																									
21	不定語と否定語	過去の出来事, 経験を話す																																																																																									
22	直接法点過去の活用	[～した, ～だった。]																																																																																									
23	直接法点過去不規則動詞	昨日の行動																																																																																									
24	直接法点過去	昨日の行動																																																																																									
25	直接法線過去の活用	「～していた」																																																																																									
26	直接法線過去不規則動詞	小さい時																																																																																									
27	点過去と線過去	小さい時																																																																																									
28	点過去と線過去	習慣																																																																																									
評価方法	テスト(70%), 提出物(20%), 出席(5%), 授業の積極性(5%)																																																																																										
テキスト	Eugenio del Prado・斎藤華子・仲道慎治『スペイン語でスケッチ』(第三書房)																																																																																										
参考書	『スペイン語文法と実践』(朝日出版)																																																																																										
その他特記事項	履修はスペイン語Ⅰ既習者かそれに相当する者に限ります。授業には積極的な参加を望みます。																																																																																										

基礎科目

科目名	中国語 I			担当者名	廣重 聖佐子		
開講期	春/秋	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	今年度は教科書の発音編と前編を使用し、中国語の学習に不可欠なピンインが読めるようになることと簡単な文法事項の習得を目指す。このために授業では音読練習を重視する。						
授業の概要	授業は各課を3回で終了する。1, 2時間めに単語, 文法, 本文解説と音読練習。3時間めにリスニングとドリルの答え合わせをする。その後音読テストを受けること。毎時間の提出物を出席にかえる。						
準備学習の内容	授業準備として文法事項単語等を予習する。(30分程度) 2時間め終了時に練習問題を宿題とする。(1時間程度) 音読練習。(各自に任せる)						
各回の授業内容	<p>1-3 第1～3課 発音</p> <p>4-6 第4課 人称代名詞, 動詞述語文, “不”を用いる否定, “吗”疑問文, “呢”疑問文</p> <p>7-9 第5課 形容詞述語文, 主述述語文, “吧”①, 反復疑問文</p> <p>*10-12 第6課 指示代名詞, 疑問詞疑問文, 所有を表す“有”, 名詞述語文</p> <p>*13-15 第7課 “的”と“的”の省略, 数量詞, 場所指示代名詞・方向詞・名詞の場所化</p> <p>16 復習と音読テスト</p> <p>17 中間試験</p> <p>18-20 第8課 変化を表す“了”, 時刻の言い方, 願望・義務を表す助動詞, 選択疑問文</p> <p>21-22 第9課 連動文, 動詞の重ね型, 助動詞“会”“能”“可以”, 二重目的語,</p> <p>23-25 第10課 介詞①, 数の表現, 文法コラム</p> <p>26 練習問題</p> <p>27 練習問題</p> <p>28 復習と音読テスト</p> <p>*【教職員間授業公開日: 5/21(月), 5/31(木), 10/22(月), 11/5(月)】</p>						
評価方法	中間と期末テスト(65%), 出席と音読テスト(35%) (出席28, 音読7)						
テキスト	小池一郎等 新訂『開門! 中国語』(朝日出版社)						
参考書	守屋宏則著『中国語の基礎』(東方書店) 蘇紅著『しっかり学ぶ中国語文法 解説と練習問題』(ベレ出版) 自習用参考書						
その他特記事項	私用による遅刻厳禁。 就職活動等で欠席する場合は事前に連絡すること。						

基礎科目

科目名	中国語Ⅱ			担当者名	廣重 聖佐子		
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	この授業では前年度教科書の後半部分を使用する。今学期で初級の学習を完了し、その文型を使って簡単な自己紹介が出来ることを目標とする。						
授業の概要	授業は各課を2回で終了する。1時間めの授業で単語と文法の説明、2時間めで本文の音読練習と和訳をおこなう。なお練習問題は宿題とする。各課終了後に音読テストをする。毎時間の提出物を出席にかえる。						
準備学習の内容	1時間めの授業準備として文法事項等を予習する。(30分程度) 2時間め終了時に練習問題をやる。(1時間程度) 音読練習。(各自に任せる)						
各回の授業内容	<p>1-2 第18課 時間量, 前置詞“从”“到”“离”, 選択疑問文</p> <p>3-4 第19課 動詞の後の“了”(1)と文末の“了”(2), 動詞の重ね型, 前置詞“跟”</p> <p>5-6 第20課 動詞の後の“了”(2), 主述述語文, 前置詞“给”</p> <p>7-8 第21課 経験の“过”, 疑問詞“怎么”, 疑問詞のまとめ</p> <p>9-10* 第22課 助動詞“要”“得”“应该”</p> <p>11-12 第23課 助動詞“会”(1)“能”“可以”</p> <p>13*-14 第24課 助動詞“会”(2)“了”, 禁止, 名詞述語文</p> <p>15 中間テスト</p> <p>16-17 第25課 時間量補語, 離合動詞, 補充語句—離合動詞</p> <p>18-19 第26課 動作量補語, “不”のまとめ, “没”のまとめ</p> <p>20-21 第27課 状態補語, 二重目的語, 人の場所化</p> <p>22-23 第28課 単純方向補語, 複合方向補語, 補充語句—複合方向補語</p> <p>24-25 第29課 結果補語, 副詞“就”と“才”, 補充補語—結果補語になる動詞と形容詞</p> <p>26-27 第30課 可能補語, 方向補語の派生的用法, “一~就...”</p> <p>28 復習</p> <p>*【教職員間授業公開日: 5/21(月), 5/31(木)】</p>						
評価方法	中間と期末テスト(70%), 出席と音読テスト(30%)						
テキスト	杉野元子・黄漢青著『大学生のための初級中国語40回』(白帝社)						
参考書	守屋宏則著『中国語の基礎』(東方書店) 蘇紅著『しっかり学ぶ中国語文法 解説と練習問題』(ベレ出版) 自習用参考書						
その他特記事項	中国語1を履修した者に限る。私用による遅刻厳禁。 就職活動等で欠席する場合は事前に連絡すること。						

基礎科目

科目名	日本語表現法			担当者名	樋口 万喜子		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	日本語で事実や状況を正確に伝える方法と、自分の意見を筋道をたてて伝える方法を学ぶ。授業を通して、レポートの書き方、口頭発表に必要なスキル（パワーポイント等）もあわせて身につけることを目標とする。						
授業の概要	プロセス・ライティングの考え方にに基づき、自分の興味のあるトピックについて調査し、課題レポートを作成していく。問題を発見し、資料・情報の収集・分類・検討を行い、論理的文章の書き方を学ぶ。最後にパワーポイントで口頭発表する。						
準備学習の内容	テキストを読んでくる。自分の選んだテーマについて情報を収集、分析してくる。 30分～2時間。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の目的を知る。レポートとは何かを考える。課題条件の確認。 2 知る：課題レポートの形を知る。根拠の大切さを知る。 3 〃 根拠を示して意見文を書く。 4 練る：読み手と目的を考え、テーマを考える。 5 調べる（1）：情報のまとめ方（インターネット情報の信頼性、図書館 OPAC 利用）。 6 練る：自分の選んだテーマで構想マップを作る。 7 調べる（2）：必要な情報を集める。 8 絞る：情報を整理する。主な情報源の要約文を作る。 9 絞る：情報を整理し、問いと答えを切り出す。 10 絞る：目標を仮に規定する。（何について、どんなことを言いたいのか）。 11 組み立てる：序論・本論・結論→文章展開を見直し、アウトラインを作る。 12* 組み立てる：アウトラインを検討する。 13 組み立てる：アウトラインをもとに文章化してみる。 14* 書く：中心文を書く。一つのパラグラフでは一つの話題に限定する。 15 書く：パラグラフを書く。いろいろなパラグラフを知る 16 書く：本文を書きこむ。（1） 17 書く：本文を書きこむ。（2） 18 書く：本文を書きこむ。（3） 19 パワーポイントの使い方を実践的に学ぶ。 20 引用：引用の仕方・引用箇所と引用文献をつなぐ。 21 引用：参考文献の書き方。 22 点検する：ピアの質問・意見を参考に文章を推敲する。 練習問題。 23 点検する：正確で客観性のある表現か確認する。 24 発表のレジュメを作る。わかりやすい発表を考える。ペアで発表練習。 25 発表する：発表の意義を考え、プレゼンテーションを行う。（前半） 26 発表する：発表の意義を考え、プレゼンテーションを行う。（後半） 27 振り返る：発表会をレポートに活かす。表紙を作り、形式なども整える。 28 振り返る：学習プロセスを振り返り、自己評価する。 <p>*【教職員間授業公開日：5/28（月）、6/4（月）】</p>						
評価方法	出席（28%）、宿題（32%）、発表（10%）、レポート（30%）						
テキスト	大島弥生 他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 ―プロセス重視のレポート作成』（ひつじ書房）						
参考書	河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）						
その他特記事項	パソコンルーム使用。パワーポイントは PC 技術担当者が教えますが、Word は 5 月の連休明けまでに基本的操作はできるようにして授業に臨むこと。ピア（peer 仲間、同僚）・ラーニングは「協働」の学習活動なので書いた文章を読みあうこともあります。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	当科目では、レポートのテーマやその他の作文の題材として、サービスラーニングに関する事柄を選ぶことが可能である。				

基礎科目

科目名	日本語表現法			担当者名	河北 祐子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	日本語で事実や状況を正確に伝える方法と、自分の意見・考えを筋道たてて伝える方法を学ぶ。授業を通して論文の書き方、ノートテイキング、レジメの書き方、話の聴き方や質問のし方を身につけることを目標とする。						
授業の概要	学期前半は、個人で作業するほか、グループで互いの文を修正し評価し合う。学期の後半は、自分の興味あるトピックについて調査し、論文を書く。論文の書き方を段階的に学び、レジメを元に口頭で中間発表を行う。その後、論文を完成させ提出する。						
準備学習の内容	学期前半は授業内での作業が中心になるが、段階的に1時間程度の授業準備（毎回、授業冒頭に数名によるミニプレゼンをする）を含む課題（与えられた文や自分で選んだ文について分析、要約する等）対応が必要となる。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業オリエンテーション、小論文を書くための練習問題① 2 小論文を書くための練習問題②（わかりにくい文とは①） 3 小論文を書くための練習問題③（わかりにくい文とは②） 4 原稿用紙の書き方と添削 5 問答の基本、事実と意見① 6 事実と意見② 7 文構成 8 原因と結果 9 論理的展開 10 説明文 11 描写文 12 連絡文 13 報告文① 14 報告文② 15 小論文作成についてのオリエンテーション 16 小論文リサーチ、論点のしぼり方 17 小論文リサーチ、論点の書き方 18 アウトラインの作り方 19 発表準備：テーマ決定 20 発表準備：構成 21 発表準備：要旨作成 22 発表準備：参考資料作成 23 中間発表と質疑応答 24* 中間発表と質疑応答 25* 中間発表と質疑応答 26 論文推敲、校正 27 論文推敲、校正 28 ふり返り <p>*【教職員間授業公開日：12/18（火）、12/21（金）】</p>						
評価方法	出席及び授業参加態度（30%）、宿題（20%）、発表（10%）、小論文（40%）						
テキスト	ハンドアウト						
参考書	なし						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	授業後半に各自が論文を書く際に、サービスラーニングに関係のある分野を選んで調査することが可能である。				

基礎科目

科目名	キャリアプランニング			担当者名	輪講（岩崎）		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	<p>本学ソフィア会（同窓会）の支援と同窓生の協力のもとに開講される講座である。目的は、社会で活躍する同窓生の講話を通して、学生が自らの人生を見つめ、より広い視野から各自の将来の可能性を考え、キャリアプランをたてること。</p>						
授業の概要	<p>本講座は進路ガイダンスとは異なり、すぐに役に立つ就職のためのノウハウ伝授ではなく、長期的な視点を養うこと、様々な業界や世界の実態に触れ、多様な世界観を持つことに主眼を置く。また、講師それぞれの話し方や資料提示の方法は異なるが、どのようなタイプの講演に対しても話の要点を的確に聞きとり理解する能力を養う。</p>						
準備学習の内容	<p>期末レポートでは、全体の講義内容を総括して問うような課題となるので、常に講義の内容の要点と感想を記録するノートを作ること。</p>						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 女性のライフサイクルとキャリア 2 大学の英語講師として 3 特別講義1：進路選択における意思決定の必要性 4 児童英語教材と教育について 5 短大での教育と歴史研究者として 6 英会話講師と交換留学生受け入れボランティア 7* ジャーナリストとして 8 聖マリア修道会のシスターとして 9 銀行員として 10 弁護士として 11 国際交流の仕事 12 ストリート・エデュケーター 13 上智学院職員として 14 映像コンテンツ事業のプロデューサーとして 15 障害を持つ人々と共に生きる 16 大学教授として一科学技術とジェンダー 17 通訳ガイド・法廷通訳から日本語教師へ 18* 社会福祉士として 19 放送、ファッション業界から癒しの世界へ 20 輸入車販売プロモーションを担当して 21 大学で働くということ 22 英語のスキルアップと児童英語教育 23 業界翻訳から会社社長へ 24 フリーアナウンサーとして 25 着物とマナー 26* 特別講義2：企業研究のために必要なこと 27 キャリア・プランの作成について 28 まとめ <p>上記は予定であり、担当者の都合による日程・内容の変更もありうる。</p> <p>*【教職員間授業公開日：10/11（木）、11/22（木）】</p>						
評価方法	<p>毎回提出のリアクション・ペーパーが（50%）、中間・期末レポートが（50%）となる。</p>						
テキスト	<p>なし。各回講師の用意するプリント。</p>						
参考書	<p>各回のプリントに掲載</p>						
その他特記事項	<p>講師の先生方は、卒業生としての厚意により多忙なスケジュールの中を来校下さり、貴重な人生経験をふまえて講義して下さい。ゆえに、受講者には常に礼儀をもって授業参加する態度を心掛けて欲しい。礼儀を欠く振る舞い（授業中の無断退室、私語など）は固く禁じる。</p>						

基礎科目

科目名	留学準備	担当者名	神谷 雅仁				
開講期	春	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	本講は夏期「海外短期語学講座」に参加する学生を対象とした留学準備講座である。学生は現地での勉強・生活をより充実したものにすべく、日々の生活で必要となる英語表現の学習に加え、英語圏（とりわけアメリカ）の人々、文化、習慣、そして大学での生活についてビデオ教材を通して学んでいく。						
授業の概要	ある日本人女性がアメリカで観光・留学をするというストーリー仕立てのビデオ教材を用い、語彙学習、リスニング練習、会話練習、表現学習などを中心に行っていく。また学生は自らの訪れる国に関する様々な事柄について調べ、発表しなければならない。これは毎回の授業時の小課題（Research Assignments）、およびグループ・プレゼンテーションの一環として評価される。						
準備学習の内容	本講では日々の授業に必要な予習は特設課せられないが、各単元の復習に関しては時間をかけてしっかりと行う必要がある。これは学期中2回行われる Oral Test（口答試験）、および Written Test（筆記試験）に向けた準備となる。また Research Assignment の作成（学期中6～7回を予定）には、あるテーマに沿ってリサーチをし、それを英語でまとめるという作業が関わってくるため、少なくとも1～2時間が必要となる。						
各回の授業内容	1 Course overview 2 Introduction: Going abroad 3 Getting information 4 Home stay 5 Checking in at a hotel 6 Offering to help 7 Group presentation <1> 8* Asking for directions 9 Self-introduction 10 Getting advice 11 Ordering a meal 12 Group presentation <2> 13 Chekcng out a book 14 Mid-term Test (Oral) 15 Mid-term Test (Written) 16 Shopping for clothes 17 Asking for a favor 18* Sending a package 19 Meeting a friend 20 Group presentation <3> 21 Inviting a friend 22 Letter writing 23 Buying medicine 24 Expressing preference 25 Group presentation <4> 26 Saying good-bye 27 Final Test (Oral) 28 Course review: Studying Abroad *【教職員間授業公開日：5/14（月）、6/18（月）】						
評価方法	Mid-term and Final Test (Oral and Written) (60%), Vocabulary Quiz (10%), Research Assignments (10%), Group Presentation (10%), Attendance, Class Participation and Others (10%)						
テキスト	Hiroto Ohyagi and Timothy Kiggell, <i>Viva! San Francisco: Video Approach to Survival English</i> (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)						
参考書	J. F. De Freitas, <i>Survival English</i> (The Macmillan Press)						
その他特記事項	夏期の「海外短期語学講座」に参加しない学生は原則、本講を履修することが出来ない。						

基礎科目

科目名	留学準備	担当者名	飯田 純也
開講期	秋	分類	選択
		単位	2
		年次	1・2年
授業の目標	春の海外短期語学講座に参加する学生を対象に、留学先で生活を維持するのに困らない、また緊急事態の対応にも困らない基本的英語の習得と、留学先の政治、経済、社会、文化等の基本的知識の獲得を目標とする。		
授業の概要	短期語学講座の日程のそれぞれの状況に応じた実践的英会話のトレーニングを繰り返す。また同時に、学期を通して、留学先で役に立つ可能性の高い情報を集め、グループと個人で発表する。		
準備学習の内容	毎回事前に最低30分は、留学先の情報を集めたり、発表の準備をしたりしてほしい。		
各回の授業内容	<p>1 授業紹介</p> <p>2-10 状況に応じた英語力の鍛錬</p> <p style="margin-left: 20px;">a. New Neighbors</p> <p style="margin-left: 20px;">b. Shopping</p> <p style="margin-left: 20px;">c. Social Time</p> <p style="margin-left: 20px;">d. Around the Town</p> <p style="margin-left: 20px;">e. Restaurant</p> <p style="margin-left: 20px;">f. Errands</p> <p style="margin-left: 20px;">g. Airport</p> <p style="margin-left: 20px;">h. Travel</p> <p style="margin-left: 20px;">i. Health</p> <p style="margin-left: 20px;">j. Supermarket</p> <p style="margin-left: 20px;">k. Special Occasions</p> <p style="margin-left: 20px;">l. Descriptions</p> <p>11 中間テスト</p> <p>12-26* グループ及び個人研究発表</p> <p>27-28 直前テスト</p> <p>授業内容の変更あり。</p> <p>*【教職員間授業公開日：11/6（火）、11/9（金）】</p>		
評価方法	出席を前提とした上で、評価は小テストが（20%）、発表が（40%）、直前テストが（20%）、学期テストが（20%）とする。		
テキスト	随時プリントを配布する。		
参考書	Karl Nordvall, <i>Everyday Survival English</i> (Compass Publishing)		
その他特記事項	担当者のウェブサイト上に課題や資料を用意するので、積極的に利用してほしい。		

専門科目＜必修＞

科目名	基礎ゼミナール			担当者名	丹木 博一，近藤 佐智子， 飯田 純也，森下 園， 宮崎 幸江，岩崎 明子，小林 宏子		
開講期	春	分類	必修	単位	2	年次	1年
授業の目標	このゼミは，本学の教育理念である“Women for others, with others”を目指す学生生活への導きとなるものである。大学での学びに必要なアカデミックスキルと，世界のさまざまな問題について考える上で必要な情報リテラシーを身につけ，将来のキャリア形成を視野に入れた大学生活のプランをたてることを目標とする。						
授業の概要	前半は，本学学生生活への導入を行う。まずゼミ選択に向けて専任教員によるショートレクチャーを授業時間外に聴き，専門領域に関する基礎作りをする。後半はキャリアプランに関するリサーチを行う。						
準備学習の内容	課題や発表準備のため，毎回1時間程度の準備学習を要する。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Women for others, with others とは — 新入生のみなさんへのメッセージ 2 上智大学短期大学部で何を学ぶのか 3 キャンパスライフ — SL活動，課外活動への招き 4 大学で学ぶということ (1) ノートテイキングと要約 5* 大学で学ぶということ (2) 効果的な自己紹介の方法 授業時間外 (月曜日 2限)：専任教員のショートレクチャー (1) 6 キャリアプラン (1) 進路とゼミ選択について + 自己紹介 授業時間外 (月曜日 2限)：専任教員のショートレクチャー (2) 7 キャリアプラン (2) 進学について + 自己紹介 授業時間外 (月曜日 2限)：専任教員のショートレクチャー (3) 8 キャリアプラン (3) 就職活動について + 自己紹介 授業時間外 (月曜日 2限)：専任教員のショートレクチャー (4) 9* キャリアプラン (4) 女性の就業について + 自己紹介 10 情報リテラシー (パソコン室で順次実施予定) 11 リサーチプロジェクト (1) 自分のキャリアプランを考える 12 リサーチプロジェクト (2) 希望する企業と職種，進学先についてリサーチ 13 リサーチプロジェクト (3) 各自のレポート作成 14 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：全教員 5/16 (水)，6/13 (水)】</p>						
評価方法	学期中の課題 5回×5% = (25%)，出席 14回×2% + ショートレクチャー4回×1% = (32%)，プレゼンテーション (23%)，レポート (20%) となる。						
テキスト	上智大学短期大学部編『Essentials』(2012年度版)を教室にて配布						
参考書	小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)						
その他特記事項	授業時間帯とは別に月曜日 2限に全専任教員によるミニレクチャーを4回行うが，全回の出席とノートの提出を義務づける。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	高野 敏樹		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	法律学 比較憲法学 比較政治制度論 国際関係論 EU 法制論						
ゼミのテーマ	社会科学の基礎研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	このゼミナールは、法学、政治学、国際関係論など、ひろく社会科学の分野にかかわる諸問題について2年生と合同でゼミを実施することを通して、研究方法と発表方法を身に付け、討論の基礎力を涵養します。1年生は自分のテーマ（将来の研究テーマを見据えた暫定テーマ）を設定し、各自1回小発表を行います。						
準備学習の内容	各自設定したテーマについて文献研究や調査をし、それらの内容や意味を十分に考察・理解したうえで、レジュメを作成して研究発表します。発表の準備に相当の時間が必要です。有意義に討論に参加するために2時間以上の準備が必要です。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーションー研究・調査・発表の方法を考える 2 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 3 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 4* テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 5 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 6 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 7 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 8 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 9 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 10* テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 11 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 12 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 13 テーマ設定と小発表（各ゼミ員に割り当て） 14 発表の総括 <p style="text-align: center;">*【教職員間授業公開日：10/10（水）、11/21（水）】</p>						
評価方法	研究発表（参照文献やレジュメは適切か、発表方法は適切か等の評価）（40%）と、ゼミ論文（40%）、討論への参加状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	このゼミの性質上、とくに指定しません。						
参考書	研究は文献を選択するところから始まります。各自適切に選択し（積極的に相談にきてください）、発表前にゼミ参加者に参考文献の概要を発表してください。						
その他特記事項	まず自分自身の研究テーマを適切に設定することが大切ですので、ゼミ指導教員によく相談することが重要です。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	M. Andrade
開講期	秋	分類	必修
ゼミ担当教員の専門分野	English Language Education (English for academic purposes; content-based language learning; global issues in language education; materials development)	単位	2
ゼミのテーマ	Current Events, Global Issues, and Cultural Topics	年次	1年
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	Although the title of this course is “seminar,” this course is not actually a seminar. SJC has scheduled this Pre-Seminar and Seminar II for the same time period (3:30-5:00), so the class size will be large (about 35-40 students). Therefore, it will not be possible to conduct this course as a “seminar” based on research and presentation. Instead, it will be a content-based course that aims to develop an understanding of the significance of news stories on current events, culture, and global issues. Lessons include watching a video of a news story, studying the transcript, discussing the contents, and sharing opinions. Because this is a 2-unit course, there will be a lot of written homework. In addition to the textbook exercises, every week students will write a short essay about the contents of the lesson. There are weekly quizzes.		
準備学習の内容	To do well in this course, a TOEIC score of at least 550 is strongly recommended.		
各回の授業内容	<p>1 Unit 1: Olympic Tickets on Sale オリンピックの入場券発売開始</p> <p>2 Unit 2: Free from House Arrest アウン・サン・スー・チーの軟禁解ける</p> <p>3 Unit 3: Kate Middleton Tour ケイト・ミドルトン生地をめぐるツアー</p> <p>4 Unit 4: Wikipedia—10 Years Old 創設から10年を迎えるウィキペディア</p> <p>5 Unit 5: Beef from Cloned Cows クローン牛の牛肉問題</p> <p>6 Unit 6: Children as News Reporters 子供報道記者プロジェクト</p> <p>7 Unit 7: Women’s Lives in Afghanistan アフガニスタンの女性の現在</p> <p>8 Unit 8: Summertime Controversy イギリスのサマータイムをめぐる論争</p> <p>9 Unit 9: Bio-diversity at Risk 動植物の危機的状況</p> <p>10* Unit 10: Tobacco Displays Banned タバコの店頭陳列, 禁止になる</p> <p>11* Unit 11: Schoolchildren and Sleep 睡眠時間の生徒への影響</p> <p>12 Unit 12: Jobs for the Over-50s 50才以上の仕事増加へ</p> <p>13 Unit 13: Imports Increase Food Miles 遠方からの食品輸入</p> <p>14 Unit 14: British Trade with the Far East イギリス, 極東と貿易交渉へ</p> <p>*【教職員間授業公開日：11/21（水）、11/28（水）】</p>		
評価方法	Homework (25%), Discussion (25%), Weekly quizzes (50%)		
テキスト	Sakae Onoda and Lucy Cooker, <i>Understanding the News in English 9</i> (Kinseido)		
参考書	None		
その他特記事項	This course is the same as Seminar II.		

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	平野 幸治
開講期	秋	分類	必修
		単位	2
		年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	19世紀英国のヴィクトリア朝および20世紀のモダニズムの文学		
ゼミのテーマ	英語で書かれた文学作品を通して人文学の研究，特に19世紀ヴィクトリア朝および20世紀の英国の文学研究		
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	英語で書かれた文学作品の研究がゼミの主たる目的である。学生の発表やパネル・ディスカッション等によってプレゼンの能力や学生の発言を聞くことで内省し批評する力を育てる。特にプレゼミでは，学年を超えた交流や同学年でない人たちの前で発言やディスカッションする勇気を養うと同時にグループ活動する能力と体験を養う。ゼミの活動は，観劇・軽井沢や秦野のセミナーハウスでの勉強・合宿や卒業後の進路相談等，ゼミ生の日常生活と深く関わる。		
準備学習の内容	学生によって個人差はあるが，授業ごとに毎回テキストの要約等ノート作成に約1時間半から2時間を要する事前準備を期待する。		
各回の授業内容	<p>テキスト <i>English Literature: Very Short Introduction</i> (Oxford UP) を中心に，特に以下のトピックスを取り上げてディスカッションをする。</p> <p>1 オリエンテーションとスケジューリング</p> <p>2-7 作品研究や指示された課題の発表</p> <p> a. 2-4 identity; ambiguity を keywords に作品を考える</p> <p> b. 5-7* undecidability; commitment を keywords に作品を考える</p> <p>8-12* グループでディスカッションとグループワークの発表準備</p> <p>13-14 グループワークの発表</p> <p> </p> <p>*【教職員間授業公開日：10/17（水），11/21（水）】</p>		
評価方法	授業参画（40%），発表（40%），レポート（20%）		
テキスト	Jonathan Bate, <i>English Literature: Very Short Introduction</i> (Oxford UP)		
参考書	柴田元幸編著『文学の都市：世界文学・文化の現在10講』（東京大学出版会） David Lodge, <i>The Art of Fiction</i> (Penguin Books)		
その他特記事項	英文学に興味のある学生は，J.A.Cuddon, <i>Dictionary of Literary Terms & Literary Theory</i> (Penguin Books) か Margaret Drabble and Jenny Stringer, <i>Oxford Concise Companion to English Literature</i> (Oxford UP) を購入することが望ましい。		

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	丹木 博一
開講期	秋	分類	必修
ゼミ担当教員の専門分野	哲学, 倫理学	単位	2
ゼミのテーマ	人間のいのちの意味に関する哲学的研究	年次	1年
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	人間のいのちに対してどのような問いや関心が自分のうちに息づいているかをはっきりと自覚し, その問いを哲学的に掘り下げ, 分かりやすく発表できるようにする。ディスカッションを通して各自の研究テーマを明確にするとともに, そのテーマについてどうすれば考えを推し進めていくことができるかを追求していく。		
準備学習の内容	自分にとって何が最も大切な問いであるかを発見し, それを分かりやすく発表できるように, 事前の準備が必要。発表に際しては, レジユメの作成を求める。		
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション (研究テーマの設定, 発表方法, スケジュール等) 2 各自の関心の確認とグループ分け 3 研究事例と研究方法の紹介 4 グループごとの発表 5 グループごとの発表 6* グループごとの発表 7 個人発表 8 個人発表 9 個人発表 10* 個人発表 11 個人発表 12 個人発表 13 個人発表 14 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：10/24 (水), 11/21 (水)】</p>		
評価方法	出席と討論への参加状況 (30%), 個人発表 (30%), レポート (40%)		
テキスト	とくに用いない。		
参考書	田畑邦治・田中美恵子編『哲学—看護と人間に向かう哲学—』(ヌーヴェルヒロカワ)		
その他特記事項	主体的な関心をもって授業に臨んで欲しい。共に高めあえるような雰囲気築いていきたいと思う。		

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール		担当者名	近藤 佐智子			
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	応用言語学, 語用論, 社会言語学, 会話分析, 第2言語習得, 英語教育						
ゼミのテーマ	社会のなかの言語使用に関する研究 (社会言語学, 語用論, 言語習得, 英語教育など)						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	私たちは、住んでいる地域、文化、年齢、ジェンダー、職業といった様々な社会的要因によって、異なる話し方をする。また、場面や相手によって巧みに話し方を変えるということも日常的に行っている。このゼミでは、主に英語と日本語について、このような社会と言語のダイナミックな関係について基礎知識を得る。社会言語学の基礎文献を読み、その内容をまとめ、発表し、ディスカッションをする力をつける。また2年次ゼミ生の研究発表を聞き、分析的な見方をする力をつける。						
準備学習の内容	学期の前半は各授業の前に全員が教科書の指定した章を読み、要約を書く (3時間程度)。発表者は担当する章の内容についてレジメを準備する (発表は学期中ひとりにつき2回の予定)。後半の授業では2年生の研究発表に参加するが、授業外で英語の文献を読み要約を提出する。最後に関心を持ったテーマについて複数の文献を読みブックレポートをまとめる。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 2 地域による言語の違い・言語と社会階級 (発表) 3 人種、民族による言語差・言語の性差 (発表) 4 クラスディスカッション 5 言語の年齢差・言語の状況差, 適切さ (発表) 6* 呼びかけ表現・ことばによる丁寧表現 (発表) 7 クラスディスカッション 8 ことばのイメージ・会話スタイル (ディスカッション) 9 含意と文化・非言語伝達 (ディスカッション) 10 英語文献の読み方, ブックレポートの書き方 11 2年次生のゼミ論文発表に参加, 英語文献の要約 12 2年次生のゼミ論文発表に参加, 英語文献の要約 13* 2年次生のゼミ論文発表に参加, 英語文献の要約 14 2年次生のゼミ論文発表に参加, 英語文献の要約 <p>*【教職員間授業公開日: 10/24 (水), 12/12 (水)】</p>						
評価方法	授業参画 (30%), 発表 (20%), レポート (20%), 課題提出 (10%), 出席 (20%)						
テキスト	田中春美, 田中幸子 (編著)『社会言語学への招待』(ミネルヴァ書房) 東祥照二 (著)『社会言語学入門—生きた言葉のおもしろさにせまる』(研究社)						
参考書	南雅彦 (著)『言語と文化—言語学から読み解くことばのバリエーション』(くろしお出版) 真田信治 (編)『社会言語学の展望』(くろしお出版)						
その他特記事項	ゼミナールIで英語の文献を読むため、プレゼミではその準備としてまず日本語で社会言語学に関する基礎知識をつける。ゼミでは1・2年生全てのメンバーとお互いにサポートし合うことによって学びを深めて欲しい。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	日本語教育, 英語教育ボランティアを行っている履修生に体験を発表してもらい, 言語学習者の言語使用, 言語習得, また言語教育方法などについてゼミで議論をする。				

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	飯田 純也				
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	英米文学史, 思想史, 詩, 演劇, 小説						
ゼミのテーマ	人文科学の研究方法						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	プレ・ゼミナールでは人文科学的リサーチの基本を学ぶ。研究テーマは、最初グループで、次に個人で自由に決める。リサーチの対象となる文献等は英語の資料とする。人文科学的リサーチの基本を学びながら、英語との親和性を高めてもらう。						
準備学習の内容	自分の研究テーマのリサーチのため、図書館やコンピュータ室で文献調査を行い、その結果（文献データ、要約、引用、意見）をノートにまとめることが準備学習になる。毎週3時間以上は準備学習に当ててもらう。						
各回の授業内容	<p>1 研究の方法論</p> <p>2-5 グループ研究</p> <p>6-7 個人研究</p> <p>8-9* 個人研究中間発表</p> <p>10-14 個人研究発表</p> <p>*【教職員間授業公開日：11/7（水）、11/14（水）】</p>						
評価方法	出席を前提とした上で、評価は研究発表が（80%）、質疑応答等の積極性が（20%）とする。						
テキスト	個人研究を中心にするゼミなので、共通テキストはありません。						
参考書	<i>Very Short Introductions Series</i> (Oxford University Press)						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	森下 園				
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	歴史学（歴史理論，英国中世史）						
ゼミのテーマ	他者を理解するための歴史学						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	歴史学の専門書を読み，グループで共同作業を行い，用語や地図をチェックしてレジюмеを作成し，要約発表を行えるようにする。また個人報告では任意のトピックについて資料を参照し，レジюмеを用いて発表を行えるようにする。						
準備学習の内容	文献の要約発表では要約・レファレンス参照・レジюме作成に1週間程度，個人発表でも同等の準備時間を要する。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト配布と要約のグループわけ 2 レジюме作成について 3 要約の練習 4 要約のグループ発表 5 要約のグループ発表 6* 要約のグループ発表 7 要約のグループ発表 8 個人報告のトピック選択 9 ディスカッションの方法 10 個人報告とディスカッション 11* 個人報告とディスカッション 12 個人報告とディスカッション 13 個人報告とディスカッション 14 まとめ <p style="text-align: center;">*【教職員間授業公開日：10/24（水），11/28（水）】</p>						
評価方法	出席とゼミへの参加が（50%），要約のグループ発表が（25%），個人報告が（25%）となる。						
テキスト	上智大学史学科編『歴史家の散歩道』（Sophia University Press）						
参考書	J・H・アーノルド『1冊でわかる歴史』（岩波書店）						
その他特記事項	プレゼミは原則として15:30-17:30の時間帯に行う。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	永野 良博
開講期	秋	分類	必修
ゼミ担当教員の専門分野	アメリカ文学	単位	2
ゼミのテーマ	アメリカの小説家 Ernest Hemingway の作品を研究する。	年次	1年
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	アメリカの作家 Ernest Hemingway による文学作品とそれらに関する研究書を読み、アメリカ小説の研究に必要な基礎的な知識をつけてゆく。メモを取ることから始め、ノートをまとめ、主題を設定し、論文作成に向けた訓練を行う。同時に自らが持つ作品、研究書に関する意見を発表し、質疑応答を行う力をつける。		
準備学習の内容	毎回指定された文学作品を事前に読み、メモやノートを取り、作品に関する議論のための意見を用意してくることが求められる。その際、毎回 2-3 時間の予習が必要となる。さらに口頭発表に向けて、資料探し、資料読解、発表原稿作成などで何日もの準備が必要となる。		
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Ernest Hemingway, 初期短編導入 氷山理論とその読解方法 2 作品 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 親子関係, 母親との確執 3 “The Doctor and the Doctor’s Wife” 親子関係, 母親との確執 4 “Soldier’s Home” 第一次世界大戦と失われた世代, 破壊と日常, 虚偽の人生 5* “Soldier’s Home” 第一次世界大戦と失われた世代, 破壊と日常, 虚偽の人生 6 “Cat in the Rain” 他者の欲望と自己の欲望, 若き夫婦の危機, 髪を伸ばすこと 7 “Cat in the Rain” 他者の欲望と自己の欲望, 若き夫婦の危機, 髪を伸ばすこと 8 “Indian Camp” 出産と医療テクノロジー, 女性とマイノリティーの身体 9 “Indian Camp” 出産と医療テクノロジー, 女性とマイノリティーの身体 10 “End of Something” ハードボイルド的文体と恋愛小説の可能性 11* “End of Something” ハードボイルド的文体と恋愛小説の可能性 12 “Fathers and Sons” 空虚な自己, 恋愛の記憶, 抑制された感情 13 “Fathers and Sons” 空虚な自己, 恋愛の記憶, 抑制された感情 14 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：10/17（水）、11/28（水）】</p>		
評価方法	出席及び授業参画（20%）、発表と論文（80%）		
テキスト	Ernest Hemingway, <i>The Complete Short Stories of Ernest Hemingway</i> (Scribners)		
参考書	アーネスト・ヘミングウェイ『われらの時代・男だけの世界』（新潮文庫）		
その他特記事項	多くを語らない抑制された文章を読み、創造的に主題を読み取ってゆく努力が必要とされる。		

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	神谷 雅仁				
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	社会言語学, 言語コミュニケーション						
ゼミのテーマ	言語使用, 言語のバリエーション						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	本ゼミのテーマとなる言語使用とそのバリエーションを理解するため, まずは「言語とは何か」について, 英語で書かれた言語学の概論書を輪読しながら学んでいく。学生は自らの担当する章の発表を課せられるが, その準備にともない, 文献探し, レジューメの作成, 発表のためのノウハウなど様々なアカデミック・スキルを習得していく。						
準備学習の内容	毎回の授業で英語の Vocabulary Quiz を行うが, 学生はそれに備えて対象となる語句を覚えなければならない。100 を超える語句があるため, 1 週間をかけてしっかりと意味を覚えるためには相当の時間を要する。また自らが発表するテキストの章に関しては内容を広く深く理解しておく必要があるため, 最低でも準備に 5~6 時間かかるであろう。それに加え, 自分の担当の章以外でも毎回 Chapter Summary を提出しなくてはならないが, これも作成に 2~3 時間を要すると考えられる。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Course overview 2 Why Study English Linguistics 3 How English Has Changed over the Centuries 4* The Sounds of English: Phonetics and Phonology 5 How Words Are Made: Morphology 6 How Words Mean: Semantics 1 7 How English Phrases Are Formed: Syntax 1 8 How Sentences Mean: Semantics 2 9 How to Communicate with Other People: Pragmatics 10* Regional Varieties of English: Sociolinguistics 1 11 English in Society: Sociolinguistics 2 12 How English is Acquired: Psycholinguistics 13 How English as a Second / Foreign Language is Acquired: Applied Linguistics 14 Course review <p>*【教職員間授業公開日：10/10（水）, 11/21（水）】</p>						
評価方法	English skill training (20%), Presentation & Post-presentation discussion (30%), Chapter summary (20%), Term Paper (20%), Attendance and others (10%)						
テキスト	影山太郎, プレント・デ・シェン, 日比谷潤子, <i>First Steps in English Linguistics</i> (くろしお出版)						
参考書	飯野公一 ほか (編)『新世代の言語学』(金星堂) 長谷川瑞穂 (編)『はじめての英語学』(研究社)						
その他特記事項	「言語学概論」の科目を履修済みか同時履修が望ましい。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	T. Gould
開講期	秋	分類	必修
ゼミ担当教員の専門分野	Second Language Acquisition, Conversation Analysis, Literature	単位	2
ゼミのテーマ	Women's Issues	年次	1年
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	In this Pre-seminar students will build a foundation of knowledge about the basic issues facing modern women. The students will learn through readings, excerpts from books, and contemporary issues. Students will learn and expand their understanding of the issues through individual and collaborative (working together) research mini-projects.		
準備学習の内容	Preparation for this class involves reading articles that will be provided by the instructor. Additionally, students will need to work together to prepare for presentations and discussions.		
各回の授業内容	1-2 What is Gender 3-4* Gender Socialization 5* Language and Gender 6 Housework, Childcare and Family 7 Domestic Violence 8 Sex Work 9-10 Beauty and Gender Stereotypes 11 Sexual Freedom and Reproductive Rights 12 Gender and the Environment 13 Case Studies 14 Presentations *【教職員間授業公開日：10/10（水）、10/17（水）】		
評価方法	Class participation and attendance (40%), participation and completion of mini-projects (20%), homework (20%), final report and presentation (20%)		
テキスト	Jane Nakagawa, <i>Gender Issues Today</i> (Tokyo Shuppan) Additional handouts and readings will be provided.		
参考書	Sumie Kawakami, <i>Goodbye Madame Butterfly</i> (Yushin Printing) Duplessis and Snitow, <i>The Feminist Memoir Project</i> (Rutgers University Press) Hiratsuka Raichou, <i>In the Beginning, Woman was the Sun</i> (Columbia University Press)		

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	杉村 美佳				
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	教育学（教育方法史・比較教育史）						
ゼミのテーマ	比較・国際教育学研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	比較・国際教育学の基礎的な理論と研究方法を習得することを目的とする。前半は、比較・国際教育学に関する和書および英文原書の講読を進める。後半は、テキストにもとづき、教育の国際比較に関するグループ研究発表を行うとともに、2年生のゼミ論文発表に参加し、論文作成に必要な知識や技法を学ぶ。						
準備学習の内容	テキストの講読およびプレゼンテーションの準備をしてくること。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 比較・国際教育学の理論と研究方法（1） 2 比較・国際教育学の理論と研究方法（2） 3 <i>Teachers, Schools, and Society</i>の講読（1） 4 <i>Teachers, Schools, and Society</i>の講読（2） 5 <i>Teachers, Schools, and Society</i>の講読（3） 6 <i>Teachers, Schools, and Society</i>の講読（4） 7 グループ研究報告と討論（1）—カリキュラムの国際比較— 8 グループ研究報告と討論（2）—教育方法の国際比較— 9 グループ研究報告と討論（3）—いじめ問題の国際比較— 10* グループ研究報告と討論（4）—女性と教育— 11 グループ研究報告と討論（5）—国際教育協力— 12* グループ研究報告と討論（6）—多文化教育— 13 2年生のゼミ論文発表会への参加（1） 14 2年生のゼミ論文発表会への参加（2） 						
	*【教職員間授業公開日：11/21（水）、12/5（水）】						
評価方法	出席および授業参画（30%）、発表（30%）、レポート（40%）						
テキスト	石附実編著『比較・国際教育学』（東信堂） David Miller Sadker, <i>Teachers, Schools, and Society</i> (McGraw-Hill)						
参考書	新井郁男，二宮皓編著『比較教育制度論』（放送大学教育振興会）						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	狩野 晶子		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	応用言語学, 外国語としての英語 (言語習得と教育の両方の観点から), 幼児・児童英語教育, 第二言語習得, バイリンガリズム						
ゼミのテーマ	「言葉をならう, 言葉をおぼえる, 言葉を教えるとは」 言葉の教育, 習得, 運用, すべての観点から言葉と人との関わりを扱う。						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	ゼミのテーマに深く踏み込むための準備として, このプレゼミでは土台づくりとなる「言葉」に関する知識を応用言語学の観点から学び, そこから幅広く発展するさまざまな分野についての知識と関心を深め, 2年次のゼミナールへの土台となる力を養う。学生は輪読・発表をもとにディスカッションやグループワークを行い, 十分な準備をして臨み, 積極的かつ主体的に活発に参加することが求められる。						
準備学習の内容	テキストを読み, 理解した内容をアウトラインとしてまとめる。発表者は担当箇所について十分に理解を深め, さらに他の文献・資料にもあたり, それらをもとにレジюмеを作成し, 発表準備を行う。さらに自分の興味のあるテーマに添って文献を集め, 読み進める主体的な学習も併せ, 一日1時間以上。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 テキストの読み進め方, 発表のやり方の具体的指導 3 テキスト1をもとに発表・ディスカッション (1) 4 テキスト1をもとに発表・ディスカッション (2) 5 テキスト2をもとに発表・ディスカッション (1) 6* テキスト2をもとに発表・ディスカッション (2) 7 テキスト2をもとに発表・ディスカッション (3) 8 前半の総括と今後の資料収集, 研究の進め方の指導 9 2年生の発表を聞き, 次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を深める 10* 2年生の発表を聞き, 次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を深める 11 2年生の発表を聞き, 次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を深める 12 2年生の発表を聞き, 次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を深める 13 2年生の発表を聞き, 次年度ゼミに向けて興味・関心のある分野を深める 14 振り返りとまとめ <p>*【教職員間授業公開日: 10/24 (水), 11/21 (水)】</p>						
評価方法	発表 (40%), ディスカッションへの参加 [準備・積極的貢献を含める] (30%), まとめレポート・リアクションペーパー (30%)						
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 白井恭弘『外国語学習の科学』(岩波書店) 2. 白畑知彦, 須田孝司, 若林茂則『英語習得の「常識」「非常識」—第二言語習得研究からの検証』(大修館書店) 						
参考書	白井恭弘『外国語学習に成功する人, しない人』(岩波書店)						
その他特記事項	このプレゼミに参加する者は積極的にサービスラーニング活動に参加し, 理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	英語教育及び日本語教育ボランティア活動のベースとなる知識や関心を深め, 実際のボランティア活動を行うに当たっての助けとなるものである。				

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール			担当者名	岩崎 明子		
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	TESOL (英語教授法), Learning Strategy, 人間学 (教育学), 幼児教育 研究テーマ / 持続可能な世界とグローバリゼーション, 価値教育						
ゼミのテーマ	グローバル問題とわたしたち						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	グローバルな社会現象と私たちの生活との関わりを文献や映像を通して知り, 私たちは世界の中でどのように生きるべきかを討論や発表を通して考えていく。2年ゼミナールでの個人研究への準備をする。						
準備学習の内容	授業は英語および日本語テキストを使用する。新聞記事を毎日スクラップしまとめを書く課題を夏休みにだす。各章の内容は, 毎回学生担当者がレジメを作り, 内容の発表とディスカッションをリードする。それ以外のメンバーも前もって授業範囲を読み質問項目を用意する。合宿を行うための特別発表課題を準備する。						
各回の授業内容	(秋学期初めにオリエンテーション合宿を行う。事前に必読書を読んでおく事。) 1 新聞記事の発表と話し合い 2 テキストの講読と発表, 2年生の発表から学ぶ 3 テキストの講読と発表, 2年生の発表から学ぶ 4* テキストの講読と発表 5 テキストの講読と発表 6 テキストの講読と発表 7 テキストの講読と発表 8* テキストの講読と発表 9 テキストの講読と発表, 2年生研究発表 (パワーポイント) の聴講 10 テキストの講読と発表, 2年生研究発表 (パワーポイント) の聴講 11 テキストの講読と発表, 2年生研究発表 (パワーポイント) の聴講 12 テキストの講読と発表, 2年生研究発表 (パワーポイント) の聴講 13 テキストの講読と発表, 2年生研究発表 (パワーポイント) の聴講 14 まとめ (授業時間の前半は, 2年生との合同授業となる) *【教職員間授業公開日: 10/10 (水), 11/7 (水)】						
評価方法	授業参画 (20%), 発表 (30%), レポート・論文 (50%)						
テキスト	B. Wheeler (2005), <i>IT's All Connected</i> (WA: Facing the Future: People and Planet)						
参考書	(必読) 毎日新聞外信部 (2003) 『世界はいまどう動いているか』(岩波ジュニア新書), アマルティア・セン (2002) 『貧困の克服—アジア発展の鍵は何か』(集英社新書) Manfred B. Steger (2003), <i>Globalization-A Very Short Introduction</i> (NY: Oxford UP) 松井範惇 (2006) 『アジアの開発と貧困—可能性, 女性のエンパワーメントと QOL』(明石書店) 片岡幸彦・木村宏恒・松本祥志編 (2006) 『下からのグローバリゼーション—もう一つの地球村は可能だ グローバルネットワーク 21 〈人類再生シリーズ〉』(東京: 新評論) 藪下史郎 (2004) 『スティグリッツ早稲田大学講義録 グローバリゼーション再考』(光文社新書) サミュエル・ハンチントン, 鈴木主税 (2000) 『文明の衝突と 21 世紀の日本』(集英社新書)						
その他特記事項	ゼミ仲間として, 1・2 年生の交流を大切に, 授業以外にも懇親会や合宿には積極的に参加してほしい。英語力をつけるため, 原書購読に努力してほしい。						

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	小林 宏子
開講期	秋	分類	必修
ゼミ担当教員の専門分野	キリスト教人間学, キリスト教聖書思想	単位	2
ゼミのテーマ	現代社会の価値観とキリスト教ヒューマニズム	年次	1年
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	人間は各自の幸せのイメージに従って, 異なる価値観を持つ。上智のルーツであるフランシスコ・ザビエルや現代のマザー・テレサは何を求めて生きたのであろうか。キリスト教の人間観と価値観を学びながら, 現代社会が抱える「いのち」に関わる問題を考える。多様な意見に耳を傾けながら自分の考えを論理立てて主張する姿勢を身につけることができる。		
準備学習の内容	テキストの予習に毎回 1~2 時間を要する		
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 マザー・テレサの価値観 (1) 2 マザー・テレサの価値観 (2) 3 キリスト教ヒューマニズム (1) 4 キリスト教ヒューマニズム (2) 5 人間の尊厳といのち (1) 6 人間の尊厳といのち (2) 7 人間の尊厳といのち (3) 8* 二年次生の研究発表に参加 9 二年次生の研究発表に参加 10 二年次生の研究発表に参加 11 二年次生の研究発表に参加 12* 二年次生の研究発表に参加 13 二年次生の研究発表に参加 14 二年次生の研究発表に参加 <p>*【教職員間授業公開日：11/7 (水), 12/5 (水)】</p>		
評価方法	出席 (40%), 授業参画 (30%), 発表・提出物 (30%)		
テキスト	『叡智を生きる—他者のために, 他者とともに—』(上智大学出版)		
参考書	森一弘著『キリスト教入門 Q&A』(教友社)		

専門科目＜必修＞

科目名	プレ・ゼミナール	担当者名	T. Varkey				
開講期	秋	分類	必修	単位	2	年次	1年
ゼミ担当教員の専門分野	英語教授法 (TESOL), 神学, 哲学, 英文学						
ゼミのテーマ	世界と平和						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	このゼミナールは、世界の社会問題を平和学の視点から学び、履修者各自が研究テーマを選び、平和学の研究方法、発表方法、討論の基礎力を身に付けながら、研究テーマに対する理解を深める。同時に、個々人の英語力を高めるために英語で書かれた記事や小論文も授業で取り扱い、読解力、語彙力、自分の考えを英語で表現する能力を高める技術を学ぶ。また、毎回の授業の主な内容をグループでまとめ、提出することを通して、研究分野に関する基礎知識をしっかりと身に付ける。						
準備学習の内容	毎回指定された文献を事前に読み、作品に関する議論のための考えを用意することが求められる (2 時間程度)。英語の記事に出て来る新しいボキャブラリーを覚えること (1 時間程度)、グループで提出する授業のまとめの準備 (2 時間程度) が必要であろう。また、グループ発表 (学期中に一回の予定) の準備とレジュメの作成も求められる。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 2 平和学とは何か? (定義と概念) 3 平和学とは何か? (歴史および実践的取り組み) 4 平和学の方法論 5 平和構築とは (和平調停) 6 紛争と平和 (グループ発表) 7 戦争と平和 (グループ発表) 8* 構造的暴力と平和 (グループ発表) 9 非暴力と平和 (グループ発表) 10* 正義と平和 (グループ発表) 11 宗教と平和 (教皇の平和メッセージ) (グループ発表) 12 カトリック教会と平和 (『パーチェム・テリス』) (グループ発表) 13 国連と平和 (グループ発表) 14 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：11/7 (水), 11/21 (水)】</p>						
評価方法	授業参加 (30%), 発表 (30%), レポート (40%)						
テキスト	岡本三夫, 横山正樹編著 2009 年『新・平和学の現在』(法律文化社)						
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヨハン・ガルトゥング, 藤田明史編著 2003 年『ガルトゥング平和学入門』(法律文化社) 2. 教皇庁 正義と平和評議会『教会の社会教説網要』(<i>COMPENDIUM OF THE SOCIAL DOCTRINE OF THE CHURCH</i>) (カトリック中央協議会 146) 3. David P. Barash (2009), <i>Approaches to Peace: A Reader in Peace Studies</i> (Oxford University Press) 4. Charles Webel and Johan Galtung (2009), <i>Handbook of Peace and Conflict Studies</i> (Routledge) 						
その他特記事項	教科書以外に使う文献は毎回授業中に配布する。授業は主に日本語で行うが、自分の意見を英語で表現する場も授業内で設ける。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ			担当者名	高野 敏樹		
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	法学 比較憲法学 比較政治制度論 国際関係論 EU法制論						
ゼミのテーマ	社会科学の基礎研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	このゼミナールは、法学、政治学、国際関係論など、ひろく社会科学の分野にかかわる諸問題について、履修者が自分自身の研究テーマを設定し、研究発表（年2回）を行う方式で実施します。このことを通して、より高度の研究手法と発表方法を学び、問題提起、論理構成、自己表現、討論の力を身につけます。						
準備学習の内容	各自のテーマについての文献研究・調査、考察、レジュメ作成、研究発表の一連の準備に相当の時間が必要です。討論参加にも2時間以上の事前学習が必要です。						
各回の授業内容	<p>(ゼミナールⅠ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション—研究・調査・発表の方法を考える 2 個人研究発表（1回め） 3 個人研究発表（1回め） 4 個人研究発表（1回め） 5* 個人研究発表（1回め） 6 個人研究発表（1回め） 7 諸研究発表の小活（課題分析） 8 個人研究発表（1回め） 9 個人研究発表（1回め） 10* 個人研究発表（1回め） 11 個人研究発表（1回め） 12 個人研究発表（1回め） 13 個人研究発表（1回め） 14 発表の総括 <p>(ゼミナールⅡ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人研究発表（2回め） 2 個人研究発表（2回め） 3 個人研究発表（2回め） 4* 個人研究発表（2回め） 5 個人研究発表（2回め） 6 個人研究発表（2回め） 7 個人研究発表（2回め） 8 個人研究発表（2回め） 9 個人研究発表（2回め） 10* 個人研究発表（2回め） 11 個人研究発表（2回め） 12 個人研究発表（2回め） 13 個人研究発表（2回め） 14 個人研究発表の総括（評価と課題） <p>*【教職員間授業公開日：5/16（水）、6/27（水）、10/10（水）、11/21（水）】</p>						
評価方法	研究発表（参照文献やレジュメは適切か、発表方法は適切か等の評価）（40%）と、ゼミ論文（40%）、討論への参加状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	このゼミの性質上、とくに指定しません。						
参考書	研究は文献を選択するところから始まります。各自適切に選択し（積極的に相談にきてください）、発表前にゼミ参加者に参考文献の概要を発表してください。						
その他特記事項	二年次では、自分の研究テーマの完成と将来的な発展を視野にいれて研究を続ける必要がありますので、この点をゼミ指導教員に相談することが大切です。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナール I / ゼミナール II		担当者名	M. Andrade			
開講期	春 / 秋	分類	必修	単位	春 2 / 秋 2	年次	2 年
ゼミ担当教員の専門分野	English Language Education (English for academic purposes; content-based language learning; global issues in language education; materials development)						
ゼミのテーマ	Current Events, Global Issues, and Cultural Topics						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	<p>Seminar I: The theme of this course is “Independent Learning: Reading and Research for Knowledge and Personal Growth.” Each week students read books or articles of their own choosing and write a summary and opinion. In class, they discuss their topics in small groups. Alternatively, students can study famous speeches, lectures, films, and documentaries online or on DVD (for examples, see www.learner.org.) Each student will have an individual study plan.</p> <p>Seminar II (and Pre-Seminar): Although the title of this course is “seminar,” this course is not actually a seminar. SJC has scheduled Pre-Seminar and Seminar II for the same time period (3:30-5:00), so the class size will be large (about 35-40 students). Therefore, it will not be possible to conduct this course as a “seminar” based on research and presentation. Instead, it will be a content-based course that aims to develop an understanding of news stories on current events, culture, and global issues. Lessons include watching a video of a news story, studying the transcript, discussing the contents, and sharing opinions. In addition to the textbook exercises, every week students will write a summary and opinion</p>						
準備学習の内容	To do well in this course, a TOEIC score of at least 550 is strongly recommended.						
各回の授業内容	<p>(ゼミナール I)</p> <p>1-2 Consultations on individual study plans and research 3-10* Individual reports and small group discussions 11-14 Presentations</p> <p>(ゼミナール II)</p> <p>1 Unit 1: Olympic Tickets on Sale 2 Unit 2: Free from House Arrest 3 Unit 3: Kate Middleton Tour 4 Unit 4: Wikipedia—10 Years Old 5 Unit 5: Beef from Cloned Cows 6 Unit 6: Children as News Reporters 7 Unit 7: Women’s Lives in Afghanistan 8 Unit 8: Summertime Controversy 9 Unit 9: Bio-diversity at Risk 10* Unit 10: Tobacco Displays Banned 11* Unit 11: Schoolchildren and Sleep 12 Unit 12: Jobs for the Over-50s 13 Unit 13: Imports Increase Food Miles 14 Unit 14: British Trade with the Far East</p> <p>*【教職員間授業公開日：6/13（水）、6/20（水）、11/21（水）、11/28（水）】</p>						
評価方法	Seminar I: Homework (40%), Discussion & note-taking (40%), Presentation (20%) Seminar II: Homework (25%), Discussion (25%), Weekly quizzes (50%)						
テキスト	Sakae Onoda and Lucy Cooker, <i>Understanding the News in English 9</i> (Kinseido)						
参考書	None						
その他特記事項	Seminar II is the same as Pre-Seminar.						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ		担当者名	平野 幸治			
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	19世紀英国のヴィクトリア朝および20世紀のモダニズムの文学						
ゼミのテーマ	英語で書かれた文学作品を通して人文学の研究, 特に19世紀ヴィクトリア朝および20世紀の英国の文学研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	ゼミでは, 英語を読む力と日本語で小論文を書く力を鍛える。英語で書かれた文学作品の研究がゼミの主たる目的である。学生の発表やパネル・ディスカッション等によってプレゼンの能力や学生の発言を聞くことで内省し批評する力を育てる。ゼミの活動は授業時間ばかりでなく, 観劇・軽井沢や秦野のセミナーハウスでの合宿・卒業後の進路相談等, ゼミ生の日常生活と深く関わる。						
準備学習の内容	ゼミⅠでは, 個人差はあるが, グループワークの活動と発表の準備に約1時間半から2時間を要する事前準備を期待する。ゼミⅡでは, 個人差はあるが, ゼミ論作成のためかなりの時間を要するので計画的に行うと共に個人のスケジュール管理が期待される。						
各回の授業内容	<p>(ゼミナールⅠ)</p> <p>ゼミ論作成の外発的動機付けとするため, 教員による作品研究や指示された課題の発表, そしてグループワーク・プロジェクトを行うことを到達目標に据える。</p> <p>1 オリエンテーションとスケジュールリング</p> <p>2-5* 作品研究や指示された課題の発表</p> <p>6-12* グループワーク・プロジェクト</p> <p>2012年度は, 学生と相談し, 以下の3つのプロジェクトを立ち上げた。</p> <p>a. William Shakespeare からは喜劇 <i>Midsummer Night's Dream</i></p> <p>b. William Shakespeare からは悲劇 <i>King Lear</i></p> <p>c. ヴィクトリア朝の歴史からは, Jane Austen の作品を中心に階級制度や都市問題について</p> <p>13-14 グループワーク・プロジェクト発表</p> <p>(ゼミナールⅡ)</p> <p>到達目標は自分の興味・関心に基づき既に身に付けた知識やプレゼン等のスキルを活かしてゼミ論を仕上げ, その口頭発表をすることであり, これらはプレゼミから続いた一連の活動の最終目標でもある。</p> <p>1 ゼミ論の企画書作成</p> <p>2-7* 作品研究や指示された課題の発表</p> <p>a. 2-4 identity; ambiguity を keywords に作品を考える</p> <p>b. 5-7 undecidability; commitment を keywords に作品を考える</p> <p>8-9 ゼミ論の中間報告</p> <p>10-13* ゼミ論作成</p> <p>14 ゼミ論の発表</p> <p>*【教職員間授業公開日: 5/16 (水), 6/27 (水), 10/17 (水), 11/21 (水)】</p>						
評価方法	授業参画 (30%), 発表 (30%), レポート (40%)						
テキスト	Jonathan Bate, <i>English Literature: Very Short Introduction</i> (Oxford UP)						
参考書	柴田元幸編著『文学の都市: 世界文学・文化の現在 10講』(東京大学出版会) David Lodge, <i>The Art of Fiction</i> (Penguin Books)						
その他特記事項	W. Shakespeare の作品を日本語でよみから実際に舞台で見ることを勧める。理解を更に広げるために Germaine Greer, <i>Shakespeare: Very Short Introduction</i> (Oxford UP)か喜志哲雄著『シャイクスピアのたくらみ』(岩波新書) を手に入れるのが望ましい。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ		担当者名	近藤 佐智子			
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	応用言語学, 語用論, 社会言語学, 会話分析, 第2言語習得, 英語教育						
ゼミのテーマ	社会のなかの言語使用に関する研究 (社会言語学, 語用論, 言語習得, 英語教育など)						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	主に英語と日本語を対象に, 社会と言語のダイナミックな関係を社会言語学および語用論の観点から研究する。ゼミⅠでは社会言語学と語用論の分野で構築されてきた理論, 研究方法, 研究結果について英語で書かれた文献を読み概観する。ゼミⅡでは実際に調査研究を行い, 成果を「ゼミ論文」としてまとめ, 口頭でも発表する。授業は学生の発表とディスカッション形式で進め, ゼミⅡでは1年次生もそれに参加する。						
準備学習の内容	ゼミⅠ: 各授業の前に全員が教科書の指定した章 (英語で約20ページ) を読み, 日本語で要約を書き提出する (週5時間程度)。選択したテーマについてレポートを書くために文献を収集する。 ゼミⅡ: 各自の研究テーマにそってデータを収集し論文にまとめる。口頭発表の準備をする。						
各回の授業内容	(ゼミナールⅠ) 1 Regional and social dialects 2 Gender and age 3 Ethnicity and social networks 4* Language change 5 クラスディスカッション 6 Style, context and register 7 Speech functions, politeness and cross-cultural communication 8 Gender, politeness and stereotypes 9 Language, cognition and culture 10 クラスディスカッション 11 個人研究の進め方 12 個人研究の進め方 13 研究計画の発表 14* 研究計画の発表 (ゼミナールⅡ) 1 導入 2 ゼミ論文の中間報告, 基礎文献の復習 (1年次生と共同) 3 ゼミ論文の中間報告, 基礎文献の復習 (1年次生と共同) 4 クラスディスカッション 5 ゼミ論文の中間報告, 基礎文献の復習 (1年次生と共同) 6* ゼミ論文の中間報告, 基礎文献の復習 (1年次生と共同) 7 クラスディスカッション 8 ゼミ論文の中間報告 9 研究発表の方法・論文の書き方 10 研究発表の方法・論文の書き方 11 ゼミ論文発表 (1年次生と共同) 12 ゼミ論文発表 (1年次生と共同) 13* ゼミ論文発表 (1年次生と共同) 14 ゼミ論文発表 (1年次生と共同) *【教職員間授業公開日: 5/9 (水), 7/25 (水), 10/24 (水), 12/12 (水)】						
評価方法	ゼミ論文 (50%), 発表 (30%), 出席および授業参画 (20%)						
テキスト	Janet Holmes, <i>An Introduction to Sociolinguistics Third Edition</i> (Longman)						
参考書	飯野公一ほか (著)『新世代の言語学—社会・文化・人をつなぐもの』(くろしお出版) 岡本真一郎 (著)『ことばのコミュニケーション—対人関係のレトリック』(ナカニシヤ出版)						
その他特記事項	授業外の活動として夏合宿における研究発表および SJ 祭におけるポスターでの研究発表を行う。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	日本語教育, 英語教育ボランティアを行っている履修生に体験を発表してもらい, 言語学習者の言語使用, 言語習得, また言語教育方法などについてゼミで議論をする。このような問題をゼミ論文の研究テーマとして扱うこともできる。				

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ		担当者名	飯田 純也			
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	英米文学史, 思想史, 詩, 演劇, 小説						
ゼミのテーマ	人文科学の研究方法						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	このゼミナールは, 広義の文学を対象に, 履修者各自が研究テーマを選び, 人文科学の研究方法をいろいろ応用しながら, 研究テーマに対する理解を深めると同時に, 哲学的, 心理学的, 社会学的, 歴史学的発想方法を身につけることを目標にする。						
準備学習の内容	自分の研究テーマに関する基準を作り, 作品選びを行い, 作品毎に解釈や分析を積み重ねた上ではじめて出発点に立つことができると考えてほしい。						
各回の授業内容	<p>(ゼミナールⅠ)</p> <p>共通のテーマを扱う複数の映画作品を比較することによって, テーマへの理解を深めると同時に, 解釈や理論化の方法論を学ぶ。個人及びグループ発表を中心に進める。ゼミ論を書く上でのきっかけになることを希望している。</p> <p>1-3 戦争, 暴力 <i>The Deer Hunter, Taxi Driver, A Bridge Too Far, Gandhi, The Cold Mountain, etc.</i></p> <p>4-5* 愛, 家族 <i>The Hours, The Wings of the Dove, etc.</i></p> <p>6-7 偏見 <i>Amistad, Amazing Grace, etc.</i></p> <p>8-9 善と悪 <i>The Lord of the Rings, The Chronicles of Narnia series, Harry Potter series, The Kingdom of Heaven, etc.</i></p> <p>10-14 研究発表</p> <p>(ゼミナールⅡ)</p> <p>1-4 ゼミ論の中間報告 (1)</p> <p>5-8* ゼミ論の中間報告 (2)</p> <p>9-14* ゼミ論文の発表</p> <p>*【教職員間授業公開日: 5/9 (水), 5/16 (水), 11/7 (水), 11/14 (水)】</p>						
評価方法	出席を前提とした上で, 評価は研究発表が (80%), 質疑応答等の積極性が (20%) とする。						
テキスト	個人研究を中心にするゼミなので, 共通テキストはありません。						
参考書	Robert Sklar, <i>Film: An International History of the Medium</i> (Harry N. Abrams)						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ		担当者名	森下 園			
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	歴史学（歴史理論，英国中世史）						
ゼミのテーマ	他者を理解するための歴史学						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	グローバル化する現代の様々な問題のなかから各自がトピックを選び，グループでのポスターセッション方式，個人でのレジュメ方式，SJ祭でのパワーポイント方式の3種類で研究報告を行い，その後それをゼミ論にまとめることで，報告と論文の基本を身につける。						
準備学習の内容	ゼミⅠ，Ⅱともに研究報告があるので各自準備すること。また，文献・資料講読ではあらかじめ目を通してわからない点はレファレンスで確認しておくこと。						
各回の授業内容	<p>(ゼミナールⅠ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史をめぐる問題について 2 文献講読とディスカッション 3 文献講読とディスカッション 4 文献講読とディスカッション 5 文献講読とディスカッション 6 グループ報告 7* グループ報告 8 グループ報告 9 個人報告の方法について 10 個人報告 11 個人報告 12* 個人報告 13 個人報告 14 夏期休暇中の研究計画作成 <p>(ゼミナールⅡ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 SJ祭報告の準備 2 パワーポイント資料の作成 3 SJ祭報告の予備発表 4 SJ祭報告の予備発表 5 SJ祭報告の予備発表 6* SJ祭報告の予備発表 7 SJ祭報告の反省会 8 ゼミ論作成の注意事項 9 文献・資料収集 10* ゼミ論経過報告とディスカッション 11 ゼミ論経過報告とディスカッション 12 ゼミ論経過報告とディスカッション 13 ゼミ論経過報告とディスカッション 14 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：5/30（水），7/11（水），10/24（水），11/28（水）】</p>						
評価方法	出席とゼミへの参加が（25%），グループ報告が（25%），SJ祭でのゼミ発表が（25%），ゼミ論が（25%）となる。						
テキスト	プリント配布						
参考書	J・H・アーノルド『1冊でわかる歴史』（岩波書店）						
その他特記事項	春は15:30-17:30に，秋は原則として16:30-18:00の時間帯に行く。秋のみ一部時間帯が1年次生と合同になる。なお，夏期休暇中のゼミ合宿でも研究報告を行う。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ	担当者名	永野 良博
開講期	春/秋	分類	必修
ゼミ担当教員の専門分野	アメリカ文学	単位	春2/秋2
ゼミのテーマ	現代アメリカの小説家 Raymond Carver の作品を研究する。	年次	2年
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	Raymond Carver の作品 <i>Cathedral</i> を読む。登場人物達が直面する夫婦及び家族関係の問題や、労働、失業、階級、共同体、依存症といった問題を分析し、人間性と社会についてより深い理解を得る。作品に関する口頭発表、質疑応答、ディスカッション、論文作成を通して、独自の人間観、世界観を創り上げてゆく。また精読により英文読解能力を向上させ、英文読解のための資料作りを行う。		
準備学習の内容	毎回指定された文学作品を事前に読み、メモやノートを取り、作品に関する議論のための意見を用意してくることが求められる。その際、毎回 2-3 時間程の予習が必要となる。さらに口頭発表を担当する時には、資料探し、資料読解、発表原稿作成などで何日もの準備が必要となる。ゼミ論文作成にもかなりの準備が必要となる。		
各回の授業内容	<p>(ゼミナールⅠ)</p> <ol style="list-style-type: none"> Ernest Hemingway と Raymond Carver モダニズムから現代小説へ 作品“Chef’s House” 責任感、自己の問題 “Feathers” 二組の夫婦における愛の形、その喪失 “Cathedral” 郊外の生活、他者とのコミュニケーション “A Small Good Thing” 郊外の生活、子供の死、他者との確執、和解 研究書読解・発表 信じられる世界とは * 研究書読解・発表 Carver 作品編集の問題 研究書読解・発表 共同体の崩壊、純文学と階級 研究書読解・発表 子供を持つことと作品執筆 * 研究書読解・発表 Carver による詩作品 研究書読解・発表 閉ざされた自己の世界 研究書読解・発表 身体的コミュニケーションとジェンダートラブル 研究書読解・発表 食べることと物語 研究書読解・発表 Carver の私生活について <p>(ゼミナールⅡ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 研究発表 研究発表 研究発表 研究発表 * 研究発表 研究発表 研究発表 研究発表 研究発表 研究発表 * 研究発表 研究発表 研究発表 研究発表 <p>*【教職員間授業公開日：5/30（水）、6/27（水）、10/17（水）、11/28（水）】</p>		
評価方法	出席および授業参画（20%）、発表および論文（80%）		
テキスト	Raymond Carver, <i>Cathedral</i> (Vintage)		
参考書	平石貴樹他編著『レイ、僕らと話そう』（南雲堂）		
その他特記事項	多くを語らない抑制された文章を読み、創造的に主題を読み取ってゆく努力が必要とされる。		

専門科目<必修>

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ		担当者名	神谷 雅仁			
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	社会言語学, 言語コミュニケーション						
ゼミのテーマ	社会言語学, 言語使用, 言語のバリエーション, 言語コミュニケーション						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	当ゼミでは専門書を英語で読む, 自分の研究発表をする, ある事象についてディスカッションをする, 論文を作成するなどのアカデミック・スキルズ修練のための「活動」を, 社会言語学という専門分野の内容を題材に行っていく。学生は春学期の前半に社会言語学に関するテキストを輪読しながら言語使用とそのバリエーションについて学び, 後半には社会言語学の分野から各自がテーマを選択し, そのテーマに沿って文献を調べ, まとめ, そしてその発表を行っていく。秋学期は学生ひとりひとりが設定したテーマに沿ってゼミ論文の作成を進めていく。ゼミナールⅡの授業は中間報告も含め, 学生のゼミ論文発表の場として使用する。						
準備学習の内容	授業の進行は原則, 学生の発表とその後のディスカッションというかたちをとる。よって発表者はテキストの中で自らが担当する章においても(春学期前半), また自らが選択した社会言語学のテーマに関しても(春学期後半), しっかりと発表ができる程度にまで内容を理解しなければならない。その準備に最低でも5~6時間はかかると考えられる。さらに毎回のChapter Summary(春学期前半のみ)も提出を求められるため, 発表日以外の授業へも相当の準備をして臨まなければならない。秋学期のゼミ論文作成に関しては, 各自が計画的にそして確実に必要な作業を進めていくことが求められる。先行研究のチェック, 論文構成, データ収集, 実際の執筆作業など論文完成までの道のりには何十時間という時間が必要になる。						
各回の授業内容	(ゼミナールⅠ) 1 Course overview 2 The social study of language 3 The ethnography of speaking and the structure of conversation 4* Locating variation in Speech 5 Styles, gender, and social class 6 Bilinguals and bilingualism 7* Societal multilingualism 8 Applied sociolinguistics 9 Students' presentation 10 Students' presentation 11 Students' presentation 12 Students' presentation 13 Students' presentation 14 Course review (ゼミナールⅡ) 1 Course overview 2 The first round of presentation 3* The first round of presentation 4 The first round of presentation 5 The first round of presentation 6 The first round of presentation 7 Writing a paper 8* The second round of presentation 9 The second round of presentation 10 The second round of presentation 11 The second round of presentation 12 The second round of presentation 13 The final round of presentation 14 Course review *【教職員間授業公開日: 5/9(水), 5/30(水), 10/3(水), 11/7(水)】						
評価方法	ゼミナールⅠ(春学期): Presentations(40%), Post-presentation discussion(20%), Term paper(30%), Others(10%) ゼミナールⅡ(秋学期): ゼミ論文(60%), Presentations(20%), Post-presentation discussion(10%), Others(10%)						
テキスト	ゼミナールⅠ(春学期): Bernard Spolsky, <i>Sociolinguistics</i> (Oxford U.P.) ゼミナールⅡ(秋学期): 指定テキストなし						
参考書	東照二『社会言語学入門』(研究社) 浜田麻里, 平尾得子, 由比紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)						
その他特記事項	「言語学概論」や「社会言語学」といった言語学関連の科目を単位取得していることが望ましい。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナール I / ゼミナール II		担当者名	C. Oliver			
開講期	春 / 秋	分類	必修	単位	春 2 / 秋 2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	Cultural anthropology (文化人類学)						
ゼミのテーマ	Multiculturalism						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	In this seminar, we will consider issues that arise when people of different cultural backgrounds, religions, ethnicities, or languages live together in the same society. Students will develop a comparative understanding of “multiculturalism” in various parts of the world, including North America, Western Europe, Southeast Asia, and the Middle East. Students will also improve their presentation and research skills by doing several presentations during the year and an independent research project. All class work will be in English.						
準備学習の内容	Students will need to prepare presentation content, complete their research project independently, and do related assignments. About one hour of preparation time will probably be needed each week, on average.						
各回の授業内容	<p>(ゼミナール I)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Orientation: perspectives on multiculturalism 2 Watch movie 3 Discuss movie 4 Discuss independent research 5 Reading and discussion 6 Reading and discussion 7 Tutorial: presenting your ideas 8 Presentations & discussion: Canada 9 Presentations & discussion: France 10* Presentations & discussion: Switzerland 11* Presentations & discussion: Malaysia 12 Presentations & discussion: Turkey 13 Presentations & discussion: Israel 14 Discuss independent research and plan for Fall semester <p>(ゼミナール II)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Overview of Fall semester 2 Short presentation #1: your independent research topic 3 Short presentation #1: your independent research topic 4 Short presentation #1: your independent research topic 5 Short presentation #1: your independent research topic 6 Tutorial: organizing your ideas 7* Short presentation #2: describing & analyzing “data” 8* Short presentation #2: describing & analyzing “data” 9 Short presentation #2: describing & analyzing “data” 10 Short presentation #2: describing & analyzing “data” 11 Final presentation: your research findings 12 Final presentation: your research findings 13 Final presentation: your research findings 14 Recap <p>*【教職員間授業公開日：6/27（水）、7/4（水）、10/31（水）、11/7（水）】</p>						
評価方法	Class preparation and participation (50%), presentations, reports, and all other assignments (50%).						
テキスト	None.						
参考書	Michael Walzer, <i>On Toleration</i> (Yale University Press) 『多文化共生キーワード事典』（明石書店）						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅡ			担当者名	杉村 美佳		
開講期	秋	分類	必修	単位	秋 2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	教育学（教育方法史・比較教育史）						
ゼミのテーマ	比較・国際教育学研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	前半は SJ 祭での発表に向けたグループ研究を行う。後半でゼミ論文の作成および発表を行う。						
準備学習の内容	テキストの講読および研究発表の準備をしてくること。						
各回の授業内容	1 グループ研究報告と討論 (1) 2 グループ研究報告と討論 (2) 3 グループ研究報告と討論 (3) 4* グループ研究報告と討論 (4) 5 ゼミ論文中間発表と討論 (1) 6 ゼミ論文中間発表と討論 (2) 7 ゼミ論文中間発表と討論 (3) 8* ゼミ論文中間発表と討論 (4) 9 ゼミ論文個人指導 (1) 10 ゼミ論文個人指導 (2) 11 ゼミ論文個人指導 (3) 12 ゼミ論文発表 (1) 13 ゼミ論文発表 (2) 14 ゼミ論文発表 (3)						
	*【教職員間授業公開日：10/10（水）、11/7（水）】						
評価方法	出席および授業参画（30%）、発表（30%）、ゼミ論文（40%）						
テキスト	石附実編著『比較・国際教育学』（東信堂） King, Elizabeth M., <i>Women's Education in Developing Countries</i> (World Bank)						
参考書	小川啓一他編著『途上国における基礎教育支援〈上〉』（明石書店）						

専門科目<必修>

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ		担当者名	狩野 晶子			
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	応用言語学, 外国語としての英語(言語習得と教育の両方の観点から), 幼児・児童英語教育, 第二言語習得, バイリンガリズム						
ゼミのテーマ	「言葉をならう, 言葉をおぼえる, 言葉を教えるとは」 言葉の教育, 習得, 運用, すべての観点から言葉と人との関わりを扱う。						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	プレゼミの内容をもとに, 各自が興味関心を持ったテーマにさらに深く研究し, ゼミⅠでは中間発表を行い, ゼミⅡで論文としてまとめる。研究内容を学術論文としてまとめる具体的方法と効果的なプレゼンテーションのスキルを併せて学ぶ。プレゼンテーション, ディスカッション, グループワークを通して主体的に学ぶ姿勢も養う。						
準備学習の内容	テキストを読み, 理解し, 発表者は担当箇所について十分に理解を深め, さらに他の文献・資料にもあたりレジュメを作成, 発表準備を行う。さらに自分のゼミ論文のテーマに添って文献を集め, 読み進め, 中間発表の準備を行う。最終目標であるゼミ論文の作成のための主体的な学習も併せ, 一日1時間以上。						
各回の授業内容	<p>(ゼミナールⅠ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 プレゼミ概観: 各自のテーマを考える 2 テーマについて調べ, 深める 3 プレゼンテーションスキルの具体的指導 4 学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (1) 5 学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (2) 6 学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (3) 7* 学生によるプレゼンテーション・ディスカッション (4) 8 各自のテーマとプレゼンテーションの反省 9 各自のテーマを深め, 調べる 10 各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション (1) 11* 各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション (2) 12 各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション (3) 13 各自のテーマ・調べた内容について発表とディスカッション (4) 14 ゼミⅠの総括とゼミⅡでの論文作成に向けての具体的目標設定 <p>(ゼミナールⅡ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 論文作成に向け進捗状況と課題点の確認 2 プレゼミ生へのテキストの読み進め方, 発表のやり方の指導 3 プレゼミ生による発表・ディスカッション (オブザーバー・講評) 4 プレゼミ生による発表・ディスカッション (オブザーバー・講評) 5 中間報告とディスカッションによる相互評価 6* 最終プレゼンテーション (論文報告) 準備 (1) 7 最終プレゼンテーション (論文報告) 準備 (2) 8 最終プレゼンテーション (論文報告) 準備 (3) 9 学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (1) 10* 学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (2) 11 学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (3) 12 学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (4) 13 学生による最終プレゼンテーション・論文作成 (5) 14 論文初校提出, 相互校正, ゼミ総括 <p>*【教職員間授業公開日: 5/30 (水), 7/4 (水), 10/24 (水), 11/21 (水)】</p>						
評価方法	中間発表プレゼンテーション (40%), ディスカッションへの参加・リアクションペーパー (20%), ゼミ論文 (40%)						
テキスト	(ゼミⅠ) 門田修平『SLA 研究入門』(くろしお出版) (ゼミⅡ) 白井恭弘『外国語学習の科学』(岩波書店)						
参考書	1. 白井恭弘『外国語学習に成功する人, しない人』(岩波書店) 2. 白畑知彦, 須田孝司, 若林茂則『英語習得の「常識」「非常識」』(大修館書店)						
その他特記事項	このゼミに参加する者は積極的にサービスラーニング活動に参加し, 理論と実践の両方から学ぶ本学ならではのメリットを最大限に活用することを推奨する。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	英語教育及び日本語教育ボランティア活動のベースとなる知識や関心を深める。併せて, ボランティア活動の現場で有用となるプレゼンテーション能力の充実を図る。				

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ		担当者名	岩崎 明子			
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	TESOL (英語教授法), Learning Strategy, 人間学 研究テーマ/持続可能な世界とグローバリゼーション, 価値教育						
ゼミのテーマ	グローバル問題と持続可能な世界を考える						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	グローバルな社会現象と私たちの生活との関わりを文献や映像を通して知り, 私たちは世界の中でどのように生きるべきかを討論や発表を通して考えていく。ゼミⅠでは, 世界で活躍する女性について英語原書を読みながら議論や考察をすすめる。その間も各自の研究テーマで読書とリサーチを進め, ゼミⅡでは, SJ 祭でのゼミ論中間発表とゼミ論を仕上げ発表することが中心となる。						
準備学習の内容	授業は日本語および英語テキストを使用するので, 毎回の準備が必要。また, 毎回学生担当者がレジメを作り, 内容の発表とディスカッションをリードする。それ以外のメンバーも前もって授業範囲を読み質問項目を用意する。夏期合宿や春合宿には, 特別発表課題を準備する。						
各回の授業内容	<p>(ゼミナールⅠ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 “原書” テキストの講読, 課題発表 (1) 3 “原書” テキストの講読, 課題発表 (2) 4 “原書” テキストの講読, 課題発表 (3) 5 “原書” テキストの講読, 課題発表 (4) 6 “原書” テキストの講読, 課題発表 (5) 7* “先行研究論文” の講読, 要旨発表 (1) 8 “先行研究論文” の講読, 要旨発表 (2) 9 “先行研究論文” の講読, 要旨発表 (3) 10 “先行研究論文” の講読, 要旨発表 (4) 11 ゼミ論文の書き方, ゼミ論文主題・構想発表 (1) 12 ゼミ論文主題・構想発表 (2) 13 ゼミ論文主題・構想発表 (3) 14 ゼミ論文主題・構想発表 (4) <p>(ゼミナールⅡ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 “先行研究論文2” の要旨発表 (1) 1年生同席 2 “先行研究論文2” の要旨発表 (2) 同上 3 “先行研究論文2” の要旨発表 (3) 同上 4 “先行研究論文2” の要旨発表 (4) 同上 5 ゼミ論中間報告会準備 6 ゼミ論中間報告会準備 7 研究発表 (パワーポイント) 1年生同席 8 研究発表 (パワーポイント) 同上 9 研究発表 (パワーポイント) 同上 10 研究発表 (パワーポイント) 同上 11 論文仕上げ 12 論文仕上げ 13 論文仕上げ 14 まとめ <p>*【教職員間授業公開日: 5/23 (水), 7/4 (水), 10/10 (水), 11/7 (水)】</p>						
評価方法	授業参画 (20%), 発表 (30% 夏季合宿 (課題発表)), レポート・論文 (50%)						
テキスト	B. Wheeler (2005), <i>IT's All Connected</i> (WA: Facing the Future: People and Planet) 開発教育関係の書籍, 新聞記事その他メディア, Cinii 論文サイトの研究論文						
参考書	プレゼミと同様 Bigelow, Bill & Bob Peterson (ed.) (2002), <i>Rethinking Globalization-Teaching for Justice in an Unjust World</i> (Wisconsin: Rethinking Schools Press)						
その他特記事項	2年生は, 就職・編入準備で忙しくなるが, 課外活動や合宿, 懇親会を通じてより仲間との絆を強めてほしい。						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナールⅠ/ゼミナールⅡ		担当者名	小林 宏子			
開講期	春/秋	分類	必修	単位	春2/秋2	年次	2年
ゼミ担当教員の専門分野	キリスト教人間学, キリスト教聖書思想						
ゼミのテーマ	現代社会の問題とキリスト教ヒューマニズムの価値観						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	現代社会の問題を, キリスト教的価値観から考察することで, それぞれの思想の中にある人間観, 幸福観, 死生観の違いを学ぶ。表面的な違いだけでなくその根底にある価値の起き方の違いを見出す力をつける。						
準備学習の内容	毎回, テキストの予習(春学期)や個人研究(秋学期)に1~2時間を充てる必要がある。						
各回の授業内容	<p>(ゼミナールⅠ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 テキスト講読 (1) 2 テキスト講読 (2) 3 テキスト講読 (3) 4 テキスト講読 (4) 5* テキスト講読 (5) 6 テキスト講読 (6) 7 テキスト講読 (7) 8 テキスト講読 (8) 9* テキスト講読 (9) 10 ゼミ論文の書き方 (1) 11 ゼミ論文の書き方 (2) 12 ゼミ論文の構想づくり 13 ゼミ論文の執筆計画 14 まとめ <p>(ゼミナールⅡ)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マザー・テレサの価値観 (1) 2 マザー・テレサの価値観 (2) 3 キリスト教ヒューマニズム (1) 4 キリスト教ヒューマニズム (2) 5 人間の尊厳といのち (1) 6 人間の尊厳といのち (2) 7 人間の尊厳といのち (3) 8* 個人研究発表 9 個人研究発表 10 個人研究発表 11 個人研究発表 12* 個人研究発表 13 個人研究発表 14 個人研究発表 <p>*【教職員間授業公開日：5/16(水), 6/13(水), 11/7(水), 12/5(水)】</p>						
評価方法	出席 (30%), 授業参画 (20%), 個人研究 (30%), 発表 (20%)						
テキスト	カール・ベッカー『コミュニケーション入門』(英宝社) カール・ベッカー『英米人の思考—比較文化的考察—』(英宝社)						
参考書	光延一郎『神学的人間論入門』(教友社)						

専門科目＜必修＞

科目名	ゼミナール I			担当者名	神門 しのぶ		
開講期	春	分類	必修	単位	春 2	年次	2 年
ゼミ担当教員の専門分野	教育学（教育哲学・教育思想）						
ゼミのテーマ	教育の国際比較研究						
このゼミではどのようなことをどのように学ぶか	プレ・ゼミナールで習得した教育学研究の基礎にもとづいて、実際に研究を行なう。前半は、途上国の教育支援にかんする英文原書の講読をつうじて、グローバルな見地から教育の問題や子どもの権利を論じる時に知っておくべき諸課題を把握する。後半は、論文の書き方を学び、ゼミ論文作成に向けて準備を行なう。						
準備学習の内容	テキストの講読。および、自分の関心に根ざしたゼミ論文のテーマ決定につながると思われることすべて。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 <i>Improving Primary Education in Developing Countries</i> の講読と討議 (1) 3 同上 (2) 4* 同上 (3) 5 同上 (4) 6 同上 (5) 7 同上 (6) 8 文献の探し方・使い方 (1) 9 同上 (2) 10 論文執筆の方法 (1) 11 同上 (2) 12* ゼミ論文構想発表 (1) 13 同上 (2) 14 同上 (3) <p>夏季休暇中にゼミ合宿を予定している。</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/9（水）、7/11（水）】</p>						
評価方法	出席および授業参画（50%）、ゼミ論文（50%）						
テキスト	M.E. Lockheed & A.M. Verspoor, <i>Improving Primary Education in Developing Countries</i> (World Bank) 必要なページを印刷して配布します。						
参考書	石附実編著『比較・国際教育学』（東信堂）						

専門科目（異）

科目名	東洋研究 A			担当者名	田畑 幸嗣		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	History of Southeast Asia will be discussed in both English and Japanese. Students will develop an understanding and knowledge of Southeast Asia in specific Southeast Asian cultural and historical contexts.						
授業の概要	In this course, a historical framework of Southeast Asia will be examined and discussed from various perspectives.						
準備学習の内容	Students are required to read a textbook as assignments and to make a presentation in class.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Course orientation 2 What is Southeast Asia? 3 What is Southeast Asia? 4 The 'Classical' Background to Modern Southeast Asian History 5 The 'Classical' Background to Modern Southeast Asian History 6 Courts, Kings and Peasants: Southeast Asia Before the European Impact 7 Courts, Kings and Peasants: Southeast Asia Before the European Impact 8* Minorities and Slaves: The Outsiders in Traditional Southeast Asia 9* Minorities and Slaves: The Outsiders in Traditional Southeast Asia 10 The European Advance and Challenge 11 The European Advance and Challenge 12 Economic Transformation 13 Economic Transformation 14 The Asian Immigrants in Southeast Asia 15 The Asian Immigrants in Southeast Asia 16 The Years of Illusion: Southeast Asia Between the Wars, 1918-1941 17 The Years of Illusion: Southeast Asia Between the Wars, 1918-1941 18 The Second World War in Southeast Asia 19 The Second World War in Southeast Asia 20 Revolution and Revolt: Indonesia, Vietnam, Malaya and the Philippines 21 Revolution and Revolt: Indonesia, Vietnam, Malaya and the Philippines 22 Other Paths to Independence 23 Other Paths to Independence 24 An End of Post-colonial Settlements, and Beyond: Vietnam and Cambodia 25 An End of Post-colonial Settlements, and Beyond: Vietnam and Cambodia 26 The Challenges of Independence in Southeast Asia 27 The Challenges of Independence in Southeast Asia 28 The Challenges of Independence in Southeast Asia <p>*【教職員間授業公開日：5/14（月），5/17（木）】</p>						
評価方法	Mid Term Paper (30%), Term paper (30%), Presentation (20%), Attendance (20%)						
テキスト	Handouts will be distributed.						
参考書	Milton Osborne 2010, <i>Southeast Asia: An Introductory History. Tenth edition</i> (Allen&Unwin)						

専門科目（異）

科目名	東洋研究 B			担当者名	田畑 幸嗣		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	Art History of Southeast Asia will be discussed in both English and Japanese. This course is designed to help students to develop an understanding of historical and cultural contexts of architecture, sculpture, and craftwork in Southeast Asia.						
授業の概要	In this course, art in Cambodia, Vietnam, Thailand, and Java will be examined and discussed from various perspectives.						
準備学習の内容	Students are required to read a textbook as assignments and to make a presentation in class.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Course orientation. 2 Historical Background of Southeast Asia (prehistory – early states). 3 Historical Background of Southeast Asia (6th -14th century). 4* Historical Background of Southeast Asia (15th-18th century). 5* Prehistoric arts in Southeast Asia (Paleolithic, Neolithic). 6 Prehistoric arts in Southeast Asia (Paleolithic, Neolithic). 7 Prehistoric arts in Southeast Asia (Dong Son, Sa Huynh). 8 Prehistoric arts in Southeast Asia (Dong Son, Sa Huynh). 9 Early Angkor 10 Early Angkor 11 Early Angkor 12 The Classical Age of Angkor 13 The Classical Age of Angkor 14 The Classical Age of Angkor 15 The Classical Age of Angkor 16 Champa 17 Champa 18 Champa 19 Siam 20 Siam 21 Laos 22 Laos 23 Burma 24 Burma 25 Java and Bali 26 Java and Bali 27 Indian Influence 28 Chinese Influence <p>*【教職員間授業公開日：10/1（月），10/4（木）】</p>						
評価方法	Mid Term Paper (30%), Term paper (30%), Presentation (20%), Attendance (20%)						
テキスト	Handouts will be distributed.						
参考書	Philip S. Rawson 1990, <i>The Art of Southeast Asia: Cambodia Vietnam Thailand Laos Burma Java Bali</i> (Thames & Hudson)						

専門科目（異）

科目名	西洋研究			担当者名	森下 園		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	西欧中世における女性を対象とした研究事例を通して、ジェンダーと歴史に関する概念、用語や史料上の問題を理解できるようにする。過去の女性のイメージは今日の文化にも色濃く反映されているため、そのイメージ形成のもととなる史料と研究の批判を行い、既存のイメージがなぜ問題となるのかを明確にする。						
授業の概要	西欧中世史における女性像の形成過程を、個別研究を通して追う。						
準備学習の内容	高校レベルの世界史の知識を前提とする。次の回の講義内容のキーワードを提示するので、自信のない学生は事典・地図・年表などを見て予習を行うこと。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ジェンダーと歴史学 2 中世の女性史研究 3 王族・貴族女性のイメージ 4 ジェントリ女性・都市の女性のイメージ 5 宗教女性のイメージ 6 魔女のイメージ 7 既婚王族女性の聖女，エセルドレダ 8 アングロ＝サクソン時代の王妃エマ 9 従兄弟と王位を争ったマティルダ 10 アキテーヌ公領の相続人，アリエノール・ダキテーヌ 11 百年戦争のヒロイン，ジャンヌ・ダルク 12 女王エリザベス 1 世 13 ヘンリー 7 世の母マーガレット・ボーフォート 14 ジェントリ女性マーガレット・パストン 15* 隠修女ノーリッジのジュリアン 16 スエーデンの聖女ビルギッタ 17 聖女になれなかった隠修女ドロテア・フォン・モンター 18 ベギン女性，マリー・ドワニ 19* イングランド商人の妻マージェリー・ケンブ 20 中世の結婚 21 中世の女性と職業 22 中世の女性の教育 23 聖母マリアをめぐる教義と聖アンナ 24 凶像のなかの女性 (1) 25 凶像のなかの女性 (2) 26 遺言状に見る女性のネットワーク 27 現代の映像イメージ 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：11/12（月），11/26（月）】</p>						
評価方法	初回と最終回をのぞく各回の講義の質問・感想を 3 行にまとめて提出する。26 回×1.5% = (39%)，プリント・自筆ノート持ち込み可のペン書き論述式の学期末試験が (61%) となる。なお，6 回以上の欠席は不可とする（就活などの事情がある場合は除く）。						
テキスト	なし，プリント配布						
参考書	アイリーン・パウア『中世の女たち』（思索社） 福本秀子『ヨーロッパ中世を変えた女たち』（NHK）						
その他特記事項	板書はしない方針なので，ノートを取る工夫を各自がすること。20 分以上の遅刻および無断退出は欠席とみなす。						

専門科目（異）

科目名	日本文化			担当者名	森下 園		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	国際人として日本の文化・歴史を問われた時にある程度専門的なレベルで答えられるようにすることが目標である。そのために日本語でわかりやすく説明をまとめ、それを英語で書けるようにする。						
授業の概要	日本史の流れにそって最近の研究動向も紹介しながら講義を行う。江戸時代以降の近現代に重点を置く。なお、英語での説明に利用できる西欧の事件についても適宜扱う。						
準備学習の内容	高校レベルの日本史の知識を前提とする。次回のトピックと関連する英語の資料プリントを1枚配布するので予習しておくこと。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 遺跡捏造事件 — 先史時代をめぐるイメージ 2 摂関政治と源氏物語 3 院政と武士の台頭 4 中世の芸能 — 琵琶法師 5 鎌倉幕府と将軍 6 異形の王権 7 神仏習合 8 戦国大名と城 9 キリスト教の伝来とキリシタン 10 江戸開府と日光東照宮 11 朝鮮通信使 12 大名の所領経営 13 江戸文化 14 将軍の婚姻 15 庶民の離婚 — 三くだり半の研究 16* 明治維新と家族像の変化 17 幕末・明治の留学生 18 小泉八雲 19 大正デモクラシー 20 明治・大正の女性たち 21* 日本の植民地政策 22 世界大戦 23 米ソ冷戦と高度経済成長 24 公害と環境問題 25 バブル崩壊後の社会 26 アニメは日本経済を救うか 27 現代社会の問題 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：11/15（木）、12/6（木）】</p>						
評価方法	初回と最終回をのぞく各回の講義の質問・感想を3行にまとめて提出する。26回×1.5%＝(39%)、プリント・自筆ノート・辞書持ち込み可のペン書き論述式（日本語・英語）の学期末試験を(61%)として評価する。なお、6回以上の欠席は不可とする（就活などの事情がある場合は除く）。						
テキスト	なし、プリント配布						
参考書	網野善彦他編『日本の歴史（全25巻）』（講談社）						
その他特記事項	板書はしない方針なので、ノートを取る工夫を各自がすること。20分以上の遅刻および無断退出は欠席とみなす。						

専門科目（異）

科目名	ヨーロッパ社会史			担当者名	鍋谷 郁太郎		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	近代社会の枠組み（民主主義・議会主義・資本主義・体系的科学など）を作り上げたヨーロッパを理解する為の前提を与えることを目指しています。						
授業の概要	12世紀から18世紀末までの西ヨーロッパの歴史を、考察していきます。その際、社会史の成果をとり込みながら、ヨーロッパ史像の構築を試みます。						
準備学習の内容	準備は別段必要ないですが、講義は休まずに毎回しっかり聞き続けることが大事です。						
各回の授業内容	1 ガイダンス 2 12世紀ルネサンスと「ヨーロッパ」の誕生 3 同 4 同 5 同 6 12世紀におけるヨーロッパ人の心性・感性の変化 7 同 8 同 9 中世農村の成立・発展・権力構造 10 同 11 中世都市の成立・発展・権力構造 12 同 13 中世における貧困観—「富」と「貧」は何を意味したのか？— 14 中間試験 15 ユダヤ人の差別と迫害—ヨーロッパ文化の恥部であり本質であるもの— 16 同 17 同 18 魔女と魔女裁判—「中世」の終焉か— 19 同 20 同 21 18世紀ヨーロッパ社会の特質—「近代」への転換か— 22 同 23 同 24 絶対主義国家とは、いったい何だったのか？ 25 フランス革命とその意味するもの—19世紀への飛翔か— 26 同 27* 同 28* 同 *【教職員間授業公開日：7/19（木）、7/23（月）】						
評価方法	中間試験（50%）と期末試験（50%）の総合点で評価します。						
テキスト	魚住昌良『世界歴史の旅 ドイツ』（山川出版社）						
参考書	佐藤彰一、池上俊一『西ヨーロッパ世界の成立』（中央公論新社） 長谷川輝夫他『ヨーロッパ近世の開花』（中央公論新社）						

専門科目（異）

科目名	ヨーロッパ現代史			担当者名	鍋谷 郁太郎		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	19・20世紀の具体的なイメージを受講者がもってもらい、激動の21世紀を生き抜く糧になることを目指します。思考の大きな基盤の前提を与えることを目指します。						
授業の概要	19～20世紀までの200年に亘るヨーロッパ社会の構造と変動を、ドイツとフランスを軸に考察していきます。自由主義・社会主義・帝国主義・ファシズム・冷戦がキー概念となります。						
準備学習の内容	準備は別段必要ないですが、とにかく講義は休まないで聞き続けることが大事です。						
各回の授業内容	<p>1 ガイダンス</p> <p>2-8 「19世紀前半のヨーロッパ」：ヨーロッパ全体を揺るがした48年革命が起こるまでの、西ヨーロッパ社会の近代化な道のりと問題点を考察していきます。自由主義、国民主義、社会主義の原型が現れてくる時期です。</p> <p>9-12 「48年革命」：フランス・ドイツ・オーストリアを取り上げて、48年革命の原因・構造・意義を考えていきます。</p> <p>13 中間試験</p> <p>14-19 「19世紀後半のヨーロッパ社会」：48年革命以降の西ヨーロッパ社会がどのように変化して、「現代システム」を準備していくのかを、第一次世界大戦前夜まで考察していきます。自由主義、国民主義、社会主義が発展・強化されていく時代です。</p> <p>20-22* 「第一次世界大戦とヨーロッパの変貌」：人類史上初めての「総力戦」となった第一次世界大戦は、「現代」への転換点とされています。第一次世界大戦がヨーロッパの国家・社会構造そして個人意識を如何に変えていったのかを考えていきます。</p> <p>23-28* 「大戦間期と第二次世界大戦」：激動の1920～40年代を、国際関係とナチスを生み出したドイツを軸にみていきます。その際、イギリスやフランスは言うに及ばず、さらにアメリカやソ連そして日本の動向等にも可能な限り言及していくつもりです。</p> <p>*【教職員間授業公開日：12/17（月）、12/20（木）】</p>						
評価方法	中間試験（50％）と期末試験（50％）の総合点で評価します。						
テキスト	石田勇治『図説 ドイツの歴史』（河出書房出版社）						
参考書	谷川稔他『近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社） 木村靖二他『世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論新社）						

専門科目（異）

科目名	比較社会史			担当者名	森下 園		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	各受講生が社会構築主義に基づく分析に必要な用語・概念を理解し、現代社会の問題をその観点から論述できるようにする。						
授業の概要	社会階層、ジェンダー、家族、他者排除の問題、心性史、ナショナリズムとグローバリゼーションなどのトピック別に、様々な地域・時代の社会構造について考察を行う。						
準備学習の内容	高校レベルの世界史の知識を前提とする。毎回、次の回のプリントを配布するので予習しておくこと。また、期末の個人発表は、準備におよそ1ヶ月を要する。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会史と社会構築主義 2 近代の学的知 (1) 歴史学 3 近代の学的知 (2) 英文学 4 近代の学的知 (3) 人類学 5 近代の学的知 (4) 民族学・民俗学 6 王権 (1) 西欧の「王」 7 王権 (2) 日本の「王」 8 身分階層 (1) イングランドの「ジェントルマン」 9* 身分階層 (2) インドの「カースト制度」 10 子どもと若者 11 教育と学校 12 歴史のなかのジェンダー 13 スティグマを付与されたもの (1) 14 スティグマを付与されたもの (2) 15 死者との交流 (1) 西欧の幽霊、日本の幽霊 16 死者との交流 (2) 近代の心霊主義 17 言語 (1) クレオール 18 言語 (2) 「標準語」の問題 19 家族と社会 20 法と秩序 21* 無縁とアジール 22 民族と国家と帝国 23 個人発表 (履修者数によっては、以下にバトラーやスピヴァクの研究紹介が入る) 24 個人発表 25 個人発表 26 個人発表 27 個人発表 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：5/17（木）、6/28（木）】</p>						
評価方法	学期中の個人発表（一人5分、手元資料なしで話すこと）が（40%）、学期末試験が（60%）となる。試験はペン書きの論述式であるが、プリント・ノートの持ち込みは認めない。なお、6回以上の欠席は不可とする（就活などの事情がある場合は除く）。						
テキスト	なし、プリント配布						
参考書	樺山紘一『世界を俯瞰する眼』（新書館）						
その他特記事項	板書はしない方針なので、ノートを取る工夫を各自がすること。20分以上の遅刻および無断退出は欠席とみなす。						

専門科目（異）

科目名	国際関係論			担当者名	高野 敏樹		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	現代の国際関係は国家関係から脱国家のトランス・ナショナルな関係に広がりつつあります。この講義では、国際関係の諸要因を理解すると同時に、国際社会の現状と課題について自己の考えを形成し、それを的確に表現する力を涵養します。						
授業の概要	国際関係における国家の主権や、国際法の構成原理を実際に動かす政治的、社会的、文化的、民族的な諸要因の相互作用を理解し、国際関係の将来を考えます。						
準備学習の内容	講義の事前に必要な資料を配布します。事前にその資料を熟読して講義内容を理解し自己の考えを形成するために、各回2時間程度の自己学習を要します。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 国際関係論へのアプローチ—国家の主権と国際社会 2 国際関係構築の視点①—realism, neo-realism, neo-conservatism の課題 3 国際関係構築の視点②—neo-liberal institutionalism の意義とその展開 4 国際社会とグローバル・ガバナンス①—hard type governance 5 国際社会とグローバル・ガバナンス②—soft type governance 6 国際社会とナショナリズム①—civic nationalism の課題 7* 国際社会とナショナリズム②—völkisch Nationalisms の課題 8 東西冷戦の終焉と国際社会の新秩序形成の課題 9 難民問題と UNHCR の新保護政策—mandate refugee から帰還政策へ 10 日本における難民受入れ政策，秦野地域の外国籍市民支援の現況 11 南北問題と貧困・開発①—mono culture と絶対的貧困 12 南北問題と貧困・開発②—human security 思想の展開と課題 13 発展途上国の国際的支援①—IMF・世界銀行の conditionality 融資 14 発展途上国の国際的支援②—IMF・世界銀行の新包括的開発フレームワーク 15 発展途上国の国際的支援③—ODA（政府開発援助）の意義と課題 16 発展途上国の国際的支援④—開発教育の意義 17 地球環境保護と国際法の展開①—環境権と環境訴訟の展開 18 地球環境保護と国際法の展開①—precautionary principle 19 人権保障の国際的展開①—人種・性による差別禁止の国際的取組み 20 人権保障の国際的展開②—こどもの権利，子ども兵の禁止 21 人権保障の国際的展開③—先住民・少数民族の文化的権利の保障 22* 人権保障の国際的展開④—基本的人権としての「言語権」の保障 23 国際経済体制の展開①—ブレトンウッズ体制の成立，崩壊，新秩序の形成 24 国際経済体制の展開②—自由貿易と国際資本投資 25 ヨーロッパ統合と EU①—EU の形成と構造 26 ヨーロッパ統合と EU①—EU 憲法と EU 法体系の今後 27 国際社会の統合と自律をめざして① 28 国際社会の統合と自律をめざして② <p>*【教職員間授業公開日：5/10（木），7/2（月）】</p>						
評価方法	本学所定の出席率を満たした者について、試験の結果（80%）と出席状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	テキストはとくに指定しません。必要な資料は講義中に配付します。						
参考書	初瀬龍平他『国際関係キーワード』（有斐閣） 百瀬宏『国際関係論』（有斐閣）						
その他特記事項	配付資料の内容を適切に理解するとともに、講義中に適切なノートを作成することが大切です。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	難民条約・外国籍市民受入れに関するわが国と国際社会の法的・政治的課題を考えると同時に、秦野地域の現状を分析し、多文化共生時代の課題を考えます。				

専門科目（異）

科目名	文化人類学			担当者名	C. Oliver		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	This course provides an introduction to cultural anthropology. By taking this course, students will understand more deeply the many ways that “culture” influences how people live in society. Students will also learn to do a qualitative, interview research project on a cultural topic.						
授業の概要	Regular class sessions will consist of lectures, watching scenes from films, and discussions among students. Examples will come from many parts of the world, including Iran, Mexico, Indonesia, Papua New Guinea, and sub-Saharan Africa. Each student will do an interview project (with a written report) and discuss the findings in class. All assignments will be in English.						
準備学習の内容	Students should read the assigned pages in the textbook, review their lecture notes, do homework assignments, and complete the interview project on schedule. Depending on each student’s reading speed, preparation time may take 60-90 minutes per class.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 What is anthropology? 2 Culture: definitions and examples 3 Anthropological research: fieldwork 4 Anthropological research: fieldwork 5* Doing qualitative interviews 6 Discuss interview project (planning) 7 Ritual and religion: “witchcraft” in Africa 8 Ritual and religion: rites of passage 9 Ritual and religion: rites of passage 10 Marriage, family, and kinship 11 Marriage, family, and kinship 12 Gift-giving and exchange 13 Gift-giving and exchange: <i>potlatch</i> 14 Gift-giving and exchange: <i>kula</i> 15 Culture and person / self 16 Culture and health / illness 17* Culture and health / illness 18 Caste, class, tribe, and nation 19 Caste, class, tribe, and nation 20 Identity and ideology 21 Identity and ideology 22 Watch film (<i>Children of Heaven</i>) 23 Discuss film 24 Imagining Others 25 Discuss interview project (findings) 26 Globalization and transnationalism 27 Globalization and transnationalism 28 Review <p>*【教職員間授業公開日：10/4（木）、11/19（月）】</p>						
評価方法	Attendance and participation (20%), interview project / report (30%), final exam (30%), all other assignments, tests, etc. (20%).						
テキスト	John Monaghan and Peter Just, <i>Social and Cultural Anthropology: A Very Short Introduction</i> (Oxford University Press)						
参考書	Roger M. Keesing and Andrew J. Strathern, <i>Cultural Anthropology: A Contemporary Perspective</i> (Wadsworth Publishing)						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	A major focus of the class is how to understand people (their ways of thinking, living, etc.) who are significantly different from ourselves. Students involved in volunteering may find this focus relevant to their volunteer activities.				

専門科目（異）

科目名	現代美術			担当者名	G. Freddes		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	Students will acquire a fundamental knowledge of major artists and art movements from the 19th century to the present. Students will learn the vocabulary of art and various ways of looking at art by considering formal characteristics, materials, and techniques. They will become able to assess works of art in their historical and cultural contexts. Additionally, the course aims to support students in developing insight into how the rapidly changing modern world has affected individual artists and how those artists, in turn, have influenced and shaped the world in which we live.						
授業の概要	Each class will begin with a lecture and / or video on an artist, period or style. This will be followed by readings pertaining to the lecture and discussion in small groups. Class will conclude with students writing comments on the content of the lecture. Additionally, there may be three or four art-making activities Students will be required to conduct research in an area of personal interest, visit two museum exhibitions, and submit two written reports.						
準備学習の内容	Students will prepare for each class by reading from the text and viewing art works on the class website. This will require at least 30-45 minutes.						
各回の授業内容	<p>1 What is Modern Art?</p> <p>2 Introduction to the textbook, online resources, and art vocabulary.</p> <p>3-4 The 19th Century: Europe / Japan</p> <p>5 Architecture / Art Nouveau</p> <p>6* Birth of Photography</p> <p>7-8 Impressionism</p> <p>9-10 Post-Impressionism</p> <p>11-12 Early Expressionism: Matisse</p> <p>13-14* Abstraction: Picasso</p> <p>15-16 Modernism Outside France</p> <p>17 Modernist Architecture</p> <p>18-19 Dada and Surrealism</p> <p>20-21 Figural and Abstract Expressionism</p> <p>22-24 Pop, Minimal and Conceptual Art</p> <p>25 Neo-Expressionism</p> <p>26-27 Post-Modernism: Diversity</p> <p>28 Current Trends</p> <p>* 【教職員間授業公開日：10/5（金），11/9（金）】</p>						
評価方法	Attendance, Participation and Written Comments (30%), Research and Museum Reports #1 (30%), Research and Museum Reports #2 (40%)						
テキスト	Carol Strickland, Ph. D., <i>The Annotated Mona Lisa</i> (Andrews and McMeel)						
参考書	The Letters of Vincent Van Gogh The Museum of Modern Art Online Collection: www.moma.org The Orsay Museum: www.musee-orsay.fr/en/home.html						
その他特記事項	All lectures, reading material, and student writing will be entirely in English. Videos: English / Bilingual / Japanese As mentioned above, students will be required to visit two exhibitions at museums.						

専門科目（異）

科目名	ビジュアル・レトリック			担当者名	K. Williams		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	Students will learn to evaluate various aspects of culture at a macro (wide level) and a micro (personal level) through the visual images presented in pictures and movies.						
授業の概要	Students will view and learn to evaluate pictures and visual portions of movies. This evaluation will relate to their personal view and that on a cultural level. The students will learn how and why these visual components are included or inserted.						
準備学習の内容	Students will need to look at the pictures in magazines and explain the message. Copies of the picture and evaluation will be turned in as homework.						
各回の授業内容	<p>1 Students will learn what “Visual Literacy” is.</p> <p>2 Students will begin to differentiate the three levels of Visual Literacy.</p> <p>3 First they will begin to understand the outside. This is the image and why and how It was made.</p> <p>4 Next the members of the class will learn how this image passes to the brain.</p> <p>5* Next the students will learn to understand how the interpretation of the image by the mind is very significant.</p> <p>6* The students will be shown various pictures and learn to understand their message (s).</p> <p>7-14 The first movie will be presented in sections. The students will learn to see the messages sent visually. Also how at times these visual messages reinforce the dialogue and other times contradict it.</p> <p>15 Various portions of the movie will be reviewed allowing the students to reinforce what they have learned.</p> <p>16 A test will be given.</p> <p>17-23 The second movie will be of a different form. The students will learn to see the messages sent visually. Also how at times these visual messages reinforce the dialogue and other times contradict it.</p> <p>24 Various portions of the movie will be reviewed allowing the students to reinforce what they have learned.</p> <p>25 A test will be given.</p> <p>26 A review of visual literacy in photos.</p> <p>27 A review visual literacy in movies.</p> <p>28 Review.</p> <p>* 【教職員間授業公開日：10/2（火）、10/5（金）】</p>						
評価方法	Attendance (10%), Participation (15%), Reports (15%), Quizzes (30%), Final Exam (30%)						
テキスト							
参考書							

専門科目（異，教）

科目名	比較・国際教育学			担当者名	杉村 美佳		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	本講義では、日本と諸外国の教育制度や教育問題、教育改革等について、歴史、経済、政治、文化等と関連付けて比較検討を行う。最終的には、国際的視野から日本と諸外国の教育問題の解決方法を探る能力の育成を目指す。						
授業の概要	前半では、比較・国際教育学の理論を理解した上で、先進国と途上国との教育の比較検討を行い、開発教育や国際教育協力のあり方を考察する。後半では、各自が関心のある国の教育についてプレゼンテーションを行う。						
準備学習の内容	後半で各自関心のある国の教育について調査し、プレゼンテーションの準備をしてくること。						
各回の授業内容	<p>1 比較・国際教育学の歴史的展開と課題</p> <p>2 現代世界と教育問題</p> <p>3 教育制度の国際比較</p> <p>4 教育文化の国際比較</p> <p>5 世界の自由教育</p> <p>6 先進国における学校化社会と学歴</p> <p>7* 発展途上国における識字教育</p> <p>8 先進国における国民統合と学校教育</p> <p>9 発展途上国における国民統合と学校教育</p> <p>10 多文化教育の国際比較</p> <p>11 世界のシティズンシップ教育</p> <p>12 開発と教育（1）—開発教育—</p> <p>13* 開発と教育（2）—国際教育協力—</p> <p>14 開発と教育（3）—JICAによる国際教育協力の実態—</p> <p>15 日本の教育</p> <p>16-17 アジアの教育</p> <p>18-20 ヨーロッパの教育</p> <p>21-22 中東の教育</p> <p>23 アフリカの教育</p> <p>24-25 アメリカの教育</p> <p>26 カナダの教育</p> <p>27 オセアニアの教育</p> <p>28 まとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：10/9（火）、11/6（火）】</p>						
評価方法	出席および授業参加（30%）、発表（30%）、試験（40%）						
テキスト	プリントを配布する。						
参考書	豊田俊雄『発展途上国の教育と学校』（明石書店） 二宮皓編著『世界の学校』（学事出版）						
その他特記事項	JICA からゲストスピーカーを招き、日本の国際教育協力の実態について講義を行う。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	本講義では、諸外国の文化や歴史と教育とを関連づけて講義を行うため、特に日本語学習支援を行っている学生は、外国籍児童・生徒との関わりに必要な知識を得ることができる。				

専門科目（異、言）

科目名	社会正義のグローバルリテラシー			担当者名	M. Andrade		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	Students will develop an understanding of literacy and its relationship to social justice (equality, human rights), especially in developing countries, from social, economic, political, and educational viewpoints.						
授業の概要	Intensive reading and discussion of text materials supplemented by analysis of videos. Students will keep a weekly journal in which they summarize and reflect on what they have learned as well as prepare quizzes and questions for peer teaching.						
準備学習の内容	The reading material for this course is advanced level (about TOEIC 600-750), so students may want to read some of the online materials before the course starts.						
各回の授業内容	<p>1 Introduction</p> <p>2 Project READ (Nepal)</p> <p>3 – cont'd –</p> <p>4 “Literacy is the best remedy.” <i>The UNESCO Courier</i>. 2008, No. 7, 1-13.</p> <p>5 – cont'd –</p> <p>6 “Why languages matter: Meeting millenium development goals...”</p> <p>7 – cont'd –</p> <p>8 “Education makes a world of difference: Annual review 2010”</p> <p>9 – cont'd –</p> <p>10 “The power of women's literacy” (UNESCO)</p> <p>11 – cont'd –</p> <p>12 “Storytelling: A tool for promoting peace and literacy”</p> <p>13 – cont'd –</p> <p>14 “Literacy programmes in minority language communities” (UNESCO)</p> <p>15* – cont'd –</p> <p>16* – cont'd –</p> <p>17 “Communication and power” (Action Aid)</p> <p>18 – cont'd –</p> <p>19 – cont'd –</p> <p>20 – cont'd –</p> <p>21 – cont'd –</p> <p>22 “Education for all: Global monitoring report 2010” (UNESCO)</p> <p>23 – cont'd –</p> <p>24 – cont'd –</p> <p>25 – cont'd –</p> <p>26 – cont'd –</p> <p>27 Review and discussion</p> <p>28 – cont'd –</p> <p>*【教職員間授業公開日：11/13（火）、11/16（金）】</p>						
評価方法	Written homework and discussion (50%), Weekly quizzes (50%)						
テキスト	<p><i>Why Languages Matter: Meeting Millennium Development Goals</i> (SIL International) http://www.sil.org/sil/global/mdg_booklet_english.pdf</p> <p>“Literacy is the Best Remedy.” <i>The UNESCO Courier</i>. 2008, No. 7, 1-13. http://tinyurl.com/unesco-literacy-remedy (and other PDF downloads)</p>						
参考書	<p>David Archer and Kate Newman (Eds.), <i>Communication and Power</i> (Action Aid) http://tinyurl.com/actionaid-communication-power (and other PDF downloads)</p>						
その他特記事項	The topic and sequence of the readings above (1-28) may change depending on the size, ability, and interest of the class and the availability of the Multimedia Room.						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	This course is relevant to students in the SJC volunteer tutoring program who are teaching Japanese or English, but participation in service learning is not required.				

専門科目（異）

科目名	比較政治制度論			担当者名	高野 敏樹		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	現代政治システムの原型である近代立憲主義の諸原理を形成したイギリス、フランス、ドイツ、アメリカ等の政治、社会システムを理解し、同時に現代日本政治の構造と実際を批判的に分析する力と、それを的確に表現する力を涵養します。						
授業の概要	現代政治のシステムと動態を理解するために、主権、統治権力、民主政の意義、人権と政治の関わり、政治と文化・国民性等の諸要素を比較政治的手法で取扱います。						
準備学習の内容	講義の事前に必要な資料を配布します。事前にその資料を熟読して講義内容を理解し自己の考えを形成するために、各回2時間程度の自己学習を要します。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 比較の基準としての「近代立憲主義」の諸原理 2 イギリス—その「漸進的改革」と「連続性」 3 イギリスの政治機構①—王権と国民主権 4 イギリスの政治構造②—議会制民主主義、二院制と議院内閣制 5 イギリスの政治機構③—二大政党制 6 現代イギリスと EU①—遅れてきたイギリスと EU 7 現代イギリスと EU②—EU の優位によるイギリス法と政治伝統の変容 8* フランス—革命と「未完の革命」 9 フランス政治における「政治の振り子」 10 フランスの憲法と政治構造①—半代表制、国民投票 11 フランスの憲法と政治構造②—大統領内閣制の知恵、官僚制 12 現代フランスと EU（EU の政治的リーダーとしてのフランス） 13 ドイツ—その「後進性」と「先進性」 14 ドイツ—遅れた国家統一、上からの近代化、プロイセンの優越と中央集権 15 ドイツの憲法と政治構造①—ワイマールの光と影、民主化の徹底と崩壊 16 ドイツの憲法と政治構造②—戦後ドイツの「たたかう民主主義」 17 現代ドイツと EU（再統一、EU の経済的リーダーとしてのドイツ） 18 アメリカ合衆国—成立の理念と国家構造（自由と平等、自然権、社会契約） 19 アメリカの憲法と政治構造①—「連邦制」と「権力分立」 20 アメリカの憲法と政治構造②—大統領制と行政府 21* アメリカの憲法と政治構造③—二大政党制と政治 22 アメリカの憲法と政治構造④—アメリカの外交政策の変遷 23 アメリカの憲法と政治構造⑤—最高裁と違憲立法審査権の機能 24 社会主義諸国の過去と現在—旧ソビエト圏、中国 25 市場原理に立脚した社会主義体制 26 国際政治の制度と現状—国連の意義と課題 27 国際政治の制度と現状—global governance の新たな展開とその課題① 28 国際政治の制度と現状—global governance の新たな展開とその課題① <p>*【教職員間授業公開日：10/15（月）、12/6（木）】</p>						
評価方法	本学所定の出席率を満たした者について、試験の結果（80%）と出席状況（20%）を総合して評価します。						
テキスト	テキストはとくに指定しません。必要な資料は講義中に配付します。						
参考書	河合秀和著『比較政治・入門』（有斐閣） 加藤秀治郎他『政治学の基礎』（一芸社）						
その他特記事項	配付資料の内容を適切に理解するとともに、講義中に適切なノートを作成することが大切です。						

専門科目（文）

科目名	演劇研究			担当者名	飯田 純也		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	演劇は言語表現も身体表現の一部に過ぎないことを再確認させてくれる。学生は演劇作品の分析とその作品の演出経験によって、哲学、倫理学、心理学の基盤にある身体論を実践的に学び、学問を総合的に見直す機会を得る。						
授業の概要	古代演劇と近代演劇、悲劇と喜劇をソフォクレスとシェイクスピアを通して探求する。授業で取り上げた作品を実際に上演してもらう。						
準備学習の内容	授業で取り上げる作品を事前に読み、人物の心理に斬り込んでもらう。また、人物を演じる役者及び演出家の眼で作品を再構築する上で、演出家 Peter Brook の <i>The Empty Space</i> を並行して読んでもらう。						
各回の授業内容	<p>1 授業紹介 2 演劇論</p> <p>3-4 古代ギリシャ悲劇 Sophocles, <i>Oedipus Tyrannus</i> 5-6 Sophocles, <i>Antigone</i></p> <p>7-8 古代ローマ悲劇 Seneca, <i>Oedipus</i></p> <p>9-10 復習</p> <p>近代悲劇 11-12 Shakespeare, <i>Macbeth</i> 13-14* Shakespeare, <i>King Lear</i> 15-16 Shakespeare, <i>Hamlet</i></p> <p>古代ギリシャ喜劇 17-18 Aristophanes, <i>Lysistrata</i></p> <p>近代喜劇 19-20 Shakespeare, <i>Twelfth Night</i> 21-22 Shakespeare, <i>A Midsummer Night's Dream</i> 23-24 Shakespeare, <i>Much Ado About Nothing</i> 25-28 学期末公演の準備</p> <p>授業内容の変更あり。</p> <p>*【教職員間授業公開日：11/6（火）、11/9（金）】</p>						
評価方法	出席を前提とした上で、評価はリアクションペーパーが（10%）、レポートが（90%）、あるいは学期末公演がある場合は、レポートが（30%）、学期末公演が（60%）とする。						
テキスト	Peter Brook, <i>The Empty Space</i> (Penguin Books)						
参考書	Glynne Wickham, <i>A History of the Theater (Performing Arts)</i> (Phaidon Press)						

専門科目（文）

科目名	小説研究			担当者名	永野 良博		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	四つの現代アメリカ小説を読むことを通して、小説研究のアプローチの仕方について学ぶ。主題、文体、物語の構造等の観点から文学理解を深めてゆく。また小説の原文にふれ、そこから文学研究において重要な主題を読み取る力を養う。						
授業の概要	Kurt Vonnegut 論から初め、戦争による破壊、決定論と自由意思などの問題を追及する。John Barth 論 では相対主義的世界における自己の問題を扱う。次に Thomas Pynchon に関しては、歴史の闇・周辺に位置する集団について論じる。Don DeLillo については、ハイテク社会における生と死の在り方について探求してゆく。						
準備学習の内容	毎回の授業の前に、各自が小説を読み単語や文法事項を調べることが求められる。その際、2-3時間程の予習が必要である。さらに小論文を作成する時には、資料読解などで何日もの準備が必要となる。						
各回の授業内容	<p style="text-align: center;">【Kurt Vonnegut, Jr., <i>Slaughterhouse-Five</i>】</p> <p>1 主人公 Billy Pilgrim 時間の中を彷徨う 2 Tralfamadore 星人の時間と死の概念、第二次世界大戦中の時間旅行の開始 3 ある兵士の Billy への憎しみ、戦後の復讐、Billy の死の予告、決定論と自由意志 4 宇宙の終末、予定説、Edgar Derby によるナチスへの徹底抗戦の主張、彼の不条理な死 5 ドレスデン爆撃の記憶、飛行機墜落事故と妻の不条理な死 6 Billy の妻への思い、空想科学小説 7 自己と世界の再創造</p> <p style="text-align: center;">【John Barth, <i>The End of the Road</i>】</p> <p>8* 主人公 Jacob Horner の自己喪失、選択不可能状態 9 Morgan 夫妻との出会い、相対主義的世界に関する議論、個人の価値観と一貫性 10 Jacob と Rennie の乗馬、愚かさに関する二人の議論、個人の独自性、真正なる個人 11 Jacob と Rennie の姦通、Jacob の受ける精神療法 12 姦通に関する Joe との議論、原因の飽くなき探求 13 個人と主体に関する Jacob の見解 14 崩壊へ</p> <p style="text-align: center;">【Thomas Pynchon, <i>The Crying of Lot 49</i>】</p> <p>15 主人公 Oedipa Maas の目覚め、囚われの身の女性、塔と虚空、世界を織り成すこと 16 啓示への期待、謎の郵便・通信システム、湖に沈む亡き兵士達の遺骨 17 歴史の闇、周辺性、異端性 18 変化するアメリカ社会、エントロピー、マックスウエルの悪魔 19* 別世界のこの世界への侵入（或いはポストモダニズム）、疎外された人々、メタファー 20 相続権を失いし者の組織 21 Epiphany を待ちながら</p> <p style="text-align: center;">【Don DeLillo, <i>White Noise</i>】</p> <p>22 富、消費、リスク、死、テクノロジーと環境汚染 23 媒介された知覚とオーラ、テレビネットワークのデータフロー、その神聖なる公式 24 情報過多、他人の不幸と死、消費者の実存的クレジット 25 化学物質の雲、恐れと畏怖の念、我々から独立した生を持つ現代の死 26 テクノロジー、超国家的名前、超越への願望、死の恐怖を取り除く薬 Dylar 27 死への恐怖と独裁者による支配への願望 28 復讐、疑惑ある許しの行為</p> <p>*【教職員間授業公開日：10/15（月）、11/26（月）】</p>						
評価方法	出席および授業参画（20%）、小論文および期末テスト（80%）						
テキスト	ハンドアウト。Kurt Vonnegut Jr., <i>Slaughterhouse-Five</i> (Vintage); John Barth, <i>The End of the Road</i> (Anchor); Thomas Pynchon, <i>The Crying of Lot 49</i> (Vintage); Don DeLillo, <i>White Noise</i> (Penguin) またはそれらの作品の翻訳書。						
参考書	なし						
その他特記事項	英文の原書を読破することが望ましいが、翻訳を中心として一部英文を読み学習することも可能。						

専門科目（文）

科目名	映画と文学			担当者名	平野 幸治		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	映画は、映像によって世界を提示する。文学は、言葉によって想像力に訴える。映画は表象によって、文学は比喩によって、メッセージを提示する。シンボルや比喩の解釈は、映画や文学では作品世界を読み解くカギとなる。この授業の終了時には、「世界・作品・解釈」をキーワードにシンボルや比喩を分析し論理的に説明する力、日本語である程度まとまった文章を書く力、人前で発表する勇気が身に付く。						
授業の概要	John Berger, <i>Ways of Seeing</i> (Penguin) 等のシンボルの解釈や映画論についての論考を読む。配布した映画のリストから DVD を事前に見てきてもらい、グループで討論する。学生の発表やパネル・ディスカッション等、一方通行ではない授業を展開する。						
準備学習の内容	事前に授業外で DVD を見ながらメモを取る作業を習慣化するのに学生によって個人差がある。指示された DVD によっても異なるが、約 2 時間から 2 時間半を要する準備学習を期待する。						
各回の授業内容	<p>1-4 narative は繋がりか？ Virginia Woolf, <i>Mrs Dalloway</i> と Michael Cunningham, <i>The Hours</i> を読む・観る</p> <p>5-8 monster の意味は？ Charlotte Bronte, <i>Jane Eyre</i>, Mary Shelley, <i>Frankenstein</i> と <i>Alien 2</i> を読む・観る</p> <p>9-12* 「郵便的」とは？ Samuel Richardson, <i>Clarissa</i> と『イル・ポスターノ』を読む・観る</p> <p>13-16 “For Others, with Others” とは？ Kazuo Ishiguro, <i>Never Let Me Go</i> と『私を離さないで』を読む・観る</p> <p>アメリカ映画の中のジェンダー表象</p> <p>17-21* アメリカ映画の中の女性性と女性原理 「ファム・ファタール」とは？</p> <p>22-24 アメリカ映画の中の男性性と男性原理 「本当の男」とは？</p> <p>25-28 1960 年代以降のアメリカ映画の中のジェンダーおよびアメリカ映画の中の東部と西部の価値観や理想像の相違</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/18（金）、6/29（金）】</p>						
評価方法	授業参画（40%）、発表（40%）、レポート（20%）						
テキスト	Harry M. Benshoff & Sean Griffin, <i>Gender and American Film</i> （英宝社）						
参考書	Robert Sklar, <i>Film: An International History of the Medium</i> (Harry N. Abrams) 蓮見重彦『映画論講義』（東京大学出版会）						
その他特記事項	娯楽のためだけに映画があるのではないこと、勉強のためだけに文学があるのではないこと、これらの側面に気づくことは、後の人生を更に豊かにする。						

専門科目（文）

科目名	翻訳演習			担当者名	永野 良博		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	現代英米小説からの抜粋を読み、英文の和訳・翻訳の技術を高めてゆく。学期前半では単語や構文理解等のレベルから学習し始めて和訳の基礎を固め、その後は少しずつ日本語らしい文章で翻訳を行うための努力をする。また多くの文学作品に触れ、文学への理解を深めることが出来るようにする。						
授業の概要	様々な文体で書かれた英語の小説を読み、それに相応しい文章で日本語訳してゆく。哲学的な瞑想、戦争の記述、口語的な文章、心理描写など多様な文章を検討してゆく。毎回の授業で、個々の学生が作る訳文、教員の訳文、翻訳家の訳文を比較、検討する。文学的主題の理解も深める。						
準備学習の内容	毎回の授業の前に、各自が単語や文法事項を調べ、訳文を作ることが求められる。その際、2時間程の予習が必要である。また毎回2-3人の学生が代表として訳文のハンドアウトを作成し発表するので、その際には3-4時間の準備時間が必要である。						
各回の授業内容	<p>1 Paul Auster, <i>Ghosts</i> 導入</p> <p>2 Paul Auster, <i>Ghosts</i> 語順と時制</p> <p>3 Paul Auster, <i>Ghosts</i> 主語、動詞、補語（文学的主題：存在と自己同一性）</p> <p>4 Paul Auster, <i>Ghosts</i> 分詞構文（存在と自己同一性）</p> <p>5 Paul Auster, <i>Ghosts</i> too~too 構文（不確定性と因果関係）</p> <p>6 Paul Auster, <i>Ghosts</i> 感情、精神状態を表す語彙（自己とその分身）</p> <p>7 Paul Auster, <i>Ghosts</i> 関係代名詞、比較級（他者との関わりと自由）</p> <p>8 Paul Auster, <i>Ghosts</i> 仮定法（孤独と自己同一性の崩壊）</p> <p>9 Paul Auster, <i>Ghosts</i> 強調構文（他者への不信感と陰謀）</p> <p>10 Paul Auster, <i>Ghosts</i> as though 構文、形式主語（他者への不信感と陰謀）</p> <p>11 Paul Auster, <i>Ghosts</i> so~that 構文、色に関する語彙（名前の恣意性）</p> <p>12* Paul Auster, <i>Ghosts</i> as~as 構文、so~that 構文（他者による自己の承認）</p> <p>13 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> <i>They Carried</i> 導入</p> <p>14 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 道徳性、悪に関する表現（戦争物語における道徳性）</p> <p>15 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 死に関する表現（事実と真実との関係）</p> <p>16 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 生の喜び、理想の自己に関する表現（悪の中での善）</p> <p>17 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 高潔、正義、礼節、和合の表現（悪の中での善）</p> <p>18 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 勇気、屈辱、悲しみの表現（徴兵忌避と善悪）</p> <p>19 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 情熱とその消耗の表現（友人の死）</p> <p>20* Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 精神的危機に関する表現（物語と自己の客観視）</p> <p>21 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 真実を物語るための表現（物語の真実性）</p> <p>22 Tim O'Brien, <i>The Things...</i> 真実を物語るための表現（物語の真実性）</p> <p>23 J.D. Salinger, <i>The Catcher in the Rye</i> ティーンエイジャーの口語体（phony な世界）</p> <p>24 Kurt Vonnegut, <i>Slaughterhouse-Five</i> 戦争に関する記述（破壊とトラウマ）</p> <p>25 Raymond Carver, <i>What We Talk about...</i> 家具などの描写（結婚生活の破綻）</p> <p>26 John Irving, <i>The Hotel New Hampshire</i> 俗語と性に関する表現（親子、兄弟関係）</p> <p>27 Margaret Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> 学生生活に関する表現（ジェンダー、身体）</p> <p>28 Kazuo Ishiguro, <i>The Remains of the Day</i> 階級差を表す表現（英国階級社会）</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/28（月）、6/25（月）】</p>						
評価方法	出席および授業参画（20%）、口頭発表および期末テスト（80%）						
テキスト	上岡伸夫『現代英米小説で英語を学ぼう <i>Read and Translate</i> 』（研究社）						
参考書	ポール・オースター『幽霊たち』（新潮文庫） ティム・オブライエン『本当の戦争の話をしよう』（文春文庫）						
その他特記事項	文学作品の持つ構造的に複雑で、重層的な意味を有する文章を翻訳してゆく。						

専門科目（言）

科目名	社会言語学			担当者名	神谷 雅仁		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	本講を通し、学生は人が社会の中でどのように言葉を選択し、それを使用するかについて学ぶ。対象となる言語社会は自らの母語である日本語および様々な英語圏の国・地域で使用される英語が中心となるが、ヨーロッパやアジアにおける言語状況などについても概観する。学生は授業内で触れる言語使用や言語バリエーションに関する様々な概念や考え方、理論を学びながら、自らも日々の生活の中でどのように言葉を使い生活しているのかについて再発見、再認識をする。						
授業の概要	各単元の学習項目は言語選択やポライトネス理論といった社会言語学の中でも中核を成す内容を中心に構成される。授業は主に講義形式で進むが、授業開始直後に行う前回授業内容の復習セッションでは、理解度チェックも兼ねて学生に既習内容の説明を求める。						
準備学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学生はテキストやプリントの指定箇所を読み、予習をして授業に臨むことが求められる。テキストは日本語であるが、プリントは英語で書かれているものも含まれるため、長いものであればしっかりと読んで理解するのに数時間を要する。 ・単元によっては言語学概論で学んだ内容が直接関係してくる箇所もあるため、言語学の復習も必要となる。 						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Course overview 2 What is Linguistics? 言語学の全体像を概観 3 What is Sociolinguistics? 社会言語学という分野がどのように誕生したか 4 Multilingual society 様々な国・地域における多言語使用の状況を見る 5* Diglossia & Domain 人々が複数の言語の中からどのように言語選択をするか 6 Code-switching 1 コード・スイッチを Why と How の観点から分析 7 Code-switching 2 コード・スイッチを Why と How の観点から分析 8 Language death 消滅の危機に瀕している言語を取り上げる 9 Pidgin & Creole 1 ピジン語・クレオール語とはどのような言語か 10 Pidgin & Creole 2 ピジン語・クレオール語とはどのような言語か 11 World Englishes 世界に存在する様々な英語のバリエーションを見る 12 Regional variation 地域方言—地域差による言語使用 13* Social variation 1 社会方言—社会階級による言語使用 14 Review of the first half 15 Mid-term test 16 Social variation 2 社会方言—民族グループ（米黒人）による言語使用 17 Social variation 3 社会方言—性差・年代差による言語使用 18 Audience design 言語使用上のスタイルの変化 19 Speech accommodation 言語使用上のスタイルの変化 20 Politeness 1 ポライトネス研究を概観する 21 Politeness 2 Brown & Levinson のポライトネス理論を取り上げる 22 Sexist language 性差別的言語使用を英語と日本語の例から概観する 23 Cross-cultural communication 1 異文化間コミュニケーション 24 Cross-cultural communication 2 異文化間コミュニケーション 25 Language policy and planning 言語政策 26 Pragmatics 1 語用論—意味論との違い、Deixis 直示 27 Pragmatics 2 語用論—会話の含意、協調の原理、発話行為論 28 Course review <p>*【教職員間授業公開日：10/4（木）、11/5（月）】</p>						
評価方法	中間・期末テスト（70%）、Summary Report（20%）、出席・授業参加度・提出物（10%）						
テキスト	東照二（著）『社会言語学入門』（研究社出版）						
参考書	飯野公一ほか（編）『新世代の言語学：社会・文化・人をつなぐもの』（くろしお出版） 中尾 俊夫ほか（編著）『社会言語学概論』（くろしお出版）						
その他特記事項	本講の履修には「言語学概論」の単位が取得済みか、あるいは同時に履修していくことが望ましい。よって「言語学概論」未修者は履修登録前に担当教員と話をしなければならない。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	様々なサービスラーニング活動を通し学生たちが経験したこと・気づいたことを本講の学習内容（例．コードスイッチング、アコモデーション、異文化コミュニケーションなど）と関連付けてグループ・ワークの際などに共有する。				

専門科目（言，教）

科目名	音声学			担当者名	高橋 絹子		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	この授業では、主に英語の音声に関する理論や知識を習得することを目的とする。さらに、習得したことを実際の英語の発音に反映できるようにする。また音声学を学ぶことにより、当たり前のように使っている言語に関して興味や関心の幅を広げ、コミュニケーションについて考えるようにする。						
授業の概要	音声学と音韻論の基礎的な理論を説明しながら、言語音声の重要性を学ぶ。授業は、講義形式を主体として進めるが DVD、インターネットのサイト、カセットなどの視聴覚教材も取り入れ、実践的訓練も行なう。						
準備学習の内容	復習として、ノート整理やメモの作成をすることが望ましい。発音の実践に関しては、指定された教材に合わせて自宅で各自、毎日 5～10 分程度の訓練を行うと効果的である。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業紹介・オリエンテーション 2 音声学について 3 音声器官 (1) 4 音声器官 (2)・音声の発動・音声記号 5 まとめと復習 (1)・子音の分類 (1) 6 子音の分類 (2) 7* ミニマルペア 8 英語の子音と日本語の子音 (1) 9* 日本語の子音 (2)・二次調音 10 まとめと復習 (2)・母音の分類 11 母音の種類・基本母音 12 英語の母音 (1) 13 英語の母音 (2)・日本語の母音 14 イギリス英語の発音と米語の発音 15 中間テスト・まとめと復習 (3) 16 日本語の音韻体系 17 音節・もーら 18 アクセントの分類 19 英語の語アクセント (1) 20 英語の語アクセント (2) 21 英語の文アクセント 22 英語のイントネーション 23 まとめと復習 (4) 24 日本語のアクセント 25 日本語の方言 26 声の高さ・ポーズとスピード 27 まとめと復習 (5) 28 質疑応答 <p>*【教職員間授業公開日：5/11（金），5/18（金）】</p>						
評価方法	出席（10%），提出物（20%），中間テストおよび期末テスト（70%）						
テキスト	授業中に配布する各種資料						
参考書	牧野武彦『日本人のための英語音声学レッスン』（大修館書店） 斉藤純男『日本語音声学入門（改訂版）』（三省堂） Mike Davenport & S.J.Hannahs, <i>Introducing Phonetics & Phonology</i> (Arnold)						

専門科目（言，教）

科目名	日本語学			担当者名	宮崎 幸江		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	日本語を一つの言語として捉える目を養う。将来、言語学、国語学、英語学や日本語教育などの言語関連の分野に進みたい人に最低限必要な日本語に関する基礎知識を重点的に学べる。						
授業の概要	日本語の音声・音韻論，形態論，統語論の基礎を学ぶ。「言語学概論」と共通する内容を，日本語の構造を例に学ぶ。						
準備学習の内容	その日にやる箇所を1時間程度予習してることが前提。						
各回の授業内容	1 言語学の一分野としての日本語学 2 音声・音韻 1 3 音声・音韻 2 4 音声・音韻 3 5 小テスト 1 6 形態論 1 7 形態論 2 8 形態論 3 9 格 10* 文の構造と文法カテゴリー 11 主題と主語* 12 復習 13 小テスト 2 14 ボイス 15 受身 1 16 受身 2 17 やりもらい 1 18 やりもらい 2 19 小テスト 3 20 使役 21 敬語 1 22 敬語 2 23 ら抜きことば 24* バリエーション 25 「は」と「が」 26 小テスト 4 27 まとめ 28 まとめ *【教職員間授業公開日：5/21（月），7/9（月）】						
評価方法	出席（20%），小テスト（30%），期末テスト（50%）						
テキスト	庵功雄『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える』（スリーエーネットワーク）						
参考書	庵功雄他『やさしい日本語のしくみ』（くろしお出版）						
その他特記事項	編入学試験の記述試験のストラテジーについても，小テストのなかで触れる。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	サービスラーニングで日本語支援（カレッジフレンド等）に参加する学生にとって，当科目は日本語の構造を学べる基礎的な科目である。				

専門科目（言）

科目名	英語史			担当者名	永野 良博		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	古英語，中英語，近代英語，現代英語の特長を考察し，歴史的観点から英語を学ぶことにより，語彙，文法，発音などの問題についてより幅広い知識を得る。歴史的資料や文学作品からの引用文を検証し，言語の発達をイギリス史，イギリス文学史という枠組みの中で理解する。また現代英語圏の多様な英語についても知識を深める。						
授業の概要	現代の国際語としての英語の考察から始め，容認発音が使われるスタンダードな英語や地域によって異なる英語を検討する。そして時代を遡り，古英語の語彙，キリスト教文献，ノルマン語の流入，中英語への変化，印刷技術の発達，中英語の詩および劇，近代英語の発達とシェイクスピアの英語などを学ぶ。						
準備学習の内容	授業で扱う英語の文献を事前に読み，理解してこることが求められる。毎回，2-3時間の準備学習が求められる。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 An English Speaking World 2 English as a Global Phenomenon 3 Received Pronunciation 4 Received Pronunciation 5 Regional Accents 6 Class Accents 7 The Voice of America 8* The Network Standard 9 Technology and English 10 The Strict Economy of English 11 The Beginning of Old English 12 Old English Vocabulary 13 Old English Pronunciation 14 The Word of God 15 The Norman Invasion 16 Old English and French 17 Old English and French 18 The Beginning of Middle English 19* Middle English Literature 20 Middle English Literature 21 The Art of Printing 22 Middle English Literature 23 Middle English Literature 24 Elizabethan English 25 Shakespeare's English 26 Shakespeare's English 27 Shakespeare's English 28 The King James Bible <p>*【教職員間授業公開日：10/15（月），11/26（月）】</p>						
評価方法	出席および授業参画（20%），小テストおよび期末テスト（80%）						
テキスト	Robert McCrum 他， <i>The Story of English</i> （朝日出版）						
参考書	渡部昇一『英語の歴史』（大修館書店）						
その他特記事項	英語の文献の読解が中心となる。						

専門科目（言）

科目名	通訳演習			担当者名	近藤 佐智子		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	本講を通して通訳に関係する言語学およびコミュニケーション学上の理論を理解した上で、日英の逐次通訳ができるようにトレーニングを行う。両言語の共通点や相違点について考える力と両言語での表現力を身につけることを目標とする。また、日本の文化や場所について英語で発信する力をつけると共に、国家試験である通訳案内士試験で求められている知識について理解をし、将来の受験準備の一步とする。						
授業の概要	日本文化の様々な事象や時事問題を日本語から英語に通訳すると共に、英語の講義やインタビューを日本語に通訳する練習を行う。後半には通訳案内士試験の過去問題に取り組み、最後に日本観光ガイドの発表を英語で行う。中間、期末試験以外に数回の語彙テストを行う。						
準備学習の内容	基本フレーズや語彙の学習、リスニング、訳など授業外で行ってもらった課題が多い科目であることに留意し履修すること。各授業の前に最低約3時間の授業外学習が必要である。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入・通訳とは 2 言語学の諸分野と通訳 3 異文化間コミュニケーションと通訳 4 通訳技法・トレーニング方法 5 Introducing Japanese Culture (Traditional Arts and Pop-culture) 6 Introducing Japanese Culture (Japanese Language) 7 Introducing Japanese Culture (Customs and Daily Life) 8 Introducing Japanese Culture (Japanese Food) 9 Introducing Japanese Culture (Annual Events and Holidays) 10 スピーチの逐次通訳 (時事問題) 11 スピーチの逐次通訳 (時事問題) 12 スピーチの逐次通訳 (時事問題) 13* スピーチの逐次通訳 (時事問題) 14 スピーチの逐次通訳 (レクチャー) 15 スピーチの逐次通訳 (レクチャー) 16 スピーチの逐次通訳 (レクチャー) 17 スピーチの逐次通訳 (インタビュー) 18 スピーチの逐次通訳 (インタビュー) 19 通訳案内士試験演習 20 通訳案内士試験演習 21 通訳案内士試験演習 22 通訳案内士試験演習 23 観光ガイドプロジェクト 24 観光ガイドプロジェクト 25 観光ガイドプロジェクト 26 観光ガイドプロジェクト (発表) 27 観光ガイドプロジェクト (発表) 28* 観光ガイドプロジェクト (発表) <p>*【教職員間授業公開日：5/31（木）、7/23（月）】</p>						
評価方法	中間試験（25%）、期末試験（25%）、観光ガイド発表（20%）、出席と授業参画（20%）、語彙テスト（10%）						
テキスト	広瀬直子（著）『日本のことを1分間英語で話してみる』（中経出版）						
参考書	水野真木子ほか（著）『グローバル時代の通訳』（三修社） 小松達也（著）『通訳の英語 日本語』（文春新書、文芸春秋）						
その他特記事項	TOEIC400点以上あることが好ましい。授業外で行ってもらった課題が多い科目であることに留意すること。						
サービスラーニング関連度	C	サービスラーニング関連内容	コミュニティー通訳やボランティア通訳の実情やあり方などについて授業で取り上げ、習得した通訳技能をどのように地域社会で生かすことができるか考察する。				

専門科目（教）

科目名	初等教育			担当者名	神門 しのぶ		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	本講義の目標は、第一に、初等教育をめぐる基本的用語や今日的課題を正しく理解し、人間になぜ教育が必要なのかを、初等教育段階の重要性という観点から把握することです。第二に、理論を実践につなげることの難しさや面白さを味わうことです。						
授業の概要	前半は、初等教育に関わる諸概念について講師が基本的な解説をした後、現状や課題を全員で討議する。後半は、全員が実践者になることを想定し、模擬授業を行なう。						
準備学習の内容	「教育学」で学んだ基礎知識を元に、それらを関連させたり発展させたりしながら各回の授業に臨んでください。						
各回の授業内容	<p>1 オリエンテーション～本講義のねらい</p> <p>2-3 初等教育に関連する教育法令を読む</p> <p>4 「小学校」について</p> <p>5 「幼小連携」について</p> <p>6-7 「児童期」の特徴と課題</p> <p>8 「学力」とは何か ①全国学力・学習状況調査の結果を手がかりに</p> <p>9 「学力」とは何か ②PISA 調査の結果を手がかりに</p> <p>10* 「わかる」とはどういう事態を指すのだろうか</p> <p>11-12 「カリキュラム」の原理</p> <p>13-14 「学習指導要領」を読む</p> <p>15-16 小学校の授業づくりに求められることは何か</p> <p>17* 「総合的な学習の時間」について</p> <p>18-19 「指導案」を作成する</p> <p>20-21 「特別支援教育」について</p> <p>22 「リテラシー／識字」とは何か ①日本の場合</p> <p>23 「リテラシー／識字」とは何か ②世界に目を向けて</p> <p>24-27 模擬授業</p> <p>28 まとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/22（火）、6/15（金）】</p>						
評価方法	出席および平常点（50%）、提出物および発表（50%）。なお、平常点には不定期に実施する小テストの結果も含めます。						
テキスト	文部科学省教育課程課／幼児教育課編『初等教育資料』2011年12月号（東洋館出版社）						
参考書							
その他特記事項	原則として、「教育学」の既修または同時履修を受講の条件とします。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	本講義をとおして、児童期の特徴や現代の小学校特有の課題を知ることができ、また、模擬授業の機会が提供されるので、おもに小学生を対象とする学習支援活動に役立つ。				

専門科目（教）

科目名	児童心理学			担当者名	林 百合		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	児童期の発達、児童特有の心理、社会や家庭環境との関係などについての基本的知識やこころの問題について学び、児童だけでなく自分自身のこころへの視点、理解が深まります。						
授業の概要	基本的に講義形式をとりますが、講義テーマに対する皆さんのリアクションに応じて、内容を掘り下げたり、ディスカッションや体験的ワークなどを取り入れ体験的に深めていきます。						
準備学習の内容	テキストやプリントなどによる自己学習や、自分の児童期を振り返って観察し、自分なりの考えや思いをもって臨んでください。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童心理学を学ぶ意義（児童心理学とは） 2 児童期とは（定義、特徴、発達） 3 子どもをどうとらえるのか（人の子どもの特徴） 4 こころの発達段階各論（エリクソン、フロイト、マラーナなど） 5* いまどきの子どもと子どもをとりまく環境の変化、子どもと情報通信メディア 6* 現代における子どものからだと運動（特徴） 7 ことばの取得と認知的・社会的発達 8 知性（知能、思考、創造性と学力について） 9 認知のプロセスと思考、問題解決方略 10 やる気—動機づけのメカニズムと学習への動機づけ、無気力 11 自己概念とパーソナリティ（パーソナリティ形成と測定方法） 12 対人関係の発達（愛着形成、仲間関係の発達、ソーシャルサポート） 13 社会性—社会的行動の発達と関連要因について 14 性—性同一性と性役割の発達、性同一性障害 15 子どものこころ（秋学期中間まとめ） 16 子どもの心理臨床（子どもの心理療法の特徴と各論） 17 子どもの心理臨床（子どもの心理療法・実践） 18 子どもの心理臨床（こころを理解し支援するために、大切なこと） 19 子どものこころの障害—不登校 20 子どものこころの障害—非行 21 子どものこころの障害—いじめ 22 児童虐待—概説、 23 児童虐待—最近の特徴、対応 24 外傷後ストレス障害（PTSD）—概説 25 外傷後ストレス障害（PTSD）—こころのケア 26 さまざまな発達障害—それぞれの基本的な特徴 27 さまざまな発達障害—専門的な発達支援について 28 子どものこころ（秋学期総まとめ） <p>*【教職員間授業公開日：10/4（木）、10/8（月）】</p>						
評価方法	出席状況（10%）、受講態度（10%）、リアクションペーパー（20%）、小レポート（20%）、テスト（20%）、最終レポート（20%）による総合評価						
テキスト	桜井茂男、濱口佳和、向井隆代著『子どものこころ：児童心理学入門』（有斐閣アルマ）						
参考書							
その他特記事項	「心理学」を受講していることが望ましいです。						
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	メンタルフレンドボランティアなどを行っている学生に、支援の実際、体験を通して気づいたこと、教育現場における工夫や問題点について発表してもらい、発達障害や子どもの心の支援のあり方について、ディスカッションを行う。				

専門科目（教，言）

科目名	第二言語習得			担当者名	T. Gould		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	We are all learning a second language, but what exactly is happening to us as we do it? In this course students will learn about and explore how the field of Second Language Acquisition (SLA) tries to answer this question. While investigating its history and the current state of affairs, students will also have a chance to use what they learn and see SLA in action. Students will learn how to do basic research by transcribing and analyzing some original data.						
授業の概要	This class will include lectures of about 40 minutes, which will often be followed by small group discussions about the material. We will also do some pair work and practice talking about readings from the textbook. Additionally, we will look at our own second language acquisition to see how it relates to what we are learning about from the textbook and through lectures.						
準備学習の内容	Preparation for this class involves reading in advance of the lecture. Additionally, students are required to transcribe SLA video tapes, which takes about 2 -3 hours per week.						
各回の授業内容	<p>1 Course Introduction and Overview</p> <p>2-3* The Nature of Learner Language: Variability and Developmental Patterns</p> <p>4*-5 Behaviourist vs Mentalist, Computational model of L2, Interlanguage</p> <p>6-7 Social Aspects of SLA, Acculturation, Social Identity</p> <p>8-9 Individual Differences</p> <p>10-11 Putting Language Knowledge to Use</p> <p>12-13 The Lexicon</p> <p>14-15 Discourse Aspects of Interlanguage</p> <p>16-17 Interlanguage: Social Context and Linguistic Context</p> <p>18-19 Bilingualism: Borrowing, Interference, Code-switching</p> <p>20-21 SLA and Identity</p> <p>22-23 The Critical Period Hypothesis, Access to Universal Grammar</p> <p>24-25 SLA and Instruction</p> <p>26-27 Project Reports 17</p> <p>28 Conclusion: Multiple Perspectives on SLA, Complete Reports</p> <p>*【教職員間授業公開日：10/2（火），10/9（火）】</p>						
評価方法	Attendance and class participation (15%), homework (15%), test (30%), two independent projects (each 20%).						
テキスト	R. Ellis, <i>Second Language Acquisition</i> (Oxford University Press)						
参考書							
サービスラーニング関連度	B	サービスラーニング関連内容	Knowledge about Second Language Acquisition can be helpful for students who participate in Service Learning activities. Understanding how people learn a second language can help you better understand some of the problems or troubles that learners have adjusting to new language environments.				

専門科目（教）

科目名	児童英語教育演習 A			担当者名	狩野 晶子		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	児童英語教育の基礎知識を活かし、指導案の立て方を学ぶ。作成した指導案を課外活動やボランティア活動での実践を通して検証、評価し改善する方法を学ぶ。						
授業の概要	児童英語教育に関する背景知識や言語習得研究の理論をもとに、小学校の現場での使用を想定した指導案を作成し、模擬授業として練習を行う。児童英語教育・言語習得の基本事項を踏まえて実践へと結びつける内容である為、関連科目履修者の受講を奨励する。						
準備学習の内容	テキストの予習・復習と実践練習を各自で行う。また、グループ活動として指導案作成、模擬授業の準備を行う。サービスマスターを活用してのボランティア活動への積極的参加と一日一時間以上の主体的な学習が望まれる。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童英語教育とは 2 コミュニカティブ能力の育成 3 児童英語教育の背景となる言語習得理論 (1) 4 児童英語教育の背景となる言語習得理論 (2) 5 児童英語教育の背景となる言語習得理論 (3) 6 児童英語教育の背景となる言語習得理論 (4) 7 学習者中心の指導とは 8 子どもの年齢・学習経験 9 小学校における英語活動の特徴 10 モデル指導案の研究 11 モデル指導案の実践練習 (1) 12* モデル指導案の実践練習 (2) 13 モデル指導案の実践練習 (3) 14 モデル指導案の実践練習 (4) 15 モデル指導案の実践練習 (5) 16 指導案：言語材料の選び方 17 指導案：さまざまな言語材料のバリエーション (1) 18 指導案：さまざまな言語材料のバリエーション (2) 19 グループでの指導案作成 (1) 20 グループでの指導案作成 (2) 21* 模擬授業発表 (1)・相互評価と講評 22 模擬授業発表 (2)・相互評価と講評 23 模擬授業発表 (3)・相互評価と講評 24 模擬授業発表 (4)・相互評価と講評 25 模擬授業発表 (5)・相互評価と講評 26 模擬授業発表 (6)・相互評価と講評 27 模擬授業発表 (7)・相互評価と講評 28 振り返りとまとめ <p>*【教職員間授業公開日：5/28（月）、6/28（木）】</p>						
評価方法	出席と授業参加姿勢（40%）、教案作成（20%）、模擬授業（20%）、期末課題（20%）						
テキスト	吉田研作（監修）『小学校英語指導プラン完全ガイド』（アルク）						
参考書	吉田研作（監修）『小学校の教室英語フレーズ集』（アルク）						
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業を履修する学生は月・木2限のサービスマスターには他の授業を入れないこと。この授業で作成した指導案を用いたサービスマスターを活用した小学校での英語教育ボランティアに参加する事により指導の実践の場も体験できる。 ・この授業の履修には2011年度までの開講科目「児童英語教育概論」「児童英語教材論」「児童英語教育演習」「第二言語習得」のいずれかを修了している必要がある。 						
サービスマスター関連度	A	サービスマスター関連内容	児童英語教育の知識を実践につなげる授業である。この授業で小学校での児童英語活動を想定した指導案を作成し、練習を行ったうえで児童英語教育ボランティア活動を実践する。				

専門科目（教）

科目名	児童英語教育演習 B			担当者名	狩野 晶子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	児童英語教育の基礎知識を活かし、指導案の立て方を学ぶ。作成した指導案を課外活動やボランティア活動での実践を通して検証、評価し改善する方法を学ぶ。						
授業の概要	児童英語教育に関する背景知識や言語習得研究の理論をもとに、小学校の現場での使用を想定した指導案を作成し、模擬授業として練習を行う。演習 A で扱った基本事項の復習も含まれた発展的な実践内容となる為、演習 A 受講者の受講を奨励するとともに、児童英語教育実践の貴重な機会として演習 B のみの受講者の積極的な参加も求めたい。						
準備学習の内容	テキストの予習・復習と実践練習を各自で行う。また、グループ活動として指導案作成、模擬授業の準備を行う。サービスマーケティング枠を活用してのボランティア活動への積極的参加と一日一時間以上の主体的な学習が望まれる。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童英語教育とは 2 コミュニカティブ能力の育成 3 児童英語教育の背景となる言語習得理論 (1) 4 児童英語教育の背景となる言語習得理論 (2) 5 児童英語教育の背景となる言語習得理論 (3) 6 児童英語教育の背景となる言語習得理論 (4) 7 これまでの英語教育とこれからの英語教育 8 小学校における英語活動の特徴 9 学年 (年齢)・学習経験・その他子ども特有の要因 10 モデル指導案の研究 11* モデル指導案の実践練習 (1) 12 モデル指導案の実践練習 (2) 13 モデル指導案の実践練習 (3) 14 モデル指導案の実践練習 (4) 15 モデル指導案の実践練習 (5) 16 指導案作成に向けて：言語材料の選び方 17 指導案作成に向けて：言語材料のバリエーション (1) 18* 指導案作成に向けて：言語材料のバリエーション (2) 19 グループでの指導案作成 (1) 20 グループでの指導案作成 (2) 21 模擬授業発表 (1)・相互評価と講評 22 模擬授業発表 (2)・相互評価と講評 23 模擬授業発表 (3)・相互評価と講評 24 模擬授業発表 (4)・相互評価と講評 25 模擬授業発表 (5)・相互評価と講評 26 模擬授業発表 (6)・相互評価と講評 27 模擬授業発表 (7)・相互評価と講評 28 振り返りとまとめ <p>*【教職員間授業公開日：10/25 (木), 11/22 (木)】</p>						
評価方法	出席と授業参加姿勢 (40%)、教案作成 (20%)、模擬授業 (20%)、期末課題 (20%)						
テキスト	吉田研作 (監修)『小学校英語指導プラン完全ガイド』(アルク)						
参考書	吉田研作 (監修)『小学校の教室英語フレーズ集』(アルク)						
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業を履修する学生は月・木 2 限のサービスマーケティング枠には他の授業を入れないこと。この授業で作成した指導案を用いたサービスマーケティング枠を活用した小学校での英語教育ボランティアに参加する事により指導の実践の場も体験できる。 ・この授業の履修には 2011 年度までの開講科目「児童英語教育概論」「児童英語教材論」「児童英語教育演習」「第二言語習得」、2012 年度「児童英語指導者養成講座」「児童英語教育概説」「児童英語教育演習 A」のいずれかを修了している必要がある。 						
サービスマーケティング関連度	A	サービスマーケティング関連内容	児童英語教育の知識を実践につなげる授業である。この授業で小学校での児童英語活動を想定した指導案を作成し、練習を行ったうえで児童英語教育ボランティア活動を実践する。				

専門科目（教）

科目名	児童英語指導者養成講座			担当者名	岩崎 明子		
開講期	秋	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	児童英語教師として必要な基礎知識を学ぶ。幅広く幼児から小学生まで英語を教えるために必要な理論的背景を講義を通して学ぶことにより、小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）の認定による「小学校英語指導者」資格の取得を目指す。						
授業の概要	授業は講義を中心として進めるが、随時演習形式で学生の発表なども行う。受講生の積極的な準備、参加が求められる。学期を通して英語力をつけるための文法課題を課し、提出してもらう。それによって通信講座の進捗状況も確認する。						
準備学習の内容	テキストの予習・復習、小課題・アクティビティ発表準備、レッスンプラン作成準備、英文法小テスト・期末テストのための自主学習を一日1時間程度。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童英語教師とは 2 子どもと英語 3 子どもの言語習得（1） 4 子どもの言語習得（2） 5 児童心理学（1） 6 児童心理学（2） 7 認知発達理論（1） 8 認知発達理論（2） 9 バイリンガル教育 10 国際理解教育・異文化理解教育 11 言語習得理論とここまで学んだ知識のまとめ 12 小学校英語活動（1） 13 小学校英語活動（2） 14 代表的な英語教授法・指導法（1） 15 代表的な英語教授法・指導法（2） 16 語彙力・パラフレーズ力・状況設定力（1） 17 語彙力・パラフレーズ力・状況設定力（2） 18 カリキュラムとレッスンプラン（1） 19 カリキュラムとレッスンプラン（2） 20 さまざまな教材・教具（1） 21 さまざまな教材・教具（2） 22 様々なアクティビティとレッスンプランの流れ 23 レッスンを構成するアクティビティ発表（1） 24 レッスンを構成するアクティビティ発表（2） 25 レッスンを構成するアクティビティ発表（3） 26 レッスンプランの書き方（1） 27 レッスンプランの書き方（2） 28 まとめ <p>*【教職員間授業公開日：10/4（木）、12/17（月）】</p>						
評価方法	出席・授業参加姿勢（20%）、小課題・ノート提出（20%）、英文法小テスト（10%）、期末課題〔アクティビティ発表・レッスンプラン作成〕（50%）						
テキスト	『アルク児童英語教師養成コース』（アルク）で使用するテキスト（基礎理論編、レッスンプラン編）及び他のプリント配布物。						
参考書	『英語ノート1』『英語ノート2』（教育出版）						
その他特記事項	アルクの通信講座『アルク児童英語教師養成コース』をベースとする授業なので同講座を受講することが必須となる〔別途費用がかかる〕。この授業の修了時には少なくともTOEIC500点以上となるよう努力すること。この科目の単位修得後、「児童英語教育演習A、B」を受講することができる。						
サービスラーニング関連度	A	サービスラーニング関連内容	児童英語教育に関する基礎を学び、演習科目「児童英語教育演習A、B」と連動した英語教育ボランティア活動のための素地を養う。				

専門科目（教）

科目名	日本語教育演習			担当者名	宮崎 幸江		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	2年
授業の目標	1 年次秋より続けてきたサービ斯拉ーニングで、学習者の状況をよりよく理解し支援の質を上げることが目標とする。また、初等教育のカリキュラム等についての知識も得ることができる。						
授業の概要	日本で生活する外国につながる「年少者」の日本語及び教科支援の方法を学ぶ。日本語教育概論では、成人に対する初級レベルの日本語の教え方を中心に学んだが、演習では「年少者」と「成人」の第二言語習得の違いと支援の具体的な方法について学ぶ。						
準備学習の内容	事前に教科書を読んでくる。レッスンプランを作成するなど、1時間程度の準備が必要。						
各回の授業内容	<p>1 年少者日本語教育とは</p> <p>2 子どもの言語発達 1</p> <p>3 子どもの言語発達 2</p> <p>4 バイリンガル児の言語能力 1</p> <p>5 バイリンガル児の言語能力 2</p> <p>6 国際教室の役割</p> <p>7 在籍学級の役割</p> <p>8* スキャフォールディングの方法 1</p> <p>9 スキャフォールディングの方法 2</p> <p>10 JSL カリキュラム（国語）</p> <p>11-12 JSL カリキュラム（算数）</p> <p>13-14 JSL カリキュラム（社会）</p> <p>15-16 JSL カリキュラム（理科）</p> <p>17-18 模擬授業</p> <p>19-20 模擬授業</p> <p>21-22 模擬授業</p> <p>23-24* 多文化共生と教育 1</p> <p>25-26 多文化共生と教育 2</p> <p>27 まとめ</p> <p>28 まとめ</p> <p>*【教職員間授業公開日：5/14（月）、7/9（月）】</p>						
評価方法	出席（30%）、発表（20%）、レポート（50%）						
テキスト	河原俊昭他『日本語ができないお友達を迎えて』（くろしお出版）						
参考書	「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会『クラスメートは外国人』（明石書店） 三牧陽子『日本語教授法を理解する本』（バベルプレス）						
その他特記事項	授業外で、サービ斯拉ーニング時間枠（月または木 2 限）に、小中学校で外国籍児童・生徒への日本語支援を行なう。2011 年度秋学期に日本語教育概論を履修済みであることが条件。						
サービ斯拉ーニング関連度	A	サービ斯拉ーニング関連内容	この授業を履修する学生は、全員学校派遣等のサービ斯拉ーニングで日本語支援活動を行なっているため、授業で学んだことがらを日本語支援の場で直接役立てることができる。				

7. 学則

1. 上智大学短期大学部学則（抜粋）

制定	昭和48年4月1日	
改正	昭和54年4月1日	昭和55年4月1日
	昭和56年4月1日	昭和57年4月1日
	昭和58年4月1日	昭和59年4月1日
	昭和60年4月1日	昭和61年4月1日
	昭和62年4月1日	昭和63年4月1日
	平成元年4月1日	平成2年4月1日
	平成3年4月1日	平成4年4月1日
	平成8年4月1日	平成9年4月1日
	平成10年4月1日	平成11年4月1日
	平成12年4月1日	平成14年4月1日
	平成15年4月1日	平成16年4月1日
	平成17年4月1日	平成18年1月1日
	平成18年4月1日	平成19年1月1日
	平成19年4月1日	平成20年4月1日
	平成21年4月1日	平成22年4月1日
	平成23年4月1日	平成24年4月1日

第1章 総則

(設立)

第1条 上智大学短期大学部（以下「本学」という。）は、イエズス会の設立にかかり、その法的設置者は学校法人上智学院である。

(目的)

- 第2条 本学は、カトリシズムの精神にのっとり、深く専門の学芸を教授研究し、全人間形成につとめ、職業又は實際生活に必要な能力を養成し、もって有能な社会の形成者を育成することを目的とする。
- 2 英語科は、国際語である英語の高度な運用能力を身につけ、それを基盤として幅広い教養と柔軟かつ複眼的な判断力と思考力を持ち、異文化を理解し、多様化した現代社会において責任ある地球市民として活躍できる社会人基礎力を具えた人材を育成すると共に、自律した学習者を育て、高度な専門分野の基盤を築くことを目的とする。

第2章 学科，学生定員，修業年限等

(学科，及び学生定員)

第3条 本学に次の学科をおく。

英語科

第4条 本学の学生定員は、次のとおりとする。

学 科 名	入 学 定 員	総 定 員
英 語 科	250	500

(修業年限及び在学年限等)

第5条 本学の修業年限は、2年とする。

- 2 学生は、4年を超えて在学することはできない。ただし、休学期間は含まない。

第3章 学年，学期及び休業日

(学年)

第6条 本学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて、4月1日から9月30日までを春学期、10月1日から翌年3月31日までを秋学期とする。

- 2 前項の規定にかかわらず、秋学期に属する授業科目は夏期休業日終了の翌日から始める。

(休業日)

第8条 授業休業日は、次のとおりとする。

ただし、第6号から第8号の授業休業期間の始期及び終期は、年度により別に定める。

- (1) 土曜日
- (2) 日曜日
- (3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (4) 創立記念日 11月1日
- (5) ザビエル祭 12月3日
- (6) 春期休業日
- (7) 夏期休業日
- (8) 冬期休業日

2 学長は必要に応じ、前項各号以外の日を臨時に授業休業日とすることができる。

3 学長は必要に応じ、第1号各号に定める授業休業日を、授業日（補講日及び集中講義期間を含む）とすることができる。

第4章 入学、休学、退学等

（入学の時期）

第9条 本学の入学時期は、原則として学年のはじめとする。

（入学資格）

第10条 本学は、次の各号の一に該当するものにつき、選考の上入学を許可する。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を終了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定した者
- (4) 文部大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 入学の許可は、教授会の議を経て、学長が、これを決定する。

（入学の出願）

第11条 本学に入学しようとする者は、入学願書、出身高等学校の調査書又は検定試験合格証明書その他必要書類に、入学検定料を添えて提出しなければならない。

（入学手続）

第12条 入学を許可された者は、所定の様式による次の書類に入学納付金を添えて、所定の期日までに提出しなければならない。

- (1) 保証人連署の誓約書
- (2) 住民票記載事項証明書（外国人の場合は登録原票記載事項証明書）
- (3) 出身高等学校の卒業証明書
- (4) その他必要書類

（保証人）

第13条 保証人は、日本国内に居住し、一家計を立てる成年者で、入学者の学費と一身上に関する一切の責任を負うことができる者で、原則として父母とする。

（編入転入、再入学）

第14条 本学に編転入学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り選考の上許可することができる。

第15条 編転入学を許可された者の入学の手続は、第12条及び第13条の規定に準じ、かつ、前学校において修得した単位修得証明書を提出しなければならない。

第16条 本学を中途退学し、再び入学しようとする者については、別に定める。

（休学）

第17条 病気その他のやむを得ない事由で休学しようとする者は、その事由を詳記した所定の様式による休学願を提出し、学長の許可を受けなければならない。病気のために休学する者は、医師の診断書を添えなければならない。

2 休学の期間は、1学期又は1学年を区分とし、1年を超えることができない。ただし、特別の事由が

ある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

3 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。

第18条 休学中における授業料は、これを減額する。その基準については、別に定める。

(復学)

第19条 許可された休学期間が満了した場合は、復学となる。ただし、病気によって休学の許可を受けた者は、医師の診断書を添えた所定の復学届を提出しなければならない。

2 休学期間中に休学の事由がやみ、復学しようとする者は、所定の様式による復学願を提出し、学長の許可を得て復学することができる。

(退学)

第20条 やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の様式による退学願を学生証とともに提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 退学を願い出る者は、その時期までの授業料等を完納しなければならない。

第21条 連続する2か年(ただし、休学期間を除く。)において修得した単位数が、24単位に満たない者は、退学させる。

(除籍)

第22条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

(1) 第5条に定める在学年限を超えた者

(2) 許可された休学の期間を超えて、なお修学できない者

(3) 授業料等の納付を怠り、督促しても、なお納付しない者

(4) 長期間にわたり行方不明の者

第5章 授業科目、履修方法等

(授業科目及び単位数)

第23条 授業科目は、英語科目、教養科目、基礎科目、専門科目とする。

2 その他自由科目を開設することもある。ただし、卒業要件単位には算入されない。

第24条 前条の科目は、学科の定めるところにより、必修科目と選択科目とにわける。

第25条 授業科目を履修する場合、その授業に出席し、かつ試験に合格した者には、その授業科目所定の単位を与える。

2 本学において開設する授業科目の単位数は、別表第1のとおりとする。

(単位の計算方法)

第26条 授業科目の単位数は、1単位履修に45時間の学修を要することを標準とし、次の基準によって授業時間に対応した単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(履修方法)

第27条 英語科目については、学科の定めるところにしたがい14単位以上を履修しなければならない。

第28条 教養科目については、学科の定めるところにしたがい16単位以上を履修しなければならない。

第29条 基礎科目と専門科目については、学科の定めるところにしたがい合わせて36単位以上を履修しなければならない。

第30条 削除

第31条 削除

第32条 履修しようとする科目は、毎学期所定の期間に登録しなければならない。

(試験)

第33条 試験は、定期試験及び臨時試験とし、定期試験は学期末に行う。

第34条 いずれの科目でも授業時数の3分の1以上欠席した者は、その科目の受験資格を失う。

第35条 授業料等未納者は、試験を受けることができない。

(追試験)

第36条 病気その他やむを得ない事由で、試験を受けることができなかった者は、別に定める手続により追試験料を納付の上、追試験を受けることができる。

(学習の評価)

第37条 授業科目の成績評価は、上位よりA(100~90点)、B(89~80点)、C(79~70点)、D(69~60点)、F(59点以下)の標語をもって表示し、A、B、C、Dを合格、Fを不合格とする。

- 2 前項に関わらず履修中止科目をW, 認定科目をNと表示する。
- 3 前項の成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として, 総合平均点 (Grade Point Average に相当するもの。以下「GPA」という。) を用いる。
- 4 前項に定めるGPAは, 成績評価のうち, Aにつき4.0, Bにつき3.0, Cにつき2.0, Dにつき1.0, Fにつき0をそれぞれ評価点として与え, 各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を, 登録科目 (W, Nで表示された科目を除く) の総単位数で除して算出する。

(再履修)

第38条 各年次に配分された必修科目につき不合格となった者は, 翌年次において, これを再履修しなければならない。

(他の短期大学又は大学等における授業科目の履修等)

第39条 本学が教育上有益と認めるときは, 在学中に他の短期大学又は大学 (外国の短期大学又は大学を含む) において履修した授業科目について修得した単位を, 15単位を超えない範囲で本学において修得したものと認定することができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは, 本学に入学前に他の短期大学又は大学 (外国の短期大学又は大学を含む) において履修した授業科目について修得した単位を, 15単位を超えない範囲で本学において修得したものと認定することができる。
- 3 前2項において, 上智社会福祉専門学校において修得した単位を, 本学において修得したものと認定することができる。
- 4 他の短期大学及び大学並びに上智社会福祉専門学校での履修及び修得した単位の認定については別に定める。

第6章 卒業及び学位

(卒業の要件)

第40条 本学を卒業するためには, 学生は2年以上在学し, 第27条から第29条までに定めるところにしたがい66単位以上を修得しなければならない。

(卒業)

第41条 本学に2年以上在学し, 卒業に必要な所定の単位を修得した者については, 教授会の議を経て学長が卒業を認定する。

(学位)

第42条 前条の規定により卒業した者には, 本学学位規程の定めるところにより, 短期大学士の学位を授与する。

第7章 検定料, 授業料, その他の費用

(授業料)

第43条 本学学生は, 毎学年所定の納付金を所定の期日までに全納しなければならない。ただし, 所定の手続きによって分納することができる。

(検定料等の金額)

第44条 本学の検定料, 入学金, 授業料等の金額は, 別表第2のとおりとする。

第45条 入学後2か年を超えて在学する者の授業料等は, その在学する学年の標準年次の者と同額とする。

(納付した授業料等)

第46条 既納の諸納付金は, 返還しない。

(学資金)

第47条 本学は, 学資金を給与又は貸与し, 若しくは授業料の一部を免除することがある。

- 2 奨学制度に関する事項は, 別に定める。

第8章 教職員組織

第48条 本学に学長をおく。

- 2 学長は, 本学を統督する。

第49条 本学の学科に科長をおく。

- 2 科長は, 学長を補佐し, 当該学科の学務を処理する。

第50条 本学に教授, 准教授, 助教及びその他の職員をおく。

- 2 教職員に関する規定は, 別にこれを定める。

第9章 教授会

第51条 本学の学科に教授会をおく。

第52条 教授会は、教授、准教授及び助教をもって組織する。

2 教授会は、次の各号に掲げる事項に関し審議する。

- (1) 教育研究及び授業に関する事項
- (2) 教育課程に関する事項
- (3) 学則その他の規定の制定、改廃に関する事項
- (4) 教員の採用、昇任等人事に関する事項
- (5) 学生の入学、退学、転学、休学、留学及び卒業に関する事項
- (6) 試験及び合否に関する事項
- (7) 学生の指導、賞罰に関する事項
- (8) 本学の行事に関する事項
- (9) その他学長から諮問された事項

第53条 本章に定めるもののほか、教授会に関し、必要な事項は別に定める。

第10章 科目等履修生及び聴講生

第54条 本学は、本学に在学する者以外で、1科目又は数科目を履修する者（以下「科目等履修生」という。）の受け入れを許可し、単位を与えることができる。

2 科目等履修生の受入許可及び単位の授与については、別に定める。

第55条 本学に在学する者以外で、本学の科目中1科目又は数科目の聴講を願い出る者があるときは、欠員があり、かつ、授業に支障がないと認められた場合に限り、選考の上これを許可することがある。

2 聴講生となる者は、聴講しようとする科目を履修するに足る学力を有しなければならない。

第11章 賞罰

(表彰)

第56条 本学学生にして人物及び学業成績優秀と認められた者には学長が表彰する。

(罰則)

第57条 本学学生にしてその本分にもとる行為があったと認められるときは、その軽重にしたがい譴責、停学又は退学処分とする。

第58条 次の各号のいずれかに該当する者は、退学させる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められた者
- (2) 第22条の規定にかかわらず学業成績不良又は身体虚弱で成業の見込みがないと認められた者
- (3) 正当な理由がなく出席状況の極めて悪い者
- (4) 教育、研究及びこれに附帯する機関等の1部又は全部につき、その業務遂行を妨害した者
- (5) その他本学に在学させることが不相当と認められた者

第12章 附置施設及び附属機関

(諸機関の設置)

第59条 本学は、学生の個人及び集団の生活指導と課程外の教育とを重視し、そのための諸機関を設けることができる。

(図書館)

第60条 本学に図書館を設ける。

2 本学に設置する学科の規模に応じて、教育研究上必要な図書、学術雑誌、視聴覚資料等を、前項の図書館を中心に系統的に備え、学術情報の提供に努める。

3 図書館に関して必要な事項は別に定める。

(健康管理)

第61条 本学は、学生の健康管理のために、健康管理室を設ける。

第62条 本学学生は、学年毎に健康診断を受けなければならない。

(学生寮)

第63条 本学に学生寮を置く。

第13章 公開講座等

(公開講座等)

第64条 本学は、地域の文化向上、成人教育その他の研究のため公開講座及び講習会を開設することがある。

第14章 自己評価等

(自己評価等)

第65条 本学は、教育研究水準の向上を図り、第2条に掲げる目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動の状況について、自己点検及び評価を行う。

2 前項の実施並びに方法については、別に定める。

(認証評価)

第66条 本学は、前条の措置に加え、学校教育法の定めるところにより、本学の教育研究等の総合的な研究について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

第15章 ファカルティ・ディベロップメント

(ファカルティ・ディベロップメント)

第67条 本学は、教授法や授業運営などの改善や教育活動にかかる知識・技能・能力の獲得又は向上を組織的に支援するためにファカルティ・ディベロップメント活動を実施するものとする。

2 ファカルティ・ディベロップメント活動の実施体制並びに方法については、別に定める。

第16章 雑則

第68条 本学則実施にあたり、必要ある場合は、別に細則を定めることができる。

附 則

本学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

本学則は、昭和54年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和55年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和56年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和57年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和58年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和59年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和60年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和61年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和62年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、昭和63年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成元年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成2年4月1日から改正、施行する。

ただし、この改正前の教職課程履修者については、なお従前の例による。

附 則

本学則は、平成3年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成4年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成5年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成6年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成7年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成8年4月1日から改正、施行する。

附 則

1 本学則は、平成9年4月1日から改正、施行する。

2 この改正前の学生に係わる第39条の適用については、なお従前の例による。

附 則

本学則は、平成10年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成11年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成12年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成13年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成14年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成15年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成16年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、平成17年4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2006年（平成18年）1月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2006年（平成18年）4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2007年（平成19年）1月1日から改正、施行する。

ただし、第8条、第50条、第52条、別表第1及び別表第2については、2007年（平成19年）4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2008年（平成20年）4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2009年（平成21年）4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2010年（平成22年）4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2011年（平成23年）4月1日から改正、施行する。

附 則

本学則は、2012年（平成24年）4月1日から改正、施行する。

ただし、2012年3月31日以前に入学した学生については、従前の学則による。なお、授業料等納付金については、この学則の別表第2を適用する。

上智学院所在地

学校法人 上智学院	〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7番1号 ☎03-3238-3126 (総務局)
上智大学 (四谷キャンパス)	〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7番1号 ☎03-3238-3111 (番号案内)
神学部 (石神井キャンパス)	〒177-0044 東京都練馬区上石神井4丁目32番11号 ☎03-5991-0343
総合人間科学部 看護学科 (目白聖母キャンパス)	〒161-8550 東京都新宿区下落合4丁目16番11号 ☎03-3950-0171
聖母大学 (目白聖母キャンパス)	〒161-8550 東京都新宿区下落合4丁目16番11号 ☎03-3950-0171
上智大学短期大学部 (秦野キャンパス)	〒257-0005 神奈川県秦野市上大槻山王台999 ☎0463-83-9331
上智社会福祉専門学校	〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7番1号 ☎03-3238-3021
聖母看護学校 (目白聖母キャンパス)	〒161-8550 東京都新宿区下落合4丁目16番11号 ☎03-3950-0171

上智大学短期大学部履修要覧

2012年度版

編集・発行	2012年(平成24年)4月1日発行 上智大学短期大学部 〒257-0005神奈川県秦野市上大槻山王台999 ☎ 0463-83-9331 Fax. 0463-81-7809
印刷	富士オフセット(株)

シラバス追加・変更分

英語科目

科目名	上級英語スキルズ (学術論文作法)				担当者名	G. Freddes	
開講期	秋	分類	選必	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	Students will learn some of the technical points of an academic research paper (visuals, references in text, etc.). Each student will create or improve a piece of academic writing that is relevant to her immediate academic future: transfer or employment.						
授業の概要	We will use the textbook models. Each student will find her own graphic and numerical table and present it to her classmates. Each will create or improve her own research paper or similar piece of academic writing, starting from an outline. Use of English references is encouraged. Typing or word-processing is demanded.						
準備学習の内容	Research will take place outside of classtime. Preparation of oral presentations will also consume time. All writing produced by each student will be carefully checked and returned, to be kept and improved.						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 Textbook and glossary will be introduced. 2 Textbook Unit 12, Types of graphs, with additional examples. 3 Vocabulary for graphs and tables. 4 Each student will prepare an oral presentation of a graph and an oral presentation of a table. Tables with explanations in Japanese are ok, but the Japanese should be translated into English. The meanings and units of each number will be severely checked. 5 Continue oral presentations of graphs and tables. 6 Unit one, model research papers. 7 Unit two, selecting and narrowing a topic. 8* Sources and resources, unit three. How about quoting from Wikipedia? 9 Reference styles. Each student should select a genre of academic writing and a topic. 10 Unit four, taking notes. 11 Present an example of your note-taking; unit 5 plagiarism. 12 Unit 8, planning and writing an outline. 13 Unit 7, Main idea; each student will read her outline to the other students. 14 Unit 6, in-text citations. 15 Units 9 and 10: Introductions and conclusions, topic sentences and paragraphs. 16 Examples of introductions with topic sentences. 17* Students bring in researched materials to check reference styles. 18 Finish and present topic sentence of introduction. 19-20 Finish first draft of academic writing selection; present orally for feedback. 21 Polish Introduction and Conclusion review unit 9 again. 22 Polish main points of your piece of academic writing, check unit 10 again. 23 Polish supporting points, unit 11. 24-27 Second drafts of pieces of academic writing are due; Oral presentations will include graphs and tables an needed (these need not be the same graph and table used in earlier presentations). 28 Review of textbook suggestions. <p>*【教職員間授業公開日：10/12 (金), 11/20 (火)】</p>						
評価方法	Attendance(30%), Efforts to improve your own writing (40%), Quality of presentations (30%)						
テキスト	Robyn Najar and Lesley Riley, <i>Developing Academic Writing Skills</i> (MacMillan Language House)						
参考書	Book created by SJC; prints from other writing textbooks						
その他特記事項	You learn to write by writing and being corrected. The more you write, the more I will correct.						

教養科目

科目名	社会学			担当者名	石綿 寛		
開講期	春	分類	選択	単位	4	年次	1・2年
授業の目標	この授業を履修することにより、学生は社会学の基本的な考え方、理論や概念について理解を深め、さまざまな社会事象について検討することができるようになる。						
授業の概要	社会学の基本的な理論、概念、方法論的立場について講義を行う。社会と個人をめぐる理論や考え方を、現代の社会変化を考慮したうえで紹介し、具体的な社会事象との関連性についても論じる。						
準備学習の内容	参考書など、社会学関連の書籍に積極的に親しみ、授業内容に対する関心を育むことを期待する。また、レポートの作成のために、各自で自習することが望まれる。目安となる時間は2時間程度とする。						
各回の授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会学とはどのような学問か(1) 2 社会学とはどのような学問か(2) 3 社会学とはどのような学問か(3) 4 個人と社会：社会規範について 5 アイデンティティについて(1) 6 アイデンティティについて(2) 7 アイデンティティについて(3) 8 逸脱と排除(1) 9 逸脱と排除(2) 10* 組織と近代(1)：官僚制 11 組織と近代(2)：ネットワーク 12 暴力の変化(1)：世界システム論 13 暴力の変化(2)：世界システム論の変化 14 暴力の変化(3)：事例研究 15 労働の意味(1)：労働の概念とは 16 労働の意味(2)：労働を巡る制度の変遷 17 コミュニケーション(1) 18 コミュニケーション(2) 19 家族：制度としての家族 20* 都市と地方(1)：地方と近代化 21 都市と地方(2)：都市と近代化 22 貨幣について 23 近代とポスト近代(1)：構造主義からポスト構造主義へ 24 近代とポスト近代(2)：社会の近代化からの変化 25 社会学の方法論を巡って(1) 26 社会学の方法論を巡って(2) 27 社会学の方法論を巡って(3) 28 まとめ <p>【教職員間授業公開日：5/21(月)、6/25(月)】</p>						
評価方法	出席および授業参加(35%)、リアクションペーパー(35%)、レポート(30%)						
テキスト	特になし。プリントを配布して授業を進める。						
参考書	西澤晃彦・渋谷望著 2008年『社会学をつかむ』(有斐閣)						
その他特記事項							

基礎科目（文）

科目名	留学準備			担当者名	飯田 純也		
開講期	秋	分類	選択	単位	2	年次	1・2年
授業の目標	春の海外短期語学講座に参加する学生を対象に、旅行会社による3回のガイダンスを含め、留学先で積極的に授業に参加したり、ホストと交流したりする基盤となる知識と表現力と英語力の獲得を目指す。						
授業の概要	留学先の政治、経済、文化を研究発表したり、逆に留学をきっかけに日本の政治、経済、文化を研究発表したり、発表の機会を多く設け、積極性と発表能力を涵養する。日程のそれぞれの状況に応じた実践的英会話のトレーニングを行う。						
準備学習の内容	積極的に留学先の情報を集めたり、発表の準備をしたりしてほしい。時間的には毎回2時間程度の準備をしてきてほしい。						
各回の授業内容	<p>1-2 授業紹介</p> <p>3-7 New Zealand に関する発表準備と発表</p> <p>8 手続きガイダンス（JTB）（10月12日）</p> <p>9-13* Japan に関する発表準備と発表</p> <p>14-20* 状況やトピックに応じた英会話、英作文</p> <p>21 生活面ガイダンス（JTB）（12月7日）</p> <p>22-27 「留学のしおり」等により、移動時、緊急時、日常生活の留意点の確認</p> <p>28 危機管理ガイダンス（JTB）（1月15日）</p> <p>授業内容の変更あり。</p> <p>*【教職員間授業公開日：11/6（火）11/9（金）】</p>						
評価方法	出席を前提とした上で、評価は小テストが（20%）、発表が（40%）、期末レポートが（20%）、期末テストが（20%）とする。						
テキスト	随時プリントを配布する。						
参考書	Antonia Clare. <i>Speakout Pre-Intermediate Students' Book</i> . Longman. Antonia Clare. <i>Speakout Intermediate Students' Book</i> . Longman.						
その他特記事項	担当者のウェブサイト上に課題や資料を用意するので、積極的に利用してほしい。						